

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 379 集

かみにたない

上似内遺跡発掘調査報告書

ほ場整備関連遺跡発掘調査

花巻地方振興局花巻農村整備事務所

(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

かみにたない

上似内遺跡発掘調査報告書

ほ場整備関連遺跡発掘調査

序

岩手県には縄文時代の遺跡をはじめとする数多くの埋蔵文化財包蔵地を有しております。先人たちの残した文化財を保護し、保存していくことは私たち県民に課せられた重大な責務であります。

一方、本調査の原因となりましたほ場整備（宮野目第3地区）事業を例にあげるまでもなく、現代社会を豊かにし、快適な生活をおくるための地域開発もまた県民の切実な願いであります。埋蔵文化財の保護・保存と地域開発事業という相容れない要素を持つ事業の調和のとれた施策が今日的な課題となっております。

当財団法人岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センターの創設以来、埋蔵文化財保護の立場にたって、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡について発掘調査を行い、その記録を残す処置をとってまいりました。

本書は、花巻地方振興局・花巻農村整備事務所による「ほ場整備事業」に関連して平成12年度に行われた、花巻市上似内遺跡の発掘調査結果をまとめたものであります。本遺跡は、北上川右岸の河岸段丘上に立地し、調査の結果、平安時代の集落跡に伴う多量の遺物や遺構や中世の似内氏の居館『似内館』に関連する堀が発見され、貴重な資料を提供することができました。この報告書が広く活用され、斯学の研究のみならず、埋蔵文化財に対する理解の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、これまでの発掘調査及び報告書作成に御協力と御援助を賜りました花巻地方振興局・花巻農村整備事務所や花巻市教育委員会をはじめとする多くの関係諸機関・関係各位に衷心より感謝申し上げます。

平成14年1月

財団法人 岩手県文化振興事業団

理事長 村上勝治

例 言

1. 本報告書は、岩手県花巻市上似内第 12 地割 3 番地ほかに所在する上似内遺跡の発掘調査の結果を収録したものである。
2. 本遺跡の岩手県遺跡登録台帳の遺跡番号と調査略号は次のとおりである。

ME 16 - 0302・KNN - 00
3. 本遺跡の調査は、ほ場整備（宮野目第 3 地区）事業に伴う緊急発掘調査である。調査は、岩手県教育委員会生涯学習文化課の調整を経て、花巻市の委託を受けた財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。
4. 野外調査の期間と調査面積・調査担当者は次のとおりである。

発掘調査期間 平成 12 年 4 月 14 日～同年 10 月 20 日
室内整理期間 平成 12 年 11 月 1 日～平成 13 年 3 月 31 日
発掘調査面積 8,300 m²
調査担当者 溜浩二郎・吉田真由美
5. 出土品の鑑定は次の機関に依頼した。

石器・石製品の石材鑑定……花崗岩研究会
6. 座標原点の測量および空中写真撮影は、次の機関に委託した。

座標原点の測量……協進測量設計株式会社
空中写真撮影……東邦航空株式会社
7. 本報告書の執筆は溜浩二郎が担当した。
8. 発掘調査において次の機関の協力を得た。

花巻地方振興局・花巻農村整備事務所、花巻市教育委員会
9. 本遺跡の調査に関わる記録、遺物等の資料は、岩手県立埋蔵文化財センターに保管している。
10. 実測図の凡例は 16 頁に記載した。

本文目次

序

例言

I. 調査に至る経過	3
II. 遺跡の立地と環境	3
1. 遺跡の位置	3
2. 地形・地質	3
3. 基本土層	5
4. 周辺の遺跡	5
5. 歴史的環境（中世）	10
(1) 中世の花巻市と郡主稗貫氏	10
(2) 似内氏	10
(3) 似内館	11
(4) 周辺の中世城館遺跡	11
III. 野外調査と整理方法	14
1. 野外調査	14
2. 室内整理	15
IV. 検出された遺構と遺物	17
1. 陥し穴状遺構	17
2. 竪穴住居跡	24
3. 土坑	79
4. 墓壇	81
5. 溝跡	82
6. 堀跡	85
7. 柱穴列	90
8. 柱穴状小土坑	90
9. 遺構外出土遺物	95
V. まとめ	124
1. 遺構	124
2. 遺物	128
3. 宮野目地区の平安時代の集落の変遷	131
4. おわりに	139

[図版目次]

第1図 遺跡位置図	1	第3図 遺跡周辺の地形分類図	4
第2図 遺跡周辺の地形図	2	第4図 基本土層	5

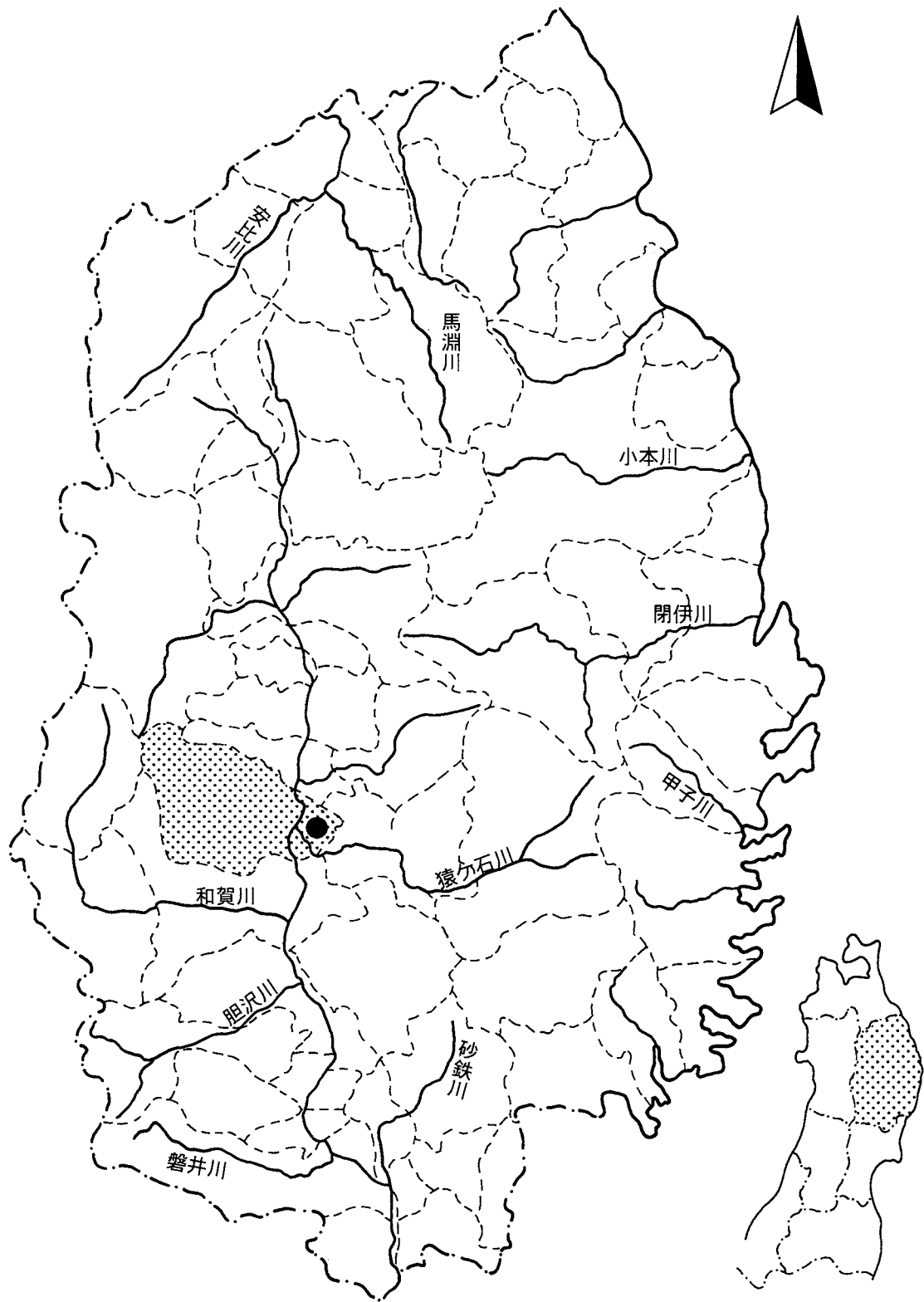
第 5 図	周辺の遺跡分布図	9	第 43 図	17 号住居跡	58
第 6 図	周辺の中世城館跡	13	第 44 図	17 号住居跡	59
第 7 図	グリッド配置図	14	第 45 図	17 号住居跡	60
第 8 図	実測図凡例	16	第 46 図	18・19 号住居跡	62
第 9 図	1～6 号陥し穴	19	第 47 図	18・19 号住居跡	63
第 10 図	7～12 号陥し穴	20	第 48 図	18・19 号住居跡	64
第 11 図	13～18 号陥し穴	21	第 49 図	20 号住居跡	65
第 12 図	19～23 号陥し穴	22	第 50 図	21 号住居跡	66
第 13 図	24～29 号陥し穴	23	第 51 図	21 号住居跡	67
第 14 図	1 号住居跡	25	第 52 図	22 号住居跡	69
第 15 図	2 号住居跡	27	第 53 図	22 号住居跡	70
第 16 図	2 号住居跡	28	第 54 図	22 号住居跡	71
第 17 図	3 号住居跡	29	第 55 図	22 号住居跡	72
第 18 図	3 号住居跡	30	第 56 図	23 号住居跡	73
第 19 図	4・5 号住居跡	32	第 57 図	23 号住居跡	74
第 20 図	4・5 号住居跡	33	第 58 図	24・25 号住居跡	76
第 21 図	6 号住居跡	34	第 59 図	26 号住居跡	77
第 22 図	6 号住居跡	35	第 60 図	26 号住居跡	78
第 23 図	7・8 号住居跡	38	第 61 図	1～8 号土坑	80
第 24 図	7 号住居跡	39	第 62 図	1 号墓塚	81
第 25 図	8 号住居跡	40	第 63 図	1・2 号溝	83
第 26 図	9 号住居跡	41	第 64 図	3～5 号溝	84
第 27 図	9 号住居跡	42	第 65 図	1 号堀（平面）	86
第 28 図	10 号住居跡	43	第 66 図	1 号堀（断面）	87
第 29 図	10 号住居跡	44	第 67 図	2 号堀	88
第 30 図	11 号住居跡	45	第 68 図	3 号堀	89
第 31 図	11 号住居跡	46	第 69 図	1 号柱穴列・柱穴状小土坑群	91
第 32 図	12 号住居跡	47	第 70 図	遺構配置図（1）	92
第 33 図	12 号住居跡	48	第 71 図	遺構配置図（2）	93・94
第 34 図	13 号住居跡	49	第 72 図	遺構内出土遺物（1）	96
第 35 図	13 号住居跡	50	第 73 図	遺構内出土遺物（2）	97
第 36 図	14 号住居跡	51	第 74 図	遺構内出土遺物（3）	98
第 37 図	14 号住居跡	52	第 75 図	遺構内出土遺物（4）	99
第 38 図	14 号住居跡	53	第 76 図	遺構内出土遺物（5）	100
第 39 図	15 号住居跡	54	第 77 図	遺構内出土遺物（6）	101
第 40 図	15 号住居跡	54	第 78 図	遺構内出土遺物（7）	102
第 41 図	16 号住居跡	55	第 79 図	遺構内出土遺物（8）	103
第 42 図	16 号住居跡	56	第 80 図	遺構内出土遺物（9）	104

第 81 図	遺構内出土遺物 (10)	105	第 88 図	遺構内出土遺物 (17)	112
第 82 図	遺構内出土遺物 (11)	106	第 89 図	遺構内出土遺物 (18)	113
第 83 図	遺構内出土遺物 (12)	107	第 90 図	遺構内出土遺物 (19)	114
第 84 図	遺構内出土遺物 (13)	108	第 91 図	遺構内出土遺物 (20)	115
第 85 図	遺構内出土遺物 (14)	109	第 92 図	遺構内出土遺物 (21)	116
第 86 図	遺構内出土遺物 (15)	110	第 93 図	遺構内出土遺物 (22)	117
第 87 図	遺構内出土遺物 (16)	111	第 94 図	遺構外出土遺物	118

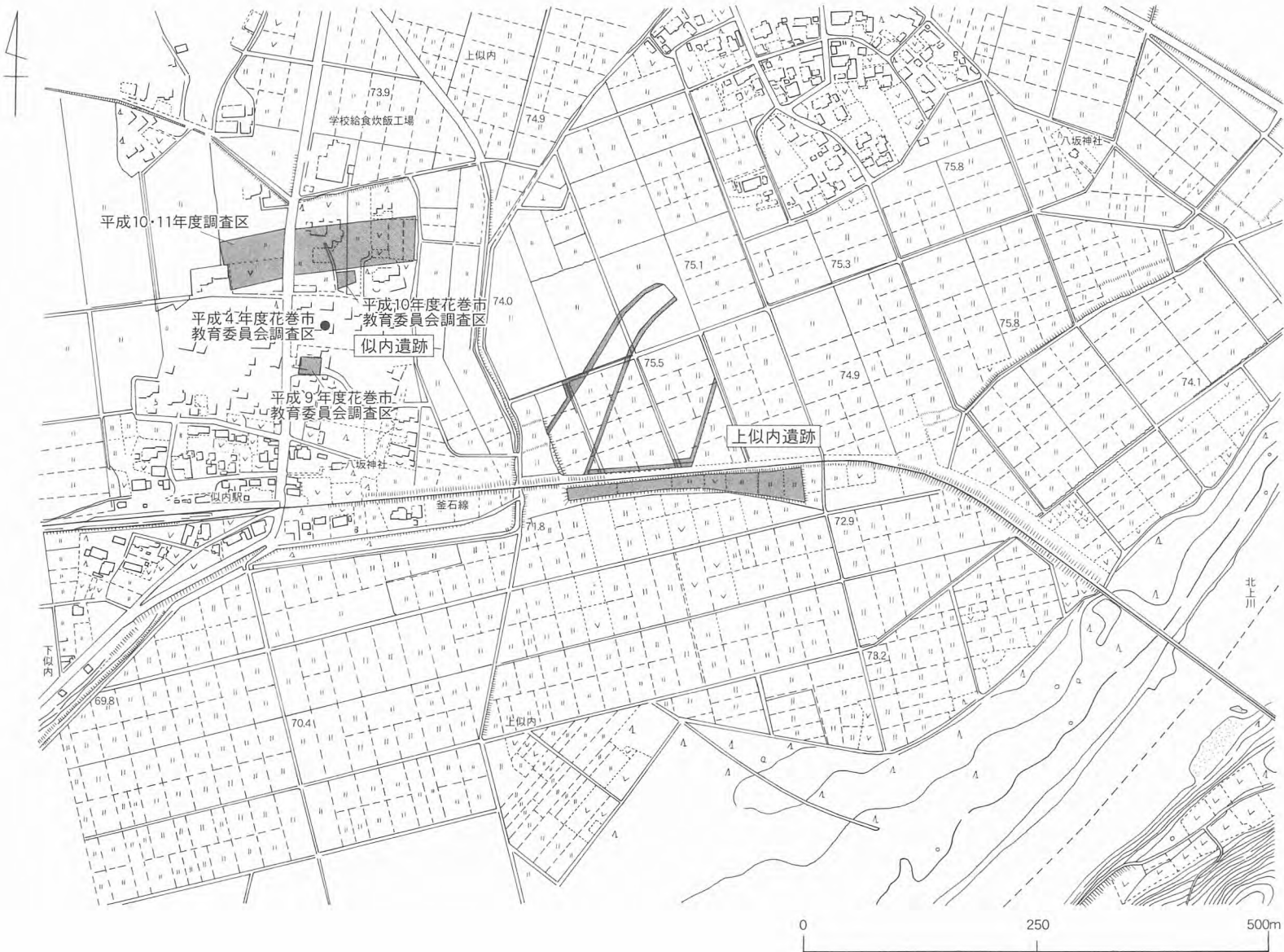
[写真図版]

写真図版 1	空中写真①	143	写真図版 27	11 号住居跡	169
写真図版 2	空中写真②	144	写真図版 28	12 号住居跡	170
写真図版 3	調査区風景	145	写真図版 29	12 号住居跡	171
写真図版 4	調査区・基本土層	146	写真図版 30	13 号住居跡	172
写真図版 5	1～5 号陥し穴	147	写真図版 31	14 号住居跡	173
写真図版 6	6～10 号陥し穴	148	写真図版 32	14 号住居跡	174
写真図版 7	11～15 号陥し穴	149	写真図版 33	15 号住居跡	175
写真図版 8	16～20 号陥し穴	150	写真図版 34	16 号住居跡	176
写真図版 9	21～25 号陥し穴	151	写真図版 35	16 号住居跡	177
写真図版 10	26～29 号陥し穴	152	写真図版 36	17 号住居跡	178
写真図版 11	1 号住居跡	153	写真図版 37	17 号住居跡	179
写真図版 12	2 号住居跡	154	写真図版 38	18 号住居跡	180
写真図版 13	2 号住居跡	155	写真図版 39	18 号住居跡	181
写真図版 14	3 号住居跡	156	写真図版 40	19 号住居跡	182
写真図版 15	3 号住居跡	157	写真図版 41	20 号住居跡	183
写真図版 16	4 号住居跡	158	写真図版 42	21 号住居跡	184
写真図版 17	5 号住居跡	159	写真図版 43	21 号住居跡	185
写真図版 18	6 号住居跡	160	写真図版 44	22 号住居跡	186
写真図版 19	7 号住居跡	161	写真図版 45	22 号住居跡	187
写真図版 20	7 号住居跡	162	写真図版 46	23 号住居跡	188
写真図版 21	8 号住居跡	163	写真図版 47	23 号住居跡	189
写真図版 22	8 号住居跡	164	写真図版 48	23・24 号住居跡	190
写真図版 23	9 号住居跡	165	写真図版 49	25 号住居跡	191
写真図版 24	10 号住居跡	166	写真図版 50	26 号住居跡	192
写真図版 25	10 号住居跡	167	写真図版 51	26 号住居跡	193
写真図版 26	11 号住居跡	168	写真図版 52	1～4 号土坑	194

写真図版 53	5～8号土坑	195	写真図版 67	遺構内出土遺物(7)	209
写真図版 54	1号堀(平面)	196	写真図版 68	遺構内出土遺物(8)	210
写真図版 55	1号堀(断面)	197	写真図版 69	遺構内出土遺物(9)	211
写真図版 56	2号堀	198	写真図版 70	遺構内出土遺物(10)	212
写真図版 57	3号堀	199	写真図版 71	遺構内出土遺物(11)	213
写真図版 58	1号墓壙、1号柱穴列	200	写真図版 72	遺構内出土遺物(12)	214
写真図版 59	1～3号溝	201	写真図版 73	遺構内出土遺物(13)	215
写真図版 60	3～5号溝	202	写真図版 74	遺構内出土遺物(14)	216
写真図版 61	遺構内出土遺物(1)	203	写真図版 75	遺構内出土遺物(15)	217
写真図版 62	遺構内出土遺物(2)	204	写真図版 76	遺構内出土遺物(16)	218
写真図版 63	遺構内出土遺物(3)	205	写真図版 77	遺構内出土遺物(17)	219
写真図版 64	遺構内出土遺物(4)	206	写真図版 78	遺構内出土遺物(18)	220
写真図版 65	遺構内出土遺物(5)	207	写真図版 79	遺構外出土遺物	221
写真図版 66	遺構内出土遺物(6)	208			



第1図 遺跡位置図



第2図 遺跡周辺の地形図

I. 調査に至る経過

上似内遺跡は「ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）宮野目第3地区」の施行に伴って、その事業区域内に位置することから発掘調査することとなったものである。

当事業は、ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）宮野目第3地区において、現況標準区画10a（20 m×50 m）の水田を標準区画1 ha（80 m×125 m）に整備する事業である。事業者である岩手県花巻地方振興局花巻農村整備事務所では、事業実地に先立ち岩手県教育委員会に対し、事業区域内における埋蔵文化財の分布調査を依頼した。依頼を受けた岩手県教育委員会では、現地踏査により埋蔵文化財の存在を確認し、平成11年2月16日、17日、23日、11月11日、12日、12月6日の延べ6日間、埋蔵文化財の内容把握のため試掘調査を実地した。試掘の結果、平安時代の遺構や遺物が多数確認されたことから、工事着手に先立ち記録保存を目的とした発掘調査が必要である旨、平成11年12月24日付け教文第963号により花巻地方振興局花巻農村整備事務所に通知した。

通知を受けた花巻地方振興局花巻農村整備事務所では、岩手県教育委員会からの平成12年度埋蔵文化財発掘調査に係わる事業集約の問い合わせに対し、調査を実地して欲しい旨の回答をした。

回答を受けた岩手県教育委員会は、花巻地方振興局に対し、平成12年3月6日付け教文第1220号「平成12年度埋蔵文化財発掘調査事業について」によって、平成12年度に発掘調査を実地し、実際の調査は（財）岩手県文化振興事業団が担当する旨を通知した。（花巻地方振興局花巻農村整備事務所）

II. 遺跡の立地と環境

1. 遺跡の位置

遺跡の立地する花巻市は県都盛岡市から南に30 km、北上川の中流に位置する。市域は東西29.5 km・南北27.5 kmで、北西から南東に長いほぼ楕円の地形をなす。北は岩手郡雫石町・稗貫郡石鳥谷町、東は和賀郡東和町、南は北上市・和賀郡江釣子村、西は和賀郡和賀町・沢内村に接する。

市街地は北上川と豊沢川の合流地付近に広がる城下町で、その中心となる花巻城は古くは鳥谷ヶ崎城といひ稗貫氏の居城であった。明治8年に城は破却され、現在は市役所・市民体育館などがある。

市域を縦断する主な交通路には、北上川東岸を走るJR東北新幹線、西岸のJR東北本線・国道4号線・東北自動車道などがあり、東北本線花巻駅からJR釜石線が東方に分岐する。

上似内遺跡は、東北本線花巻駅から北東に約3.5 km JR釜石線似内駅に東隣する北上川中流域右岸の河岸段丘上に立地する。

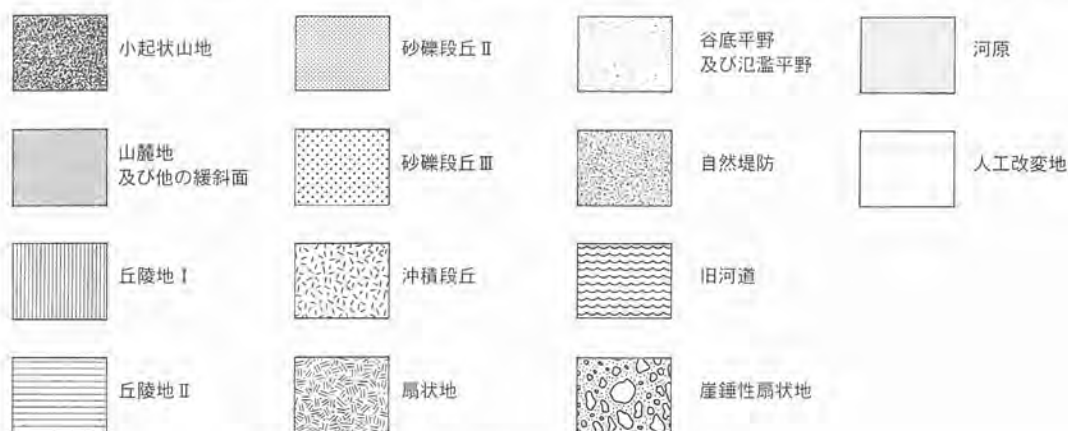
発掘調査前の遺跡の状況は水田・畑地跡で、遺跡の標高は74 m前後、北上川よりの南側の低位段丘面より2 mほど高い所に立地している。

2. 地形・地質

地形的には、市域東半中央には北上川が大きく蛇行して南流し、西には松倉山や円森山など標高200～

900 m級の山地が連なる急峻で起伏の大きな奥羽山系の支脈をなす山地からなる。東には比較的勾配が緩やかな標高 150 ~ 250 m前後の北上山地西麓の小丘陵や山地が張り出し、西縁に載る高松丘陵には宮沢賢治ゆかりの胡四王山を望む。市域の北西、塚瀬森に源を発する台川は、阿弥陀ヶ倉の溪谷をうがち釜淵の滝となって流下し、六郎山に源を発して沿線に台・花巻の温泉を湧出し、緒ヶ瀬の滝となる湯ノ沢を合流、さらに鍋割川を合わせ瀬川となって東流し、流域には扇状地を発達させ、遺跡の南西 1.8 km地点で北上川と合流する。

地質は西側の奥羽山系には主に新第三紀中新世のグリーンタフ活動による安山岩質～流紋岩質岩が砂岸や礫岩・頁岩を伴い分布するほか、更新世や第四紀の岩盤層が分布する。さらに、東側の北上山系には泥岩およびチャートよりなる古生代二畳紀の地層や中生代の花崗岩類、斑レイ岩類、蛇紋岩類、さらに中新世の安山岩類と鮮新世の炭層をはさむ砂岩、頁岩層が分布している。



第3図 遺跡周辺の地形分類図

3. 基本土層

調査区内の高低差は東西方向はなく、南北方向に約90～110cmの比高がある。また、遺構検出面は地表から約30～60cmの深さがあり、削平による影響で検出面の標高は一様でない。第4図は調査B区北端の壁面に深堀りを行ったもので、これを遺跡の基本土層とした。

第Ⅰ層：10YR2/3 黒褐色土 粘性なし しまりあり

植物根多く含む。現表土。層厚は16～28cm。

第Ⅱ層：10YR2/2 黒褐色土 粘性ややあり しまり

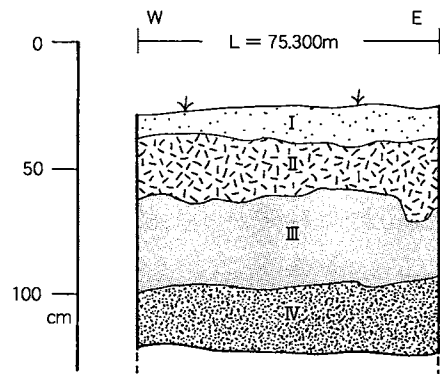
あり 暗褐色土 (10YR3/3) 1～2%含む。0～34cm。

第Ⅲ層：10YR3/3 暗褐色土 粘性なし しまりあり

層厚は0～39cm。(遺構検出面)

第Ⅳ層：10YR3/4 暗褐色土 粘性あり しまりややあり

(地山土)



第4図 基本土層

4. 周辺の遺跡

周辺の遺跡を見ると、北上川を挟み対称的な様相を呈している。これは地形的要因が影響していると考えられる。すなわち北上川左岸は北上高地の西端にあたり、早池峰山南面を水源とする猿ヶ石川およびその支流によって開析された段丘群や胡四王山に代表される低位山地であり、縄文時代の遺跡が8割以上を占める。猿ヶ石川左岸に位置する久保田Ⅱ遺跡は20棟の竪穴住居跡や広場を有する市内最大級の縄文時代中期集落である。また、川を挟んだ段丘上には中野D遺跡があり、縄文時代晩期の遺物包含層が見つっている。北上川支流の添市川段丘上では縄文時代中期の遺跡で複式炉を持った竪穴住居跡が7棟見つっている。さらに同段丘上には安堵屋敷遺跡があり、竪穴住居跡2棟と埋設炉4基の遺構が確認されている。

これに対し、右岸は奥羽山脈に属する標高600～900mの山地が連なるものの、北上川支流の諸河川によって開析された低位段丘・沖積地が一带に広がる。この拓けた土地にある宮野目～上似内地区周辺には山の神遺跡のような縄文時代の遺跡も存在するが、多くは古代の遺跡であり、宮野目地区にある宮野目方八丁遺跡が古代の官衙遺跡に比定されていることは広く知られている。また本遺跡から北東方向約1.8kmには平成9～10年に岩手県埋蔵文化財センター、花巻市教育委員会によって調査が行われた平安時代の集落跡、庫理遺跡がある。この遺跡の調査では竪穴住居跡から、東日本では出土例が少ない置きカマドが出土している。またこれには線刻による水鳥が描かれており、全国的にも例を見ない。北西方向1.7kmには平成10～11年に岩手県埋蔵文化財センターで調査を行った石持Ⅰ遺跡がある。この調査で検出された縄文時代の陥し穴は303基を数え、狩猟場として、断続的に利用されていたことが窺える。北西に隣接して似内遺跡がある。この遺跡からは県内最大級の竪穴住居跡(8.9×8.3m)や9世紀の竪穴状遺構の埋土から金粒が出土している。また漁労に使用された土錘が1棟の竪穴住居跡から346点、94点と一括出土したり、焼失した住居跡からは炭化した胡桃・麦・粟などが多量出土しており当時の生活の様子を知る上で貴重な成果が

あがっている。他には南西約 0.5 km に平安時代の下似内遺跡があり、遺跡の載る北上川右岸の河岸段丘上に平安時代、多数の集落跡が存在したことが確認されている。

南東に望む胡四王山には平安時代及び中世の遺跡である胡四王山館跡があり、館跡の実年代は不明であるが、南西斜面から 20 棟を越える平安時代の住居跡が見つかった。

中世の時代の遺跡としては北上川左岸段丘上に矢沢八幡遺跡がある。矢沢八幡遺跡は矢沢館とも呼ばれ、室町～戦国時代に当地の領主であった矢沢氏の居館として知られるがその位置は未詳である。また、今回調査を行った上似内遺跡は平安時代の集落跡以外に「館跡」として知られており、郡主稗貫氏の分家である似内氏の居館であったと伝えられ、今回の調査では館跡に伴うと思われる堀が 3 条検出されている。

周辺の遺跡一覧表

No.	遺跡名	時代	種別	遺物・遺構
1	小森林館	中世	城館跡	土塁、堀、二郭、縄文土器
2	江曾	縄文	散布地	縄文土器
3	古館	中世	城館跡	土塁、堀
4	黒沼館	中世	城館跡	土塁、堀、井戸
5	堀の内	中世	城館跡	堀
6	江曾一里塚	近世	一里塚	
7	江曾館	中世	城館跡	土塁、堀、井戸
8	柳館	中世	城館跡	古井戸、郭、土塁、堀
9	関口北船場館	中世	船着き場	
10	関口館	中世	城館跡	堀、古井戸
11	関口南船場館	中世	船着き場	
12	関口南館	中世	城館跡	郭
13	大西	縄文	散布地	縄文土器
14	葛船場	近世	渡し場跡	
15	七ツ森古墳群	縄文・古墳	散布地・古墳群	古墳、縄文土器、土師器
16	貝の淵Ⅰ	縄文・古代	散布地	縄文土器、土師器
17	七ツ森	縄文・古代	散布地	縄文土器、土師器
18	猪鼻	縄文・古代	散布地	縄文土器、土師器
19	貝の淵Ⅱ	縄文	散布地	縄文土器
20	下館	中世	城館跡	
21	関口西	中世	城館跡	
22	関口Ⅴ	中世	城館跡	
23	関口Ⅵ	中世	城館跡	土塁
24	猪鼻館	中世	散布地・城館跡	井戸、空堀、主郭
25	見山古墳群	古墳	古墳群	古墳
26	見山	縄文・古墳	散布地・古墳	縄文土器
27	馬場田	縄文	散布地	縄文土器
28	稲荷	縄文	集落跡	縄文土器
29	新田	縄文	散布地	縄文土器
30	反町	縄文・古墳	古墳群・祭祀跡	縄文土器、古墳、住居跡
31	大西橋	縄文	散布地	縄文土器
32	宿	縄文・古代	集落跡	縄文土器、土師器
33	宿館	中世	城館跡	土塁、堀
34	蛇蜒蛆	平安	散布地	土師器
35	光勝寺本堂	中世	寺院跡	塚
36	光勝寺鐘桜	中世	寺院跡	礎石
37	沢流	縄文・古代	散布地	縄文土器、土師器
38	安堵屋敷	縄文・古代	散布地	縄文土器、土師器
39	長沢Ⅱ	縄文	散布地	縄文土器
40	長沢Ⅲ	縄文	散布地	縄文土器

No.	遺跡名	時代	種別	遺物・遺構
41	寺場古塚	縄文	散布地	縄文土器
42	鱒沢工	縄文	散布地	縄文土器
43	隅っこ館	中世	城館跡	堀、土塁
44	高畑	縄文	集落跡	縄文土器
45	長沢Ⅰ	縄文	散布地	縄文土器
46	長沢Ⅳ	縄文	散布地	縄文土器
47	佐渡川古墳群	古墳	古墳群	円墳 21 基以上、土師器
48	宮野目方八丁	平安	城館跡	竪穴住居跡、土師器、須恵器、鉄器、砥石、二重土塁、堀
49	上ノ山	縄文・古代	散布地	縄文土器
50	上ノ山館	縄文・古代～中世	城館跡・散布地	堀、縄文土器(前・中期)、石器、土師器、須恵器
51	山の神	縄文	散布地	縄文土器(前期)、石器、土偶片
52	源明Ⅰ	平安	散布地	須恵器
53	葛	縄文・平安	散布地	縄文土器、土師器
54	西宮野目	縄文	散布地	縄文土器(前・後・晩期)
55	新屋			
56	先屋	縄文・近世	散布地・屋敷跡	縄文土器、石篋、石核
57	十三塚		祭祀跡	塚、古銭
58	三岳	古代	散布地	土師器
59	石持Ⅱ	古代	散布地	土師器
60	馬立Ⅰ	平安	散布地	土師器
61	柏葉城	近世	散布地・城館跡	
62	田力中野	縄文・平安	散布地	縄文土器、土師器
63	馬立Ⅱ	平安	散布地	土師器
64	本館Ⅲ	中世	城館跡	郭、堀
65	石持Ⅰ	縄文・平安	集落跡	竪穴住居跡、落とし穴、土師器、須恵器
66	似内	縄文・平安・近世	集落跡	竪穴住居跡、落とし穴、土師器、須恵器、土錘、鉄器、金粒
67	古館(似内館)	中世	城館跡	
68	庫理	縄文	散布地	縄文土器、土師器
69	添市古墳群	古墳	古墳群	
70	添市館		城館跡	
71	東野袋	古代	散布地	土師器
72	矢沢古堂	古代	集落跡	土師器、須恵器、鉄製鍬
73	上野々	縄文	散布地	石斧、石器
74	添市	縄文・弥生	散布地	縄文土器(前?・中・晩期)、弥生土器(後期)、石器
75	陣ヶ森	中世	城館跡	堀、土塁
76	上幅	縄文・古代	集落跡	竪穴住居跡、石器、縄文土器
77	下幅	古代・平安	散布地	竪穴住居跡、土師器、須恵器
78	本館Ⅰ	縄文	散布地	縄文土器(晩期)、石器
79	本館Ⅱ	縄文	集落跡	落とし穴状遺構
80	下似内	古代	散布地	土師器、須恵器
81	下東	古代	散布地	土師器、須恵器
82	上似内	古代	散布地	土師器、須恵器
83	槻ノ木Ⅱ	縄文	散布地	縄文土器、石器
84	槻ノ木Ⅰ	縄文・弥生	散布地	縄文土器(晩期)、弥生土器
85	花巻城	中世～近世	城館跡	堀
86	堰袋Ⅱ	古代	散布地	土師器、須恵器、土錘
87	高松Ⅰ	縄文	散布地	縄文土器(中期)
88	高松Ⅱ	縄文・弥生・平安	散布地	縄文土器(晩期)、弥生土器(谷起島)
89	高松Ⅲ	縄文・弥生	散布地	縄文土器、弥生土器、石器
90	蒼前堂	縄文	散布地	縄文土器
91	上台Ⅰ	縄文・平安	集落跡	縄文土器、土師器、須恵器
92	古館(高木古館)	中世～近世	城館跡	堀
93	サイノ神	縄文	散布地	縄文土器(中期)
94	堰袋Ⅰ	縄文・古代	散布地	縄文土器、石器、土師器
95	安野Ⅰ	縄文	散布地	縄文土器(後期)
96	上台Ⅲ	縄文・古代	集落跡	縄文土器、石器、土師器

No.	遺跡名	時代	種別	遺物・遺構
97	久田野Ⅰ	縄文	散布地	焼土遺構、縄文土器、スクレイパー
98	上台Ⅱ	縄文	散布地	縄文土器
99	高木岡神社		経塚	塚、白磁瓶
100	久田野Ⅱ	縄文	集落跡	竪穴住居跡、縄文土器（中期）
101	胡四王山館	平安	城館跡	空壕、二重空堀、竪穴住居跡、縄文土器、土師器、須恵器、古銭、砥石
102	槻ノ木Ⅲ	縄文・古代	散布地	縄文土器、土師器、須恵器、石器
103	矢沢八幡	平安・江戸	集落跡・城館跡	竪穴住居跡、堀立柱建物跡、溝、土師器、須恵器、古銭、陶磁器、石器
104	経塚森	古代	経塚	土師器
105	寺場	古代	集落跡	竪穴住居跡、土師器、須恵器
106	明ヶ沢	縄文	散布地	縄文土器（中期）、石器
107	高松寺跡		廃寺跡	古碑
108	安野Ⅱ	弥生	集落跡	弥生土器、石斧
109	安野Ⅲ	縄文・古代	散布地	縄文土器、土師器、石器
110	中野C	縄文・古代	集落跡	焼土、土坑、縄文土器、石器、土製耳栓、土師器、石鏃
111	中野B	縄文	散布地	縄文土器（後期）、弥生土器、石器
112	中里一里塚	近世	一里塚	塚2基
113	中野D	縄文～古代	散布地	土坑、縄文土器（前・中・晩期）、弥生土器（中期）、石器、土偶片、土師器
114	中野A	縄文	散布地	縄文土器（中期？）、土師器、石器、須恵器
115	高松山経塚	平安・近世	経塚・廃寺跡	経塚、竪穴状遺構、白磁壺、常滑壺
116	網森		塚	塚2基
117	桜町			
118	不動Ⅰ	縄文	集落跡	縄文土器（後・晩期）、石器
119	不動Ⅱ	古代	散布地	土師器、須恵器、古銭（寛永通宝）
120	桜町窯跡	近世	窯跡	陶磁器、瓦片
121	上館	中世・近世	城館跡	
122	高木中館	縄文・古代	散布地	縄文土器
123	長根Ⅲ	古代	散布地	
124	長根Ⅱ	古代	散布地	土師器
125	八ツ森	縄文・古代	集落跡	竪穴住居跡ほか、縄文土器、石器、土師器
126	山ノ神Ⅳ	縄文	散布地	縄文土器
127	外台河原	古代	散布地	土師器
128	一二丁目城	縄文・中世	城館跡	堀、土塁、縄文土器（早期）
129	長根Ⅰ	古代	散布地	土師器
130	荒屋敷	古代	集落跡	焼土、土師器
131	小袋	古代	散布地	土師器
132	大沢Ⅱ	縄文・中世	散布地	縄文土器、土師器、須恵器
133	大沢Ⅰ	古代	集落跡	土師器、須恵器
134	山ノ神Ⅲ	縄文	散布地	縄文土器
135	山ノ神Ⅱ	縄文	散布地	縄文土器
136	山ノ神Ⅴ	縄文	散布地	縄文土器
137	山ノ神Ⅰ	縄文	散布地	縄文土器
138	沖	古代	散布地	土師器
139	宿内	縄文	散布地	縄文土器
140	一二丁目中村	古代	散布地	土師器
141	薬師館	中世	城館跡	郭、堀
142	長根坂	縄文	散布地	縄文土器（晩期）、石器
143	中	平安	散布地	土師器
144	平良木館		城館跡？	堀
145	明戸Ⅰ	縄文	集落跡	縄文土器（後期）、石器
146	明戸Ⅱ	縄文・平安	集落跡	土師器、縄文土器、石器
147	明戸Ⅳ	縄文	散布地	縄文土器、土師器
148	長志田	縄文	散布地	縄文土器
149	明戸Ⅲ	縄文・古代	散布地	縄文土器、土師器、石器
150	臥牛	縄文	散布地	縄文土器（中・後・晩期）、須恵器、土偶
151	乱場館	中世	城館跡	带状腰郭、堀
152	長根	縄文	散布地	縄文土器



第5図 周辺の遺跡分布図

5. 歴史的環境（中世）

（1）中世の花巻市と郡主稗貫氏

文治5年奥州合戦以後、当地を支配した稗貫氏は本姓を中条氏といい、元は武蔵国埼玉郡小野保を本館とする関東御家人であった。初代は中条義綱でその子孫がやがて稗貫郡に移り住み稗貫氏を名乗るようになった。鎌倉幕府が倒れ建武政府が樹立されると稗貫時長は南部氏などとともに陸奥国司北畠頭家の麾下に属して北奥の現地奉行として活躍した。南北朝時代になると稗貫氏は北畠氏の麾下から離れ、足利方について戦った。稗貫郡は斯波・和賀などの諸郡とともに、北上川中流域における足利方の重要拠点となった。室町時代になって稗貫氏は十八ヶ城に住み、所領は郡内一円の石鳥谷町、花巻市（南部は和賀領）、大迫町、東和町西部に及び稗貫五十三郷といわれ、稗貫郡主と称される。16世紀になると室町幕府の勢力は下火になり、永禄二年（1559）、稗貫氏22代当主政直は十八ヶ城から鳥谷ヶ崎に城を築いて移った。天正18年（1590）豊臣秀吉は小田原北条氏を攻めるために参陣するよう命令を奥州に下した。これに応じなかった23代当主稗貫広忠は秀吉の大軍の北上するのをみて戦わず、鳥谷ヶ崎城を捨てて逃げ、遂に鎌倉以来約400年続いた稗貫氏は滅亡した。

（2）似内氏

似内氏の主稗貫氏は『南部史要』（第13 世守行公）「為家の子を三河守為重といふ、建久二年源頼朝より陸奥稗貫郡五十三郷を賜はり翌年八月この地に至って瀬川城に居る。遂に稗貫を以て氏となす。」と記され、鎌倉時代にその源を発する。似内氏の祖は稗貫始祖広重（始常陸四郎為家）の三人の舎弟の1人似内孫八郎為政であり、上似内村を領地したと伝えられている。また『邦内郷村志』と『内史略』の記述によれば、上似内村の五内川城主は似内氏で、稗貫氏の支流であるという。

似内氏の始祖の後には、その系譜や事績などが絶えており、定かではないが、『吾妻むかし物語』の永享八年（1436）、十八ヶ城戦での記述で「稗貫方にも矢沢・小山田・似内・槻木等稗貫の一家なれば我先にと相集まる」とあり、『内史略』や『邦内郷村志』によれば、天正年間には、上似内は似内備中守の嫡男・似内雅楽助が居住し、下似内は稗貫広忠が和賀から入婿したときの従者といわれる、平沢隠岐が領したことであり、これは似内雅楽助の母が、平沢隠岐の娘であったことによる。また天正末葉頃には、『奥南落穂集』（稗貫家の次第）の中に似内備中守高範、似内雅楽助高衡、似内隼人、似内但馬守敏房、似内式部且房、似内五郎、似内平蔵らの氏名がみえる。また稗貫氏末期の家中に、一族老臣として似内孫七郎があり、重臣の地位にあったことがわかる。

『奥々風土記』（巻三）には、「似内の城 上似内村に今も城の跡あり。城主の名は知られねど、稗貫の家族が跡なりとなん」と綴られている。

天正18年（1590）豊臣秀吉は小田原北条氏を攻めるために出陣の命令を奥州に下した。これに応じなかった稗貫氏は所領を没収され秀吉の大軍の北上するのをみて戦わず、鳥谷ヶ崎城を捨てて逃げた。秀吉の代官、浅野長政は、8月に奥州仕置を決定し、鳥谷ヶ崎城にはその臣浅野重吉をおいて帰東した。10月、これに不満を抱く、和賀・稗貫の残党が蜂起して城を囲んだ。このとき集まった者の中に似内何某の名が記されている。（南部根元記）

中世において似内氏は主である稗貫氏の興亡と運命をともにし、稗貫氏の没落とともに歴史からその名を消した。現在、館跡のあった平場は近年の畑地や水田の造成でかつての面影はなく、今回の発掘調査で検出された堀によって館の規模や構造の一部を推測でき、当時の面影をかいま見ることができる。また現在でも

似内周辺には似内姓の家が少なくない。

(3) 似内館

似内館のある上似内地区は北上川が大きく東側に挟り込む右岸の穀倉地帯で、川の対岸には矢沢・槻木の地があるため、昔から北上川の渡し場の1つとして水上交通の要所となっていた。

館跡は「五内(川)館」、「古館」と呼ばれることもあり、上似内の五内川の東側、北上川に面する右岸の場所と云われてきた。しかし、北上川の河道変更により流れが大きく南側に変わったため、現在は中位段丘となっている。

近年の開田造成の影響で今日、その面影は全く見ることができない。『稗貫郡旧記』には「土居」という記述があり、堀以外に土塁などがあったことをうかがわせる。また古老によると、大きな空堀が館の南側を流れる北上川に向かって「コ」の字形に開く形の郭が造られ、西側の堀の切れ目には湧水が湧いて湿地となっていたという。今回の調査で検出した1号堀、3号堀がこれにあたると思われる。また、中央部南側で検出した2号堀の存在から群郭式の平城であったと考えられ、周囲にはさらにいくつかの堀跡があると考えられる。

館の対岸の北上川左岸には、似内氏と同じく稗貫氏の分族、矢沢氏の館があり、この両岸周辺が郡主稗貫氏にとって、重要な地域であったことを示している。

(4) 周辺の中世城館遺跡

今回調査した上似内遺跡周辺の城館跡を第6図に記載した。これらを発掘調査された遺跡を中心に述べたい。小森林館(30)は奥羽山脈東縁から発する洪積世砂礫段丘上に位置し、稗貫家臣小森林氏が居館とした。平成9年の発掘調査では堀1条、土塁1基が検出された。根子館(10)は稗貫家臣根子氏の居館で、慶長年間城主根子内蔵は天正18年の和賀・稗貫一揆や慶長5年の花巻城襲撃の首謀者の1人といわれる。またそれから東に約3.5km地点にやはり根子氏が居住した古館I遺跡(13)があり、これについては『岩手文化財調査報告書第82集』で「周溝をもち、土塁によって3区分された東西250m、南北130mの柵地形式の館」と報告されている。瀬川が北上川への合流前に流路を南へ変える付近の中位段丘縁に稗貫氏が鳥谷ヶ崎城に移転する前の居館と云われる本館I遺跡(8)があり、十八ヶ城に比定されるが資料によって見解が異なるため断定はできない。似内館と北上川を挟んだ左岸に稗貫氏の一族矢沢氏の居館があったとされる矢沢八幡遺跡(21)がある。昭和51年の発掘調査では古代・近世の遺構・遺物が発見されたが中世の館跡に関わる遺構・遺物は見つかっていない。轟木館(11)は笹間地区の和賀・稗貫を結ぶ街道が交差する地点にあり、館という地名の西側の平地にある。方形単郭の館跡で土塁や堀が見られる。館主は和賀氏重臣轟木氏で天正年代には轟木入道月斎なるものが居住していた。

(参考文献)

岩手県 1976 『北上山系開発地域 土地分類基本調査 花巻』

岩手県花巻市教育委員会 1998 『花巻市内遺跡発掘調査報告書』

(久保野II遺跡・本館II遺跡・似内遺跡)

(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター(2000)『狼沢II・高松寺・上駒板遺跡発掘調査報告書』

(岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第319集)

岩手県教育委員会 1986 『岩手県中世城館跡分布調査報告書』

周辺の中世城館跡一覧表

NO	遺跡名	規模	城(館)主(所属)	現況	遺物・遺構
1	万寿山館(湯の高館)			山林	
2	大畑館		大畑氏(稗貫)		堀、土塁
3	金矢館(湯の館)		金矢氏(稗貫)高橋氏(稗貫)	道路、宅地、草地	堀、土塁
4	櫨ノ目				堀、土塁
5	小瀬川館	100×250	稗貫氏居館	宅地	堀、土塁、陶磁器
6	円万寺館館(旧館)		円万寺氏(稗貫)	寺院、山林	堀
7	天下田			道路、宅地、墓地他	堀、土塁、溝
8	本館I(十八ヶ城?)	400×200	稗貫氏居館	宅地	堀、陶器
9	湯口上館			田畑	堀
10	根子館		根子氏(稗貫)	寺院、宅地	堀
11	轟木館	100×100	轟木氏(和賀→南部)	田畑、宅地	堀
12	坂井館				
13	古館I	250×130	根子周防守(稗貫)	宅地	堀
14	下館		根子氏(稗貫)		堀
15	花巻城(鳥谷ヶ崎城)		稗貫氏本城	城跡	堀
16	上館		根子内蔵(稗貫)		
17	十二丁目(獅子ヶ鼻城)		十二丁目氏	宅地、林	
18	薬師館			山林	堀
19	高木古館				
20	似内館	250×150	似内氏(稗貫)	田畑	堀
21	矢沢八幡		矢沢氏(稗貫)		堀立柱建物跡、古銭、陶磁器
22	添市館				
23	陣ヶ森				
24	隅っこ館	200×300		山林	堀、土塁、郭
25	八重畑館(大館)	300×250	八重畑豊前守(稗貫)八重畑掃部(稗貫)	田畑、宅地	土塁、堀
26	上ノ山館		葛西氏(稗貫)	宅地、畑地	堀
27	柳館(矢の目館)	300×200	阿部氏?	田畑、宅地	古井戸、郭、土塁、堀
28	江曾館(北・中館)	300×500	藤原氏?	山林	堀、井戸、土塁
29	古館	(250×350)		宅地、山林	土塁、堀
30	小森林館(小森館)	300×450	小森林治部(稗貫)	山林	土塁、堀、二郭
31	黒沼館	80×90	黒沼清太夫	宅地、寺院	土塁、堀、井戸
32	堀の内				堀
33	下館	250×250			
34	関口V		関口氏(和賀)		
35	関口VI		関口氏(和賀)		土塁
36	関口館	300×200	関口小五郎(和賀)	宅地、田畑	堀、古井戸
37	関口南館		関口氏(和賀)		郭
38	関口西		関口氏(和賀)		
39	猪鼻館	120×150	猪鼻弥十郎	山林、寺院	井戸、空堀、主郭
40	笹原館	120×120	滝田大学	宅地	堀、土塁
41	大川原館	150×150	大川原氏	田畑、宅地	堀
42	安俣城(館小路・館)		安俣忠秀(和賀)		堀
43	毒沢城		毒沢伊賀(和賀)		堀



第6図 周辺の中世城館跡

Ⅲ. 野外調査と整理方法

1. 野外調査

(1) グリッドの設定と遺構名

グリッドの設定にあたっては平面直角座標第X系、 $X = -65,700.000$ 、 $Y = 26,800.000$ を調査原点座標とし、原点とした。調査で使用した基準点の成果は次のとおりである。

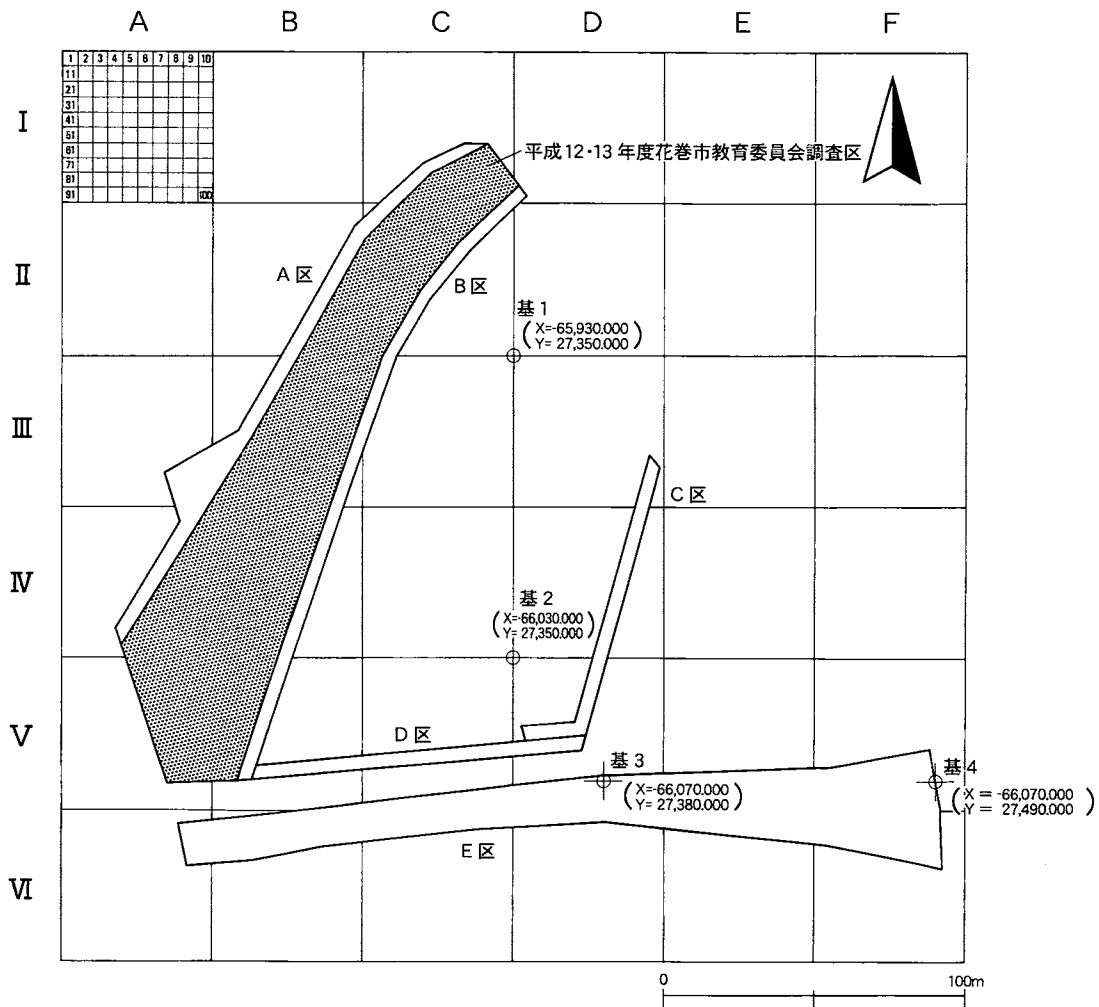
基 1 ($X = -65,930.000$ $Y = 27,350.000$)

基 2 ($X = -66,030.000$ $Y = 27,350.000$)

基 3 ($X = -66,070.000$ $Y = 27,380.000$)

基 4 ($X = -66,070.000$ $Y = 27,490.000$)

原点から東方向へはA～Fの数字を付し、南方向へはI～VIを与え、これを組み合わせて、I A、II Bのように表記した。大グリッドの大きさは50×50 m、小グリッドの大きさは5×5 mで遺構外の遺物の取り上げに際しては、第7図のグリッド配置図にあるような小グリッドを用いた。遺構名は種別ごとに1号竪穴住居跡、2号土坑のように任意に名称を付した。



第7図 グリッド配置図

(2) 粗掘りと遺構検出

本調査に先立って岩手県教育委員会生涯学習文化課によって試掘調査が行われた。それによって、今回の調査対象部分については遺構の粗密や層序・遺物の状況がある程度把握されていた。試掘の入らない所には人力によるトレンチを設定して、細部の状況を確認した。これにより遺構が検出するレベルまで遺物が少ないこともあり、重機によって、表土を除去し、その後人力による遺構検出を行った。調査にあたっては工事の都合からA区・B区北側の調査を先行して行い、その後C区→E区→D区の順で行った。

(3) 遺構の精査と実測・遺物の取り上げ

検出された遺構は、竪穴住居跡は4分法で精査を実施した。遺構の平面図・断面図は20分の1の縮尺で実測を行った。一部、竪穴住居跡のカマド・炉の平面・断面については10分の1で実測を行った。溝跡や堀跡については平板測量で40分の1の平面図を作成した。なお断面図は20分の1である。その他の遺構については2分法で精査を実施し、基本的には平面図・断面図ともに20分の1の縮尺で実測した。例外的に10分の1で実測を行った遺構もある。遺構内出土の遺物については、埋土土層に基づいて取り上げ、必要に応じて写真撮影・図面作成後に取り上げた。遺構外出土の遺物については、前述のとおり、調査区ごとに出土した層位を記して取り上げた。

(4) 写真撮影

野外調査での写真撮影は、6×7cm判カメラ（モノクロ）を1台、35mm判カメラ（モノクロ、カラー・リバーサル）を2台、この他にポラロイドカメラ1台をメモ的な用途として使用した。撮影に当たっては、撮影状況を記した「撮影カード」を事前に写し、整理時の混乱を防止した。また、調査終了にあたり調査現場の航空写真撮影を実施している。

(5) 広報活動

埋蔵文化財に対する啓蒙活動の一環としては9月15日に調査成果を公開する現地説明会を開催するとともに日々の見学者には随時対応し、調査の概要を説明をした。

2. 室内整理

(1) 作業手順

遺構については調査現場で作成した実測図の点検、合成、第2原図の作成、トレース図版作成の順に進めた。遺物については、接合、復原を行った後、仕分け・登録と併行して実測図の作成、トレース、写真撮影、図版作成を順に進めた。また、これらの作業と併行して原稿執筆をした。

(2) 遺構

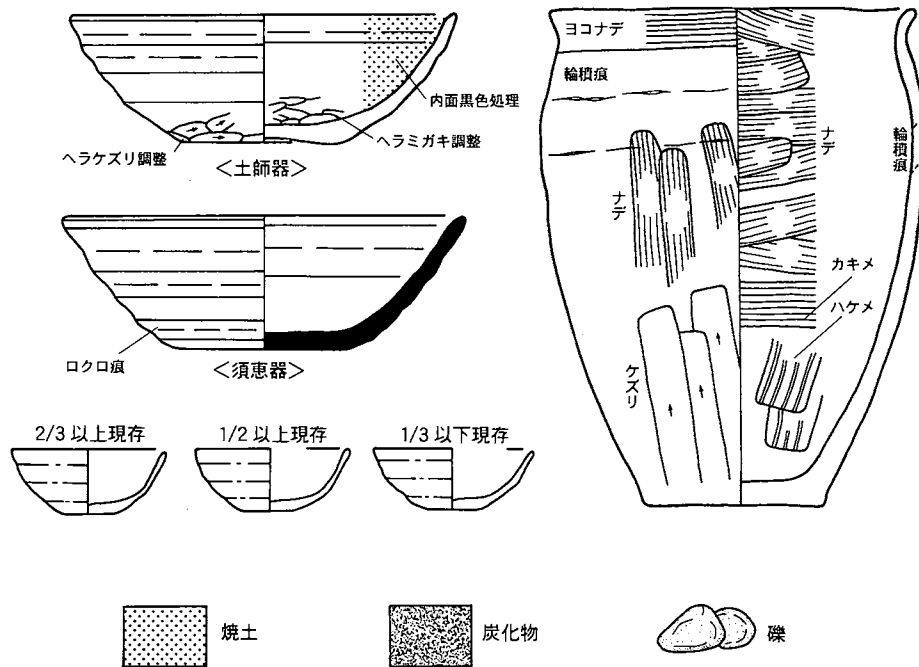
遺構図面の縮尺は原則として竪穴住居跡については平面図・断面図ともに50分の1、カマドの各部断面図は25分の1、溝状遺構は平面図100分の1、断面図40分の1、土坑・陥し穴状遺構は平面図・断面図ともに50分の1を原則として掲載したが、遺構の規模によって一部変更もあり、図面にはそれぞれスケール・縮尺率を付した。遺構写真の縮尺については不定である。（なお写真図版中の写植にある→の記号は撮影した方向を示している。〈例 北→北方向から撮影〉）

(3) 遺物

土器の実測図は原則として、反転実測が可能なものに限ったが、一部平面実測を行ったものもある。遺物写真の縮尺については縮尺不定である。遺物の実測図に付している番号は遺物写真図版に付した番号と同一である。拓本図版・写真図版掲載遺物の縮尺率は次頁の通りである。

土器・鉄製品・・・1/3 大型の土器・礫石器・・・1/4 剥片石器・土製品・・・1/2
 古銭・・・2/3

図版中の土器はP、礫はSと表し、遺構の表現や土器の調整方法は第8図の実測図凡例に示すとおりである。



第8図 実測図凡例

IV. 検出された遺構と遺物

今回の調査で検出された遺構は縄文時代の陥し穴状遺構 29 基、平安時代の竪穴住居跡 26 棟、土坑 8 基、中世の墓壇 1 基、堀跡 3 条、他に溝跡 5 条、柱穴列 1 基、柱穴状小土坑が 81 基検出されている。

1. 陥し穴状遺構

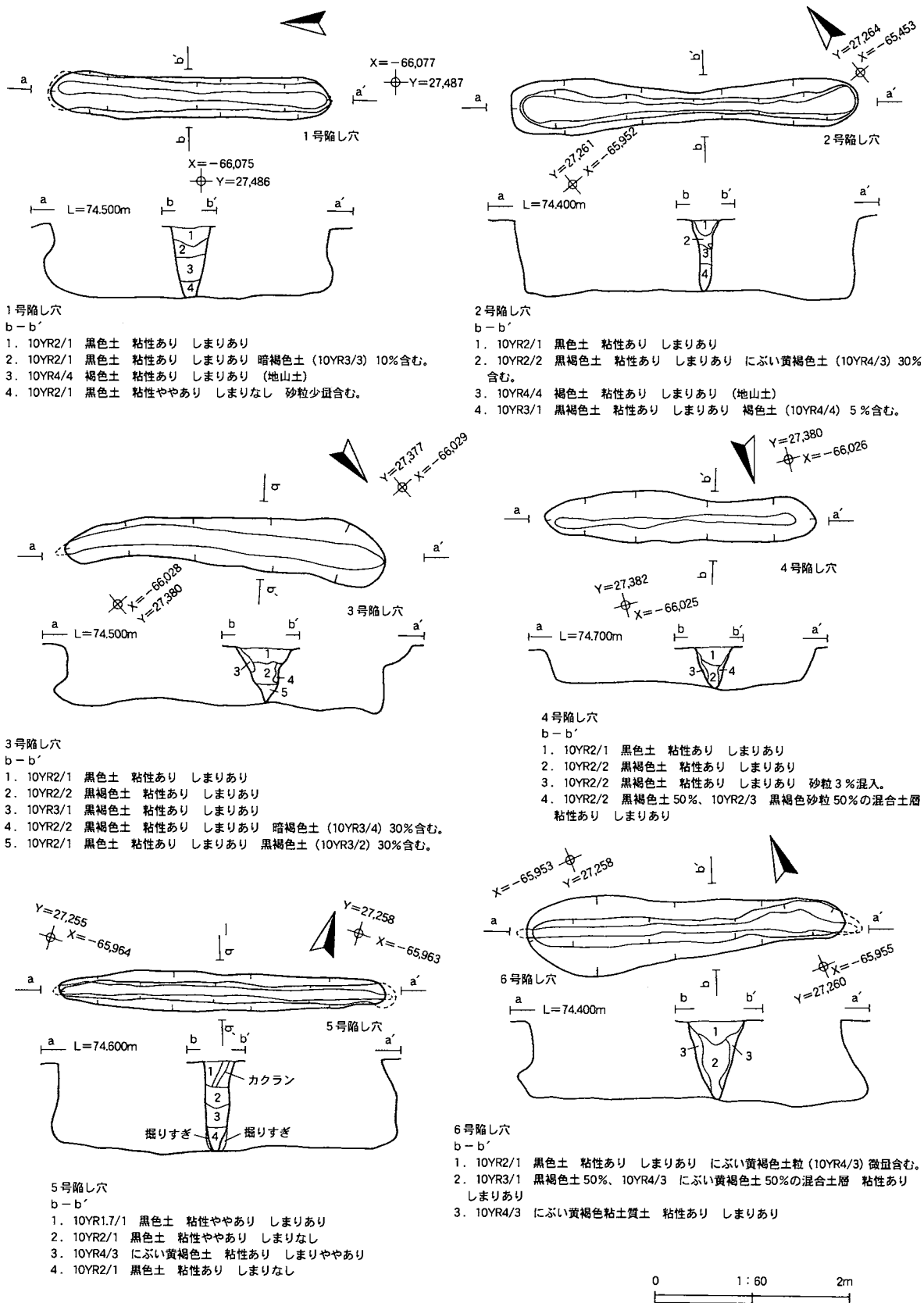
陥し穴状遺構は 29 基検出された。平面形のほとんどが溝状の形状を呈しているが、他に楕円・長楕円形の形状を呈するものがある。規模が最大のもは開口部径 356×28 cm で最小のもは 116×38 cm であり、多くは開口部の長軸径が 270cm 前後の規模を持つ。また、最も深いもので 100 cm、浅いもので 24 cm を測り、平均で約 70cm 前後深さを持つ。検出された場所は A 区・E 区に多く、2～5 基まとまって見つっている。陥し穴状遺構からはほとんど遺物は出土しておらず、25 号陥し穴状遺構の埋土から片面調整の剥片石器が 1 点出土している。

各陥し穴状遺構の位置・規模等については観察表に記載した。

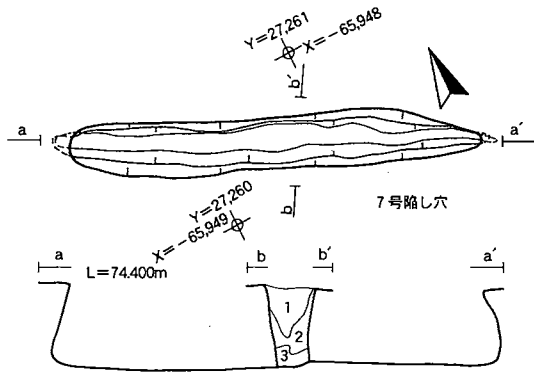
陥し穴状遺構観察表

遺構名	位置	平面形	開口部径	底部径	深さ	長軸方向	埋土	検出状況 重複関係	図版	写図
1号陥し穴	Ⅱ B-96	溝型	287×40	276×10	70	N-1° -E	自然堆積で上位は黒色土、中位は褐色土、下位は黒色土が堆積。		9	5
2号陥し穴	Ⅲ B-23	溝型	356×28	342×8	72	N-52° -W	自然堆積で上位は黒色～黒褐色土、中位は褐色土、下位は黒褐色土が堆積。		9	5
3号陥し穴	V D-06	溝型	330×55	338×22	54	N-50° -W	自然堆積で上位は黒色土、中位は黒褐色土、下位は黒色土が堆積。		9	5
4号陥し穴	Ⅳ D-96	溝型	279×40	249×10	41	N-74° -W	自然堆積で上位は黒色土、中位～下位は黒褐色土、黒褐色砂粒が堆積。		9	5
5号陥し穴	Ⅲ B-62	溝型	335×35	348×10	92	N-71° -E	自然堆積で上位と下位には黒色土、中位ににぶい黄褐色土が堆積。	11号陥し穴と重複し、これより新しい。	9	5
6号陥し穴	Ⅲ B-42	溝型	327×57	349×10	80	N-68° -W	自然堆積で上位は黒色土、中位は黒褐色土とにぶい黄褐色土の混合土。壁際ににぶい黄褐色粘土質土が堆積。		9	6
7号陥し穴	Ⅲ B-33	溝型	330×40	356×18	74	N-62° -W	自然堆積で上位は黒色土、中位はにぶい黄褐粘土、下位は黒褐色土が堆積。		10	6
8号陥し穴	Ⅲ B-43	溝型	370×50	350×13	54	N-82° -W	自然堆積で上位～中位は褐色土主体、下位は黒褐色、暗褐色土が堆積。		10	6
9号陥し穴	Ⅱ C-02	溝型	253×98	216×30	88	N-30° -E	自然堆積で上位は黒色土主体、下位は黒褐色、暗褐色土が堆積。	3号住居跡と重複し、これより古い。	10	6

遺構名	位置	平面形	開口部径	底部径	深さ	長軸方向	埋土	検出状況 重複関係	図版	写真
10号陥し穴	Ⅱ C-02	溝型	268×110	219×26	91	N-13° -E	自然堆積で上位は黒色土、中位は黒褐色土、下位は暗褐色、黒褐色土が堆積。	3号住居跡と重複し、これより古い。	10	6
11号陥し穴	Ⅲ B-61	溝型	202×66	?×13	71	N-84° -W	自然堆積で上位～中位は黒褐色土、下位は暗褐色砂粒が堆積。	5号陥し穴と重複し、これより古い。	10	7
12号陥し穴	Ⅲ B-61	溝型	225×84	218×9	79	N-47° -W	自然堆積で上位～中位は黒褐色土、下位はにぶい黄褐色土が主体に堆積。		10	7
13号陥し穴	Ⅲ A-100	溝型	241×36	230×6	100	N-27° -E	自然堆積で上位は黒褐色土、中位は褐色土、下位は黒褐色、暗褐色土が堆積。	26号住居跡と重複し、これより古い。	11	7
14号陥し穴	Ⅳ D-66	溝型	211×60	194×22	35	N-78° -W	自然堆積で上位は黒褐色砂質土、中位は暗褐色砂質土、下位は褐色土が堆積。	10号住居跡と重複し、これより古い。	11	7
15号陥し穴	Ⅳ D-77	溝型	329×38	281×10	62	N-73° -E	自然堆積で上～中位は黒褐～暗褐色砂質土、下位は褐色土、暗褐色砂質土が堆積。		11	7
16号陥し穴	Ⅵ C-07	溝型	317×26	302×14	24	N-54° -E	自然堆積で上位は褐色土、中位は黒褐色土、下位は暗褐色砂質土が堆積。		11	8
17号陥し穴	Ⅵ C-09	溝型	311×20	297×8	34	N-64° -W	自然堆積で上位は黒褐色土主体、中位は暗褐色砂質土、下位は黒褐色土が堆積。		11	8
18号陥し穴	Ⅵ E-20	溝型	339×29	336×9	65	N-56° -W	自然堆積で上～中位は黒褐色土、下位は黒褐色土、褐色砂質土が堆積。	18号住居跡と重複し、これより古い。	11	8
19号陥し穴	Ⅴ D-84	溝型	300×83	257×26	56	N-7° -E	上位は黒色～暗褐色土が主体、下位は、褐色のシルト、砂質土が堆積。		12	8
20号陥し穴	Ⅴ D-85	溝型	?×73	245×18	51	N-8° -W	自然堆積で上位は黒褐色土と褐色土、下位は褐色砂質土が堆積。		12	8
21号陥し穴	Ⅴ D-86	溝型	?×64	208×16	58	N-25° -W	自然堆積で上～中位は黒褐色土と褐色土、下位は褐色砂質土が堆積。		12	9
22号陥し穴	Ⅵ F-07	溝型	241×37	276×8	85	N-57° -E	自然堆積で上位は黒色土、中～下位は褐色砂質土を挟み黒褐色土が堆積。		12	9
23号陥し穴	Ⅴ F-96	溝型	230×41	248×14	94	N-71° -E	自然堆積で全体が黒褐色土を主体とし、中位に暗褐色土層が堆積。		12	9
24号陥し穴	Ⅴ F-88	溝型	260×66	298×21	91	N-61° -W	自然堆積で上位は黒褐色土、中位はにぶい黄褐色の粘土質土、下位はにぶい黄褐色土混じりの黒褐色土が堆積。		13	9
25号陥し穴	Ⅴ E-84	溝型	222×30	241×19	43	N-87° -W	自然堆積で上位は黒褐色土、中位は暗褐色土、下位は黒褐色土が堆積。		13	9
26号陥し穴	Ⅵ F-03	溝型	116×38	128×16	70	N-31° -W	自然堆積で全体が黒褐色土を主体とした土層堆積で中位～下位にはにぶい黄褐色土が混じる。		13	10
27号陥し穴	Ⅵ F-01	溝型	146×53	142×16	79	N-75° -E	自然堆積で上～中位は黒色土、黒褐色土、壁際に褐色砂質土、下位に暗褐色土が堆積。		13	10
28号陥し穴	Ⅴ F-94	溝型	128×56	133×16	67	N-40° -W	上位は黒褐色土、中位は褐色砂質土混じりの黒褐色土、にぶい黄褐色土、下位に暗褐色土が堆積。		13	10
29号陥し穴	Ⅴ F-75	溝型	256×29	282×12	80	N-80° -E	自然堆積で上～中位は黒褐色土、下位は、黒色土、暗褐色土が堆積。		13	10



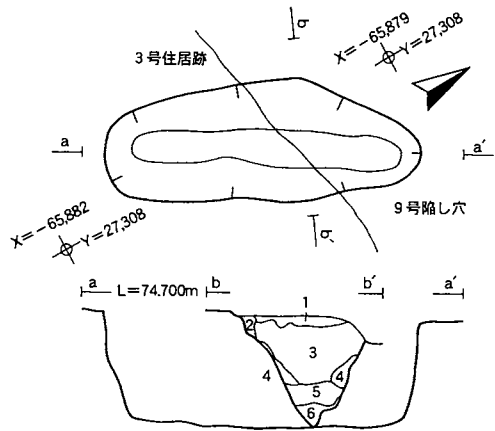
第9図 1~6号陥し穴



7号陥し穴

b-b'

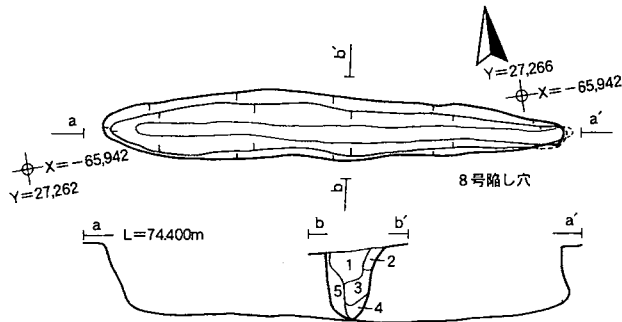
1. 10YR1.7/1 黒色土 粘性あり しまりあり にぶい黄褐色土粒 (10YR4/3) 2%含む。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土質土 粘性あり しまりあり
3. 10YR3/1 黒褐色土 粘性あり しまりなし 砂粒多く含む。



9号陥し穴

b-b'

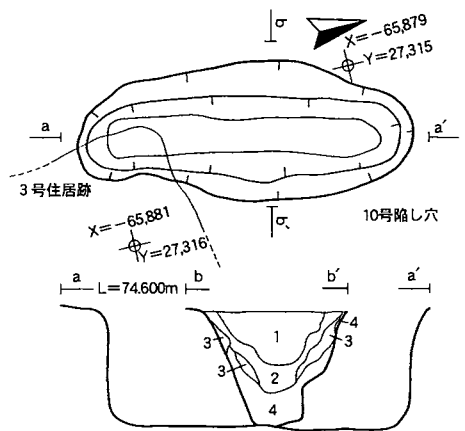
1. 10YR3/3 暗褐色土 粘性なし しまりあり
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり
3. 10YR2/1 黒色土 粘性なし しまりあり
4. 10YR3/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり
5. 10YR3/1~3/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり
6. 10YR3/3 暗褐色土 粘性あり しまりあり 5層50%混合。



8号陥し穴

b-b'

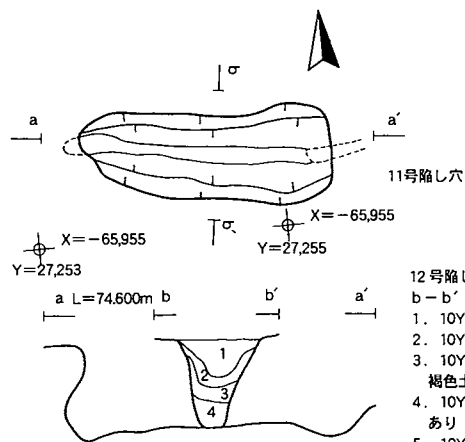
1. 10YR4/4 褐色土 粘性あり しまりあり 黒褐色土 (10YR2/2) 1~2%含む。
2. 10YR4/4 褐色土 粘性あり しまりあり
3. 10YR4/4 褐色砂質土 粘性なし しまりあり
4. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりなし 砂粒多く含む。
5. 10YR3/4 暗褐色砂質土 粘性なし しまりややあり 掘りすぎか？



10号陥し穴

b-b'

1. 10YR2/1 黒色土 粘性なし しまりあり
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり
3. 10YR3/4 暗褐色土 粘性なし しまりあり (地山土)
4. 10YR2/2~2/3 黒褐色砂質土 粘性なし しまりあり



11号陥し穴

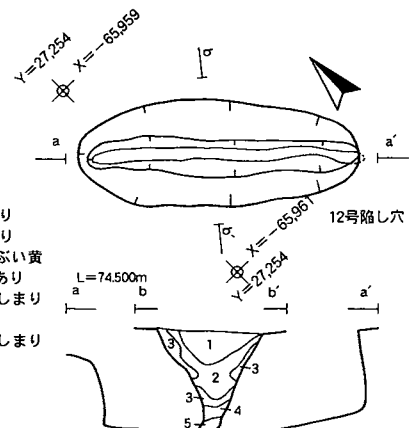
b-b'

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし しまりあり
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 褐色砂粒 (10YR4/4) 5%含む。
3. 10YR3/4 暗褐色砂粒 粘性ややあり しまりあり
4. 10YR3/4 暗褐色砂粒 粘性ややあり しまりあり 3層より濃色。

12号陥し穴

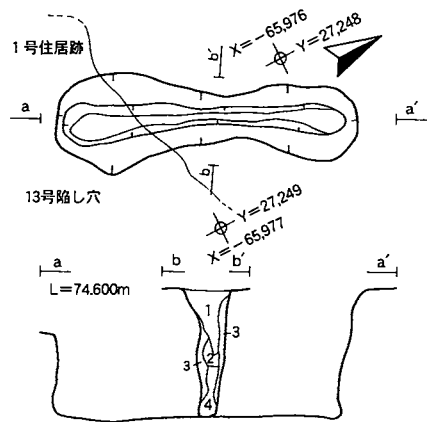
b-b'

1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし しまりあり
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり
3. 10YR3/2 黒褐色土 50%、10YR4/3 にぶい黄褐色土 50%の混合土層。粘性なし しまりあり
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色土 粘性あり しまりあり
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色土 粘性あり しまりあり 黒褐色土 (10YR3/2) 40%含む。



0 1:60 2m

第10図 7~12号陥し穴



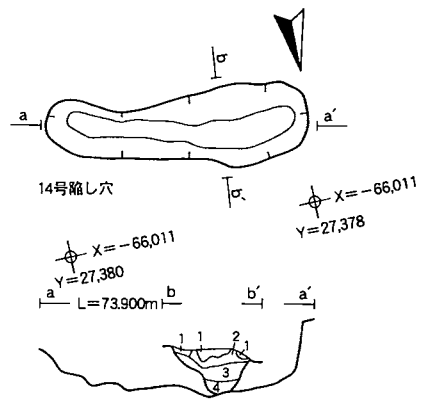
13号陥し穴

L=74.600m

13号陥し穴

b-b'

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性あり しまりあり
2. 10YR4/4 褐色土 粘性あり しまりあり
3. 10YR3/4 暗褐色土 粘性なし しまりあり
4. 10YR3/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり



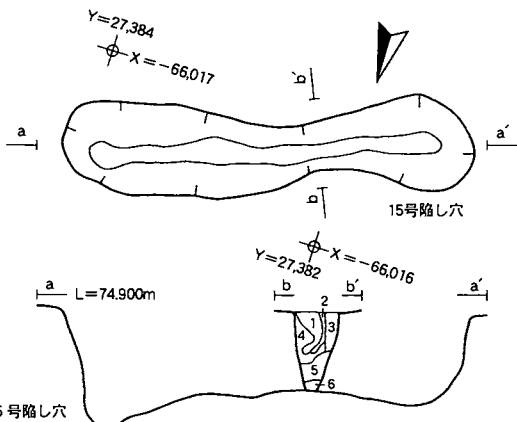
14号陥し穴

L=73.900m

14号陥し穴

b-b'

1. 10YR3/2 黒褐色砂質土 粘性ややあり しまりややあり
2. 10YR3/2 黒褐色砂質土 50%、10YR3/3 暗褐色砂質土 50%の混合土層 粘性ややあり しまりあり
3. 10YR3/4 暗褐色砂質土 粘性ややあり しまりあり
4. 10YR4/4 褐色土 粘性なし しまりあり



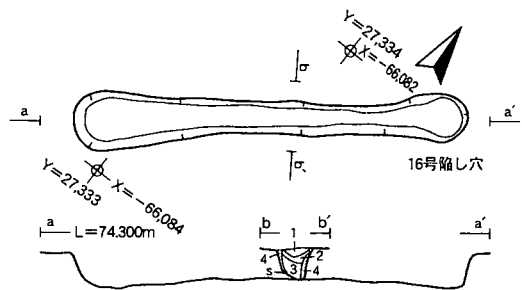
15号陥し穴

L=74.900m

15号陥し穴

b-b'

1. 10YR3/2 黒褐色砂質土 粘性なし しまりややあり 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 30% 含む。
2. 10YR3/4 暗褐色砂質土 粘性ややあり しまりややあり 黒褐色土 (10YR3/2) 20% 含む。
3. 10YR3/3 暗褐色砂質土 粘性なし しまりあり 黒褐色土 (10YR3/2) 10% 含む。
4. 10YR3/3 ~ 3/4 暗褐色砂質土 粘性なし しまりややあり 黒褐色土 (10YR3/2) 5% 含む。
5. 10YR4/4 褐色砂質土 粘性なし しまりなし
6. 10YR3/3 暗褐色砂質土 粘性なし しまりややあり



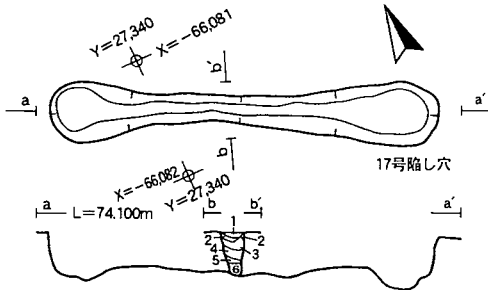
16号陥し穴

L=74.300m

16号陥し穴

b-b'

1. 10YR4/4 褐色土 粘性なし しまりあり 暗褐色土 (10YR3/4) 5% 含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし しまりあり 暗褐色土 (10YR3/4) 3% 含む。
3. 10YR3/4 暗褐色砂質土 粘性なし しまりあり 黒褐色土 (10YR2/3) 20% 含む。
4. 10YR4/6 褐色砂質土 粘性なし しまりあり



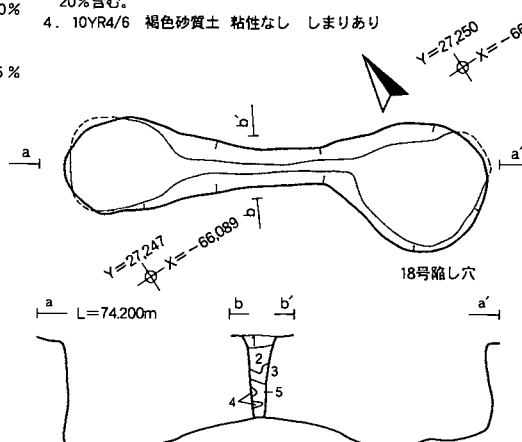
17号陥し穴

L=74.100m

17号陥し穴

b-b'

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり
2. 10YR3/4 暗褐色砂質土 粘性ややあり しまりあり
3. 10YR3/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 5% 含む。
4. 10YR3/4 暗褐色砂質土 粘性なし しまりあり 黒褐色土 (10YR3/2) 5% 含む。
5. 10YR4/4 褐色土 褐色砂質土 粘性なし しまりあり 黒褐色土 (10YR3/2) 3% 含む。
6. 10YR2/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり 礫 (径 5~20mm) 多量に含む。



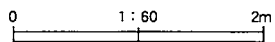
18号陥し穴

L=74.200m

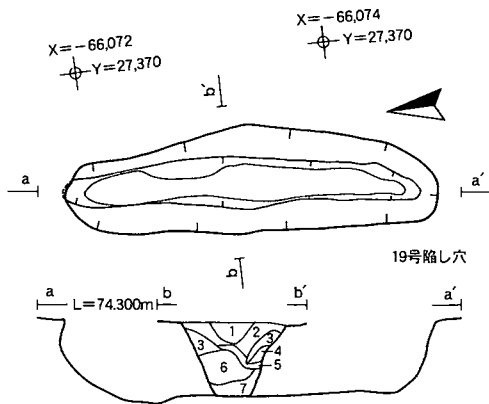
18号陥し穴

b-b'

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 暗褐色土 (10YR3/4) 5% 含む。
3. 10YR4/4 褐色砂質土 粘性ややあり しまりあり 黒褐色土 (10YR2/2) 10% 含む。
4. 10YR4/4 褐色砂質土 粘性ややあり しまりあり
5. 10YR2/2 ~ 3/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり 褐色砂質土 (10YR4/4) 20% 含む。

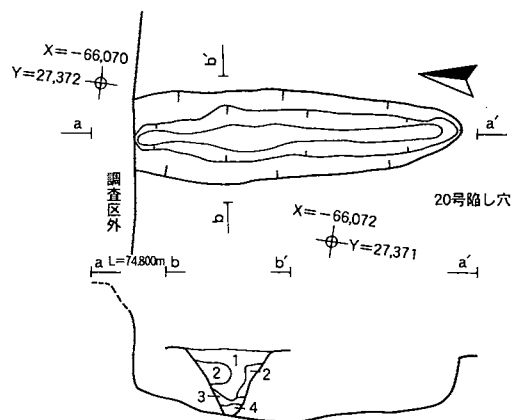


第11図 13~18号陥し穴



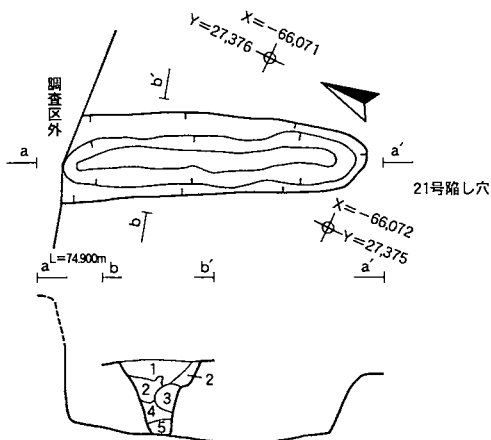
19号陥し穴
b-b'

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり
3. 10YR3/4 暗褐色土 粘性あり しまりあり 黒褐色土 (10YR3/2) 30%含む。
4. 10YR3/4 暗褐色砂質土 粘性ややあり しまりあり
5. 10YR2/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 1%含む。
6. 10YR4/4 ~ 4/6 褐色土 粘性あり しまりあり
7. 10YR4/4 褐色砂質土 粘性なし しまりなし



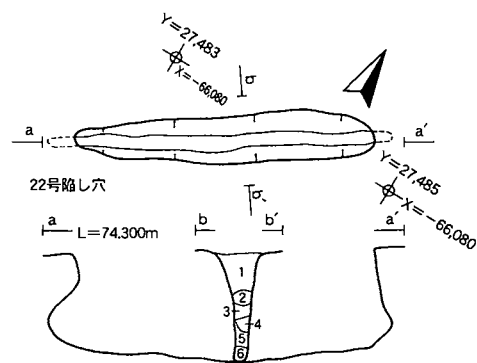
20号陥し穴
b-b'

1. 10YR2/2 ~ 3/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり
2. 10YR4/4 ~ 4/6 褐色土 粘性あり しまりあり 黒褐色土 (10YR2/2) 3%含む。
3. 10YR4/4 褐色砂質土 粘性なし しまりなし 黒褐色土 (10YR2/2) 5%含む。
4. 10YR4/4 褐色砂質土 粘性なし しまりなし



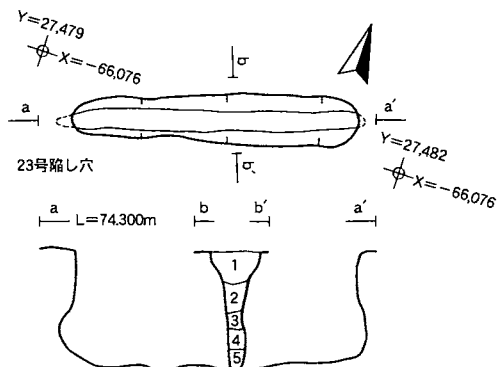
21号陥し穴
b-b'

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり
3. 10YR4/4 褐色土 粘性あり しまりあり 黒褐色土 (10YR3/2) 3%含む。
4. 10YR3/2 黒褐色土 粘性あり しまりなし 褐色土 (10YR4/4) 10%含む。
5. 10YR4/4 褐色砂質土 粘性なし 黒褐色土 (10YR2/2) 5%含む。



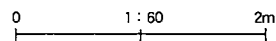
22号陥し穴
b-b'

1. 10YR2/1 黒色土 粘性なし しまりあり
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり 褐色土 (10YR4/4) 2%含む。
3. 10YR3/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり
4. 10YR4/4 褐色砂質土 粘性あり しまりあり
5. 10YR3/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり
6. 10YR3/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり 褐色土 (10YR4/4) 30%含む。

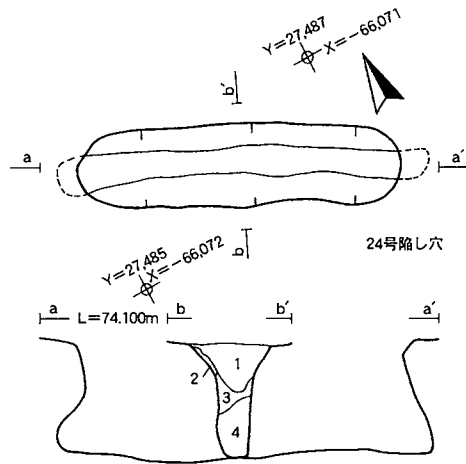


23号陥し穴
b-b'

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり
2. 10YR3/3 暗褐色土 粘性あり しまりあり
3. 10YR3/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり 暗褐色土 (10YR3/3) 20%含む。
4. 10YR3/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり 暗褐色土 (10YR3/3) 5%含む。
5. 10YR3/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり 暗褐色土 (10YR3/3) 10%含む。

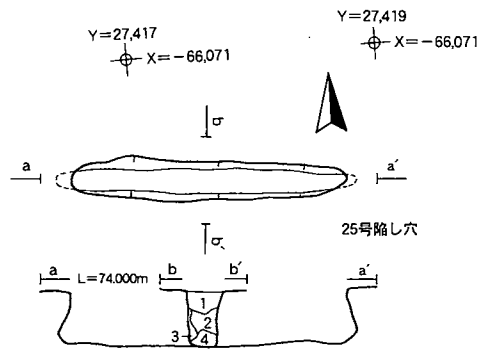


第12図 19~23号陥し穴



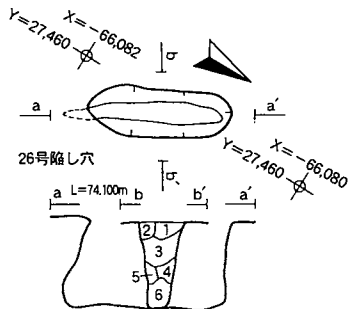
24号陥し穴
b-b'

- 10YR2/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり
- 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土質土 粘性あり しまりあり
- 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土質土 粘性あり しまりあり 2層より暗い色
- 10YR3/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 30%含む。



25号陥し穴
b-b'

- 10YR2/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり
- 10YR3/3 暗褐色土 粘性あり しまりあり
- 10YR3/4 暗褐色砂質土 粘性ややあり しまりあり 壁崩落土
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性あり しまりあり

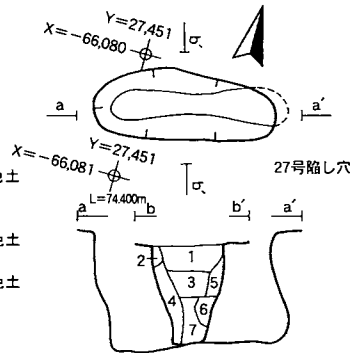


26号陥し穴
b-b'

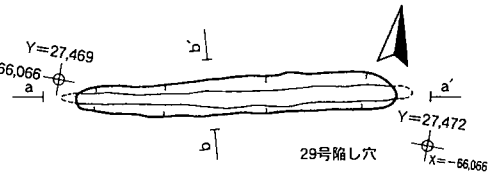
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 黒褐色土 (10YR3/2) 20%含む。
- 10YR3/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり
- 10YR3/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 20%含む。
- 10YR3/2 黒褐色土 50%、10YR4/3 にぶい黄褐色土 50%の混合土層 粘性あり しまりあり
- 10YR3/2 黒褐色土 70%、10YR4/3 にぶい黄褐色土 30%の混合土層 粘性あり しまりあり
- 10YR3/2 黒褐色土 80%、10YR4/3 にぶい黄褐色土 20%の混合土層 粘性あり しまりあり

27号陥し穴
b-b'

- 10YR2/1 黒色土 粘性なし しまりあり
- 10YR3/3 暗褐色土 粘性ややあり しまりあり
- 10YR3/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり 暗褐色土 (10YR3/3) 10%含む。
- 10YR4/4 褐色砂質土 粘性なし しまりあり
- 10YR4/4 褐色砂質土 粘性なし しまりあり 暗褐色土 (10YR3/3) 2%含む。
- 10YR4/4 褐色砂質土 粘性なし しまりあり 暗褐色土 (10YR3/3) 5%含む。
- 10YR3/3 暗褐色土 粘性あり しまりあり



27号陥し穴



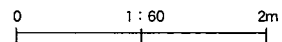
29号陥し穴

28号陥し穴
b-b'

- 10YR2/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり 褐色土粒 (10YR4/6 径1~2mm) 1~2%含む。
- 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質土 粘性あり しまりあり
- 10YR3/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり
- 10YR3/1 黒褐色土 粘性あり しまりあり 褐色土 (10YR4/4) 40%含む。
- 10YR2/1 黒色土 粘性あり しまりあり 褐色土 (10YR4/4) 3%含む。

28号陥し穴
b-b'

- 10YR2/1 黒色土 粘性あり しまりあり
- 10YR3/3 暗褐色土 粘性あり しまりあり 褐色砂質土 (10YR4/4) 10%含む。
- 10YR3/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり 褐色砂質土 (10YR4/4) 5%含む。
- 10YR4/3 にぶい黄褐色土 粘性あり しまりあり
- 10YR4/4 褐色砂質土 粘性あり しまりあり
- 10YR3/3 暗褐色土 粘性あり しまりあり



第13図 24~29号陥し穴

2. 竪穴住居跡（住居状含む）

今回の調査で検出された竪穴住居跡は全部で26棟である。いずれも古代（平安時代）に属するもので形状は正方形、長方形である。調査区ごとの内訳はA区7棟、B区8棟、C区2棟、D区4棟、E区5棟である。このうちカマドをもたないものは1棟、遺構の一部が調査区外に延びてカマドの有無が確認できないものが2棟で、他はすべてカマドを1基ないし、2基（22号住居跡は3基）有する。カマドの向きは北が2棟、東が18棟、南が2棟である。

1号住居跡

遺構（第14図、写真図版11）

〈位置・重複関係〉 IC-67グリッドに位置し、表土下の第Ⅲ層で検出された。遺構の西半は調査区外に延びる。また攪乱のためカマドなどの施設の残存状況は不良で住居の壁面の一部や煙道部は消滅している。重複する遺構はない。

〈規模・平面形・方向〉 削平のためにいずれも詳細は不明である。

〈埋土〉 上位は黒褐色土、中位は黒色土、下位はの黒褐色土の層が堆積する。

〈壁〉 壁は外傾して立ち上がり、壁の残存値は調査区外である南壁・西壁は未計測で北壁12cm、東壁20cmである。

〈床面〉 床面はほぼ平坦で、踏み固めによる堅さはない。また床面と壁面の区別ができず、遺構の範囲や壁の立ち上がりがやや不明確である。

〈土坑〉 なし。

〈カマド〉 東壁のやや南寄りに設けられていると推定される。微量の赤褐色焼土粒が60×48cmの範囲に広がり、焼土の厚さは最大17cmである。煙道部は削平のため検出できなかった。袖部は地山である褐色、黄褐色シルト混じりの黒褐色土を貼って固めて構築されている。

遺物（第72図、写真図版61）

〈土器〉 2～6が出土した。2～5はカマド崩落土からの出土である。2・3は酸化炎焼成の坏で成形はロクロ、2は器体内面が黒色処理され、篋磨きが施されている。底部の切り離し技法はいずれも回転糸切りである。4は還元炎焼成の坏で成形はロクロ、底部の切り離し技法は回転篋切りで、切り離し後に再調整が施されている。5は酸化炎焼成の甕の口縁～胴部の破片で成形はロクロによる。6は埋土1層から出土した還元炎焼成の壺の破片で成形はロクロによる。

〈石器〉 床面から砥石(7)が1点出土した。磨り痕は側面の5面にあり、長さ11.7cm、幅7.8～3.9cmの大きさである。

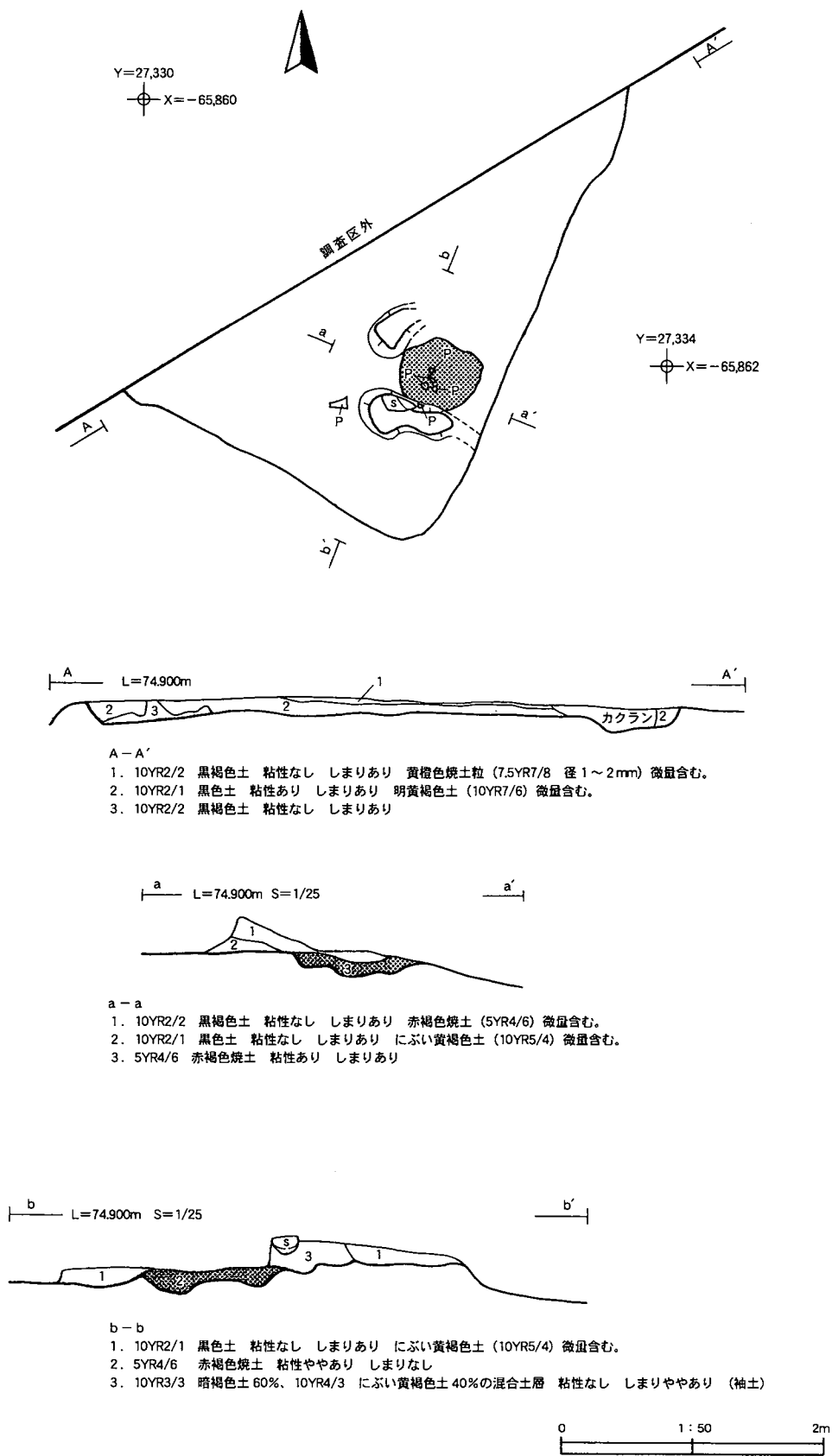
時期 出土遺物から平安時代に属すると考えられる。

2号住居跡

遺構（第15・16図、写真図版12・13）

〈位置・重複関係〉 IC-84グリッドに位置し、第Ⅲ層で検出された。重複する遺構はない。

〈規模・平面形・方向〉 規模は437×389cm、総床面積は約16.99㎡、平面形は方形状を呈する。主軸方向はS-13°-Wである。



第 14 図 1 号住居跡

〈埋土〉 全体が黒褐色土を基調とする層の堆積である。

〈壁〉 壁は外傾して立ち上がり、壁面の残存値は東壁13cm、西壁14cm、南壁13cm、北壁7cmである。

〈床面〉 床面は平坦で固く、全面に掘り方を持ち、黄褐色土粒を含む黒褐色土で貼り床されている。厚さは4～15cmである。

〈土坑〉 P1～P3の3基が検出された。P1は位置から貯蔵穴と思われ、南側のカマドが構築される前に使用されていたものである。P2は壁面と南側のカマドとの切り合いから住居跡より古い時期の遺構である可能性が高い。

〈カマド〉 東壁(1号)に1基、南壁(2号)に1基設けられている。新旧は遺物の出土状況やカマドの残存状態、P1が2号カマドの袖～燃焼部にかけての下から検出されていることから1号カマドが古いと考えられる。1号カマドの袖部は黄褐色土を基調とするシルトを貼って固めたもので明赤褐色焼土粒を多く含む。燃焼部には50×46cmの範囲で暗赤褐色焼土が広がり、焼土の厚さは最大で12cmである。煙道部は掘り込み式の構造で長さは67cm、煙出し部に延びるに従い、緩く上がり、煙道部の深さは最深で5cmと浅い。2号カマドは袖部～天井部にかけて黒褐色土を持ち込んで固めて構築され、燃焼部に近い内側は焼成を受けて暗赤褐色焼土へ変移している。燃焼部には焼土層が44×44cmの範囲に広がり、焼成の厚さは最大9cmを測る。煙道～煙出し部の長さは136cmで、煙道部の中間あたりから煙出し部にかけて緩く下り、最深部は33cmある。

遺物(第73図、写真図版61・62)

8～12が出土した。8は埋土2層より出土した酸化炭焼成の坏で成形はロクロ、器体内面は黒色処理が施されている。底部の切り離し技法は回転篋切りで、切り離し後に回転篋削りによる再調整が体部下まで施されている。9は2号カマド燃焼部から出土した還元炭焼成の坏で底部の切り離し技法は回転糸切りによる。10は埋土1層から出土したロクロ成形の大形の坏で、器体の内面は黒色処理され、ミガキが施されている。底部の切り離し技法は回転糸切りである。11・12は非ロクロ成形の甕で11は埋土1層、12は2号カマドの燃焼部から出土した。器面調整は11が口縁部ヨコナデ、胴部外面ナデ、内面ハケメ、12が胴部～底部はナデ、胴部の下半にケズリが施されている。13は還元炭焼成の甕で埋土2層から出土した。器面調整はロクロナデによるもので胴部の外面下半にケズリが施されている。

時期 出土した遺物の特徴から9世紀中葉頃に属する。

3号住居跡

遺構(第17・18図・写真図版14・15)

〈位置・重複関係〉 II C-02グリッドに位置し、表土下の第Ⅲ層で検出された。9号・10号陥し穴状遺構と切り合いこれらを切る。

〈規模・平面形・方向〉 規模は441×448cm、総床面積は約19.75㎡、平面形は正方形を呈し、主軸方向はE-15°-Nである。

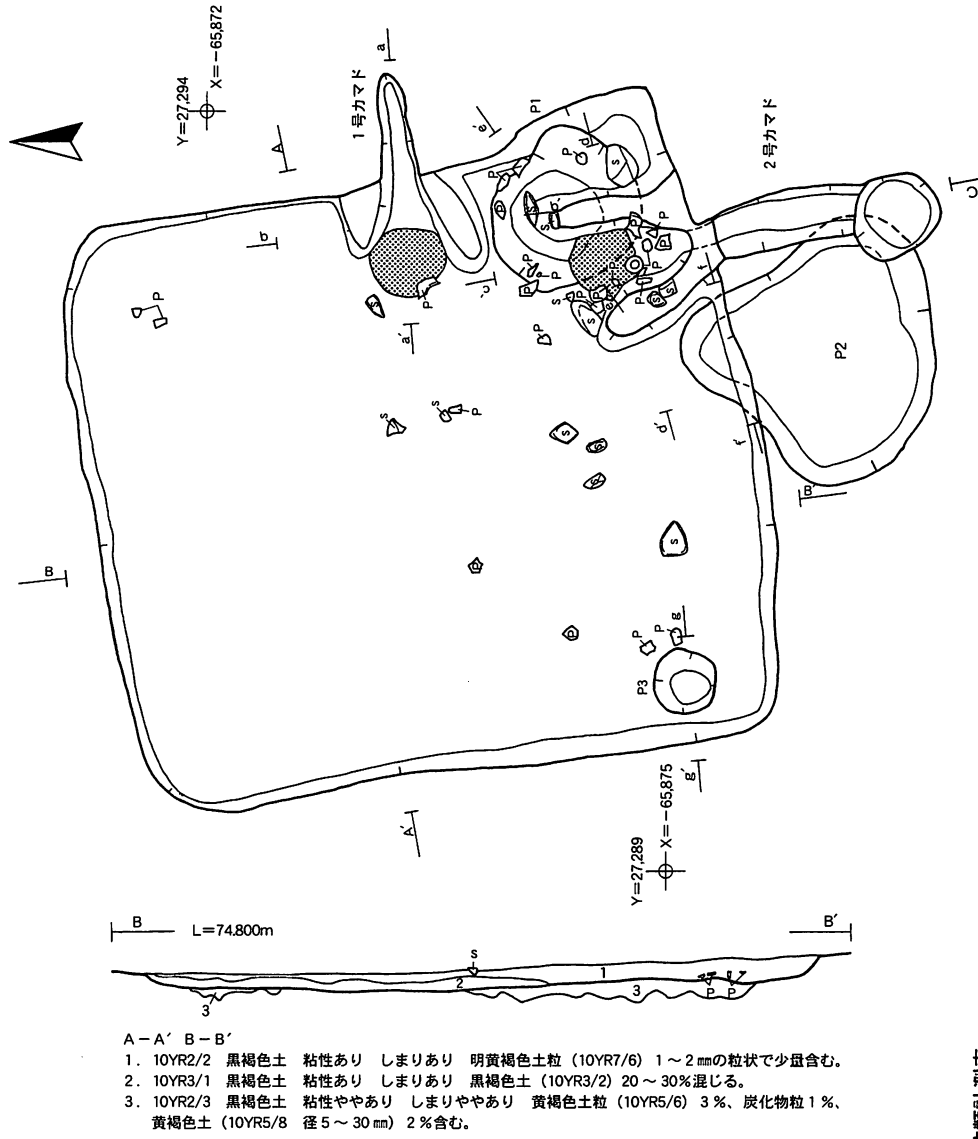
〈埋土〉 上位は黒褐色土、中～下位は黒色土を基調とする層の堆積で、上位には褐色土粒が少量混じる。

〈壁〉 壁は外傾して立ち上がり、壁面残存値は東壁18cm、西壁17cm、南壁8cm、北壁13cmである。

〈床面〉 床面は平坦で、固く締まっており、一部分に浅い掘り方を持ち、黒色系シルトで貼り床されている。厚さは9～21cmである。

〈土坑〉 P1～P3の3基が検出された。P1は貯蔵穴、P2、P3は用途不明である。

〈柱穴〉 4基が検出された。P4～P7はいずれも主柱穴と考えられ、深さは48～52cmである。東

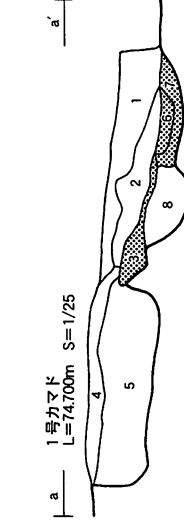
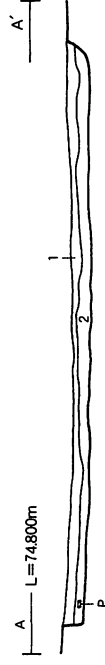


A-A' B-B'

- 10YR2/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり 明黄褐色土粒 (10YR7/6) 1~2mmの粒状で少量含む。
- 10YR3/1 黒褐色土 粘性あり しまりあり 黒褐色土 (10YR3/2) 20~30%混じる。
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性ややあり しまりややあり 黄褐色土粒 (10YR5/6) 3%、炭化物粒1%、黄褐色土 (10YR5/8 径5~30mm) 2%含む。

土坑類計測表

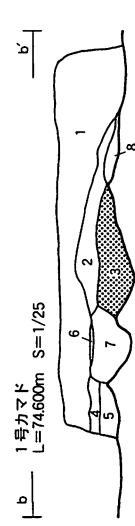
No.	径 (cm)	深さ (cm)
P1	108×98	33
P2	178×166	58
P3	44×44	36



1号カマド

a-a'

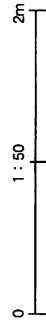
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり 褐色土粒 (7.5YR4/4) 1%含む。
- 10YR2/1 黒色土 粘性あり しまりあり 暗褐色焼土 (7.5YR3/4) 10~20%含む。
- 5YR3/3 暗赤褐色焼土 粘性あり しまりあり
- 7.5YR4/6 褐色焼土 粘性なし しまりあり 黒褐色土 (10YR2/2) 30%混入。
- 10YR2/1 黒色土 粘性あり しまりあり
- 7.5YR7/8 黄褐色土 粘性なし しまりあり (燃焼痕)
- 5YR3/4 暗赤褐色焼土 粘性なし しまりあり (燃焼痕)
- 10YR2/1 黒色土 粘性なし しまりあり 黒褐色土 (10YR2/2) 10%含む。



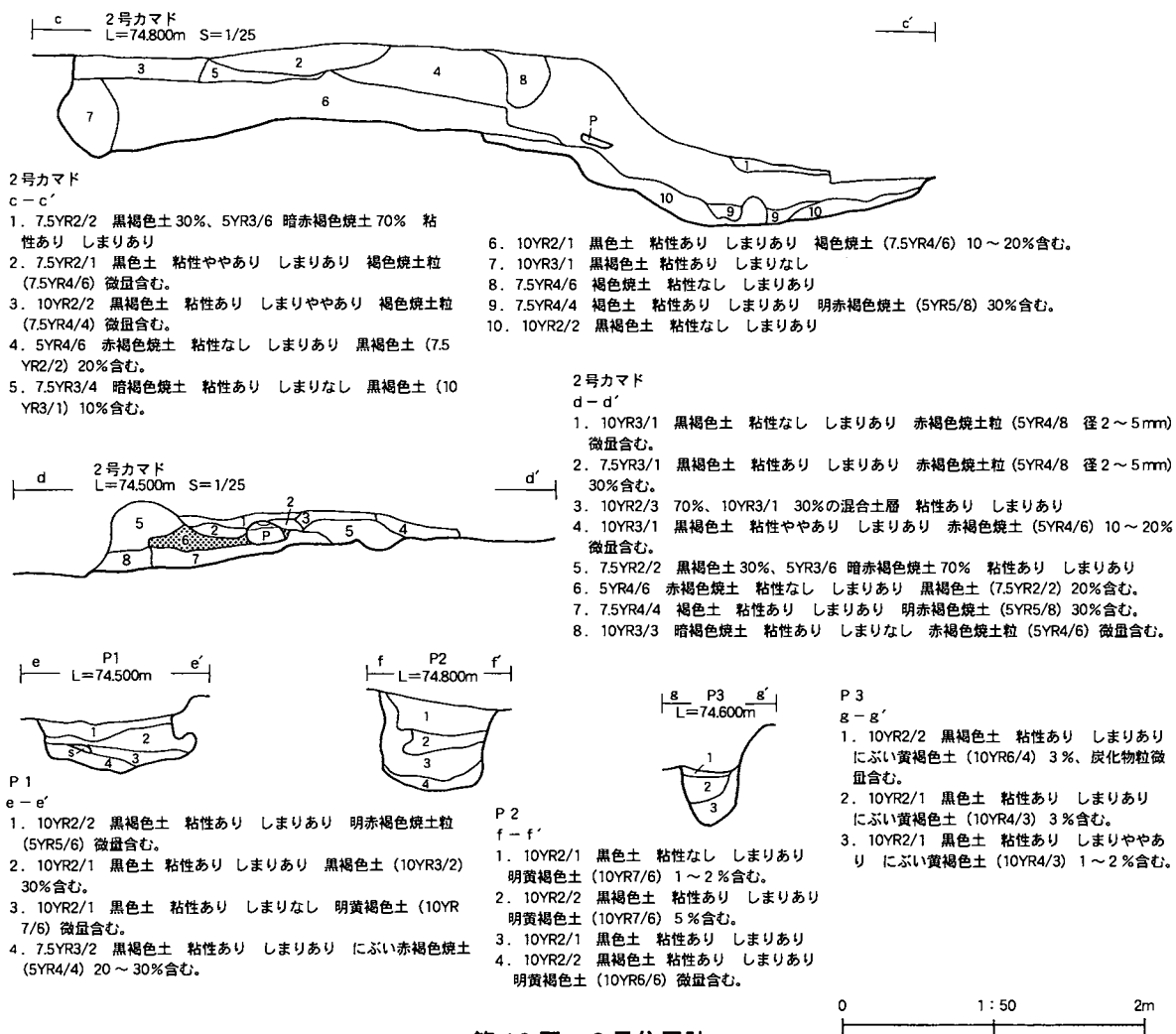
1号カマド

b-b'

- 10YR2/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり 褐色土粒 (7.5YR4/4) 1%含む。
- 10YR2/1 黒色土 粘性あり しまりあり 暗褐色焼土 (7.5YR3/4) 10~20%含む。
- 5YR3/3 暗赤褐色焼土 粘性あり しまりあり
- 10YR4/4 褐色土 粘性なし しまりあり 赤褐色焼土 (5YR4/8) 40~50%含む。
- 10YR2/1 黒色土 粘性ややあり しまりあり
- 10YR8/6 黄褐色土 粘性なし しまりあり 明赤褐色焼土粒 (5YR5/8 径3~7mm) 20%含む (軸土)。
- 10YR2/1 黒色土 粘性なし しまりあり 明黄褐色土 (10YR7/6 径10mm) 少量含む。
- 10YR2/1 黒色土 粘性なし しまりあり 黒褐色土 (10YR2/2) 10%含む。



第15図 2号住居跡



第16図 2号住居跡

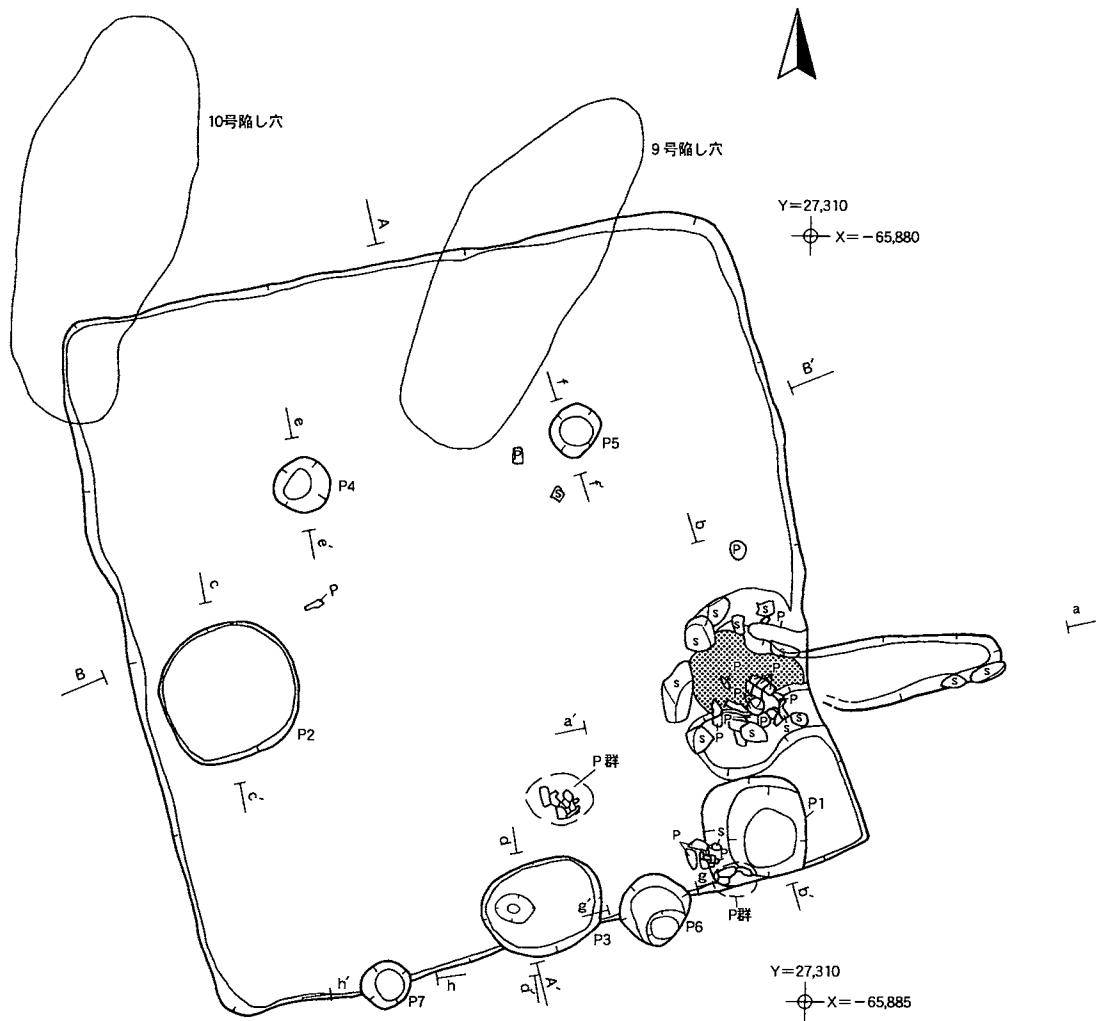
西方向のP4-P5、P6-P7間は約1.5m、南北方向のP4-P7、P5-P6間は約3mである。

<カマド> 東壁のやや南寄りに設けられている。橙色、暗褐色の焼土層が72×54cmの範囲に広がり、焼土の厚さは最大8cmである。煙道部は掘り込み式で長さは128cm、煙道部は煙出し部に向かって緩く上がる。袖部は褐色シルトを少量含む黒色土に礫や土器片を混入して固めた構造である。

遺物 (第73・74図、写真図版62)

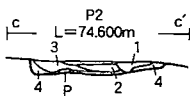
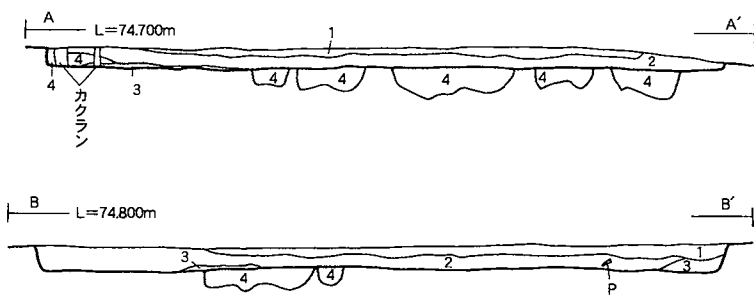
14~21が出土した。14~17は酸化炎焼成の坏で14は遺構検出面、15はP1付近の住居床面、16・17はカマドの燃焼部から出土した。14~16の器体の内面は黒色処理が施されており、成形はロクロによる。底部の切り離し技法は回転糸切りによるもので16は切り離し後、篋削りによる再調整が施されている。18は酸化炎焼成による大形の坏ないし壺で、カマド燃焼部から出土した。成形はロクロ、器面の調整はロクロナデのみで底部の切り離し技法は回転糸切りによる。19は酸化炎焼成の埴でカマドの支脚として利用されていたものであり、成形はロクロ、器面の調整は口縁部はロクロナデ、胴部は内面はロクロナデ、外面上位はロクロナデ、下半はケズリが施されている。20はカマド燃焼部から出土した酸化炎焼成の甕、21はP5の埋土中から出土した還元炎焼成の甕で器面調整は内面にロクロナデ、外面上位はロクロナデ、胴部外面の下半はケズリが施されている。また底部外面には再調整が施されている。

時期 出土した遺物の特徴や住居の形態から9世紀後半~末葉頃に属する。



土坑類計測表

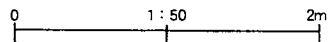
No.	径 (cm)	深さ(cm)
P1	68×66	34
P2	98×90	9
P3	80×64	16
P4	36×36	50
P5	36×34	52
P6	44×42	49
P7	32×32	49



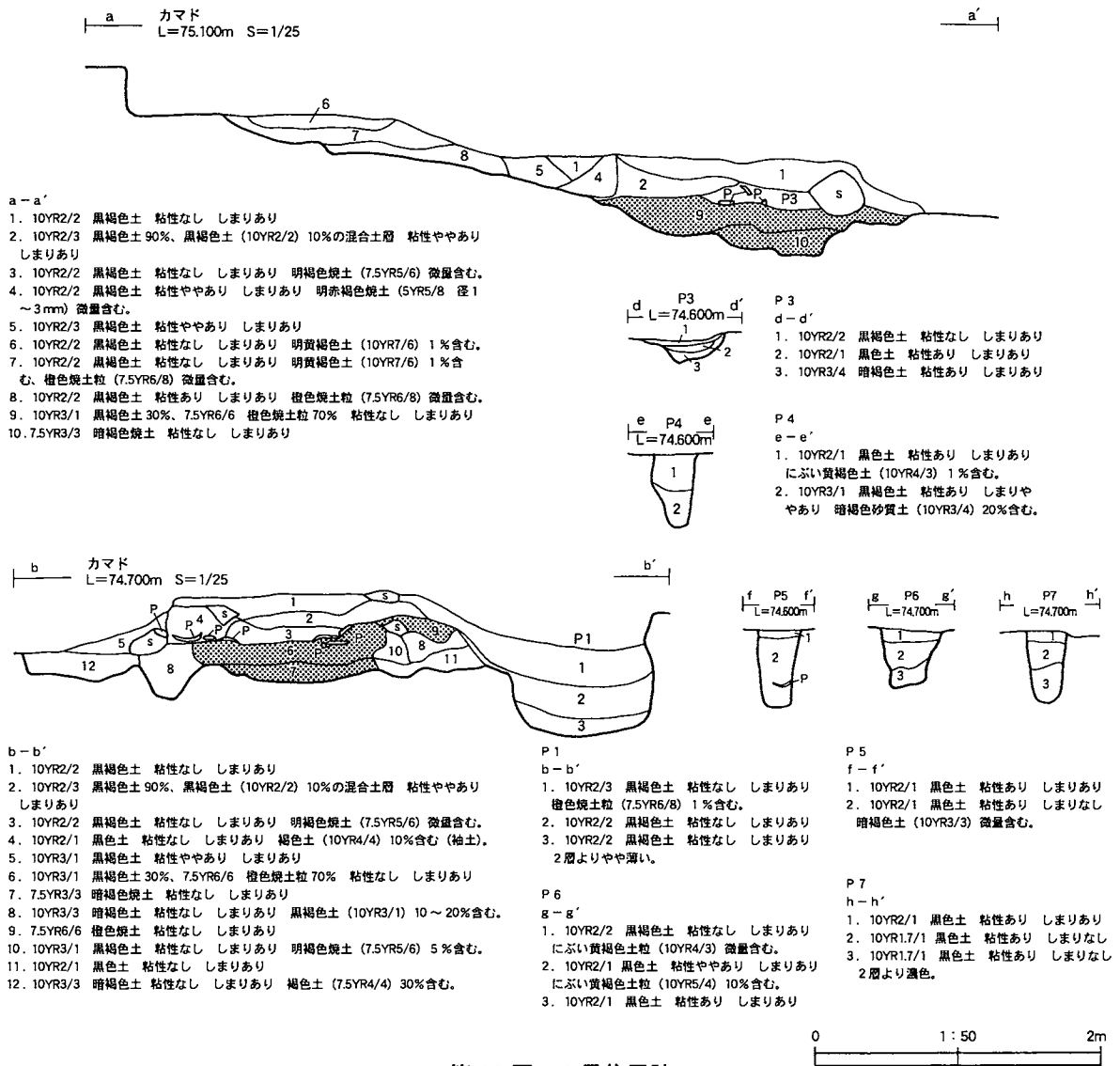
- P2
c-c'
- 10YR2/1 黒色土 粘性なし しまりあり
 - 10YR4/4 褐色土 粘性なし しまりあり
 - 10YR2/1 黒色土 粘性なし しまりあり 褐色土 (10YR4/4) 10%含む。
 - 5YR5/8 明赤褐色焼土 粘性なし 固くしまる。

A-A' B-B'

- 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色土 (10YR4/4) 少量含む。
- 10YR2/1 黒色土 粘性あり しまりあり
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり 赤褐色焼土粒 (5YR4/6) 微量含む。
- 10YR1.7/1 黒色土 粘性あり しまりあり



第17図 3号住居跡



第18図 3号住居跡

4号住居跡

遺構 (第19・20図・写真図版16)

<位置・重複関係> II C-11 グリッドに位置し、表土下の第II層で検出された。西半は調査区外へと延びるため部分調査である。重複する遺構はない。

<規模・平面形・方向> 西半が調査区外のため、遺構全体の規模は不明。南北間の長さは約583cmである。平面形は方形を呈すると推定される。

<埋土> 自然堆積を呈し、上位は黒褐色、中位は黒色土、下位は褐色土を基調とした堆積状況である。

<壁> 壁は垂直に近い傾斜で立ち上がり、壁面残存値は東壁16cm、南壁23cm、北壁18cmである。

<床面> 床面は平坦で、やや固さがある。全面に掘り方を持ち、にぶい黄褐色土混じりの黒褐色土で貼り床され、厚さは4~14cmである。

<土坑> P1~P3の土坑が3基検出された。P1は楕円形を呈し、200×96cmの規模で土器片が出土するが用途は不明である。P2、P3はいずれも浅く、掘り方により土坑状に掘られたものという可能性もある。

＜カマド＞ 東壁のやや南寄りに設けられ、カマドが作り替えられた形跡が窺える。その根拠としては、① 燃焼痕が2カ所に存在すること。② 煙道部が継ぎ足した形状を呈すること。③ 2に補足して煙出し部が3カ所存在することなどが挙げられる。ただし、カマドの再構築時に見られる住居跡の拡張跡は認められていないが仮にP3上で検出された焼土が旧カマドの燃焼部である場合、位置的に住居の壁面は現状より手前（西より）にあると考えるのが自然である。新旧燃焼部には赤褐色焼土層が78×62cm、41×37cmの範囲にそれぞれ広がり、焼土の厚さは7～11cmである。煙道部は掘り込み式で全長は242cmある。煙道部は煙出し部がピット状に掘り込まれている以外は傾斜はなく平坦である。煙出し部と考えられる掘り込みは他に約70cmと約180cmの所にあり、深さは手前から51cm、43cm、51cmである。カマドの袖部は明黄褐色土を少量含む黒色、黒褐色土の混合土を持ち込んで固めて構築され、併せて土器片や礫も多く混入されている。

遺物（第74～76図、写真図版63・64）

＜土器＞ 22～26は酸化炎焼成の坏で22はカマド袖土、23は貼り床土、24は住居床面、25は埋土2層、26は埋土中からそれぞれ出土した。いずれも成形はロクロで、22・23の器体内面には黒色処理に伴うミガキ調整が施されており、底部の切り離し技法は22～25は回転糸切り、26は切り離し後のケズリ再調整によって不明である。また、24・26の器体外面下の底部付近にはケズリによる再調整が施されている。27・28は酸化炎焼成による非ロクロ成形の小形甕で27はカマド、28は埋土下部から出土した。器面の調整は口縁部ヨコナデ、胴部～底部はナデによる調整が施されている。29・30は酸化炎焼成による非ロクロ成形の甕でカマドの崩落土から出土した。器面の調整は口縁部ヨコナデ、胴部～底部は29はハケメ、30はナデによる調整が施されている。31・32は還元炎焼成による甕で31は住居床面、32はカマド内から出土した。成形は31が非ロクロ、32はロクロ使用である。器面の調整は31は外面叩き目、32はロクロナデによる調整である。

＜石器＞ 33は側面に叩き痕、34は両面、35は片面に磨痕がある磨石でいずれも住居床面から出土した。
時期 遺構の全容は明らかではないが、出土遺物の特徴から9世紀中葉頃に属すると思われる。

5号住居跡

遺構（第19・20図、写真図版17）

＜位置・重複関係＞ II C-21グリッドに位置し、表土下の第Ⅲ層で検出された。重複する遺構はない。

＜規模・平面形・方向＞ 規模は244×243cm、総床面積は約5.92㎡、平面形は隅丸方形を呈する。

＜埋土＞ 自然堆積を呈し、上位は黒褐色土、中～下位は黒色～黒褐色土で構成され、中央下部に明赤褐色焼土が少量混入している。

＜壁＞ 壁はやや外傾して立ち上がり、壁面残存値は東壁14cm、西壁13cm、南壁12cm、北壁20cmである。

＜床面＞ 床面は平坦で、やや固さがある。部分的に掘り方を持ち、褐色土混じりの黒褐色土で貼り床され、厚さはおよそ4～11cmである。

＜土坑＞ 北西隅に1基検出された。72×54cmの規模で深さは16cmを測る。出土遺物はない。

＜遺構の性格＞ 規模やカマドが構築されていないこと、出土遺物が少ないことから住居跡ではなく、小屋的に利用されていた遺構の可能性が考えられる。

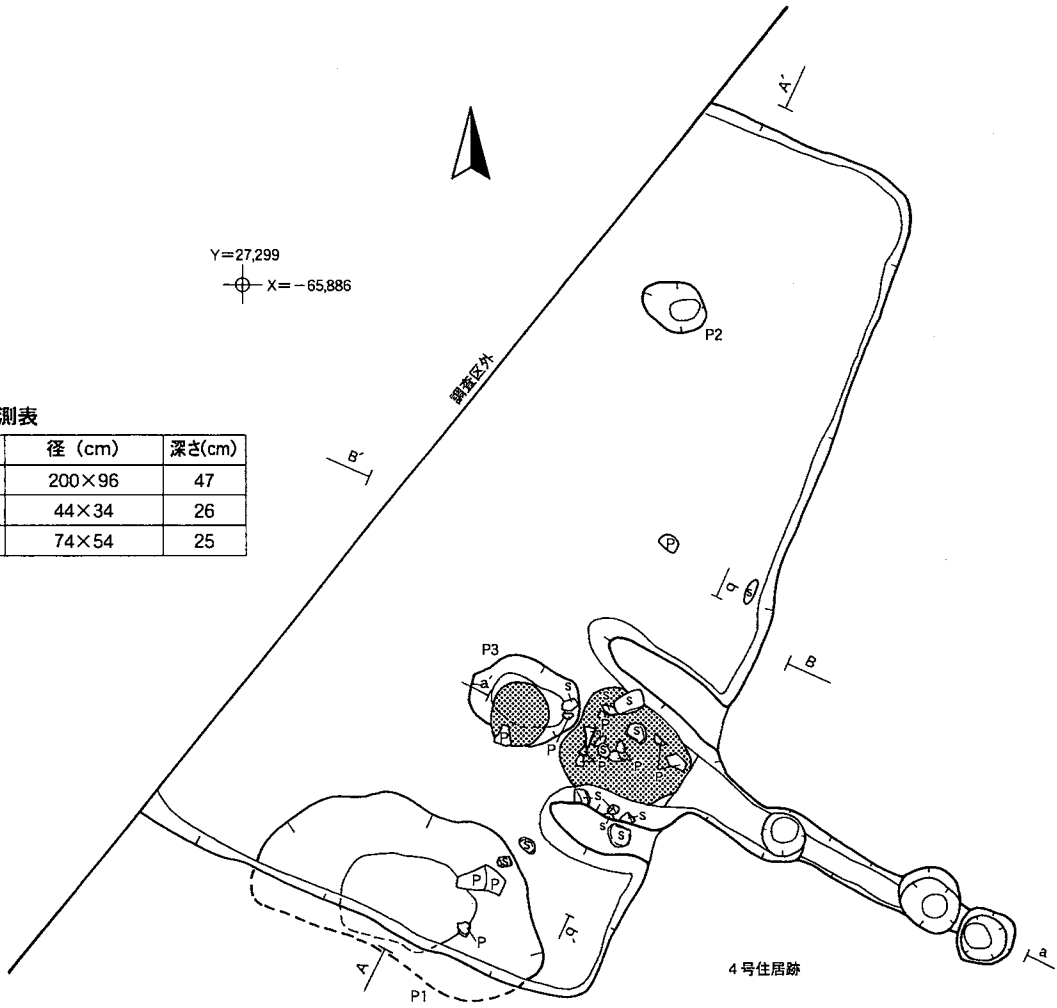
遺物（第76図・写真図版64）

36は埋土2層から出土した酸化炎焼成の坏で成形はロクロ、器面調整はロクロナデ、底部の切り離し切り離し技法は再調整により不明である。

時期 検出面、出土遺物から平安時代の遺構と考えられる。

土坑類計測表

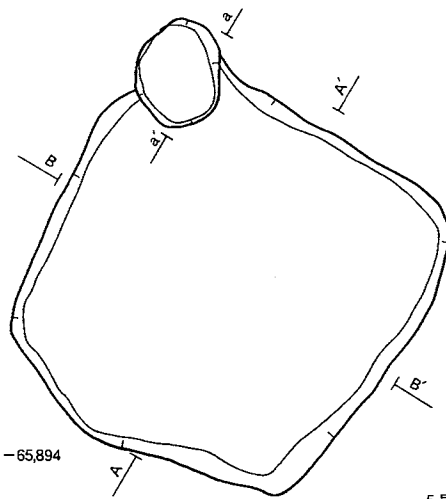
No.	径 (cm)	深さ(cm)
P1	200×96	47
P2	44×34	26
P3	74×54	25



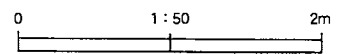
土坑類計測表

No.	径 (cm)	深さ(cm)
P1	72×54	16

Y=27,299
 X=-65,894

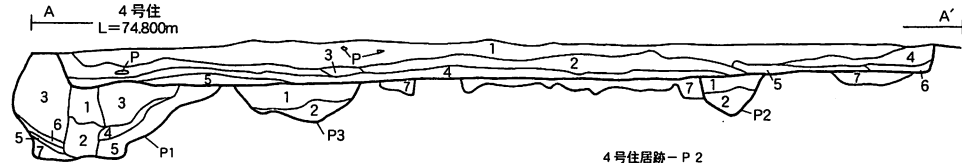


5号住居跡



第19図 4・5号住居跡

第20図 4・5号住居跡



4号住居跡-P 1

A-A'

- 10YR2/1 黒色土 粘性なし しまりあり にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 1%、褐色焼土粒 (7.5YR7/6) 微量含む。
- 10YR2/1 黒色土 粘性なし しまりあり にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 2%含む。
- 10YR2/1 黒色土 粘性なし しまりあり にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 3%含む。
- 10YR5/4 にぶい黄褐色土 粘性なし しまりあり
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり
- 10YR3/4 暗褐色砂質土 粘性なし しまりあり
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 20%含む。

4号住居跡-P 2

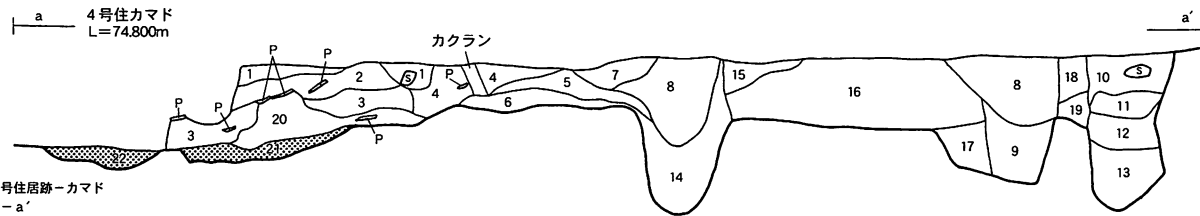
A-A'

- 10YR2/1 黒色土 粘性なし しまりあり 褐色砂粒 (10YR4/4) 50~60%含む。
- 10YR2/1 黒色土 粘性なし しまりあり 明黄褐色土 (10YR7/6) 30%含む。

4号住居跡-P 3

A-A'

- 10YR3/3 暗褐色土 粘性なし しまりあり にぶい赤褐色焼土 (5YR4/4) 3%、明黄褐色土 (10YR7/6) 1%含む。
- 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色砂質土 (10YR4/4) 70%含む。

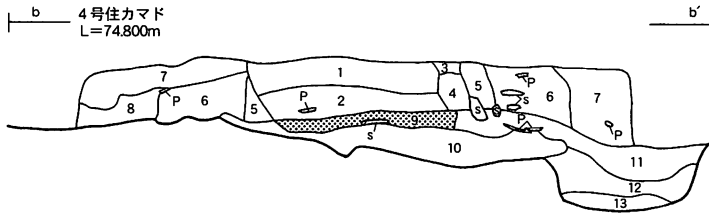


4号住居跡-カマド

a-a'

- 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし しまりあり 明黄褐色土 (10YR7/6) 5%含む。
- 10YR2/1 黒色土 粘性なし しまりあり 明黄褐色土 (10YR6/6) 1%含む。
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 暗褐色土 (10YR3/4) 20%含む、明赤褐色焼土 (5YR5/8) 1~2%含む。
- 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし しまりあり 赤褐色土 (5YR4/8) 3~5%含む。
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり
- 10YR2/1 黒色土 粘性あり しまりあり (掘りすぎ)
- 10YR2/1 黒色土 粘性なし しまりなし 褐色焼土 (7.5YR4/6 径3~7mm) 微量含む。
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 明赤褐色焼土 (5YR5/6) 3%含む。
- 10YR2/1 黒色土 粘性あり しまりなし にぶい赤褐色土焼土粒 (5YR4/4 径3~4mm) 微量含む。
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし しまりあり 明赤褐色土焼土 (5YR5/6) 微量含む。
- 10YR5/4 にぶい黄褐色土 粘性ややあり しまりあり
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性あり しまりなし にぶい赤褐色焼土 (5YR4/4) 1~2%含む。

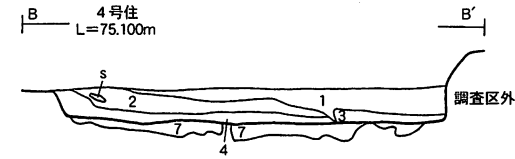
- 10YR3/2 黒褐色土 粘性あり しまりなし
- 10YR2/1 黒色土 粘性あり しまりあり 炭化物2%含む。
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり にぶい黄褐色土 (10YR6/4) 粒状で1%、褐色粒 (7.5YR6/8) 微量含む。
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり
- 10YR3/3 暗褐色土 粘性あり しまりあり
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり
- 10YR2/1 黒色土 粘性あり しまりあり
- 10YR3/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり
- 5YR4/6 赤褐色焼土 粘性ややあり しまりあり カマド燃焼部
- 5YR4/6 赤褐色焼土 粘性ややあり しまりあり 旧カマド燃焼部



4号住居跡-カマド

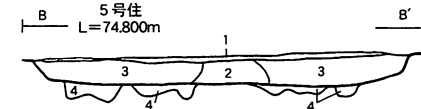
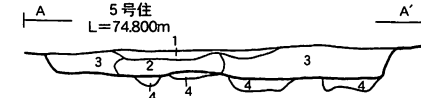
b-b'

- 10YR2/1 黒色土 粘性なし しまりあり 明黄褐色土 (10YR6/6) 1%含む。
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 暗褐色土 (10YR3/4) 20%含む、明赤褐色焼土 (5YR5/8) 1~2%含む。
- 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 明黄褐色土 (10YR7/6) 微量含む。
- 10YR3/3 暗褐色土 粘性なし しまりあり 赤褐色焼土 (5YR4/8) 微量含む。
- 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし しまりあり 明赤褐色焼土粒 (5YR5/8) 微量含む (袖土)。
- 10YR2/1 黒色土 粘性なし 粘性あり 明黄褐色土 (10YR7/6) 10%含む (袖土)。
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 明黄褐色土 (10YR7/6) 3%含む (住居埋土)。



A-A' B-B'

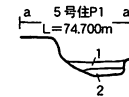
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 褐色土 (10YR4/4) 1~2%含む。
- 10YR2/1 黒色土 粘性あり しまりあり 明黄褐色土 (10YR7/6) 3%含む。
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 明赤褐色焼土 (5YR5/6) 1%、明黄褐色土 (10YR7/6) 1~2%含む。
- 10YR4/4 褐色土 粘土質 粘性あり しまりあり
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 褐色土 (10YR4/4) 20%含む。
- 10YR2/1 黒色土 粘性あり しまりあり にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 微量含む。
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 20%含む。



5号住居跡

A-A' B-B'

- 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし しまりあり にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 2%含む。
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり 明赤褐色土 (5YR5/6) 3~5%含む。
- 10YR2/1 黒色土 粘性あり しまりあり にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 3%含む。
- 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色土 (10YR4/4) 10%含む。

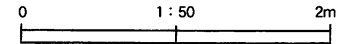


5号住居跡-P 1

a-a'

- 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり にぶい黄褐色土粒 (10YR7/4 径5~7mm) 3%含む、径10mmの炭化物粒多量含む。
- 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり

- 10YR4/4 褐色土 粘性あり しまりあり (住居埋土)
- 5YR4/6 赤褐色焼土 粘性ややあり しまりあり カマド燃焼部
- 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし しまりあり にぶい赤褐色焼土 (5YR4/4) 2%含む。
- 10YR5/4 にぶい黄褐色土 粘性あり しまりあり (地山土)
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり 赤褐色焼土 (5YR4/6) 微量含む。
- 10YR3/3 暗褐色土 粘性あり しまりあり 褐色土 (10YR4/4) 5%含む。



6号住居跡

遺構 (第 21・22 図・写真図版 18)

<位置・重複関係> VB-33 グリッド付近に位置し、表土下の第Ⅲ層で検出された。3号溝と重複し、これに切られる。

<規模・平面形・方向> 規模は307×342cm、総床面積は約10.49㎡、平面形は方形状を呈し、主軸方向はおよそE-18°-Nである。

<埋土> 自然堆積を呈し、全体が黒褐色土を基調とした層が褐色土粒、暗褐色土粒などの含有量によって3層に分けられる。

<壁> 壁はやや外傾して立ち上がり、3号溝との切り合いによって計測不能な東壁以外の壁面残存値は西壁22cm、南壁19cm、北壁40cmを計測する。

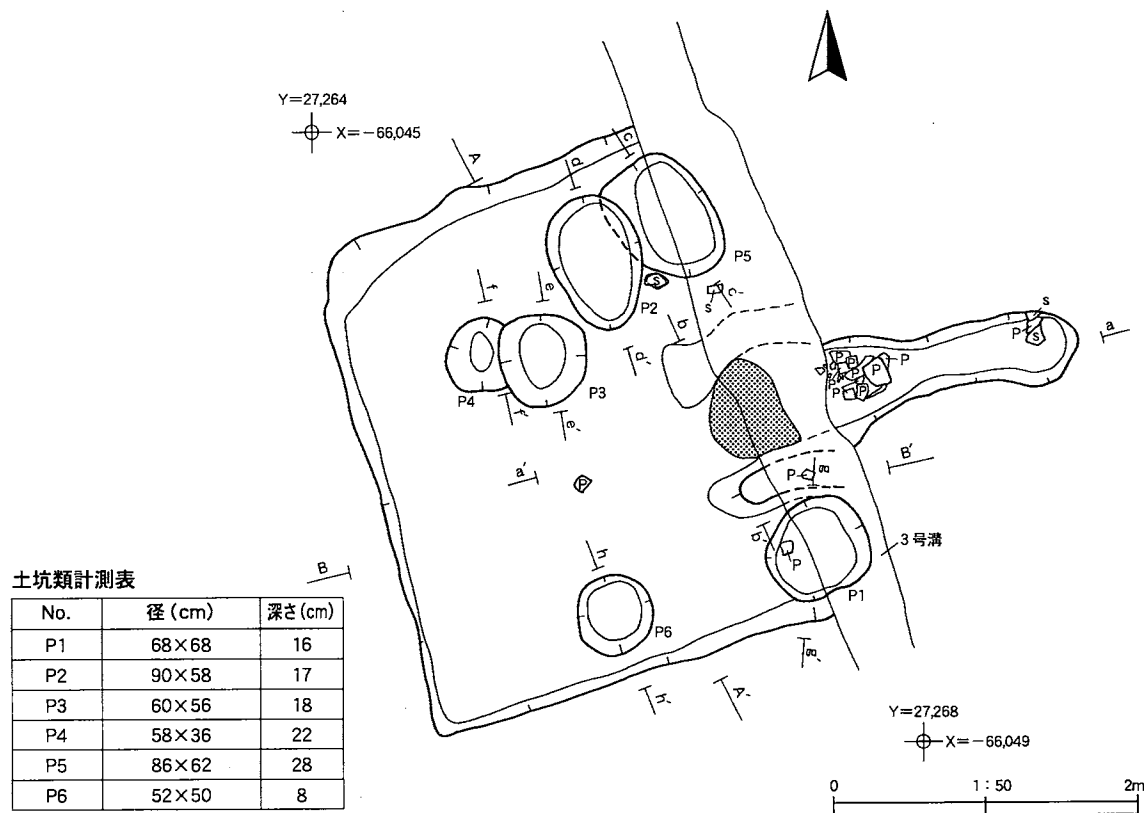
<床面> 床面は平坦で、固さはあまりない。部分的に掘り方を持ち、暗褐色土が微量混じる黒褐色土で貼り床され、厚さはおよそ4~18cmである。

<土坑> 6基検出された。1号土坑は位置的に貯蔵穴と考えられるが、他は不明である。P2~P6は単層ないし2層の堆積でP3・P4、P2・P5が重複し、P2、P3が新しい。またP5はプランが不鮮明な部分もあり、掘り方痕の可能性も考えられる。

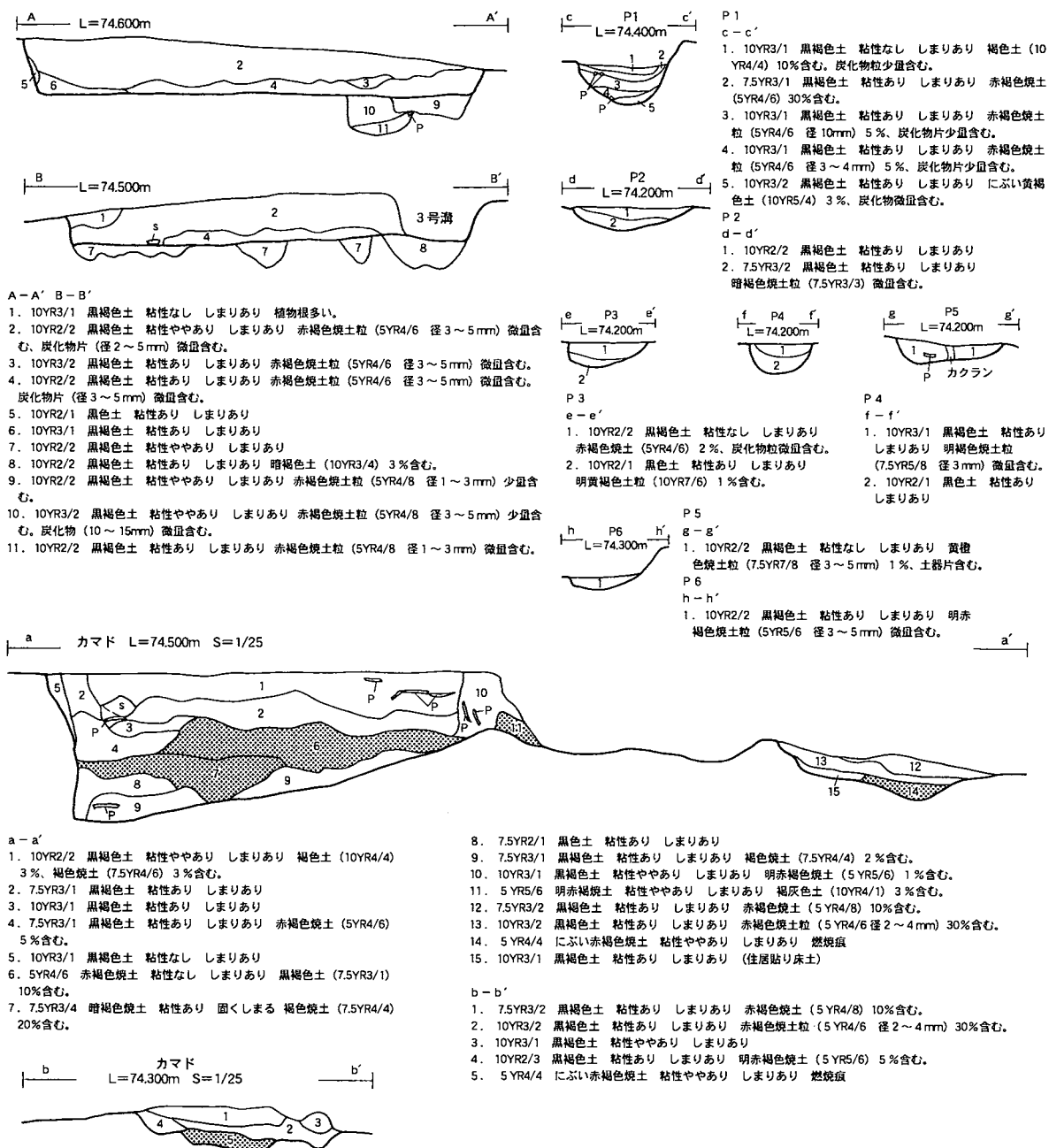
<カマド> 東壁の中央よりやや南側に設けられている。燃烧部には赤褐色焼土粒が64×50cmの範囲に広がり、焼土の厚さは最大6cmである。煙道部は掘り込み式の構造で長さは約170cm、3号溝と重複するため正確な数値は判らない。東方向に12°の傾斜で下り、最深部は107cmある。袖部も3号溝との切り合いのため大半が消失しており、僅かに黒褐色土が持ち込みの袖土と確認できる程度である。

遺物 (第 76 図・写真図版 64・65)

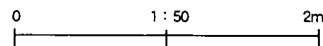
37~41が出土した。37はP1の埋土中から出土した酸化炎焼成の坏で成形はロクロ、器体の内面には



第 21 図 6号住居跡



第22図 6号住居跡



黒色処理に伴うミガキ調整、外面下半は手持ちヘラケズリ調整が施されており、底部の切り離し技法は回転篋切りによる。38は埋土から出土した酸化炎焼成の甕で成形はロクロ、器面の調整はロクロナデが施されている。39はカマド付近から出土した酸化炎焼成の甕の口縁~胴部で成形は非ロクロ、器面の調整は口縁部はヨコナデ、胴部はナデが施される。40はカマド燃焼部から出土した酸化炎焼成の甕の口縁~胴部で、成形は非ロクロ、器面の調整は口縁部はヨコナデ、胴部は内面にハケメ、外面にケズリが施される。41はカマド煙道部から出土した酸化炎焼成の土器で長胴甕に似るが底部はなく、筒状になっている。これは底部を切り離す2次加工を加えたものではなく、土器の制作時に意図があってこのような形に作り、結果として煙道部に使用されたと考えられる。成形は非ロクロにより、器面調整は口縁部はヨコナデ、胴部は主にナデが施される。

時期 検出面、出土遺物から平安時代と考えられる。

7号住居跡

遺構 (第23・24図・写真図版19・20)

<位置・重複関係> II C-83 グリッドに位置し、表土下の第Ⅲ層で検出された。重複する遺構はない。

<規模・平面形・方向> 規模は360×412cm、総床面積は約14.83㎡、平面形は方形状で主軸はおおよそE-25°-S方向である。

<埋土> 自然堆積を呈し、全体が黒褐色土を基調とした層の堆積で、黒色土、暗褐色土が混じる。

<壁> 壁はやや内湾ぎみに立ち上がり、壁面残存値は東壁10cm、西壁17cm、南壁11cm、北壁は16cmを測る。

<床面> 床面は平坦で、固くしまり、土器片や礫石器が多く散布している。また全面に掘り方を持ち、暗褐色土混じりの黒褐色土で貼り床され、厚さはおおよそ4~15cmである。

<土坑> 3基検出された。P1は住居の壁面を切って掘られ、開口部径は56×50cm、P2はカマド右袖部と住居の壁を切って検出され、開口部径は56×38cm、埋土中からは土師器の破片が出土したことから貯蔵穴と考えられる。P3は住居南東隅で検出され、開口部径60×40cmの規模で不整な形状を呈する。出土遺物はなく用途は不明である。

<カマド> 東壁の中央よりやや北側に設けられている。燃焼部には暗褐色焼土粒が52×40cmの範囲に広がり、焼土の厚さは最大9cmである。煙道部は掘り込み式の構造で長さは106cm、煙出し部まではほぼ平坦に延び、深さは一律8cmである。袖は暗褐色土を持ち込んで固めたもので左袖には15cm大の礫を芯材として使っている。

遺物 (第77・78図・写真図版65・66)

42~47は酸化炎焼成の坏で成形はロクロ、42・45は住居床面、43はカマド崩落土、44はP2の埋土中、46・47はカマドの右袖脇からそれぞれ出土した。42~45・57の器体内面は黒色処理に伴い、ミガキが施されている。底部の切り離し技法はいずれも回転糸切りで、42は切り離し後に再調整が施され、不明である。48~50は酸化炎焼成の甕で48は住居の床面直上、49はカマド燃焼部、50は埋土下部から出土した。成形は非ロクロにより、器面の調整は口縁部はヨコナデ、胴部は48の内面がハケメでそれ以外はヘラナデ、底部はナデで49の底面には木葉痕が残る。

<鉄製品> 2点出土している。55はP1から出土した紡錘車で3点に分かれて出土し、このうち2点が接合した。56は欠損した刀子で、長さ9.0cm、幅1.6cm、厚さ0.3cmで、埋土下~床面で出土した。

<石器> 住居の床面から3点出土した。52は長さ31.7cm、幅10.5cm、厚さ6.5cmの磨石で片面に磨り痕が認められる。53はハンマー状の形状を呈する磨石で長さは18.7cm、幅4.5~2.1cm、厚さは1.9cmで磨面は1面である。54は長さ12.8cm、幅11.4cm、厚さ3.7cmの磨石で方面に磨り痕が認められる。

時期 出土した遺物の特徴から9世紀後半に属する。

土坑類計測表

No.	P1	P2	P3
直径 (cm)	56×50	56×38	60×40
深さ (cm)	29	21	21

8号住居跡

遺構（第23・25図、写真図版21・22）

〈位置・重複関係〉 II C-73 グリッドに位置し、表土下の第Ⅲ層で検出された。重複する遺構はない。

〈規模・平面形・方向〉 規模は338×347cm、総床面積は約11.72㎡で平面形は正方形で主軸方向はE-12°-Sである。

〈埋土〉 自然堆積を呈し、黒褐色土を主体とする土層堆積である。下位にはにぶい黄褐色土粒が多く含まれる。

〈壁〉 壁はやや内湾して立ち上がり、壁面残存値は東壁16cm、西壁18cm、南壁16cm、北壁10cmである。

〈床面〉 床面は平坦で、固さはあまりなく床面と掘り方による埋土との区別が難しい。掘り方痕はほぼ床面全面に広がる。褐色土混じりの黒色土で貼り床され、厚いところで約30cmほどの深さである。

〈土坑〉 5基検出された。P1はカマド右袖脇で検出された。土器片が多く混入していることから貯蔵穴と考えられるが明確な壁の立ち上がりは確認できず、掘り方痕の可能性もある。P2は脆い土師器甕が埋まっていたことから、これを埋設するための穴で住居壁面を掘り込んでいる。P3・P5は用途不明、P4は貼り床を除去したあとから検出した。深さはなく、掘り方痕の可能性はある。

〈カマド〉 東壁のほぼ中央に設けられている。燃烧部にはにぶい赤褐色焼土粒が約48×28cmの範囲に広がり、焼土の厚さは最大5cmである。煙道部は削り貫き式の構造で長さは123cm、東方向に約9°の傾斜で下り、煙出し部は径26cm、深さ44cmのピット状である。袖は20～33cmの礫を芯材とし、これに持ち込んだ褐色土混じりの黒褐色土で覆って固め、カマドを構築している。

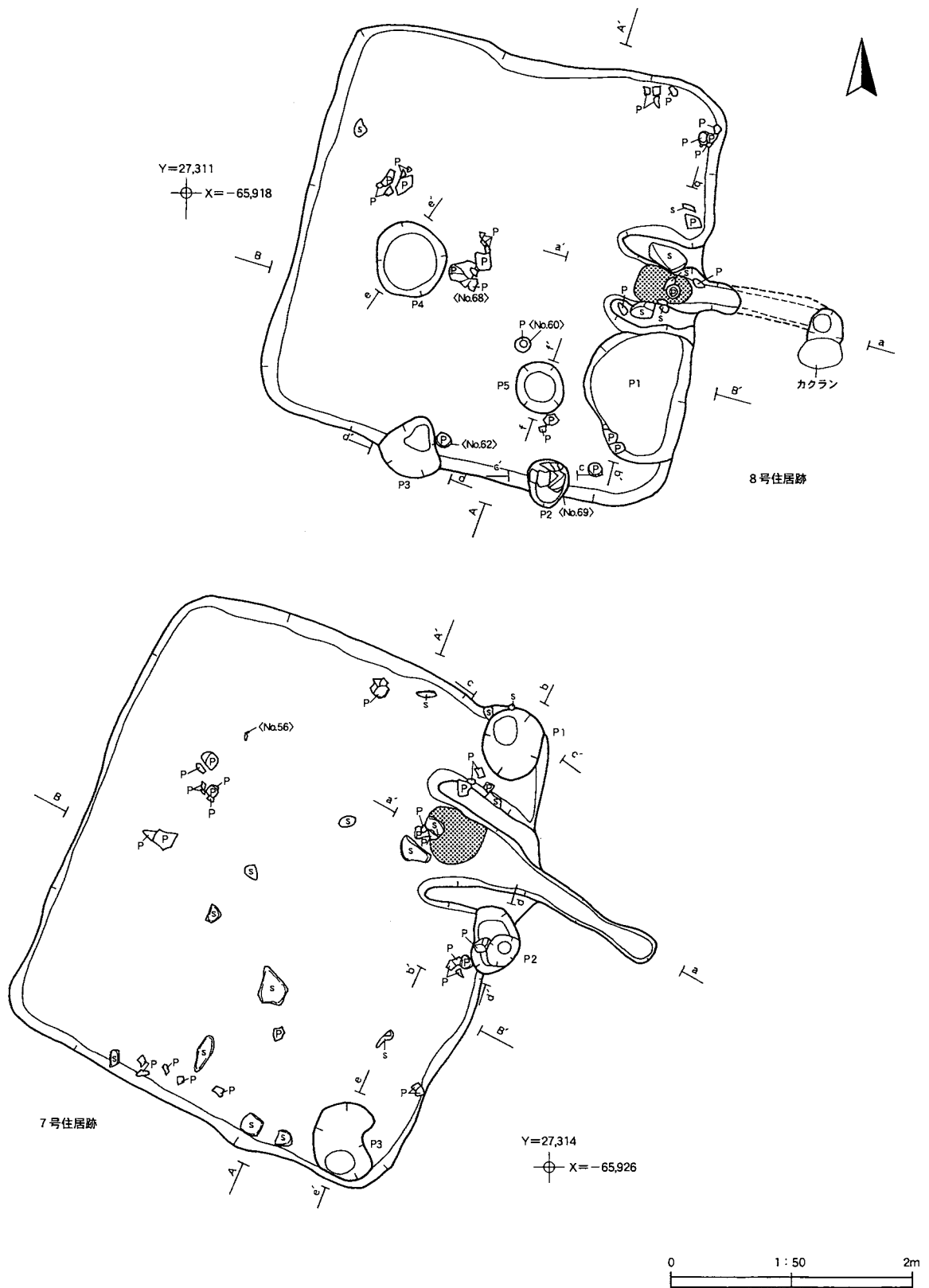
遺物（第79・80図・写真図版67）

57～62は酸化炎焼成の坏で57・58・60・62が住居の床面直上、59は埋土上位、61はカマド燃烧部から出土している。ただし、57の一部破片は隣接する7号住居跡のカマド崩落土からも出土している。いずれもロクロによる成形で、57・58は内面、59は器体両面が黒色処理されている。60・61の内面にはミガキが施されている。また、59～62には底部～体部下にかけてケズリによる調整が施されている。底部の切り離し技法については57は回転糸切りによるが、58・59～61は切り離し後の篋削りによる再調整のために確認できない。62は器体両面ロクロナデのみ施され、底部の切り離しは回転糸切りの技法による。63はP1の埋土、住居の貼り床土などから出土した還元炎焼成の坏で、成形はロクロによる。器面の調整はロクロナデ、底部の切り離し技法は回転糸切りによる。64～69は酸化炎焼成の甕で成形は非ロクロ、66はカマドの崩落土内、65はP1の埋土、64は住居の貼り床土、68は住居の床面直上、69はP2内埋設土器、67は住居の覆土中からそれぞれ出土したものである。64～66は小形の甕で器面の調整は口縁部はヨコナデ、胴部は内面ハケメ、外部ナデ、底部はナデが施される。64の底面には木葉痕が残る。67～69は長胴甕で器面の調整はそれぞれ、68は口縁部にヨコナデ、胴部内面はナデ、外面はナデ後、胴部下半に縦方向にケズリ、底部はナデ、69は胴部は内面ハケメ、外面ナデ、底部はナデ、67は口縁部ヨコナデ、胴部ナデが施されている。

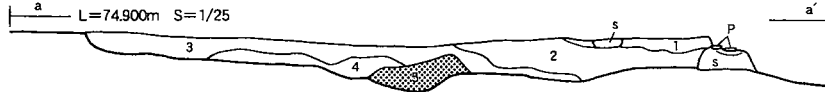
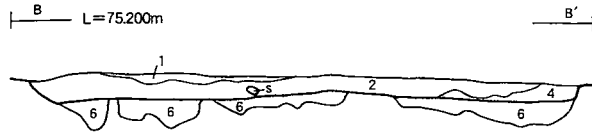
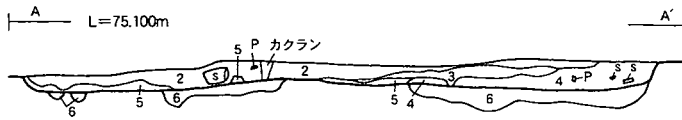
時期 出土した遺物の特徴から9世紀前半～中葉頃の遺構と考えられる。

土坑類計測表

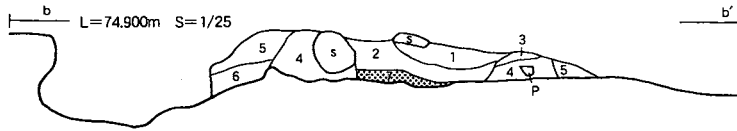
No.	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5
直径 (cm)	108×86	40×34	52×50	62×60	40×40
深さ (cm)	36	—	24	12	13



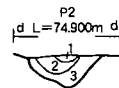
第23図 7・8号住居跡



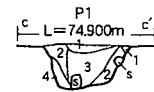
- a - a'
1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性あり しまりあり 明褐色焼土粒 (7.5YR5/6 径3~4mm) 1~2%、炭化物粒1~2%含む。
 2. 10YR2/2 黒褐土 粘性あり しまりあり 明褐色焼土粒 (7.5YR5/8 径5~7mm) 20%含む。
 3. 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし しまりあり にぶい黄褐色土 (10YR4/3 径7~10mm) 1%含む。
 4. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり
 5. 7.5YR3/4 暗褐色焼土 粘性なし しまりあり



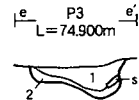
- b - b'
1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性あり しまりあり 明褐色焼土粒 (7.5YR5/6 径3~4mm) 1~2%、炭化物微量含む。
 2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり 明褐色焼土粒 (7.5YR5/8 径5~7mm) 2%含む。
 3. 5YR4/6 赤褐色焼土 粘性あり しまりあり (軸土)
 4. 10YR3/3 暗褐色土 粘性なし しまりあり 明赤褐色焼土粒 (5YR5/8 径2~7mm) 微量含む (軸土)。
 5. 10YR3/3 暗褐色土 粘性なし しまりあり 土器片含む。
 6. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 黄褐色土 (10YR5/6) 微量含む。
 7. 7.5YR3/4 暗褐色焼土 粘性なし しまりあり



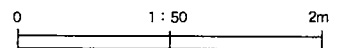
- P 2
d - d'
1. 10YR2/1 黒色土 粘性ややあり しまりあり 径10mmの炭化物粒微量含む。
 2. 10YR2/1 黒色土 粘性なし しまりあり 赤褐色焼土粒 (5YR4/6 径2~3mm) 微量含む。
 3. 掘りすぎ?



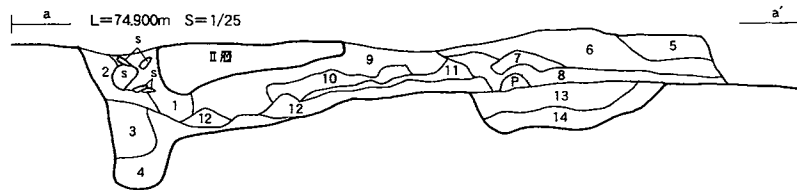
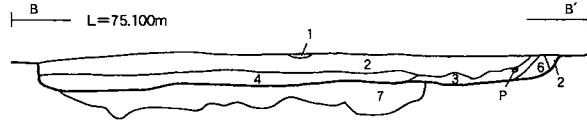
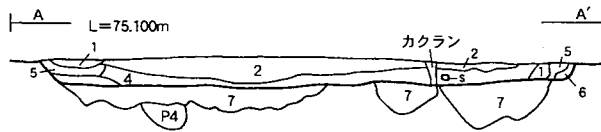
- P 1
c - c'
1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性あり しまりあり 褐色土 (10YR4/4) 50~60%混じる。
 2. 10YR2/1 黒色土 粘性あり しまりあり 褐色土 (10YR4/4) 2%混じる。
 3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性あり しまりややあり 褐色土 (10YR4/4) 2%、暗赤褐色焼土粒 (5YR3/6 径2~3mm) 微量含む。
 4. 10YR3/3 暗褐色土 粘性あり しまりあり 砂粒多く含む。



- P 3
e - e'
1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色土粒 (10YR4/4 径10mm) 1%含む。
 2. 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色土粒 (10YR4/4) 30~40%混じる。

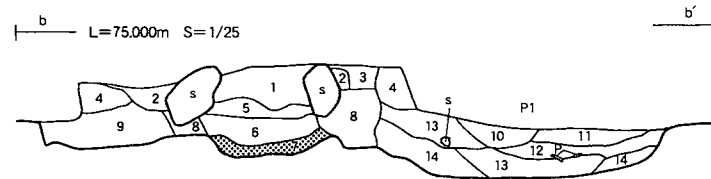


第 24 図 7号住居跡



a-a'

1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性あり しまりあり 炭化物粒多く含む。
2. 10YR3/3 暗褐色土 粘性あり しまりややあり 砂粒混じり
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性あり しまりなし
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性あり しまりなし 褐色土 (10YR4/4) 40%含む。
5. 10YR2/1 黒色土 粘性あり しまりあり にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 20%含む。
6. 10YR3/1 黒褐色土 粘性あり しまりあり 明黄褐色土 (10YR6/6) 1~2%含む。
7. 10YR2/1 黒色土 粘性あり しまりややあり
8. 10YR3/4 暗褐色土 粘性あり しまりあり
9. 10YR2/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり
10. 10YR2/1 黒色土 粘性あり しまりあり 褐色土 (10YR4/6) 3%含む。
11. 10YR6/4 にぶい黄褐色土 粘性なし しまりあり 黒褐色焼土 (7.5YR3/2) 3%含む。
12. 7.5YR3/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 3%含む。
13. 10YR2/1 黒色土 粘性あり しまりややあり 明褐色焼土 (7.5YR5/8) 10%含む。
14. 5YR4/4 にぶい赤褐色焼土 粘性あり しまりあり



b-b'

1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性あり しまりあり 明黄褐色土 (10YR6/6) 1~2%含む。
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色焼土 (7.5YR4/4) 40%含む。
3. 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし しまりあり
4. 10YR2/1 黒色土 粘性あり しまりあり にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 20%含む。
5. 10YR3/4 暗褐色土 粘性あり しまりあり
6. 10YR2/1 黒色土 粘性あり しまりややあり 明褐色焼土 (7.5YR5/8) 10%含む。
7. 5YR4/4 にぶい赤褐色焼土 粘性あり しまりあり
8. 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色土 (10YR4/4) 2%含む (粘土)。
9. 10YR3/1 黒褐色土 粘性あり しまりあり にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 3%含む。
10. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 明黄褐色土 (10YR6/6) 3%含む。
11. 10YR3/1 黒褐色土 60%、10YR3/4 暗褐色土 40%の混合土層。粘性ややあり しまりあり
12. 10YR4/4 褐色土 粘性あり しまりあり
13. 10YR3/1 黒褐色土 80%、10YR4/4 褐色土 20%の混合土層 粘性なし しまりあり
14. 10YR2/1 黒色土 80%、10YR4/4 褐色土 20%の混合土層 粘性なし しまりあり

8号住居跡

A-A' B-B'

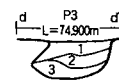
1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色土粒 (10YR4/4) 20%含む。
2. 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし しまりあり 赤褐色焼土粒 (5YR4/6 径3~10mm) 微量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 30%混じる。
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 赤褐色焼土粒 (5YR4/6 径3mm) 微量含む。
5. 10YR2/1 黒色土 粘性あり しまりあり にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 10%混じる。
6. 10YR1.7/1 黒色土 粘性あり しまりあり にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 1%混じる。
7. 10YR2/1 黒色土 粘性ややあり しまりあり 褐色土 (10YR4/4) 10~20%混じる (貼り床土)。



P2

c-c'

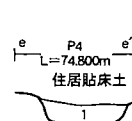
1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 褐色土 (10YR4/4) 20%含む。



P3

d-d'

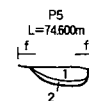
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 3%含む。
2. 10YR5/4 にぶい黄褐色土 粘性あり しまりあり 褐色土 (10YR4/1) 5%含む。
3. 10YR2/1 黒色土 粘性ややあり しまりあり にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 10%混じる (貼り床土)。



P4

e-e'

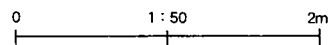
1. 10YR2/1 黒色土 粘性なし しまりあり



P5

f-f'

1. 10YR2/1 黒色土 粘性なし しまりなし 炭化物粒多量含む。暗赤褐色焼土粒 (5YR4/8 径6~10mm) 1%含む。
2. 10YR3/1 黒褐色土 粘性あり しまりなし 褐色土 (10YR4/4) 20%含む。



第25図 8号住居跡

9号住居跡

遺構 (第26・27図・写真図版23)

<位置・重複関係> II C-93 グリッド付近に位置し、表土下の第Ⅲ層で検出された。重複する遺構はない。遺構の東半は調査区外へ延びるため部分調査である。

<規模・平面形・方向> 遺構の東半が調査区外のため、遺構全体の規模・平面形は不明である。

<埋土> 上～中位は褐色焼土混じりの黒褐色土、下位は黒褐色土とにぶい黄褐色土の混合土が堆積する。尚、埋土中～下位にかけて10～36cmほどの礫が多量混入している。

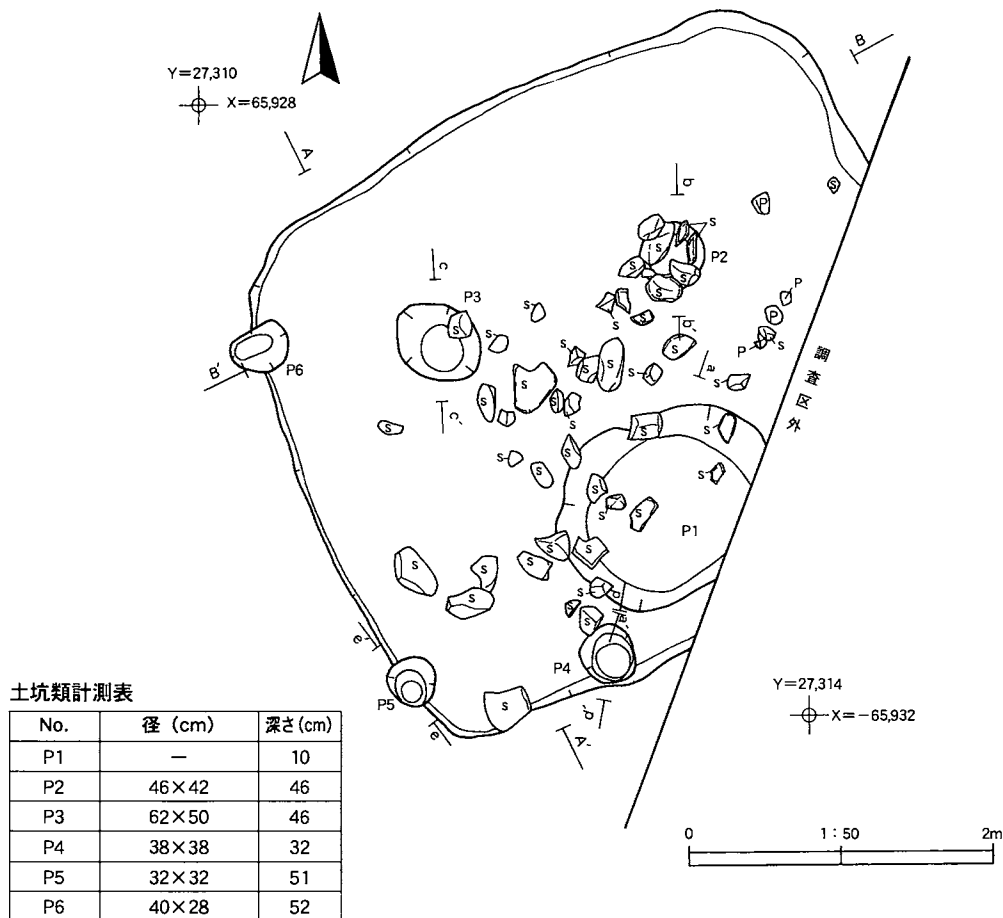
<壁> 壁は外傾して立ち上がり、壁面残存値は東壁22cm、西壁14cm、南壁12cm、北壁15cmである。

<床面> 床面には緩い凹凸があり、10～36cmほどの礫が多く散在する。床面にやや固くしまっており、全体的に掘り方を持ち、暗褐色砂質土を含む黒色土で貼り床され、厚さはおよそ6～12cmである。

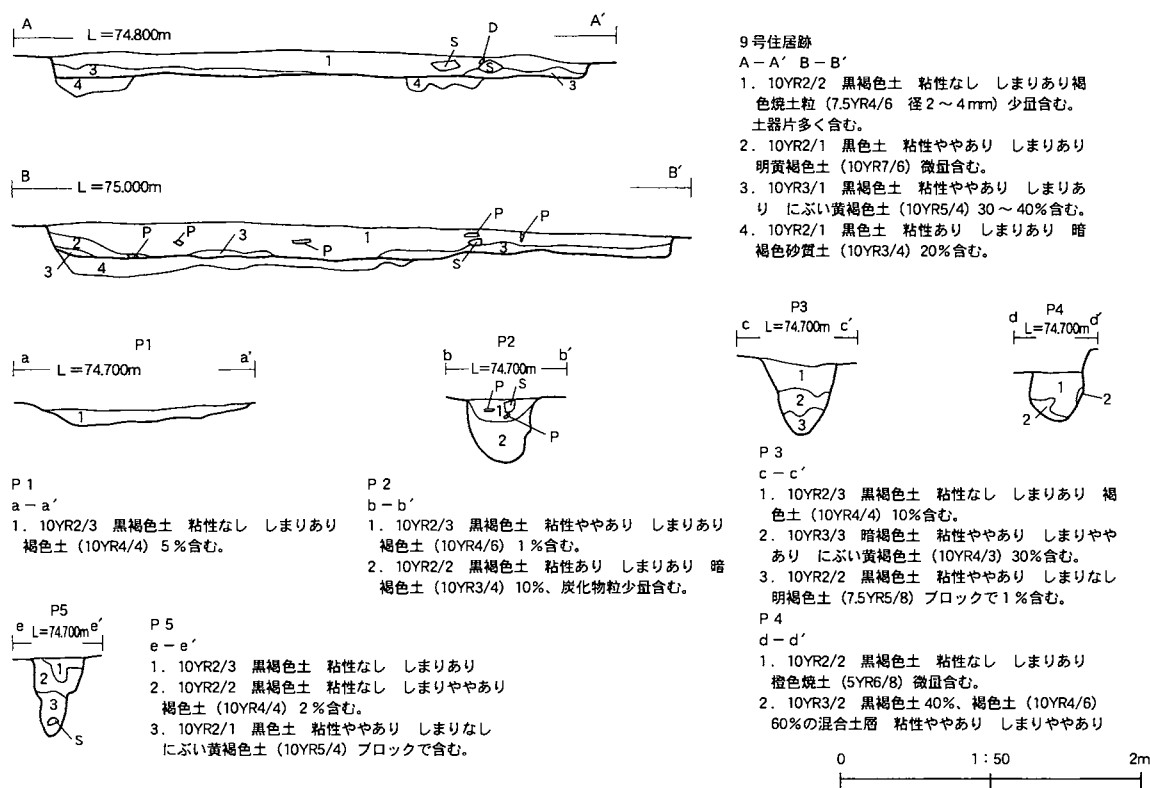
<土坑> 1基検出された。P1は遺構の半分が調査区外にあり、詳細は不明であるが、深さが10cmと浅いことから柱穴ではないと思われる。

<柱穴> 5基検出された。P2～P4、P5・P6はそれぞれ位置や規模・埋土から配列するものであると考えられる。

<カマド> 遺構の全容は不明で、調査区内にはカマドは存在しない。



第26図 9号住居跡



第27図 9号住居跡

遺物 (第80図・写真図版68)

70は住居床面、71はP1底面から出土した酸化炎焼成の坏で成形はロクロ、器面調整は70は外面はロクロナデ、内面は黒色処理に伴うミガキが施され、底部の切り離し技法はいずれも回転糸切りによる。72・73は住居埋土から出土した甕で、72は酸化炎焼成、73は還元炎焼成である。成形は72は非ロクロ、73はロクロによる。器面調整は72が口縁部ヨコナデ、胴部ナデ、73がロクロのみである。

時期 出土遺物から9世紀末葉頃の遺構と考えられる。

10号住居跡

遺構 (第28・29図、写真図版24・25)

<位置・重複関係> IVD-66グリッドに位置し、表土下の第Ⅲ層で検出された。住居の床面で14号陥し穴を検出した。

<規模・平面形・方向> 規模は381×410cm、総床面積は約15.62㎡で平面形は方形状を呈し、主軸はS-18°-Eの南南東方向である。

<埋土> 自然堆積で上位は黒褐色土、中~下位は黒色土が主体で下位ほど暗い色調である。

<壁> 壁は内湾ぎみに立ち上がり、壁面残存値は北壁8cm、西壁17cm、南壁9cm、東壁8cmと削平の影響で残存値は低い。

<床面> 床面は平坦で、やや固さがあるものの、砂質のため明確なしまりはない。全体的に掘り方を持ち、褐色土粒混じりの黒褐色土で貼り床され、厚さはおよそ10~40cmである。また北壁、東壁、南壁際の床面には拡張した際の掘り方痕と考えられるものが幅40~80cm、深さ14~22cmにわたって確認された。

〈土坑〉 1基検出された。P1は規模が径40×34cmと小さく、出土遺物もなく用途は不明である。

〈柱穴〉 柱穴状の小ピットが1基検出された。P2以外に柱穴はなく単独である。深さは61cmを測る。

〈カマド〉 2基検出された。それぞれ東壁の南寄り(1号カマド)、南壁の東寄り(2号カマド)設けられ、残存状況から2号カマドが新しい。1号カマドの燃烧部には暗赤褐色焼土砂粒が径56×56cmの範囲におよび、最大6cmの厚さで堆積する。また袖は住居を拡張したときの掘り方によって消失している。煙道部は検出時からすでに存在せず、水田造成時に削平されたと考えられる。煙出し部は径46×36cm、深さ約16cmのピット状を呈する。2号カマドは燃烧部に暗赤褐色焼土砂粒が径57×49cmの範囲に広がり、焼土は最大9cmの厚さで堆積し、袖は黒褐色土を持ち込んで固めたもので構築されている。煙道部は1号カマド同様、存在せず、煙出し部は径36×36cm、深さ約18cmのピット状を呈する。

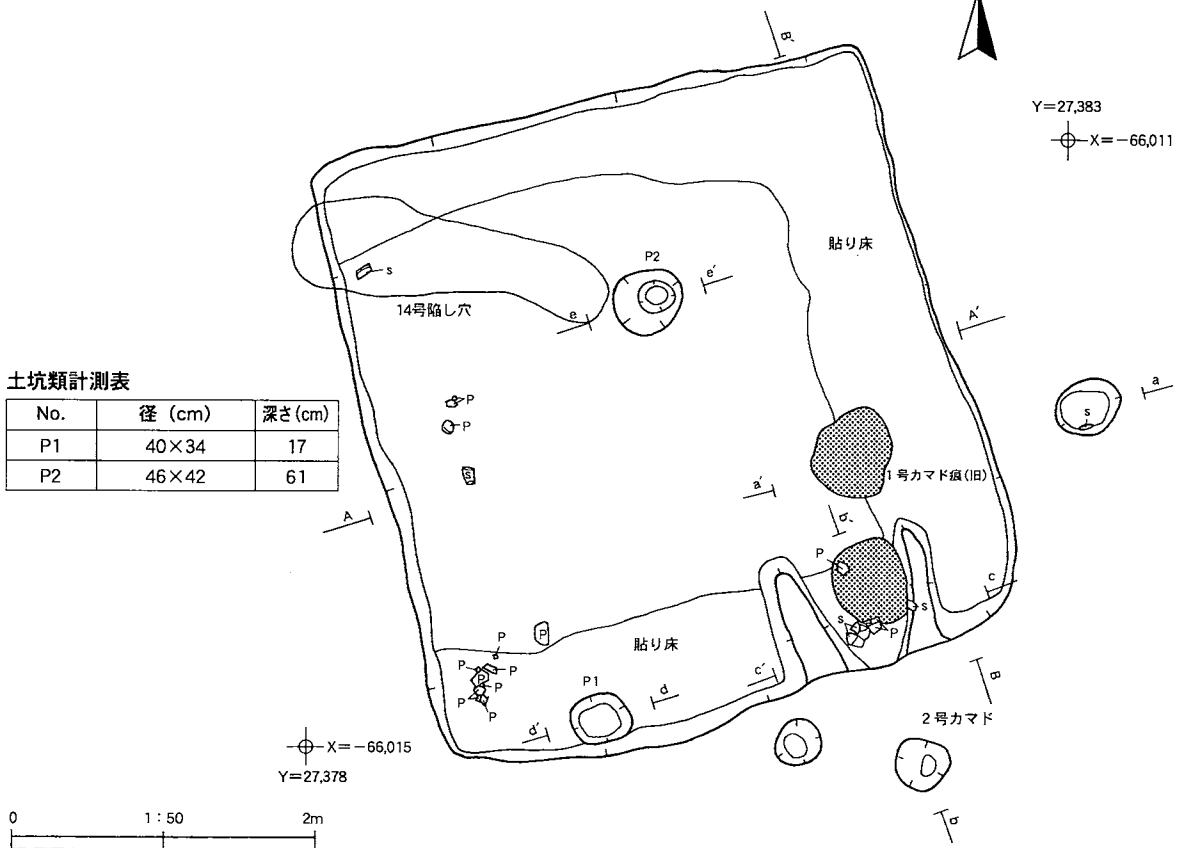
遺物(第80・81図、写真図版68)

〈土器〉 74～77が出土した。74・75は酸化炎焼成の坏で成形はロクロ、器面の調整は内面は黒色処理に伴うミガキが施され、底部の切り離し技法は回転糸切りによる。76・77は酸化炎焼成の甕で成形はロクロ、器面の調整は76は胴部ロクロナデ、底部の切り離し技法は回転糸切りによる。77は内面が黒色処理に伴うミガキ、胴部の外面はロクロナデ後、下半にケズリ調整が施される。

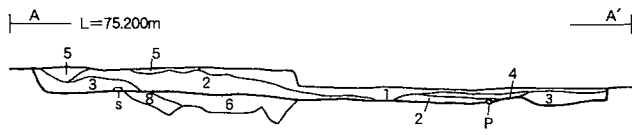
〈石器〉 住居の床面から磨石が1点出土した。78は長さ10.4cm、幅5.4cmで側面は4面あり、すべてに磨り痕が認められる。

〈金属遺物〉 2点出土した。79は住居の埋土から出土した紡錘車で4点に破損した状態で出土した。このうち2点は接合した。80は住居床面から出土した釘状の鉄製遺物で長さ11.7cm、幅0.5cmで先端が尖っている。

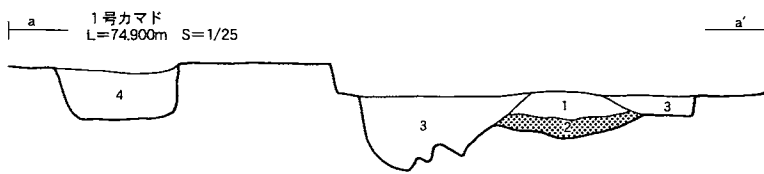
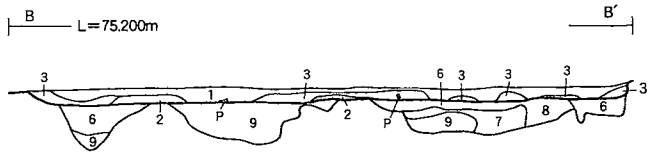
時期 出土した遺物の特徴から9世紀末～10世紀初頭頃の遺構と考えられる。



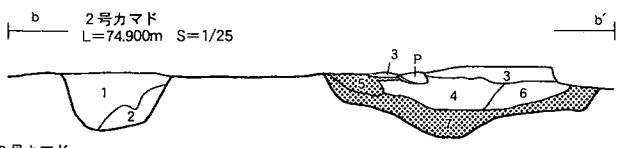
第28図 10号住居跡



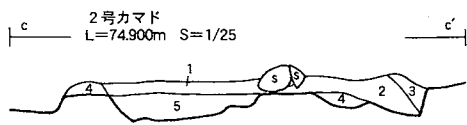
- A-A' B-B'
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり
 - 10YR2/1 黒色土 粘性あり しまりあり 明赤褐色焼土粒 (5YR4/6 径5~7mm) 微量含む。
 - 10YR2/1 黒色土 粘性あり しまりあり 2層より暗い色調である。
 - 10YR2/1 黒色土 粘性あり しまりあり にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 3%混じる。
 - 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色焼土粒 (7.5YR4/6) 微量含む。
 - 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色土粒 (10YR4/6 径10mm) 少量含む。
 - 10YR3/1 黒褐色砂粒 50%、10YR3/2 黒褐色土 50%の混合土層 粘性なし しまりあり
 - 10YR3/1 黒褐色土 50%、10YR4/4 褐色砂粒 50%の混合土層 粘性なし しまりあり
 - 10YR3/2 黒褐色土 70%、10YR3/4 暗褐色砂粒 30%の混合土層 粘性なし しまりあり



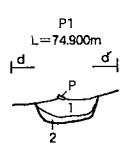
- 1号カマド
a-a'
- 7.5YR4/4 褐色焼土 粘性あり しまりあり
 - 5YR3/4 暗赤褐色焼土 (砂粒) 粘性なし しまりあり
 - 10YR3/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 明赤褐色焼土粒 (2.5YR5/6 径4~8mm) 1%含む (住居床土)。
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 暗赤褐色焼土粒 (5YR3/3 径3~8mm) 1%含む。



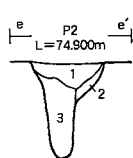
- 2号カマド
b-b'
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり
 - 10YR3/2 黒褐色砂質土 粘性あり しまりあり
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 赤褐色焼土粒 (5YR4/6) 微量含む。
 - 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし しまりあり 赤褐色焼土 (5YR4/8) 10%含む。
 - 7.5YR3/4 暗褐色焼土 粘性ややあり しまりあり
 - 10YR2/3 黒褐色土 粘性あり しまりあり やや砂質
 - 5YR3/6 暗赤褐色焼土 砂粒 粘性なし しまりなし



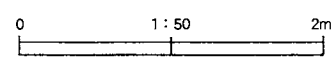
- 2号カマド
c-c'
- 7.5YR3/3 暗褐色焼土 粘性ややあり しまりあり 褐色焼土粒 (7.5YR4/6 径4~10mm) の粒状で1~2%含む。
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり
 - 10YR4/4 褐色土 粘性なし しまりあり にぶい赤褐色焼土 (5YR4/4) 微量含む。
 - 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 明赤褐色焼土粒 (5YR5/6 径2mm)、微量含む。
 - 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし しまりあり 赤褐色焼土 (5YR4/8) 10%含む。



- P1
d-d'
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり
 - 10YR2/2 黒褐色砂質土 粘性なし しまりあり



- P2
e-e'
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり
 - 10YR3/4 黒褐色砂質土 粘性なし しまりあり
 - 10YR2/3 黒褐色砂質土 粘性なし しまりあり



第29図 10号住居跡

11号住居跡

遺構 (第30・31図、写真図版26・27)

<位置・重複関係> II C-26 グリッド付近に位置し、表土下の第三層で検出された。カマドの一部のみ

検出され、中途な形で調査できないため調査区外分を含むカマドの全体を検出してから調査を行った。

<規模・平面形・方向> 規模は全体が検出されていないため不明。平面形は方形状を呈すると考えられる。

<埋土> 自然堆積で、全体が黒褐色土主体の土層堆積で、赤褐色焼土粒が下層ほど多く含まれる。

<壁> 壁はほぼ垂直に立ち上がる。壁面残存値は計測可能な南壁 20cm、東壁 21cm である。

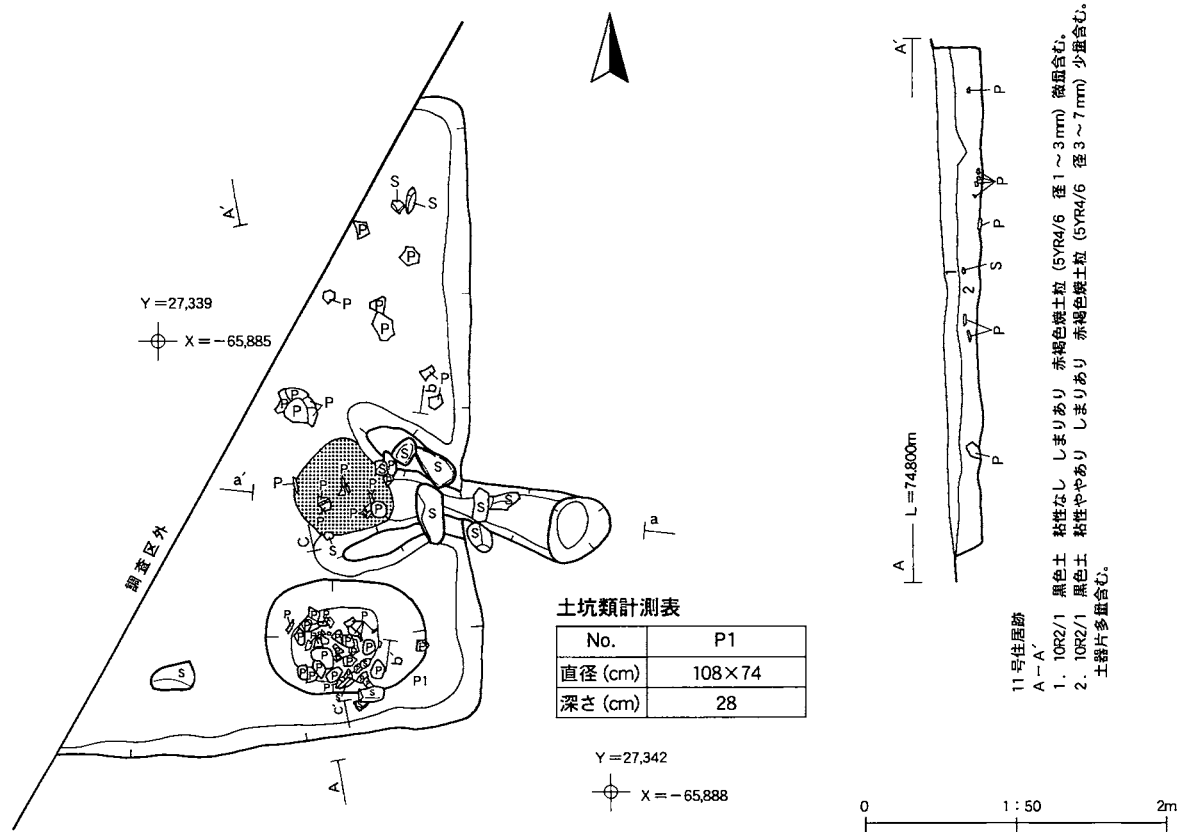
<床面> 床面は緩い凹凸があり、カマド付近がやや隆起する。床上、特に P1 とカマド周辺からは土器片が多量出土した。床面全体に掘り方をもつ。

<土坑> 1基検出された。P1の検出面～埋土中位からは多量の土器片が出土し、貯蔵穴であったと考えられる。

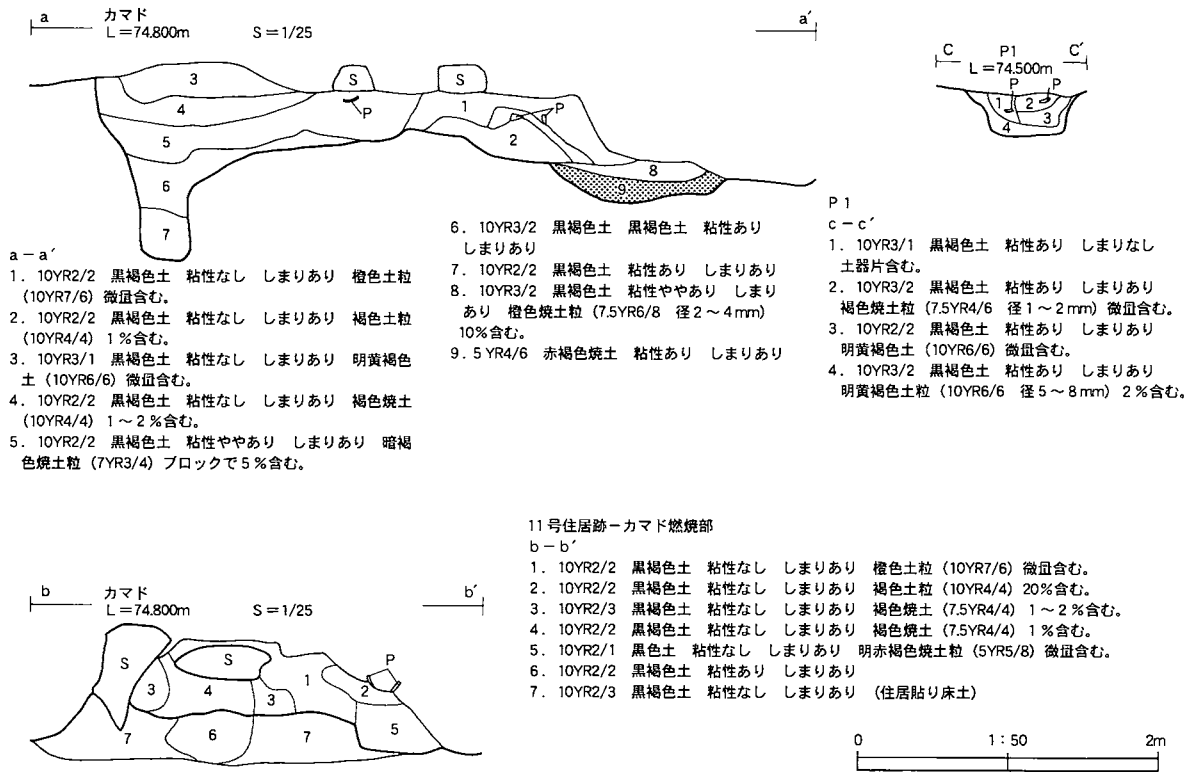
<カマド> 東壁のやや南よりに構築され、主軸は住居と同じ E-11°-S の東南東方向である。燃烧部には径 66×62cm の範囲で焼土が広がり、最大で 8cm 堆積している。左袖には 70×30cm、架橋部には 64×24cm の礫を芯材として置き、これに褐色土混じりの黒褐色土を持ち込んでその周辺を覆い固めてカマドが構築されている。煙道部は掘り込み式の構造で長さは約 100cm 前後、一律 12～16cm の深さで煙出し部へ延び、煙出し部は深さ 65cm でピット状を呈する。

遺物 (第 81～83 図、写真図版 69)

81～90 はロクロ成形による酸化炎焼成の坏で、81 は P1 埋土、82・83・85・87 は住居埋土、84 はカマドの右袖土、86・88～90 は住居床面から出土した。器面調整は 81～87 が内面の黒色処理に伴うミガキ、外面はロクロナデ、88～90 は内外面にロクロナデが施されている。底部の切り離し技法は 81～89 は回転糸切り、90 は切り離した後、篋削りによる再調整により不明である。91～94 は酸化炎焼成の



第 30 図 11 号住居跡



第31図 11号住居跡

甕で91・94は住居埋土、92・93はカマド内から出土した。成形はロクロによる。器面調整はロクロナデにより91は外面ロクロナデ後、篋削りが施されている。底部の切り離し技法は回転糸切りによる。94は口縁部ヨコナデ、胴部内面ナデ、外面ナデ後、篋削りが施され、底面には砂が付着している。95は還元炭焼成の甕の破片で住居の床面から出土した。成形は非ロクロにより、外面に叩き目痕が残る。

<金属遺物> 96はカマドの燃焼部から出土したもので、器種は不明、先端は尖っている。長さ3.2cmで厚さは0.3cmと薄い扁平な形状である。

時期 出土遺物の特徴から9世紀末葉頃に属する遺構と考えられる。

12号住居跡

遺構 (第32・33図、写真図版28・29)

<位置・重複関係> II C-46グリッドに位置し、表土下の第III層で検出された。重複する遺構はないがカマドの残存状況から住居を拡張したと考えられる。

<規模・平面形・方向> 規模は389×458cm、総床面積は約17.81㎡で平面形は南北にやや長い方形状を呈し、主軸はE-17°-Sの東南東方向である。

<埋土> 自然堆積で上位はにぶい黄褐色土粒が僅かに混じる黒褐色土、中~下位も黒褐色土主体であるが上位より暗い色調である。

<壁> 壁は北壁・西壁は外傾、東壁・南壁は垂直ぎみに立ち上がり、壁面残存値は東壁18cm、西壁30cm、南壁21cm、北壁20cmである。

<床面> 床面はほぼ平坦で、所々ゆるい凹凸がある。全体的に深い掘り方を持ち、暗褐色土砂粒混じりの黒色土で貼り床され、厚さはおおよそ約11~31cmである。東壁際の床面には拡張した際の掘り方痕と考

えられる掘り込みが25～44cm幅で確認された。

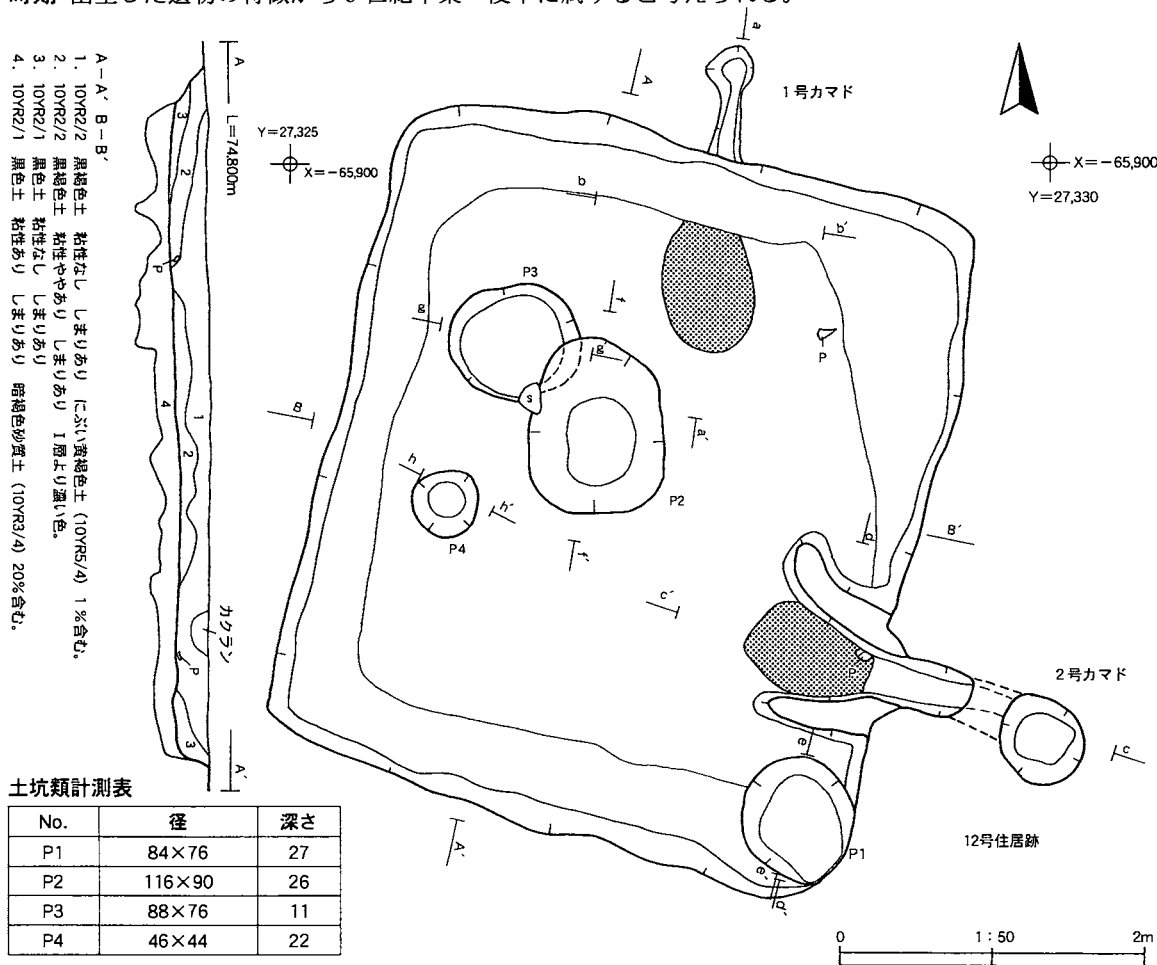
＜土坑＞ 4基検出された。P1は位置的に貯蔵穴と思われるが出土遺物はない。P2は径116×90cmの楕円形で深さは26cm、出土遺物はなく用途は不明である。P3・P4は貼り床土下で検出した。P3は深さ8cmと浅く、壁の立ち上がりも緩いことから掘り方痕の可能性も考えられる。

＜カマド＞ 2基検出された。1号カマドは北壁の中央部、2号カマドは東壁のやや南よりに設けられ、残存状況から2号カマドが新しい。1号カマドの燃焼部には明赤褐色焼土粒が径約80×60cmの範囲に広がり、最大6cmの厚さで堆積する。また袖は住居を拡張したときの掘り方によって消失している。煙道部は掘り込み式の構造で長さ64cm、深さ11cm平均で傾斜なく煙出し部へと延び、煙出し部は径30×30cm、深さ23cmのピット状を呈する。2号カマドは燃焼部に明赤褐色焼土粒が84×53cmの範囲で広がり、燃焼痕は最大8cmの厚さで堆積し、袖土には褐色土、黒褐色土を持ち込んで固めて構築されている。煙道部は削り貫き式の構造で東方向に約10°の傾斜で下り、煙出し部は径57×55cm、深さ約58cmのピット状を呈する。

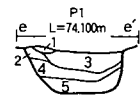
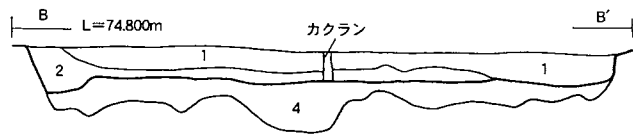
遺物 (第83図・写真図版70)

97は住居床面から出土した酸化炭焼成の坏で成形はロクロによる。器体内面は黒色処理され、ミガキが施されている。底部の切り離し技法は回転糸切りによる。98は還元炭焼成の坏で成形はロクロによる。器面調整はロクロナデが両面に施され、底部は切り離し後、篋削りによる再調整が施され、切り離し技法は不明である。99は1号カマドから出土した酸化炭焼成の甕で成形はロクロによる。

時期 出土した遺物の特徴から9世紀中葉～後半に属すると考えられる。

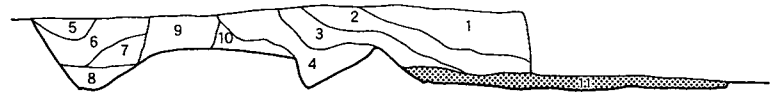


第32図 12号住居跡

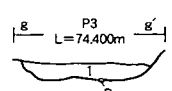


- e-e'
- 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし しまりあり 赤褐色焼土 (5YR4/8) 1%含む。
 - 10YR4/4 褐色土 粘性なし しまりあり
 - 10YR2/1 黒色土 粘性ややあり しまりあり 褐色土 (7.5YR4/4) 粒状で微量含む。
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり
 - 10YR2/1 黒色土 粘性なし しまりあり 褐色砂質土 (10YR4/4) 3%含む。

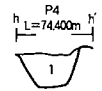
1号カマド
L=74.800m S=1/25



- 1号カマド
a-a'
- 10YR2/1 黒色土 粘性ややあり しまりあり 赤褐色焼土 (5YR4/8 径5~6mm) の粒状で微量含む。
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり 明赤褐色焼土粒 (5YR5/8) 1~2%含む。
 - 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし しまりあり 明赤褐色焼土粒 (5YR5/6) 20~30%含む。
 - 10YR2/1 黒色土 粘性なし しまりあり 褐色土 (7.5YR4/4) 1~2%含む。
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色土 (7.5YR4/4) 微量含む。
 - 10YR2/1 黒色土 粘性ややあり しまりあり 褐色土 (7.5YR4/4) 1%含む。
 - 10YR2/1 黒色土 粘性なし しまりあり
 - 10YR2/1 黒色土 粘性ややあり しまりあり 褐色土 (10YR4/6) 3%含む。
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 9層とほぼ同じ。
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色焼土粒 (7.5YR5/6) 1~2%含む。

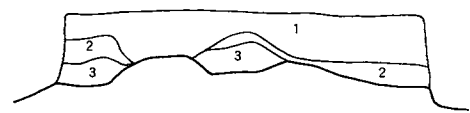


- P3
g-g'
- 10YR3/1 黒褐色土 粘性あり しまりあり 暗褐色土 (10YR3/4) 10%含む。

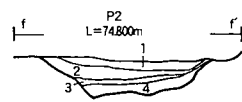


- P4
h-h'
- 10YR2/1 黒色土 粘性あり しまりあり 暗褐色土 (10YR3/4) 10%含む。

1号カマド
L=74.800m S=1/25

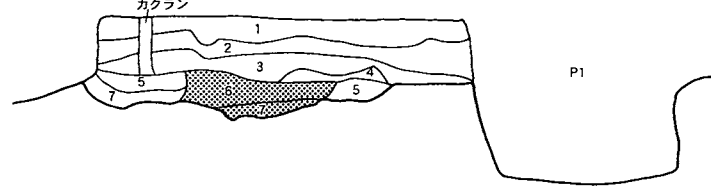


- b-b'
- 10YR2/1 黒色土 粘性ややあり しまりあり 赤褐色焼土 (5YR4/8 径5~6mm) の粒状で微量含む。
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり 明赤褐色焼土粒 (5YR5/8) 1~2%含む。
 - 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし しまりあり 明赤褐色焼土粒 (5YR5/6) 20~30%含む。



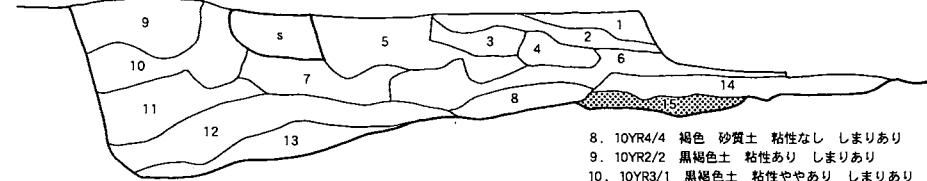
- P2
f-f'
- 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色土 (10YR4/4) 1~2%含む。
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり 色調は2層より濃い。
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり 赤褐色焼土粒 (5YR4/8) 微量含む。

2号カマド
L=74.800m S=1/25

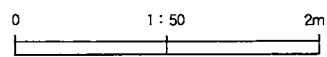


- d-d'
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色土 (10YR4/4) 5%含む。
 - 10YR2/1 黒色土 粘性ややあり しまりあり 明赤褐色焼土粒 (5YR5/6) 微量含む。
 - 10YR3/1 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 赤褐色焼土 (5YR4/6) 10%の混合土層。粘性なし しまりあり
 - 10YR3/2 黒褐色土 70%、10YR3/4 暗褐色砂質土 20%、5YR4/6 赤褐色焼土 10%の混合土 粘性なし しまりあり
 - 10YR4/4 褐色土 粘性なし しまりあり 黒褐色土 (10YR3/2) 10%含む (袖土)。
 - 7.5YR3/4 暗褐色焼土 粘性なし しまりあり 明褐色焼土粒 (7.5YR5/6) 5%含む。
 - 7.5YR3/2 黒褐色焼土 粘性なし しまりあり (袖土)

2号カマド
L=74.800m S=1/25



- c-c'
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 褐色土 (5YR6/8 径8~10mm) 微量含む。
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性あり しまりややあり 褐色焼土粒 (5YR6/8 径2~3mm) 微量含む。
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性あり しまりややあり
 - 10YR2/1 黒色土 粘性なし しまりややあり
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色土 (10YR4/4) 5%含む。
 - 10YR2/1 黒色土 粘性ややあり しまりあり 明赤褐色焼土粒 (5YR5/6) 微量含む。
 - 10YR3/1 黒褐色土 粘性あり しまりあり 褐色土 (7.5YR4/3) 30%含む。
 - 10YR4/4 褐色 砂質土 粘性なし しまりあり
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり
 - 10YR3/1 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 赤褐色焼土 (5YR4/6) 10%の混合土層 粘性なし しまりあり
 - 10YR2/1 黒色土 粘性あり しまりややあり 暗褐色焼土 (7.5YR3/4) 微量含む。
 - 10YR2/1 黒色土 粘性あり しまりあり
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりなし 褐色土 (10YR4/4) 微量含む。
 - 7.5YR3/4 暗褐色焼土 粘性なし しまりあり 明褐色焼土粒 (7.5YR5/6) 5%含む。
 - 5YR5/8 明赤褐色焼土 粘性なし しまりあり



第33図 12号住居跡

13号住居跡

遺構（第34・35図、写真図版30）

〈位置・重複関係〉 IVA-65グリッドに位置し、表土下の第三層で検出された。重複する遺構はない。

〈規模・平面形・方向〉 規模は326×338cm、総床面積は約11.00㎡で平面形は方形状であるが、やや歪んだ形状を呈し、主軸方向はE-19°-Sであるが、住居の形状の歪みのため不正確である。

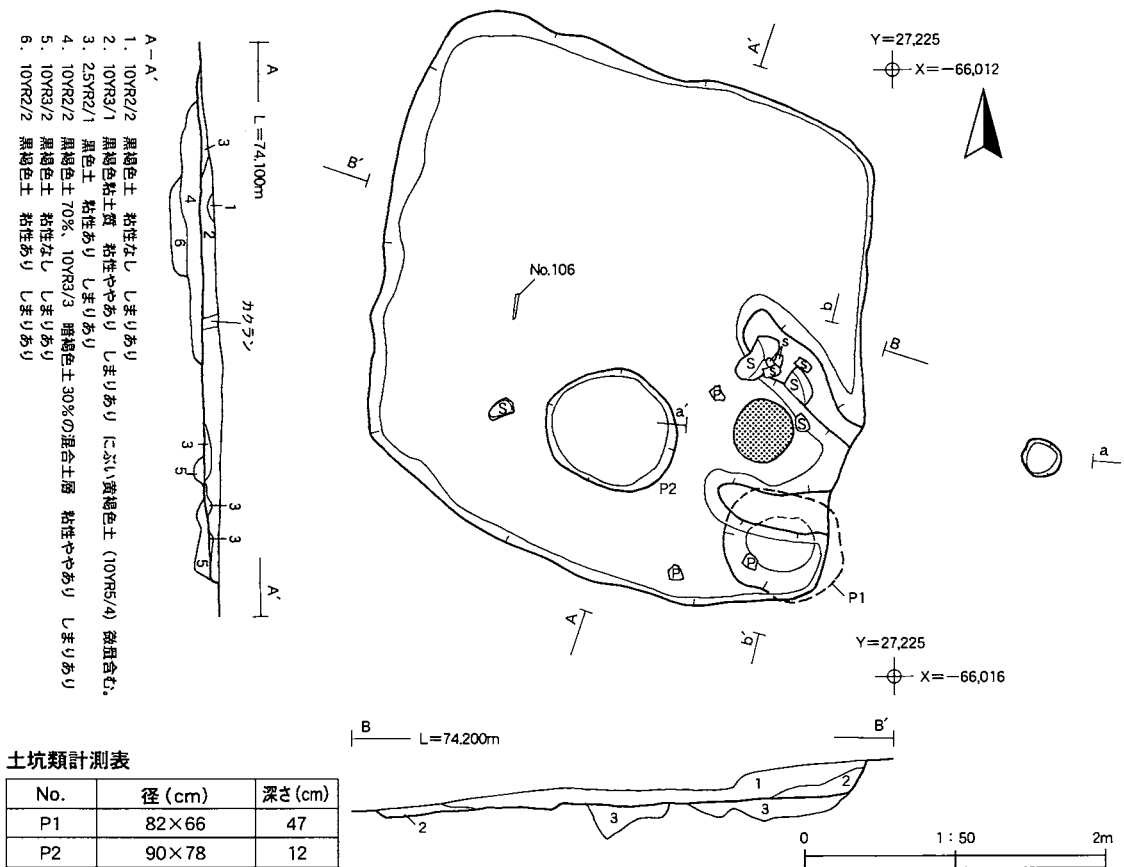
〈埋土〉 自然堆積で、全体が黒色、黒褐色土で構成されている。

〈壁〉 壁はいずれも外傾して立ち上がる。壁面残存値は北壁6cm、西壁21cm、南壁3cm、東壁6cmである。

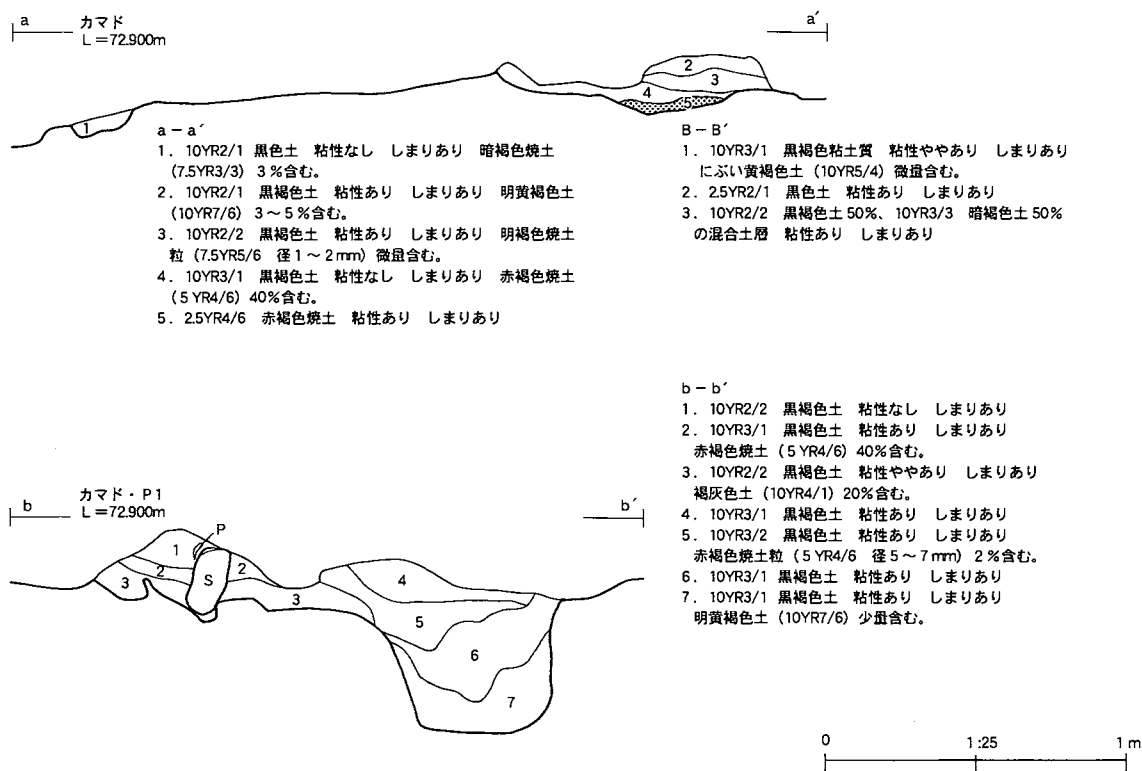
〈床面〉 床面は平坦で、ほぼ一部に掘り方を持ち、暗褐色土と黒褐色土の混合土が貼られている。

〈土坑〉 2基検出された。P1はカマド右袖脇からの検出で径82×66cm貯蔵穴と考えられるが、遺構の一部が袖までかかっている。P2は径90×78cm、深さ12cmで貼り床土下から検出された。掘り方痕である可能性が高い。

〈カマド〉 東壁の南よりに設けられている。残存状態は不良で燃烧部には赤褐色焼土粒が広がり、層厚は最大4cmである。袖は検出時に20×40cmの礫が散在していたことからこれらを利用していたと考えられ、これに黒褐色土を持ち込んで固めたと思われるが、持ち込んだ土と住居の埋土の判別が難しく、袖の範囲は不明確である。煙道部は検出時にはすでになく、煙出し部と思われる小土坑までは長さ120cmほどであるが、位置的にずれていることから煙出し部の掘り込みでない可能性もある。



第34図 13号住居跡



第35図 13号住居跡

遺物 (第83・84図、写真図版70)

100~102は酸化炎焼成の坏で成形はロクロ、100はP1埋土下部、101はカマド付近、102は住居の床面直上から出土した。器面調整は外面はロクロナデ、100・101の内面は黒色処理に伴うミガキが施されている。底部の切り離し技法は100は回転糸切り、101は切り離し後の筥削り再調整により不明、102は回転糸切り後、筥削り再調整が施されている。103はカマド袖付近から出土した還元炎焼成の坏で成形はロクロ、器面調整はロクロナデ、底部の切り離し技法は回転糸切りによる。104はカマドの袖部から出土した酸化炎焼成の甕で成形は非ロクロによる。器面の調整は胴部はハケメ、底部はナデが施されている。

<石器> 105は住居の床面から出土した磨石で長さ18cm、幅10.9cmで側面に磨り痕が認められる。

<金属遺物> 106は住居床面から出土した刀子で3点に分かれて出土した。長さ7.5cm、幅1.85cmで先端が尖っている。

時期 出土した遺物の特徴から9世紀中葉~後半に属する。

14号住居跡

遺構 (第36~38図、写真図版31・32)

<位置・重複関係> VB-04グリッドに位置し、表土下の第Ⅲ層で検出された。重複する遺構はない。

<規模・平面形・方向> 規模は438×479cm、総床面積は約20.98㎡で平面形は方形状を呈し、主軸はE-15°-Nのほぼ東北東方向である。

<埋土> 自然堆積で、全体が黒褐色土主体の土層堆積で暗褐色土粒が微量混入している。

<壁> 壁はいずれも外傾して立ち上がる。壁面残存値は北壁15cm、西壁16cm、南壁21cm、東壁7cmである。

〈床面〉 床面はほぼ平坦で、全面に掘り方を持つ。掘り方には褐色土と黒褐色土の混合土が貼られ、厚さは8～19cmである。

〈土坑〉 6基検出された。このうちP1は位置や遺物が出土していることから貯蔵穴と思われる、P2・P3についても用途は不明ながら柱穴ではない土坑と考えられる。P5・P10は土坑状の形態を為すが、形状、壁面など曖昧な部分も多い。

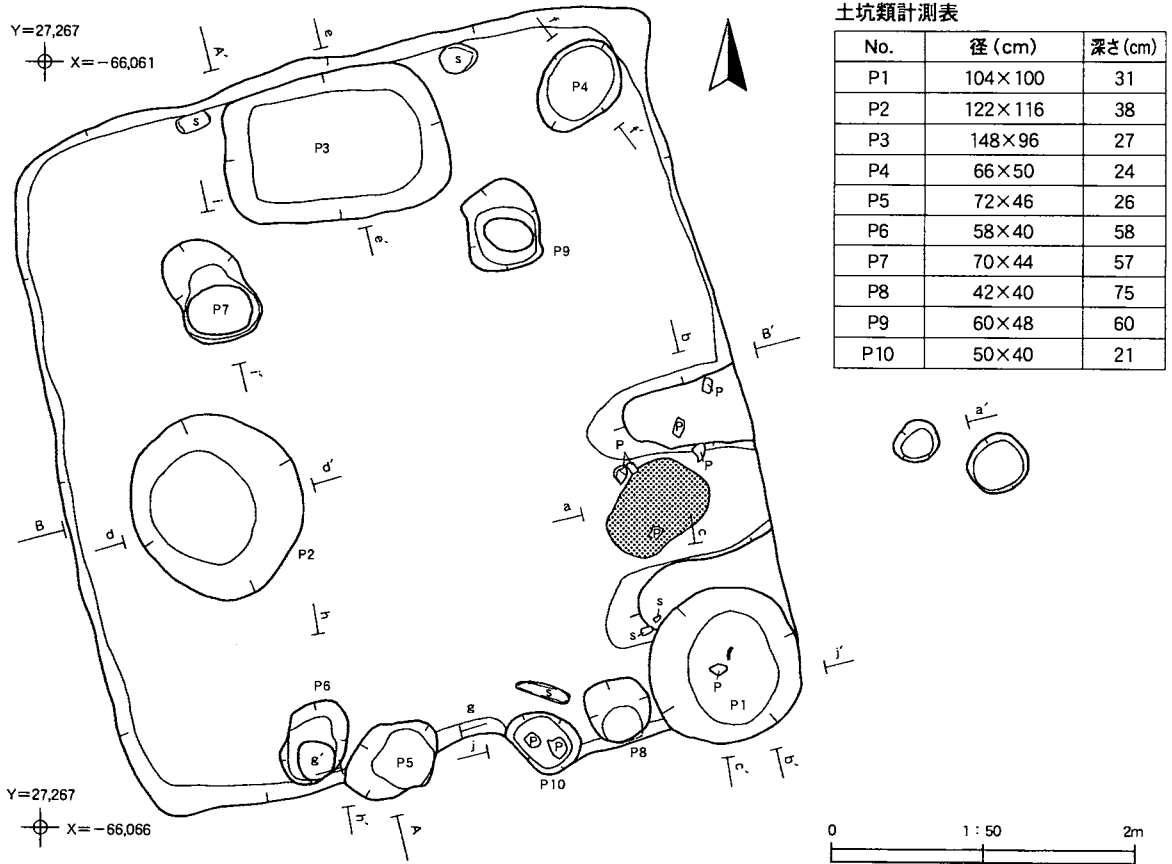
〈柱穴〉 P6～P9の4基が検出された。壁面から掘り込んでいるものがあり深さは58～75cmとややばらつきがあるが、底面の標高はほぼ同じであり支柱穴と考えられる。

〈カマド〉 東壁のやや南よりに1基設けられている。残存状況が悪く、煙道部はない。また袖は大半が削平されプランが不明確であるが袖土には黒褐色土、暗褐色土の混合土を持ち込んでカマドを構築したと思われる。燃烧部には約70×49cmの範囲に赤褐色焼土が広がり、層厚は最大10cmである。

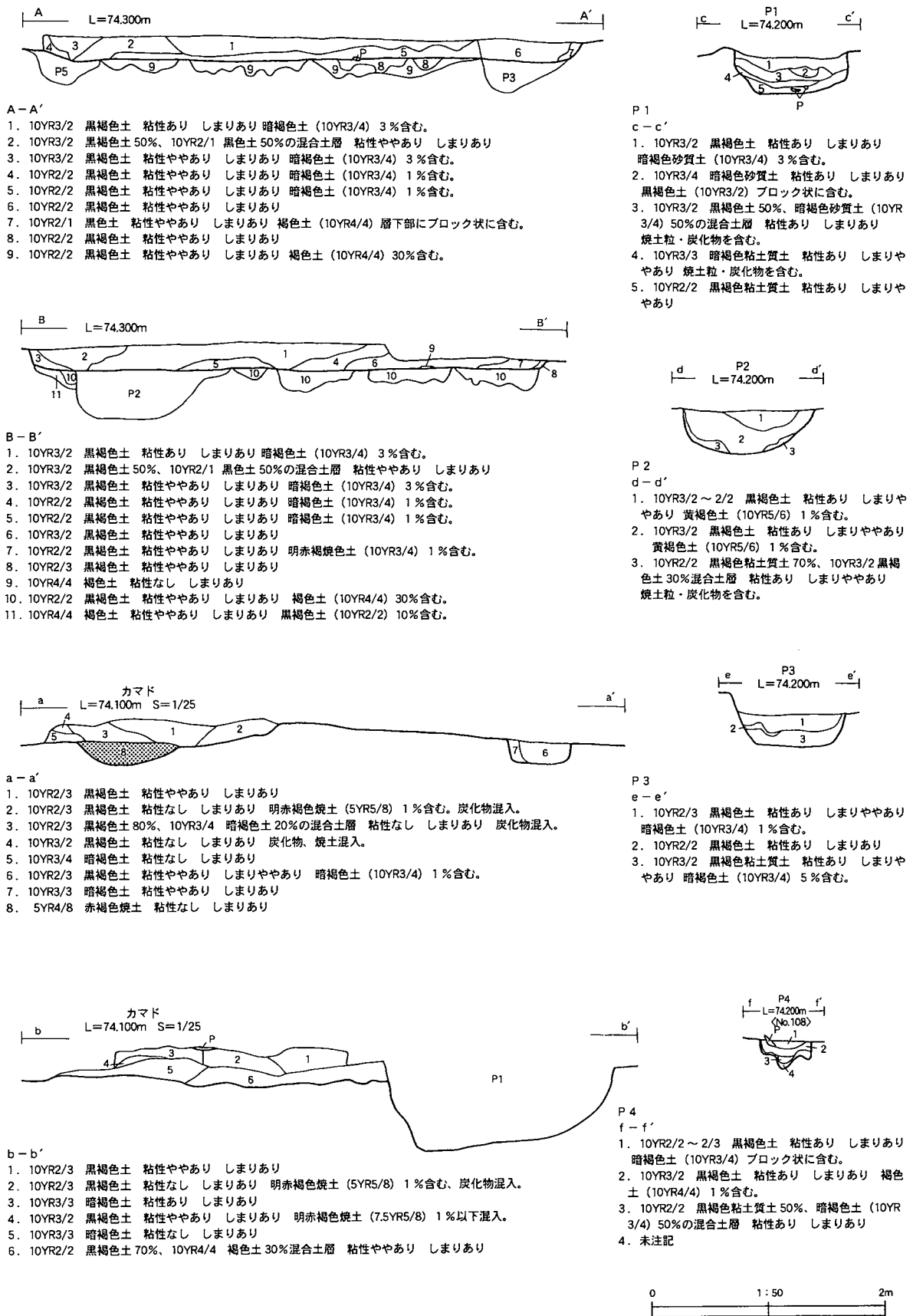
遺物 (第84・85図、写真図版70・71)

〈土器〉 107～115は酸化炎焼成の坏で107・115はP1、108はP4、109・112・113は住居床面、110はP3、111・114はカマド燃烧部から出土した。器面調整は107～110は外面ロクロナデ、内面には黒色処理に伴うミガキが施されている。111～115はロクロナデのみによる調整である。底部の切り離し技法は107～113・115は回転糸切り、114は切り離し後再調整が施されているため不明である。116は住居床面から出土した酸化炎焼成の甕で成形は非ロクロ、器面調整は口縁部ヨコナデ、胴部～底部ナデが施されている。

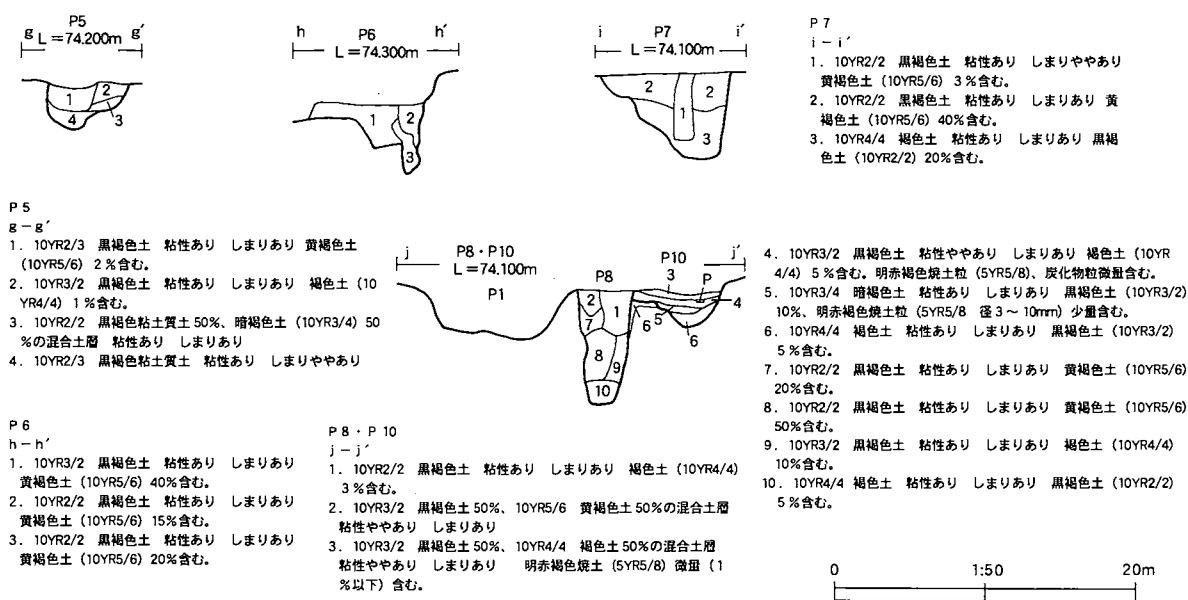
〈石器〉 117・118は住居の床面から出土した磨石で117は一面、118は側面4面に磨り痕が認められる。
 時期 出土した遺物の特徴から9世紀末葉頃と考えられる。



第36図 14号住居跡



第 37 図 14号住居跡



第 38 図 14 号住居跡

15 号住居跡

遺構 (第 38・39 図、写真図版 33)

〈位置・重複関係〉 VD-25 グリッドに位置し、表土下の第三層で検出された。カマド部分は調査前の試掘によって削平を受けていた。重複する遺構はない。

〈規模・平面形・方向〉 規模は 411×542cm、総床面積は約 22.27 m² で平面形は方形状を呈し、主軸は方向は真東である。

〈埋土〉 自然堆積で、上～中位は黒色土、黒褐色土主体、下位は明黄褐色土粒を含む黒褐色土が堆積している。

〈壁〉 壁は削平の影響もあって一部残存状況の悪い部分もあるが、いずれも外傾して立ち上がる。壁面残存値は東壁 5cm、西壁 23cm、南壁 4cm、北壁 11cm である。

〈床面〉 床面は平坦で、しまりはあまりない。床面一部には掘り方痕が残り褐色土粒を含む黒褐色土が貼られている。

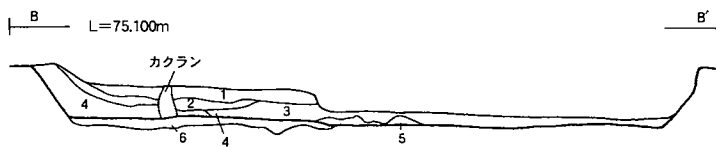
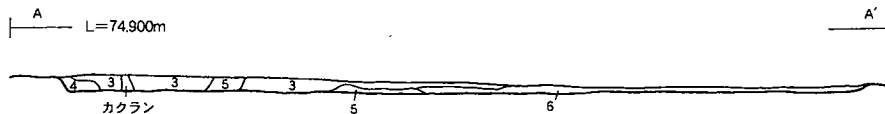
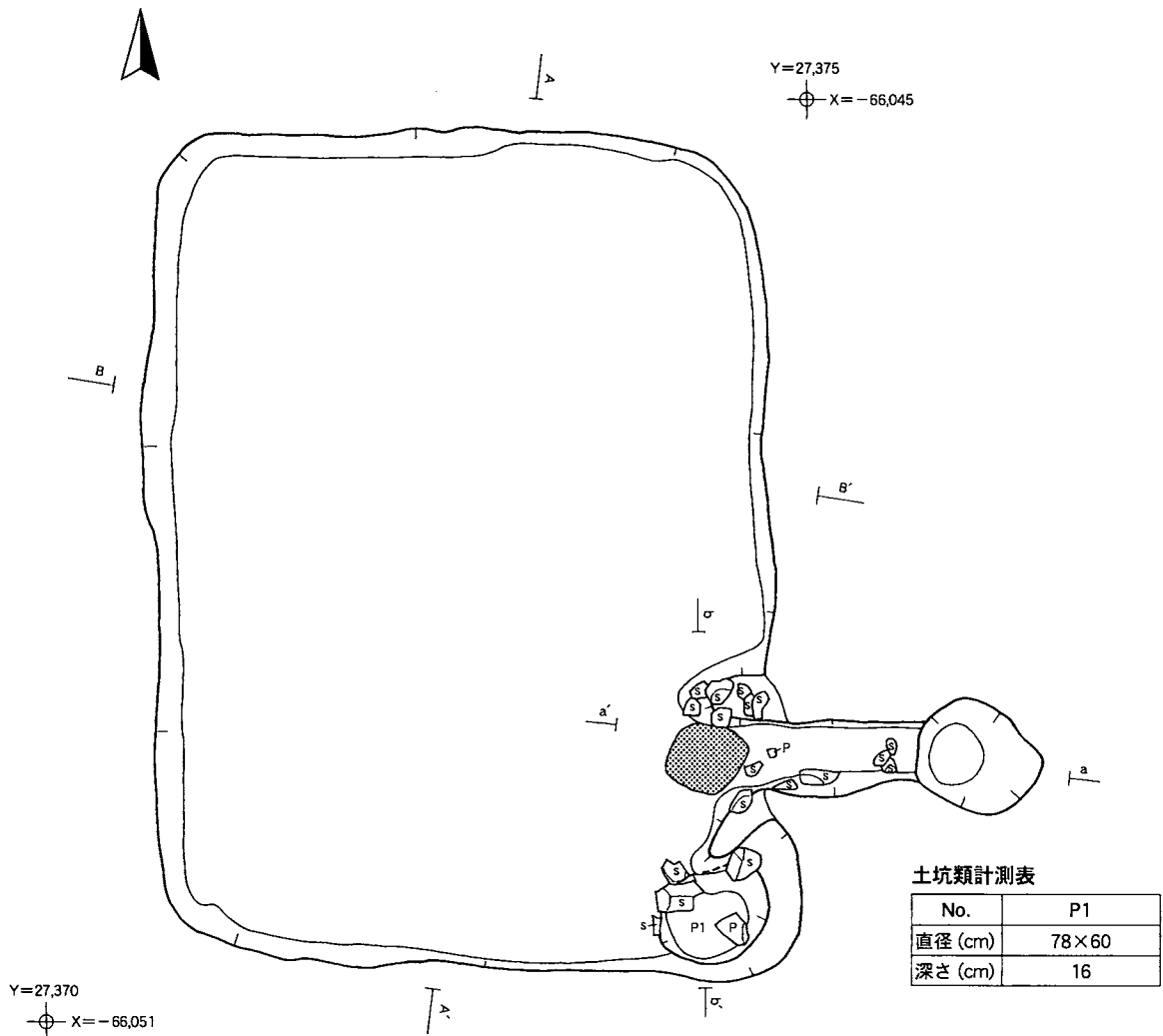
〈土坑〉 カマドの脇から P1 が検出された。検出面にはカマドの構成礫と思われるやや大きめの石が散在し、埋土からは土師器甕の破片が出土している。

〈カマド〉 東壁のやや南よりに 1 基設けられている。残存状況は比較的良であるが、削平の影響で袖の一部が消失している。袖には長さ 39cm の礫を芯材とし、これを持ち込みのにぶい黄褐色土粒を含む黒色土で覆い固めて構築している。燃焼部には約 63×57cm の範囲でにぶい赤褐色焼土が広がり、層厚は最大 6cm である。煙道部は掘り込み式の構造で長さは約 100cm、煙道底面に凸凹はあるが、傾斜はない。煙出し部は径 83×68cm、深さ 43cm の土坑状を呈する。

遺物 (第 85 図・写真図版 71)

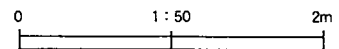
カマド脇～P1 付近から 119 が出土した。酸化炎焼成の鉢で成形はロクロ、器面調整は内面にミガキ、外面にロクロナデ、ケズリが施され、底部の切り離し技法は再調整により不明である。

時期 出土遺物から平安時代と考えられる。

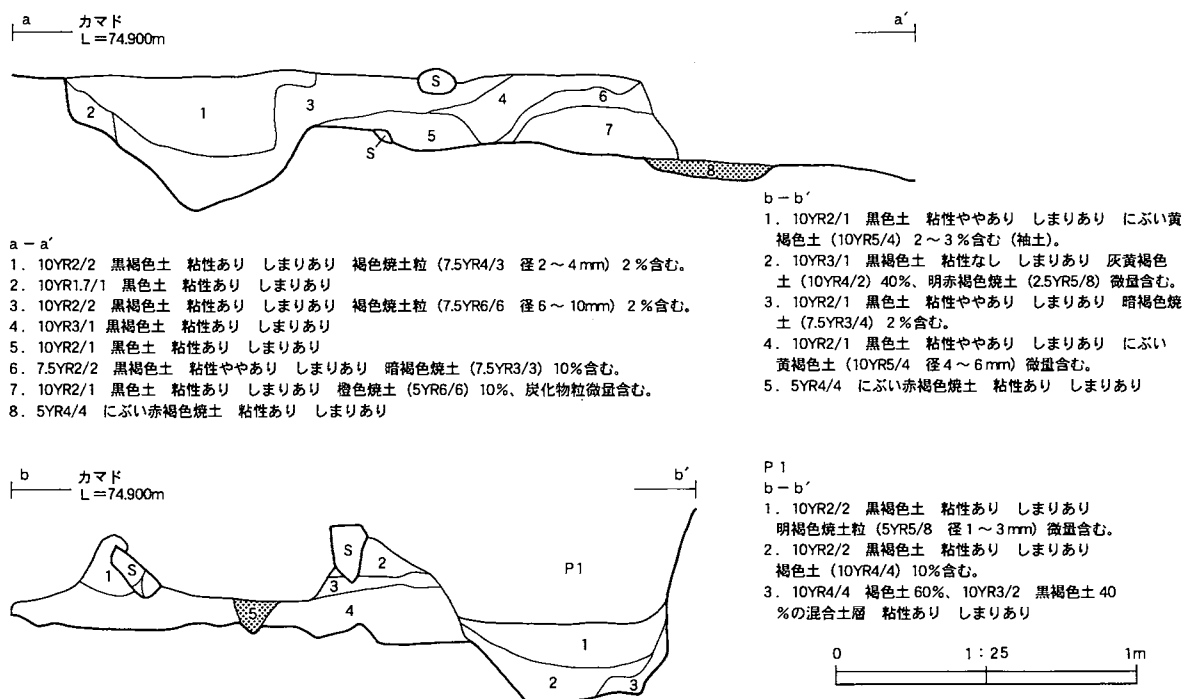


A-A'、B-B'

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし しまりあり 明黄褐色土粒 (10YR7/6) 微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり にぶい黄褐色土粒 (10YR5/4) 微量含む。
4. 10YR3/1 ~ 2/1 黒褐~黒色土 粘性なし しまりあり 黄褐色土粒 (10YR5/6) 微量含む。
5. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 明黄褐色土粒 (10YR6/6) 微量含む。
6. 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色土粒 (10YR4/4) 少量含む。



第 39 図 15 号住居跡



第40図 15号住居跡

16号住居跡

遺構 (第41・42図・写真図版34・35)

<位置・重複関係> VB-53グリッドに位置し、表土下の第IV層で検出された。削平の影響で遺構の残存状況は不良である。重複する遺構はない。

<規模・平面形・方向> 削平の影響で正確な規模・平面形は不明である。

<埋土> 削平のため床面での検出であるが、東壁際に褐色土混じりの黒褐色土の堆積が僅かに確認できる。

<壁> 不明。

<床面> 床面は平坦で、周囲との堅さによる違いは見られない。また掘り方をもち、にぶい黄褐色土混じりの褐色土が貼られている。

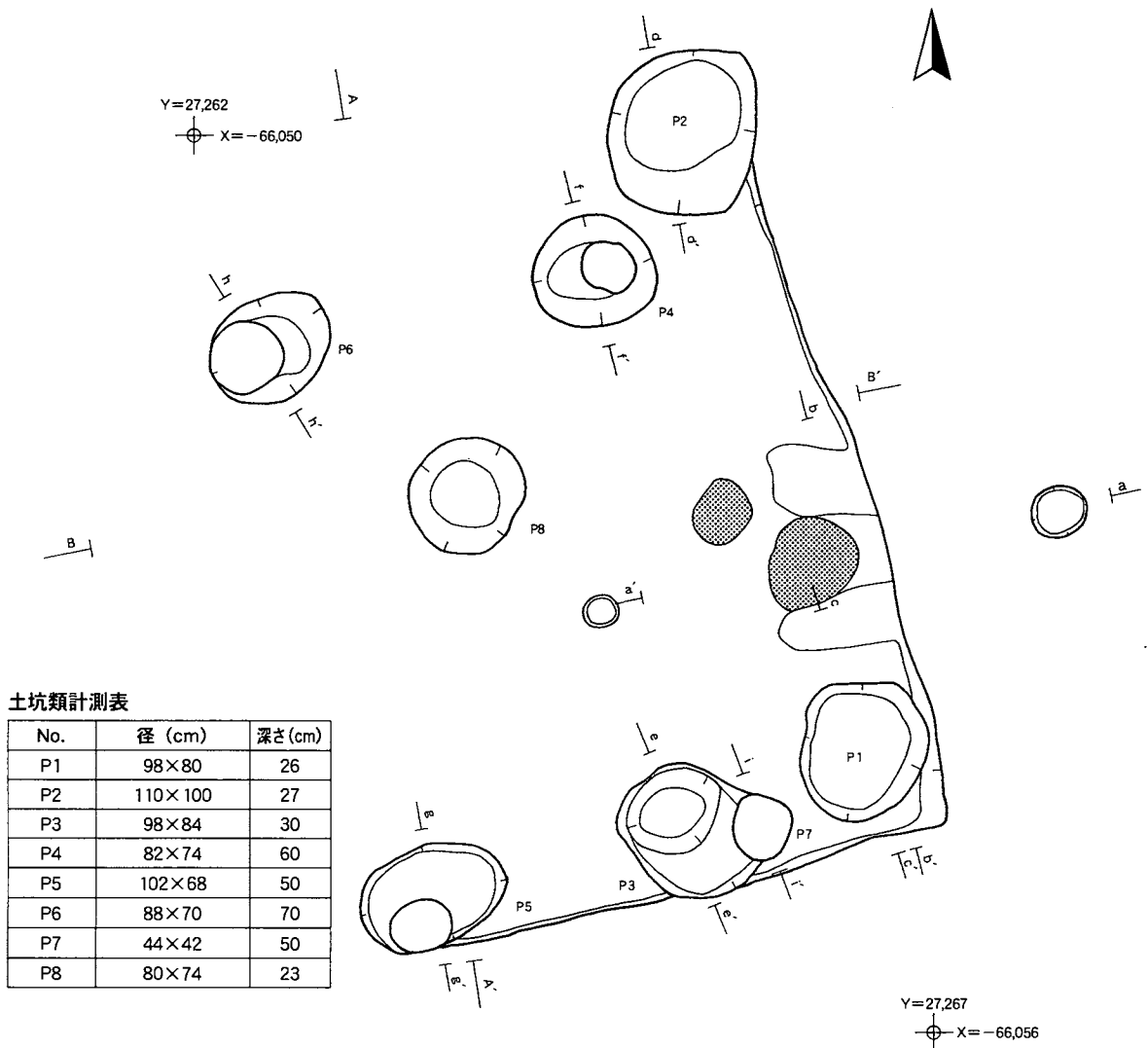
<土坑> 3基検出された。P1は貯蔵穴と考えられるもので径98×80cm、深さは26cmと浅い。P2は壁の立ち上がりや状態から掘り方痕の可能性がある。P3はP7と隣接することからP7に伴う掘り込み痕の可能性はある。

<柱穴> P4~P7の4基が検出された。柱痕の径は大きいもので50×46cm、小さいもので38×32cm、検出面からの深さは50~70cmである。柱間の距離は東西約200~205cm、南北約350~360cmである。

<カマド> 東壁の南寄りに構築され、主軸は住居のそれとほぼ同じE-12°-Nの東北東方向である。カマドの袖部には焼土粒混じりの黒褐色~暗褐色土が染み状に確認できるのみで構造の詳細は不明である。燃燒部には径62×57cmの範囲でにぶい赤褐色焼土が広がり、厚さは最大で8cmある。煙道部は削平のため残存せず、煙出し部は開口部径38×34cm、深さ9cmの浅い土坑状になっていて、先端のみ深さが23cmある。

遺物 (第85図・写真図版71)

P1から120~122が出土した。いずれも酸化炎焼成による坏で成形はロクロ、器面調整は内面が黒色



土坑類計測表

No.	径 (cm)	深さ (cm)
P1	98×80	26
P2	110×100	27
P3	98×84	30
P4	82×74	60
P5	102×68	50
P6	88×70	70
P7	44×42	50
P8	80×74	23

A L=74.200m

A-A'

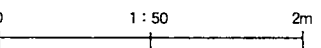
- 10YR3/1 黒褐色土 粘性あり しまりあり 暗褐色土 (10YR3/3) 1~2%含む。

B L=74.200m

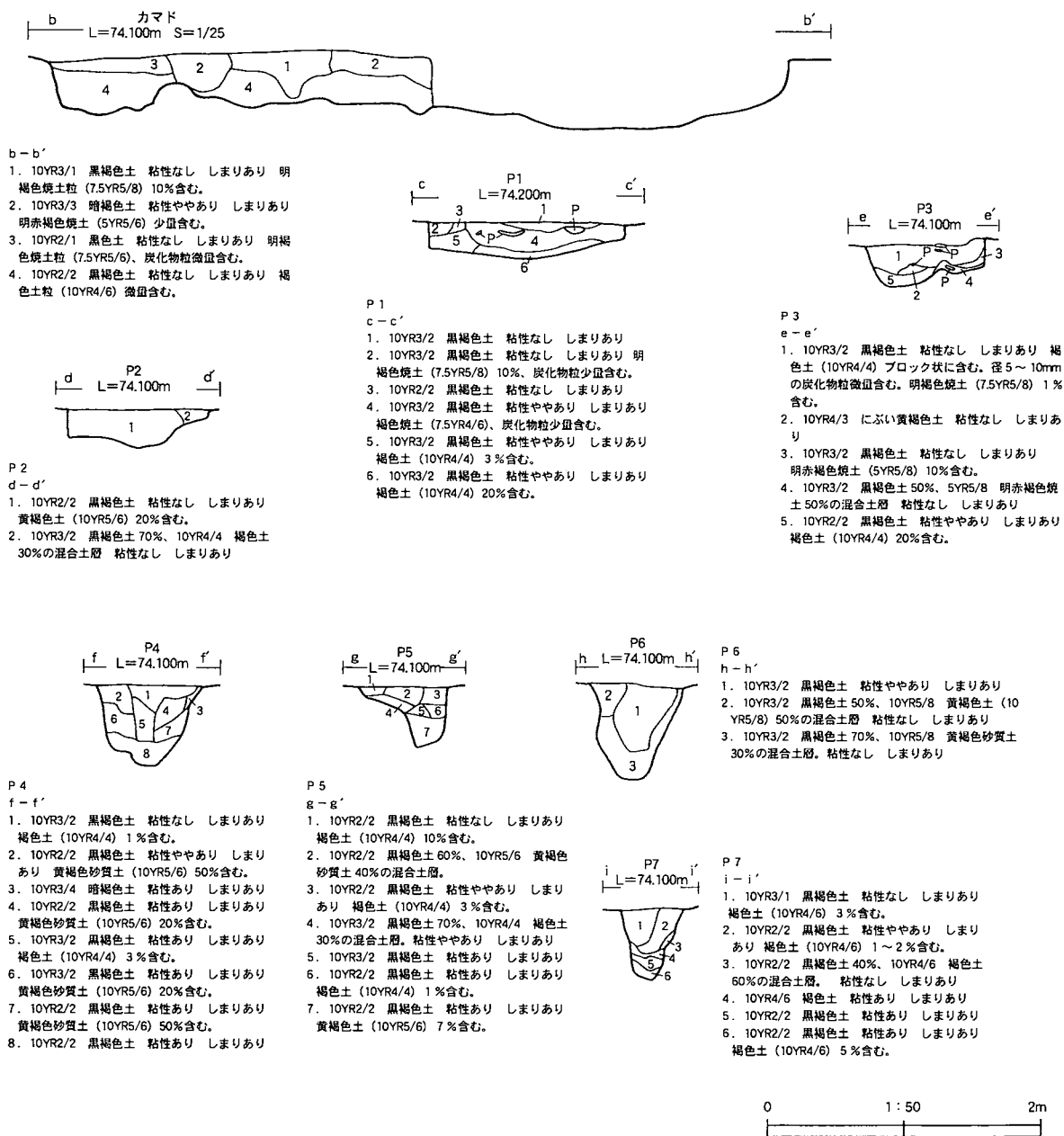
B-B'

- 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色土 (10YR4/4) 微量含む。
- 10YR4/1 褐灰色土 粘性なし しまりあり にぶい黄褐色土 (10YR4/4) 20%含む。

カマド
L=74.100m S=1/25



第41図 16号住居跡



第 42 図 16号住居跡

処理に伴うミガキ、外面がロクロナデ、底部の切り離し技法は回転糸切りによる。

時期 出土遺物から平安時代と考えられる。

17号住居跡

遺構 (第 43 ~ 45 図・写真図版 36・37)

<位置・重複関係> VIB-13 グリッド付近に位置し、表土下の第Ⅲ層で検出された。重複する遺構はない。

<規模・平面形・方向> 規模は 494×480cm、総床面積は約 23.71 m²で平面形は正方形を呈し、主軸は N-21°-W の北北東方向である。

<埋土> 自然堆積を呈し、全体が黒褐色土主体の土層堆積で、明褐色焼土粒が混じる。

<壁> 壁はやや内湾して立ち上がり、壁面残存値は東壁 22cm、西壁 9cm、南壁 4cm、北壁 20cm

である。

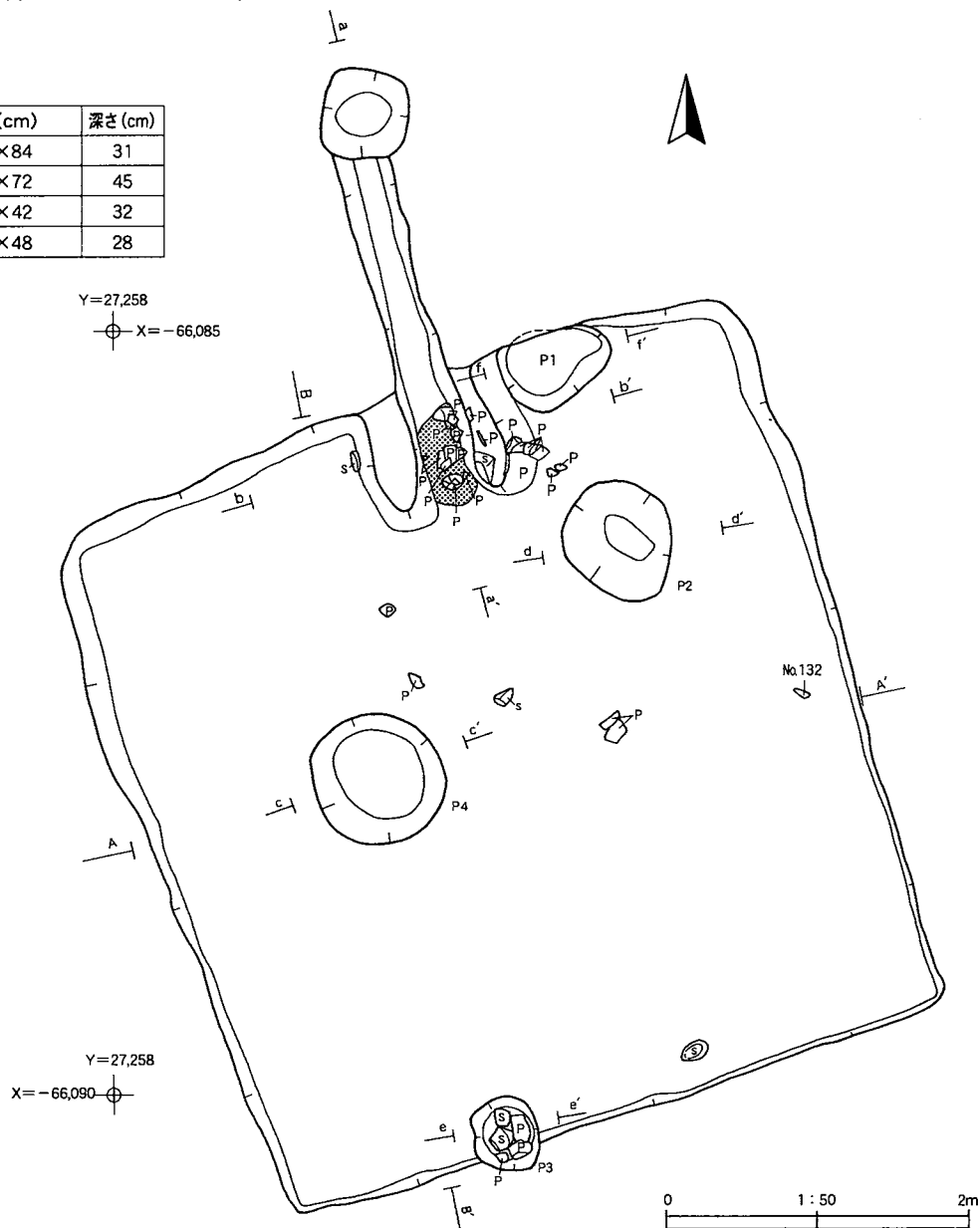
〈床面〉 床面は平坦で、全面に掘り方を持つ。掘り方には褐色土混じりの黒色土が貼られ、厚さは最大で10cmほどである。

〈土坑〉 4基検出された。P3は南壁を切って掘り込まれており、底には土師器片や大きさ10～14cmの礫があった。P4はカマド右袖脇から検出された。やや不整な楕円形をしており、埋土からはカマドの土や土師器片が出土している。P1・P2に関しては出土遺物はなく詳細は不明である。

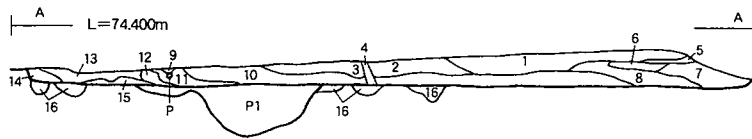
〈カマド〉 北壁の中央に構築され、主軸は住居の主軸とほぼ同じN-21°-Wの北北東方向である。カマドの構造は袖土に黒褐色土を持ち込み、その中に大きさ20cmくらいの礫や土器片を混入して固めて構築されている。また袖土は床面を掘り込んでいる。燃烧部には径63×28cmの範囲に赤褐色～明赤褐色焼土が広がり、焼成の厚さは最大で12cmある。煙道部は掘り込み式の構造であるが、検出時に削平を受けているため、削り貫き式の構造であった可能性もある。煙道部の長さは約152cm、幅は30cm、約13°の傾斜で煙出し部へと下る。煙出し部の開口部径は59×56cm、深さ85cmの土坑状を呈する。

土坑類計測表

No.	径 (cm)	深さ (cm)
P1	98×84	31
P2	84×72	45
P3	50×42	32
P4	74×48	28



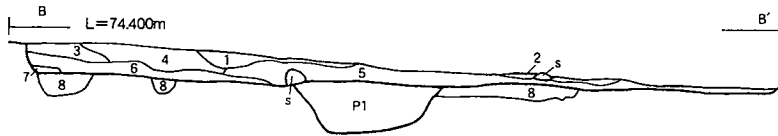
第43図 17号住居跡



A-A'

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 明赤褐色焼土 (5YR5/8 径1~3mm)、径2~5mmの炭化物1%含む。
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 明赤褐色焼土 (5YR5/8 径1~2mm) 3%含む。
3. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 明赤褐色焼土 (5YR5/8 径1~2mm) 微量含む。
4. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりなし
5. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 明赤褐色焼土 (7.5YR5/8 径1~2mm)、炭化物2%含む。
6. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色土 (10YR4/4) 10%、他に炭化物が層上層に微量含まれる。
7. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色土 (10YR4/4) 5%含む。

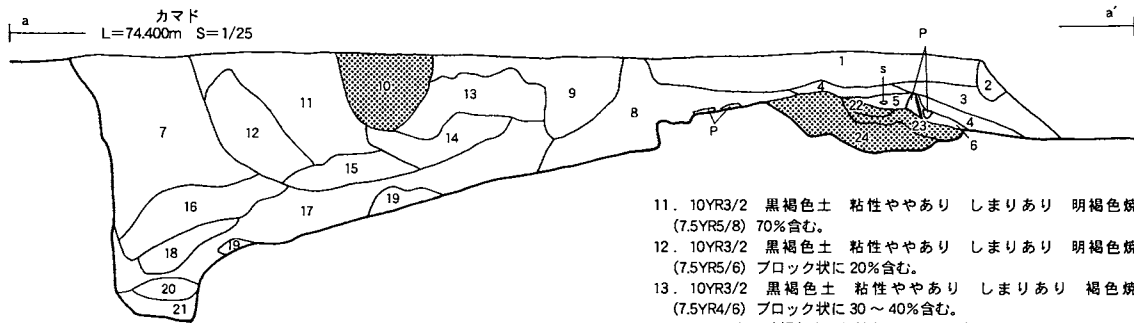
8. 10YR2/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 明赤褐色焼土 (7.5YR5/8 径1mm)、炭化物微量含む。
9. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり
10. 10YR3/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 暗褐色土 (10YR3/4) ブロック状に含む。明褐色焼土 (7.5YR5/8)、炭化物微量含む。
11. 10YR2/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 炭化物微量含む。
12. 10YR2/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり 褐色土 (10YR4/4) 5%含む。
13. 10YR3/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 褐色土 (10YR4/4) 1%含む。
14. 10YR2/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり 褐色土 (10YR4/4) 1%含む。
15. 10YR3/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり 暗褐色土 (10YR3/3) 20%含む。



B-B'

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色焼土 (7.5YR4/6) 10%含む。
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色土 (10YR4/4) 2%含む。
3. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 暗褐色土 (10YR3/4) 2%含む。
4. 10YR3/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 明褐色焼土 (7.5YR5/8 径2~4mm) 微量含む。
5. 10YR3/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 明褐色焼土 (5YR5/8 径1~5mm) 2%含む。

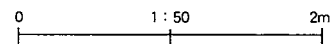
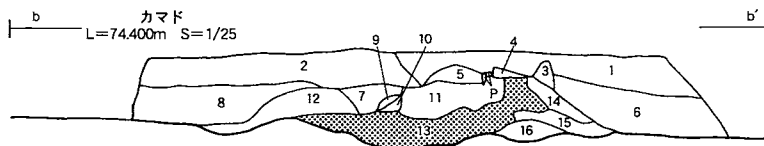
6. 10YR2/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり 暗褐色土 (10YR3/4) ブロック状に含む。
7. 10YR2/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり 明褐色焼土 (5YR5/8) 3%、炭化物含む。
8. 10YR2/1 黒色土 粘性あり しまりあり 褐色土 (10YR4/4) 1~2%含む (貼り床土)。



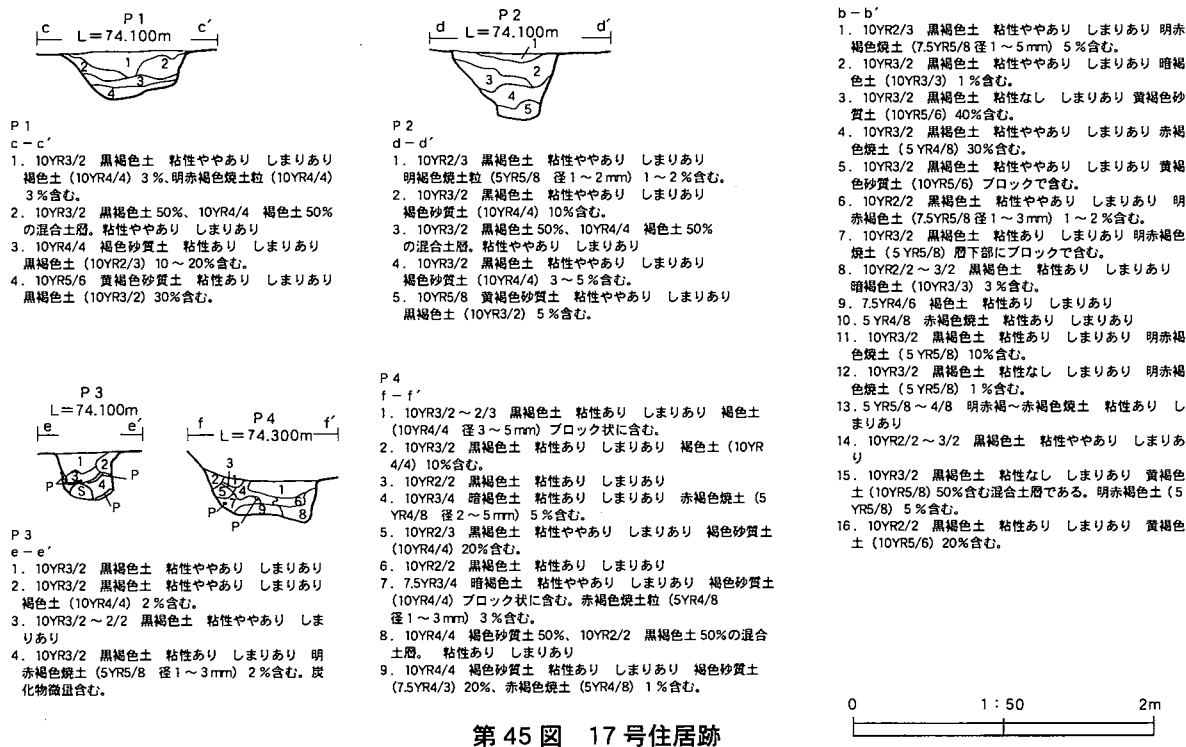
a-a'

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 明褐色焼土 (7.5YR5/8 径1~3mm) 2%含む。
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりややあり
3. 10YR2/2~3/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり
4. 10YR3/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 暗褐色土 (10YR3/3) 20~30%含む混合土層 明褐色焼土粒 (7.5YR5/8 径1~3mm) 2%含む。
5. 10YR3/4 暗褐色土 粘性ややあり しまりあり 明褐色焼土粒 (7.5YR5/8 2~5mm) 1%含む。
6. 5YR4/8 赤褐色焼土 粘性あり しまりあり
7. 10YR3/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 明褐色焼土 (7.5YR5/6 径2~5mm) 3%含む。
8. 10YR3/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 赤褐色焼土 (5YR4/8) 30~40%含む混合土層。
9. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 明褐色焼土粒 (7.5YR5/8 径1~3mm) 微量含む。
10. 5YR5/8 明赤褐色焼土 粘性なし しまりあり 黒褐色土 (10YR3/2) 20~30%含む混合土層。

11. 10YR3/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 明褐色焼土 (7.5YR5/8) 70%含む。
12. 10YR3/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 明褐色焼土 (7.5YR5/6) ブロック状に20%含む。
13. 10YR3/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 褐色焼土 (7.5YR4/6) ブロック状に30~40%含む。
14. 7.5YR3/4 暗褐色土 粘性あり しまりあり
15. 10YR3/4 暗褐色土 粘性あり しまりあり 暗褐色土 (7.5YR3/4) 30%含む混合土層。
16. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりややあり 暗褐色土 (7.5YR3/4) 3~5%含む。
17. 10YR3/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり 暗褐色土 (7.5YR3/3) 3%含む。
18. 7.5YR3/4 暗褐色土 粘性あり しまりあり
19. 10YR3/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり 褐色土 (10YR4/4) 50%含む混合土層。
20. 7.5YR4/4 褐色土 粘性あり しまりあり 暗褐色土 (7.5YR3/4) 10%含む混合土層。
21. 7.5YR4/6 褐色土 粘性あり しまりあり
22. 5YR4/6~4/8 赤褐色焼土 粘性あり しまりあり
23. 10YR3/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり 明赤褐色焼土 (5YR5/8) 10%含む。
24. 5YR5/8~4/8 明赤褐~赤褐色焼土 粘性あり しまりあり



第44図 17号住居跡



第45図 17号住居跡

遺物 (第86図・写真図版72)

<土器> 123~126は住居の埋土から出土したロクロ成形の坏で、123~125は酸化炎焼成、126は還元炎焼成による。器面調整は123・124は内面に黒色処理が施され、ヘラミガキが施されている。124の外面部底部底面~下部にはケズリが施されている。125・126は両面ロクロナデのみ施されている。底部の切り離し技法は123は回転糸切り後、再調整が施されている。125・126は回転篋切り、124は底部切り離し後の再調整により不明である。127は住居床面から出土した還元炎焼成の蓋で成形はロクロ、器面調整は内面にナデ、外面にロクロケズリが施されている。128~130は酸化炎焼成の甕でいずれもカマドの崩落土から出土した。成形は非ロクロ、器面調整は口縁部にヨコナデ、胴部にハケメ、ヘラナデ、底部にナデが施されている。

<石器> 132は住居床面から出土した磨石で、全面に磨り痕が認められ、特に上面の磨り痕が顕著である。

<金属遺物> 131は貼り床土中から出土した欠損した鋤で大きさは長さ12.5cm、幅4.1cm、厚さ0.5cmを測る。

時期 出土した遺物の特徴から9世紀前半に属する遺構である。

18号住居跡

遺構 (第46~48図・写真図版38・39)

<位置・重複関係> VIB-11グリッドに位置し、表土下の第Ⅲ層で検出されたが、検出時の不手際や削平の影響で遺構の南壁は残っていない。19号住居跡と重複し、これを切る。

<規模・平面形・方向> 規模は東西614cm、南北は掘り方痕の範囲から推定して660~680cmである。

<埋土> 自然堆積で、全体が明褐色焼土粒を微量含む黒褐色土主体の層が堆積する。

<壁> 壁は外傾ないし垂直に立ち上がる。壁面残存値は東壁23cm、西壁18cm、北壁19cmである。

<床面> 床面は平坦で堅さはなく、全体に掘り方をもち、黄褐色土粒含む黒褐色土が貼られている。厚さ

は15～23cmである。

<土坑> P1・P2・P7の3基検出された。P1・P2は貯蔵穴でP1からは土師器の破片、P2からは20cmほどの礫が4点出土している。P7は貼り床土下から検出された。

<柱穴> P3～P6・P8の5基が検出された。柱痕の径は大きいもので50×46cm、小さいもので38×32cm、検出面からの深さは約40～80cmと幅があるが、これは削平による検出面の違いであり、底面の標高はほぼ同じ値を測る。柱間の距離は東西約320cm、南北約470cmである。

<カマド> 東壁のやや南よりに1基設けられている。残存状況は比較的良であったが、南半は削平の影響で消失している。袖は褐色土混じりの黒褐色土を持ち込んで固めて構築されている。燃焼部には約128×74cmの範囲に赤褐色焼土が広がり、層厚は最大で12cmある。煙道部は掘り込み式の構造で長さは約180cm、緩い傾斜で煙出し部へと延びる。

遺物 (第87・88図・写真図版73)

<土器> 133～136は酸化炎焼成の坏で133・134は住居埋土、135はP5、136はP9の底面から出土した。器面調整は133・134は内面が黒色処理され、ミガキが施されている。135・136は両面ロクロナデ調整である。底部の切り離し技法はいずれも回転糸切りによる。137・138は還元炎焼成の坏で137はP1、138は住居埋土から出土した。成形はロクロ、器面調整はロクロナデのみである。底部の切り離し技法はいずれも回転糸切りによる。139はカマドの崩落土から出土した酸化炎焼成の甕で成形はロクロ、口縁部～胴部の器面調整はロクロナデ、胴部外面にはさらにケズリが施される。140は住居の埋土下部から出土した還元炎焼成の甕で成形はロクロ、器面調整は胴部内面にロクロナデ、外面はロクロナデーケズリ、底面にはケズリが施されている。

<土製品> 140は土錘の破片で半分以上が欠損している。

<石器> 141は磨石でP2から出土した。長さ13.9cm、幅11.7cm、厚さ4.0cmの扁平な形状で両面に磨痕が認められる。

<金属遺物> 142はカマドの崩落土から出土した鉄鎌の刃部、143は床面出土の鉄鏃である。

時期 出土遺物から平安時代と考えられる。

19号住居跡

遺構 (第46～48図・写真図版40)

<位置・重複関係> VIA-11グリッドに位置し、表土下の第Ⅲ層で検出された。遺構表面は削平を受けている。18号住居跡と重複し、これに切られている。

<規模・平面形・方向> 規模は南北294cm、東西は重複のため計測不能、平面形は方形状を呈すると思われる。主軸方向は遺構が歪むためやや不明であるが、おおよそ北北西方向である。

<埋土> 自然堆積で、上～中位は褐色土と黒褐色土、下位は赤褐色焼土を微量含む黒褐色土が堆積している。

<壁> 壁はいずれも外傾して立ち上がる。壁面残存値は西壁13cm、南壁14cm、北壁18cmである。

<床面> 床面は平坦～緩い凹凸の波があり、全体に掘り方をもち、にぶい黄褐色土を僅かに含む黒褐色土が貼られている。厚さは7～14cmである。

<土坑> 2基検出された。P1は径84×76cm、深さは11cmを測る。プランの曖昧さから掘り方痕の可能性もある。P2は径30×27cm、深さは20cmほどの柱穴状小土坑である。

<カマド> 北壁の東よりに構築され、主軸は住居の軸よりやや真北方向と推測されるが、煙道部～煙出し部が検出されていないため詳細は不明である。カマドの袖は黒褐色土を持ち込んで作られたと思われ、燃焼

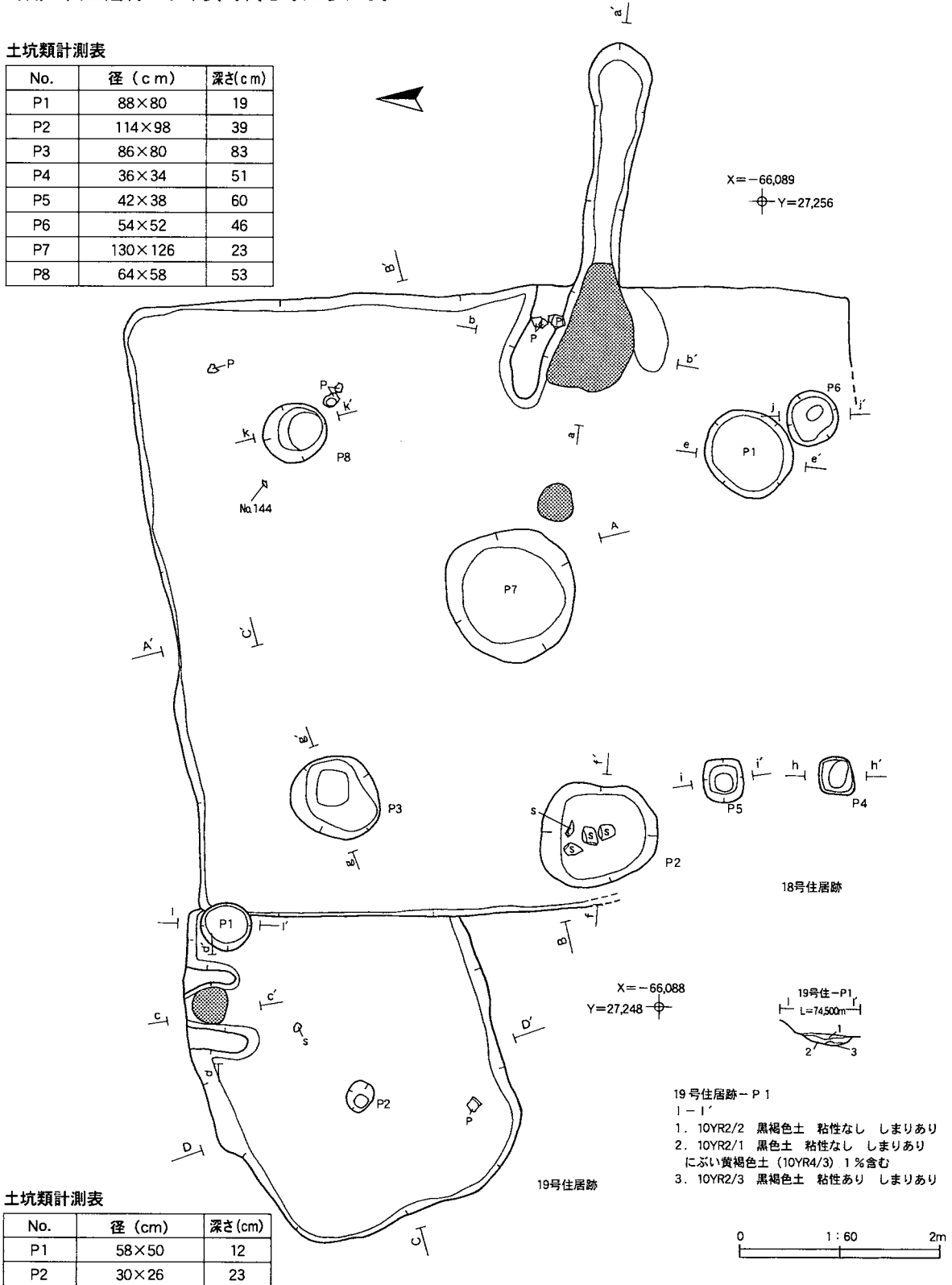
部には 37×36cm の範囲に赤褐～明赤褐色焼土が広がり、焼土の厚さは最大で約 5 cm ある。

遺物 埋土から坏・甕の小破片が少量出土した。酸化炎焼成の坏の底部切り離しは回転糸切り、還元炎焼成の坏の底部は回転ヘラキリによる（いずれも小破片のため不掲載）。

時期 出土遺物から平安時代と考えられる。

土坑類計測表

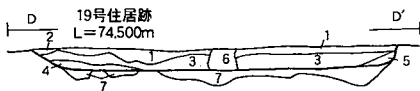
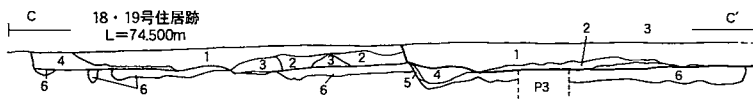
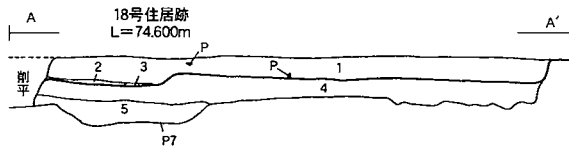
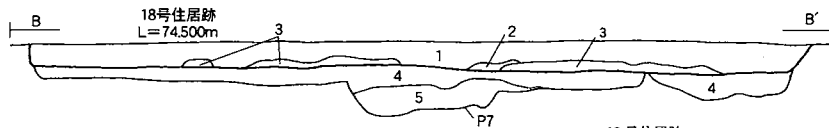
No.	径 (cm)	深さ (cm)
P1	88×80	19
P2	114×98	39
P3	86×80	83
P4	36×34	51
P5	42×38	60
P6	54×52	46
P7	130×126	23
P8	64×58	53



土坑類計測表

No.	径 (cm)	深さ (cm)
P1	58×50	12
P2	30×26	23

第 46 図 18・19 号住居跡

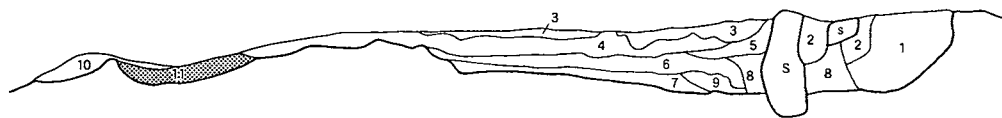


19号住居跡

D-D'

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色土 (10YR4/4) 2%、明赤褐色焼土 (5YR5/8) 1%含む。
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色土 (10YR4/4) 3%、赤褐色焼土 (5YR4/8) 微量含む。
3. 10YR3/1~3/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 明赤褐色焼土 (5YR5/8) 微量含む。
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり
5. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色土 (10YR4/4) 3~5%含む。
6. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり
7. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 1%含む (貼り床土)。

18号住-カマド
L=74.500m S=1/30



18号住居跡-カマド

a-a'

1. 10YR3/2~2/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 赤褐色焼土粒 (5YR4/8 径2~5mm) 7%含む。
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 赤褐色焼土粒 (5YR4/8)、炭化物少量含む。
3. 10YR3/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 褐色土 (10YR4/4) 3%、明赤褐色焼土 (5YR5/8) 10%含む。
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 褐色土 (10YR4/4) 10%、明赤褐色焼土 (5YR5/8) 少量含む。
5. 10YR3/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 暗褐色土 (10YR3/3) 50%、赤褐色焼土 (5YR4/8) 5%含む。
6. 10YR2/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 褐色土 (10YR4/4) 40%、明赤褐色焼土 (5YR5/8) 微量含む。
7. 10YR3/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり
8. 10YR3/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり 明褐色焼土 (5YR5/8) 5%含む。
9. 10YR2/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり 褐色土 (10YR4/4) 50%含む。
10. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 明褐色焼土 (7.5YR5/8) 1%含む。
11. 5YR4/6 赤褐色焼土 粘性なし しまりあり

18号住居跡

A-A'、B-B'

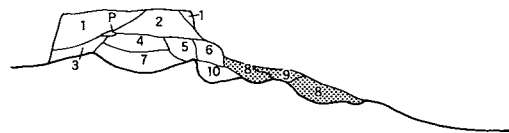
1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 明褐色焼土 (7.5YR5/8) 1%含む。
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色土 (10YR4/4) 2%、明褐色焼土 (7.5YR5/8) 微量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 明褐色焼土 (7.5YR5/8) 微量含む。
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 黄褐色土粒 (10YR5/6 径5~8mm) 1~2%含む。
5. 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし しまりあり にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 霏降り状に5~10%含む。

18・19号住居跡

C-C'

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 明赤褐色焼土粒 (5YR5/8) 3%、褐色土 (10YR4/4) 少量含む。
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 明赤褐色焼土粒 (5YR5/8) 微量、黄褐色土 (10YR5/6) 3~5%含む。
3. 10YR3/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり
4. 10YR3/2~2/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり
5. 10YR3/3 暗褐色土
6. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 1%含む (貼り床土)。

18号住-カマド
L=74.500m S=1/30



18号住居跡-カマド

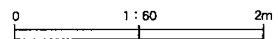
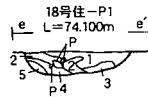
b-b'

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 明赤褐色焼土 (5YR5/8)、炭化物微量含む。
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 明赤褐色焼土 (5YR5/8) 1%含む。
3. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色土 (10YR4/4) 10%、明赤褐色焼土 (5YR5/8) 2~3%含む。
4. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色土 (10YR4/6) 20%、橙色焼土粒 (5YR6/8) 10%含む。
5. 10YR2/1 黒色土 粘性なし しまりあり
6. 10YR2/1 黒色土 粘性なし しまりあり にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 50%含む。
7. 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし しまりあり にぶい黄褐色土 (10YR6/4)、橙色焼土粒 (5YR6/8 径4~6mm) 少量含む。
8. 5YR4/6 赤褐色焼土 粘性なし しまりあり
9. 5YR6/8 橙色焼土 粘性なし しまりあり
10. 10YR2/1 黒色土 粘性なし しまりあり

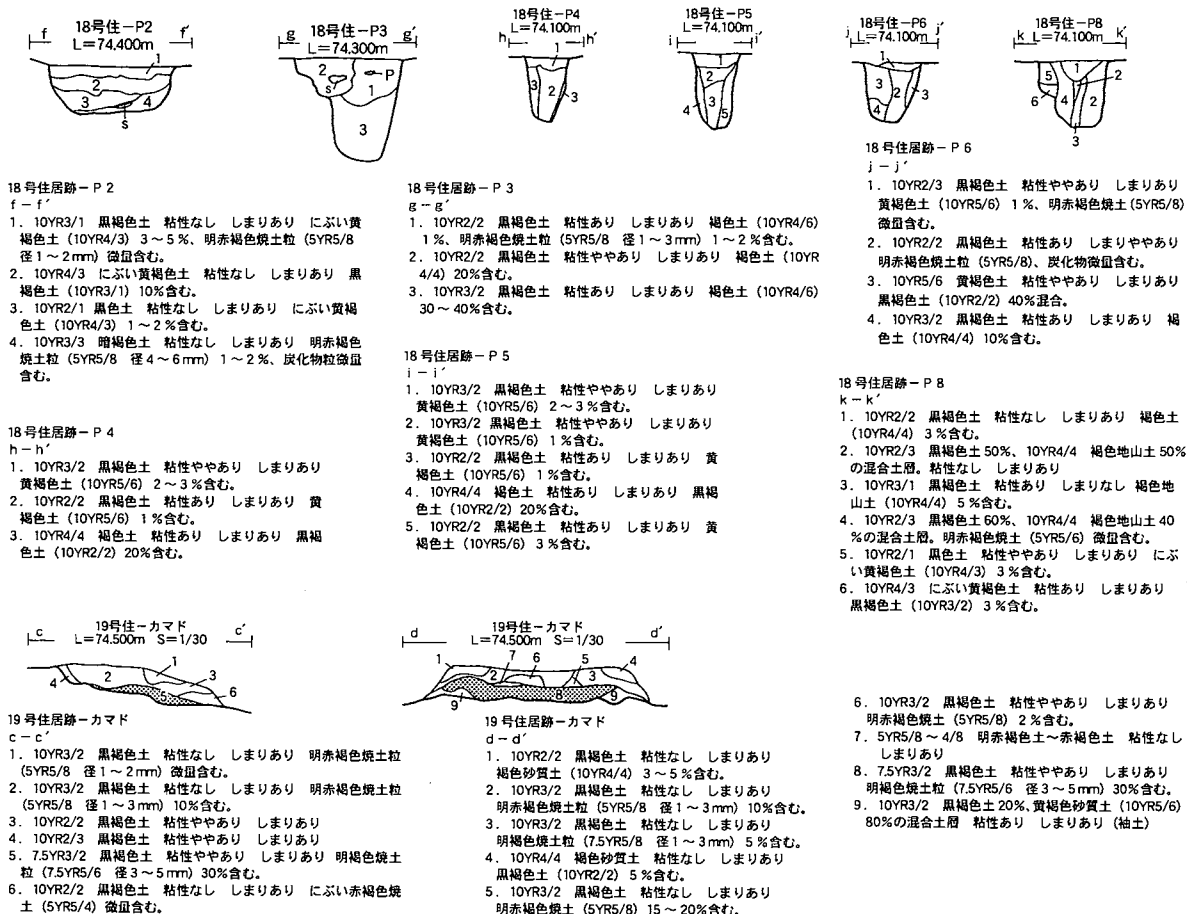
18号住居跡-P1

e-e'

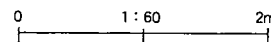
1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 暗褐色土粒 (10YR3/4) 5%、明赤褐色焼土粒 (5YR5/8 径1~2mm) 含む。
2. 10YR4/4 褐色土 粘性ややあり しまりあり 黒褐色土 50%含む混合土層 明赤褐色焼土 (5YR5/8)、炭化物粒 2~3%含む。
3. 10YR3/4 暗褐色土 粘性ややあり しまりあり 黒褐色土 (10YR3/2) 3%含む。
4. 10YR4/4 褐色土 粘性あり しまりあり 黒褐色土 (10YR3/2) 10%、明赤褐色焼土 (5YR5/8 径1~2mm) 少量含む。
5. 10YR3/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり



第47図 18・19号住居跡



第48図 18・19号住居跡



20号住居跡

遺構 (第49図、写真図版41)

<位置・重複関係> VIB-15グリッドに位置し、第三層で検出された。5号溝と重複し、これを切る。

<規模・平面形・方向> 規模は304×390cm、総床面積は約11.85㎡、平面形は長方形を呈する。

<埋土> 全体的に黒褐色土による堆積で上位には炭化物、明褐色焼土などを微量含む。

<壁> 壁は西壁はやや外反、他はやや内湾ぎみに立ち上がり、壁面の残存値は東壁18cm、西壁17cm、南壁14cm、北壁18cmである。

<床面> 床面は平坦で、明確な掘り方痕はない。

<柱穴> 3基の柱穴状土坑を検出した。P1は南西壁際で検出され、径38×22cm、深さ11cmと浅い。P2・P3は規模・深さともに同じ位の値で支柱穴と考えられる。

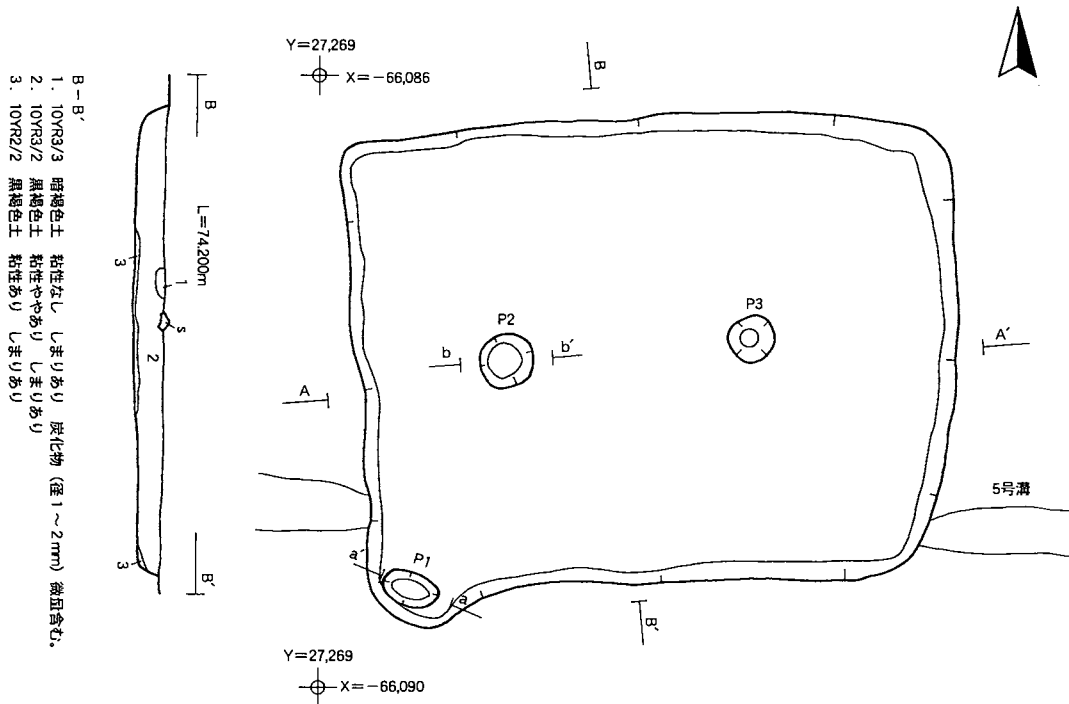
<遺構の性格> 出土遺物が少ないこと、カマドが設けられていないことから住居でなく、小屋的な建物であったと考えられる。

遺物 (第88図、写真図版73)

<土器> 埋土から酸化炎焼成による甕の小破片が微量出土した。いずれも大きさ2cm前後で摩滅が激しく、遺構内で使用されたのではなく、遺構外から流れ込んだものと考えられる(いずれも小破片のため不掲載)。

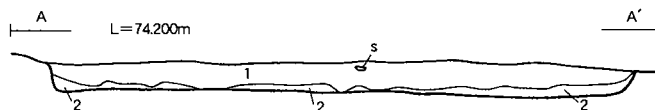
<石器> 145は埋土から出土した磨石で長さ13.4cm、幅6.8cm、厚さ3.9cmである。

時期 遺構の検出面から平安時代と考えられる。



土坑類計測表

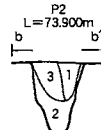
No.	径 (cm)	深さ (cm)
P1	38×22	11
P2	36×36	46
P3	32×30	48



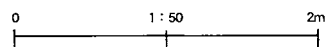
A-A'
 1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり 径1~5mmの炭化物、明褐色焼土 (7.5YR5/8) 2%含む。
 2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり



P1
 a-a'
 1. 10YR3/3 暗褐色土 粘性ややあり しまりあり 黒褐色土 (10YR2/2) 2~3%含む。
 2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり



P2
 b-b'
 1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 褐色土 (10YR4/4) 10%含む。
 2. 10YR3/2 ~ 2/3 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり
 3. 10YR3/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり 褐色土 (10YR4/4) 1%含む。



第 49 図 20 号住居跡

21 号住居跡

遺構 (第 50・51 図、写真図版 42・43)

<位置・重複関係> VC-65 グリッドで検出された。重複する遺構はない。

<規模・平面形・方向> 規模 400×460 cm、総床面積は約 18.40 m²、平面形は方形を呈し、主軸方向は E-5°-S である。

<埋土> 自然堆積で上~中位は明黄褐色土を含む黒褐色土、下位は明褐色焼土含む黒色土が堆積している。

<壁> 壁はいずれも外傾して立ち上がり、壁面の残存値は東壁 18cm、西壁 14cm、南壁 17cm、北壁 18cm である。

<床面> 床面は平坦で固くしまり、全体に掘り方痕がある。掘り方痕には黄橙色土粒を含む黒褐色土が貼られている。

<土坑> カマド脇からP1が検出された。貯蔵穴で遺構内埋土から多量の土器が出土している。

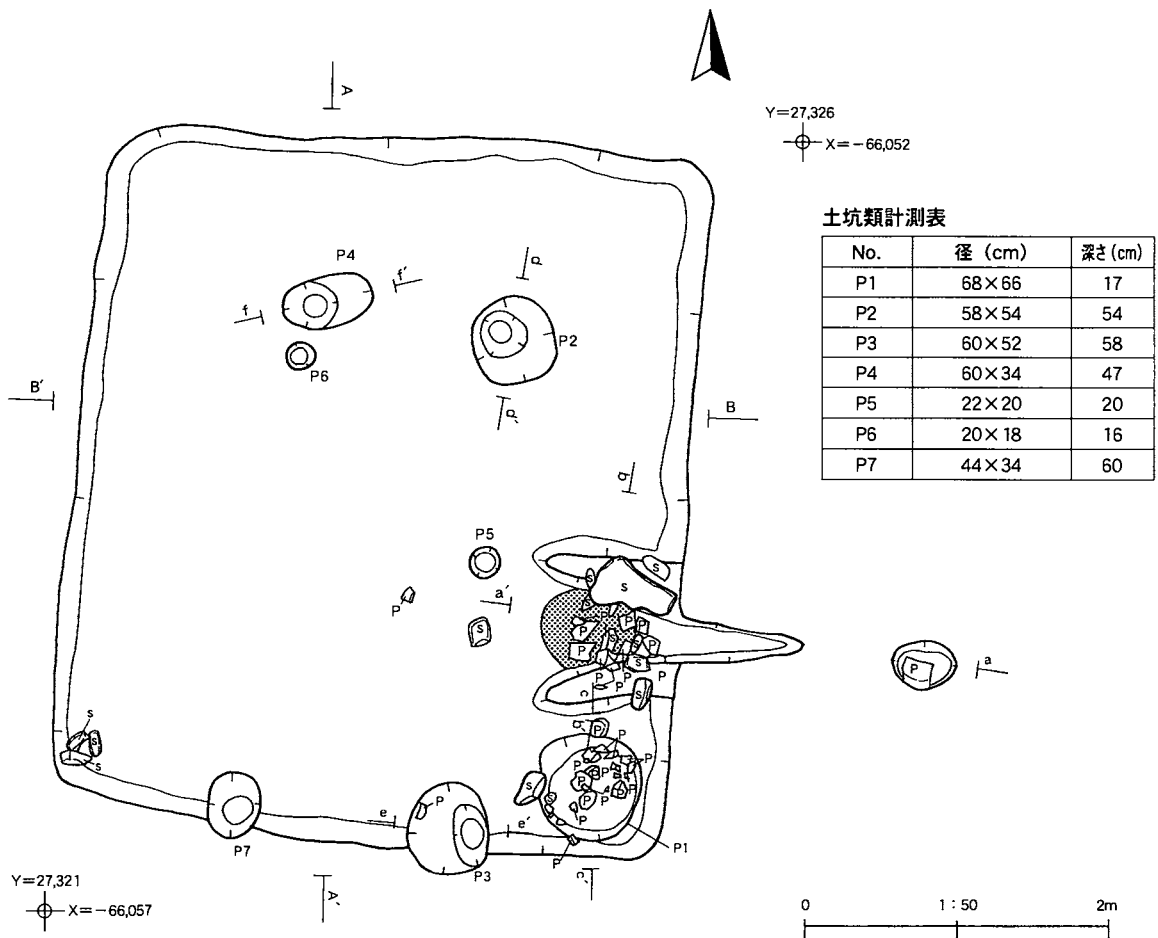
<柱穴> P2～P7の6基が検出されたこのうちP2～P4・P7が規模や位置から主柱穴と考えられ、柱間は南北300cm弱、東西約100～130cmである。

<カマド> 東壁のやや南よりに1基設けられている。袖は左袖が約30cmの礫、右袖は10cm大の礫や土器片をそれぞれ芯材とし、これを明黄褐色土混じりの黒褐色土で覆い固め、構築されている。燃烧部には約62×50cmの範囲に赤褐色焼土が広がり、層厚は最大で9cmある。煙道部は掘り込み式の構造で長さは約140cmあったと考えられるが、残存するのは80cmのみである。煙出し部は径42×32cm、深さ26cmで形状は円筒状であり、底面から土師器甕の破片が出土している。

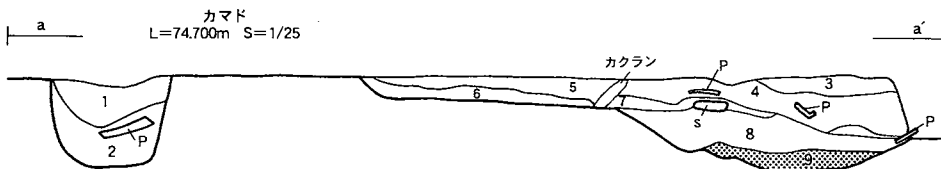
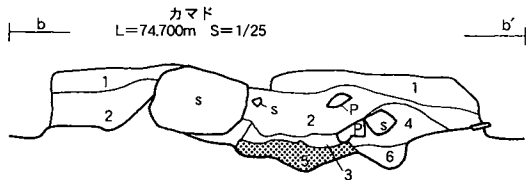
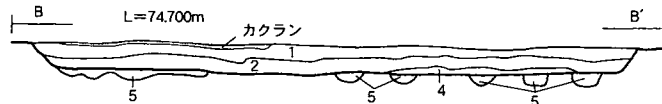
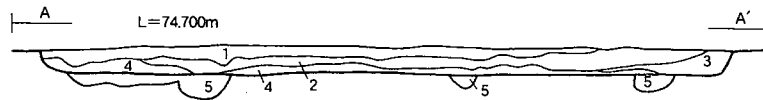
遺物 (第88・89図、写真図版74)

146～151はP1の埋土中～下位、152はカマドの崩落土から出土した。146～149は酸化炎焼成の坏で成形はロクロ、器面調整は149は両面ロクロナデ、146～148の器体内面は黒色処理され、ヘラミギキが施されている。底部の切り離し技法はいずれも回転糸切りによる。150～152は酸化炎焼成の甕で成形はロクロ、器面調整は口縁部～胴部はロクロナデ、胴部外面下半にはヘラケズリが施される。底部の切り離し技法は150は回転糸切りによる。152の底部には篋削り調整が施されている。

時期 出土遺物の特徴から9世紀末葉の遺構と考えられる。



第50図 21号住居跡



A-A' B-B'

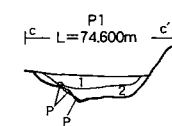
1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし しまりあり 明黄褐色土 (10YR7/6) 10%含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり 明黄褐色土 (10YR7/6) 10%、炭化物微量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 炭化物粒筋状に1%以下含む。
4. 10YR2/1 黒色土 粘性なし しまりあり 明褐色焼土粒 (7.5YR5/6) 1~2%含む。
5. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 黄褐色土 (10YR7/8) 1~2%含む (貼り床土)。

b-b'

1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性あり しまりあり 明黄褐色土粒 (10YR7/6) 1%含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 赤褐色焼土粒 (5YR4/6) 微量含む。
3. 10YR3/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり 橙色焼土 (5YR6/8) 1%含む。
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 橙色焼土 (5YR6/8) 微量、炭化物粒微量含む。
5. 5YR4/6 赤褐色焼土 粘性なし しまりあり
6. 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし しまりあり 橙色焼土 (5YR6/8) 微量含む。

a-a'

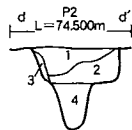
1. 7.5YR3/1 黒褐色土 粘性なし しまりあり 明赤褐色焼土粒 (5YR5/6) 5%含む。
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり 明赤褐色焼土粒 (5YR5/6) 径10mm) 1%、炭化物粒1%含む。
3. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり にぶい黄褐色土 (10YR6/4) 1%含む。
4. 10YR3/1 黒褐色土 粘性あり しまりあり 明黄褐色土粒 (10YR7/6) 1%含む。
5. 10YR3/1 黒褐色土 50%、7.5YR4/4 褐色土 50%の混合土層 粘性あり しまりあり
6. 10YR2/1 黒色土 粘性あり しまりあり
7. 7.5YR4/6 褐色焼土 80%、7.5YR3/1 黒褐色土 20%の混合土層 粘性あり しまりあり
8. 7.5YR3/1 黒褐色土 粘性あり しまりあり 明赤褐色焼土 (5YR5/6) 30%含む。
9. 5YR4/6 赤褐色焼土 粘性なし しまりあり



P 1

c-c'

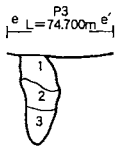
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 赤褐色焼土粒 (5YR4/8) 微量、径5mmの炭化物粒微量含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性あり しまりあり 赤褐色焼土粒 (5YR4/8) 5%、径8~10mmの炭化物粒微量含む。土器片多く含む。



P 2

d-d'

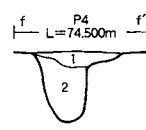
1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし しまりあり 明黄褐色土 (10YR7/6) 10%含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし しまりあり
3. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 灰黄褐色土 (10YR4/2) 3%含む。



P 3

e-e'

1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし しまりあり 明黄褐色土 (10YR7/6) 5%、明赤褐色焼土粒 (5YR5/6) 径2~3mm) 微量含む。
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 明黄褐色土 (10YR7/6) 10%含む。
3. 10YR4/2 灰黄褐色土 粘性あり しまりあり



P 4

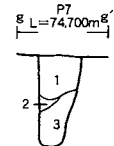
f-f'

f-f'

P 4

f-f'

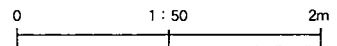
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 明黄褐色土 (10YR7/6) 3%含む。
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり



P 7

g-g'

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 明黄褐色土 (10YR6/6) 霜降り状に10%含む。
2. 10YR2/1 黒色土 粘性あり しまりあり
3. 10YR2/1 黒色土 60%、10YR3/2 黒褐色土 40%の混合土層。粘性なし しまりあり



第 51 図 21号住居跡

22号住居跡

遺構（第52～55図、写真図版44・45）

〈位置・重複関係〉 VC-63グリッドに位置し、表土下の第Ⅲ層で検出された。遺構の南半が調査区外に延び、精査不能である。重複する遺構はない。

〈規模・平面形・方向〉 遺構全体の規模は不明、東西466cmで平面形は方形状を呈すると推定される。

〈埋土〉 自然堆積で、全体に黒褐色土主体の層が堆積し、明黄褐色土粒を僅かに含む。

〈壁〉 垂直に近い角度で立ち上がり、壁面残存値は東壁24cm、西壁4cm、北壁28cmである。

〈床面〉 床面は平坦で全体に掘り方を持つ。掘り方の埋土は褐色土（地山）を多く含む黒褐色土である。

〈土坑〉 4基検出した。P1はカマド脇から検出され、埋土にはカマドの崩落土、土師器片が含まれていた。P2・P3はともに大きめな土坑であるが、立ち上がりはやや曖昧で出土遺物も少ない。P4の埋土からは土師器片や金属遺物（刀子）が出土している。

〈柱穴〉 2基検出した。P5・P6の規模はそれぞれ径22×20cm、径20×18cm、深さは20cmである。

〈カマド〉 北壁に1基、東壁に2基検出された。1号カマドは北壁のほぼ中央に設けられ、袖部～天井部は12～32cmほどの大きさの礫を芯材にし、持ち込んだ黒褐色土でこれらを覆い固め、構築されている。燃焼部には約78×56cmの範囲でにぶい赤褐色焼土が広がり、層厚は最大で8cmある。煙道部は掘り込み式の構造で長さは約190cmで底面は煙道部中央部がやや窪んだ緩いU字状になっている。煙出し部底面から長さ16cm、22cmの礫が2点出土している。2号カマドは東壁、3号カマドの南側に構築されたものである。袖はなく、燃焼部には径42×28cmの範囲で焼土が広がる。煙道部は掘り込み式の構造で長さは182cmで西から40cmの所までは平坦で、そこから31°の傾斜で煙出し部へと下る。埋土は褐色地山土を多く含む黒色土、黒褐色土で埋め戻したと考えられる。3号カマドは東壁に設けられ、袖は褐色土粒混じりの黒褐色土を持ち込んで固めたもので、右袖に関しては2号カマドの左袖を再利用した可能性がある。燃焼部には径66×57cmの範囲でにぶい赤褐色焼土が広がり、焼成は最大で8cmの厚さである。煙道部は掘り込み式の構造で長さは190cm、約21°の傾斜で煙出し部へと下り、80cmのところまで傾斜は緩む。

カマドは同時期に使用されたものではなく、残存状況から2号カマド（古）→3号カマド→1号カマド（新）の関係が確認できる。

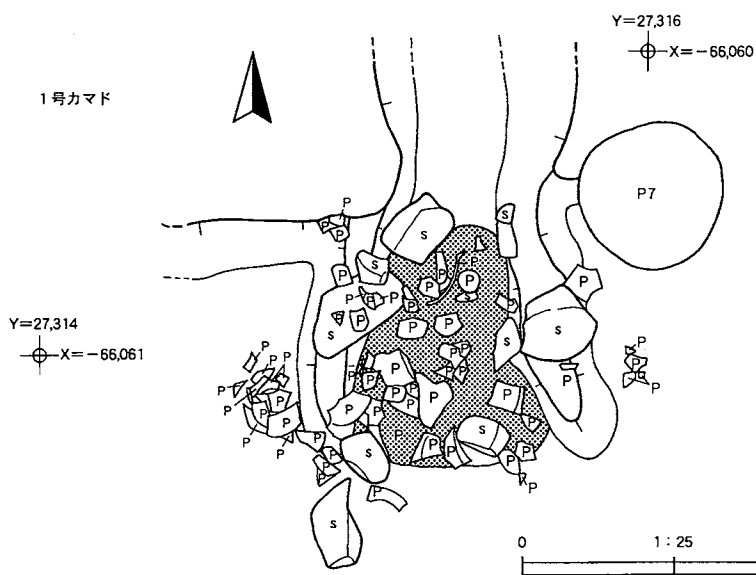
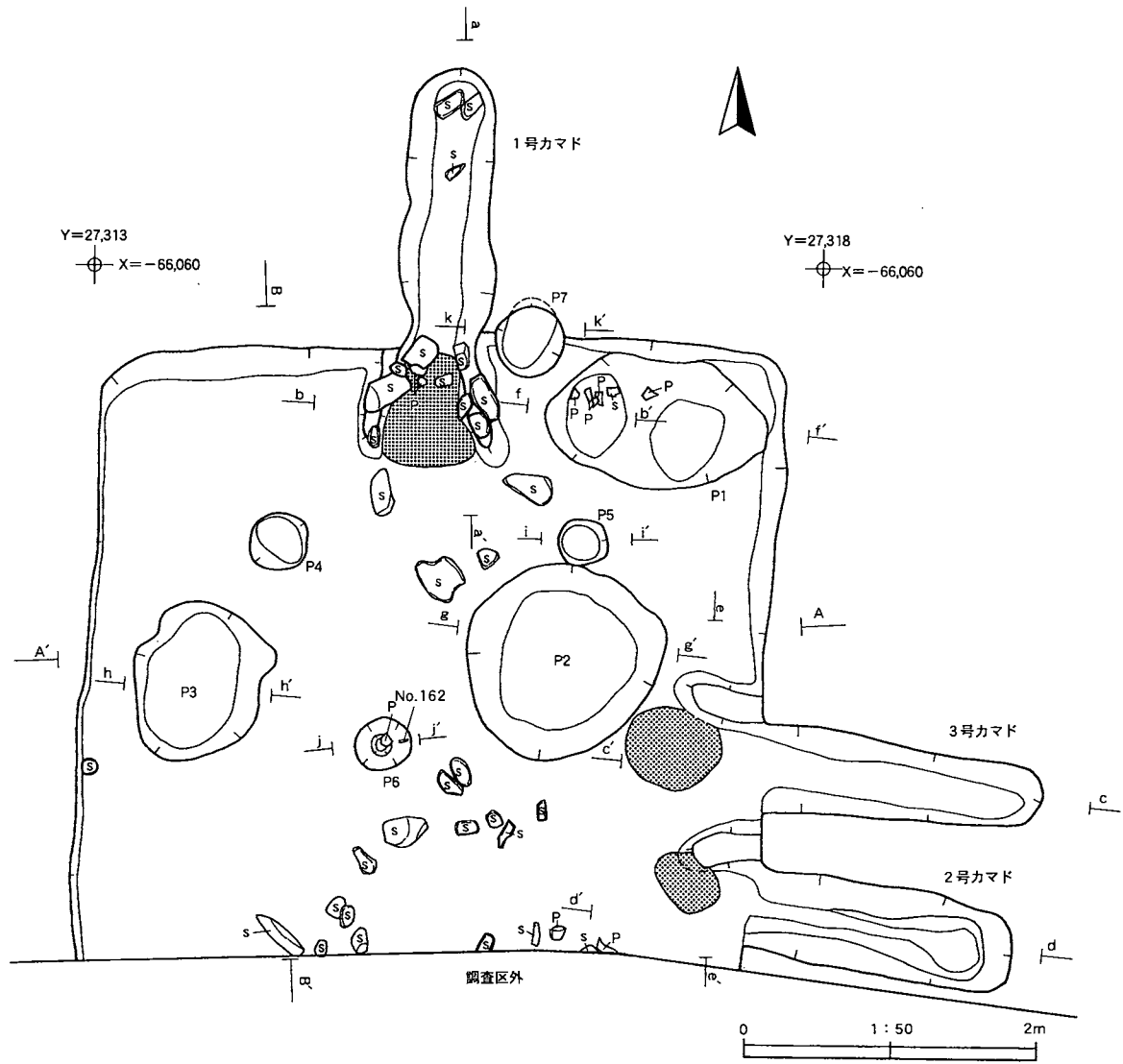
遺物（第89・90図、写真図版74・75）

153～157は坏で153はP1埋土3層、154はP6の底面、155・156は1号カマド燃焼部、157は3号カマド燃焼部から出土した。いずれもロクロ成形で、153～156は酸化炎焼成、157は還元炎焼成による。器面調整は153・154は外面ロクロナデ、内面は黒色処理に伴いミガキが施されている。155～157は両面ロクロナデ調整のみである。底部の切り離し技法はいずれも回転糸切りによるもので154は切り離し後に筥削り再調整が施されている。158～160は1号カマド燃焼部から出土した酸化炎焼成の甕で159の一部破片は3号カマド燃焼部からも出土している。成形は輪積み→ロクロ成形→下半ヘラケズリ（ヘラナデ）の順でタタキ成形の痕跡は明確には見あたらない。底部にはナデが施されている。161は還元炎焼成の甕で口縁部はロクロ成形である。

〈金属遺物〉 162は住居床面から出土した刀子で長さ14.6cm、幅1.8cm、厚さ1.0cmである。

〈土製品〉 土錘（163）が住居埋土2層から1点出土した。長さ4.17cm、幅1.88cmで円筒状を呈する。色調は浅黄橙色で片端が欠損している。

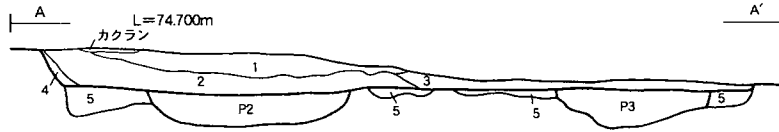
時期 出土遺物から平安時代の遺構と考えられる。



土坑類計測表

No.	径 (cm)	深さ (cm)
P1	152×88	34
P2	134×130	18
P3	110×90	17
P4	38×38	50
P5	34×32	39
P6	38×36	25
P7	48×46	26

第52図 22号住居跡

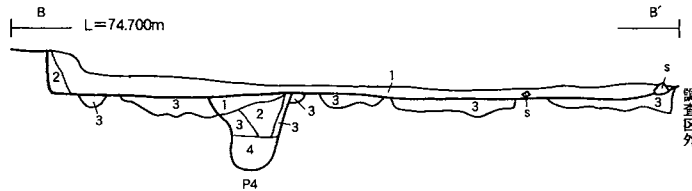


A-A'

1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし しまりあり 明黄褐色土 (10YR7/6 径2~3mm) 2%含む。
2. 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし しまりあり 明黄褐色土 (10YR7/6 径2~3mm) 微量、赤褐色焼土粒 (5YR4/8) 微量含む。
3. 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし しまりあり 明黄褐色土 (10YR7/6 径2~3mm) 微量含む。
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 黒色土 (10YR2/1) 5%含む。
5. 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色土 (10YR4/4) 20%含む (貼り床土)。

B-B'

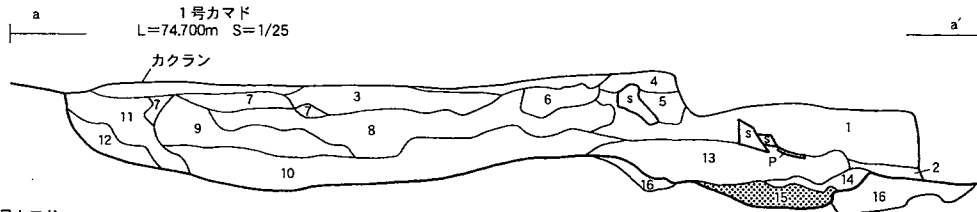
1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし しまりあり 明黄褐色土 (10YR7/6 径2~3mm) 微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり (振りすぎ?)
3. 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色土 (10YR4/4) 20%含む (貼り床土)。



P4

B-B'

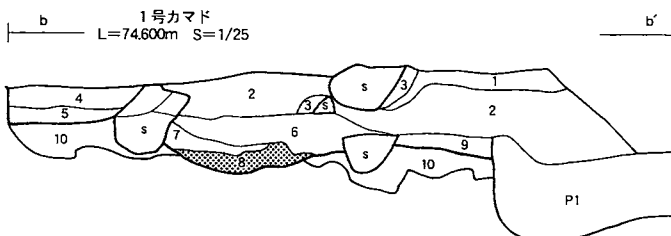
1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし しまりあり
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色砂質土 (10YR4/6) 10%含む。
3. 10YR3/1 黒褐色土 粘性あり しまりあり 暗褐色土 (10YR3/4) 20%含む。
4. 10YR3/2 黒褐色土 粘性あり しまりなし 褐色砂質土 (10YR4/6) 20%含む。



1号カマド

a-a'

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし しまりあり 明黄褐色土 (10YR7/6) 微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 赤褐色焼土 (5YR4/6) 5%含む。
3. 10YR2/3 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 明褐色焼土 (7.5YR5/6) 微量含む。
4. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり
5. 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし しまりあり 明赤褐色焼土粒 (5YR5/8 径2mm) 微量含む。
6. 5YR4/6 赤褐色焼土 粘性なし しまりあり 極暗褐色土 (7.5YR2/3) 30%含む。
7. 7.5YR3/3 暗褐色焼土 粘性ややあり しまりあり
8. 7.5YR3/3 暗褐色焼土 粘性ややあり しまりあり 赤褐色焼土 (5YR4/6) 10~20%含む。
9. 10YR3/1 黒褐色土 粘性ややあり
10. 7.5YR3/3 暗褐色焼土 粘性ややあり しまりあり
11. 7.5YR4/6 褐色焼土 粘性なし しまりあり 黒褐色土 (10YR2/2) 40%含む。
12. 10YR2/1 黒色土 粘性あり しまりあり
13. 5YR5/8 明赤褐色焼土 70%、10YR3/2 黒褐色土 30%の混合土層。粘性なし しまりあり
14. 5YR6/8 橙色焼土 50%、10YR4/1 褐灰色土 50%の混合土層 粘性ややあり しまりあり
15. 5YR4/4 にぶい赤褐色焼土 粘性なし しまりあり
16. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 明黄褐色土 (10YR7/6) 1%含む (貼り床土)。

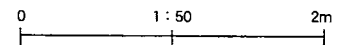


1号カマド

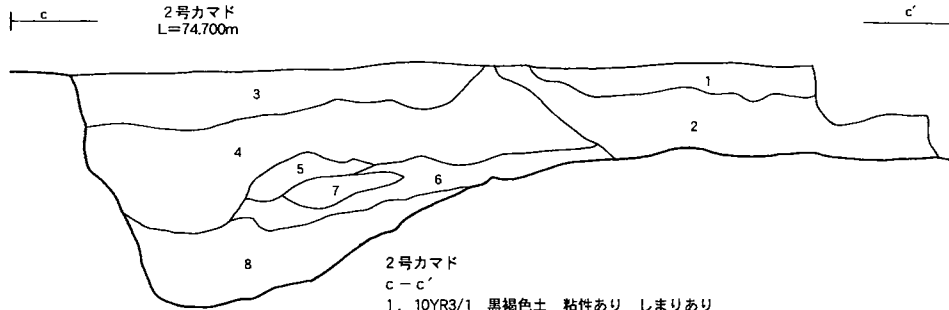
b-b'

1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし しまりあり 明黄褐色土粒 (10YR7/6) 40%含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし しまりあり 明黄褐色土粒 (10YR7/6) 微量含む。

3. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 明黄褐色土粒 (10YR7/6) 微量含む。
5. 10YR2/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 明黄褐色土粒 (10YR7/6) 3%含む。
6. 5YR5/8 明赤褐色焼土 70%、10YR3/2 黒褐色土 30%の混合土層 粘性なし しまりあり
7. 5YR6/8 橙色焼土 50%、10YR4/1 褐灰色土 50%の混合土層。粘性ややあり しまりあり
8. 5YR4/4 にぶい赤褐色焼土 粘性なし しまりあり
9. 10YR4/2 灰黄褐色土 粘性なし しまりあり
10. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 明黄褐色土 (10YR7/6) 1%含む (貼り床土)。



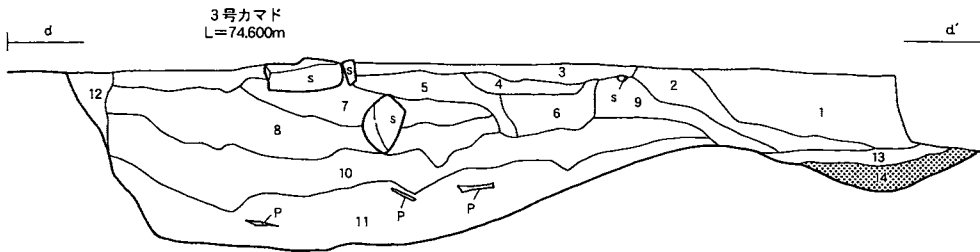
第53図 22号住居跡



2号カマド

c-c'

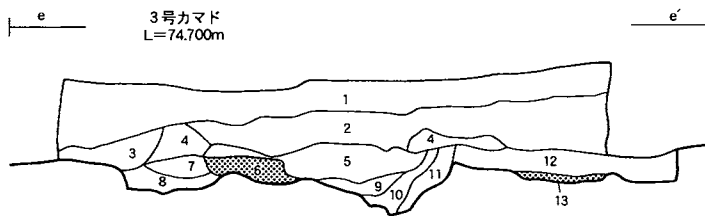
1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性あり しまりあり
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり 明赤褐色焼土 (5YR5/6 径6~8mm) 微量含む。
3. 10YR2/1 黒色土 粘性なし しまりあり 褐色地山土 (10YR4/4) 20%含む。
4. 10YR2/1 黒色土 50%、10YR4/4 褐色土 50%の混合土層 粘性ややあり しまりあり 明赤褐色焼土粒 (5YR5/6) 微量含む。
5. 10YR2/1 黒色土 60%、10YR4/4 褐色土 40%の混合土層 粘性ややあり しまりあり
6. 10YR4/4 褐色土 粘性なし しまりあり 黒色土 (10YR2/1) 5%含む。
7. 10YR2/1 黒色土 70%、10YR4/4 褐色土 30%の混合土層 粘性なし しまりあり
8. 10YR2/1 黒色土 粘性なし しまりあり



3号カマド

d-d'

1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし しまりあり
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 暗赤褐色焼土 (5YR3/4 径8mm) 3%含む。
3. 10YR2/1 黒色土 粘性なし しまりあり 明赤褐色焼土 (5YR5/6) 20%含む。
4. 7.5YR3/3 暗褐色焼土 粘性なし しまりあり 褐色焼土粒 (7.5YR4/4) 10%含む。
5. 7.5YR4/6 暗褐色焼土 粘性なし しまりあり 黒褐色土 (10YR3/1) 30%含む。
6. 5YR5/6 明赤褐色焼土 粘性なし 面くしまる 黒褐色土 (10YR3/1) 20%含む。
7. 10YR3/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり にぶい赤褐色焼土 (5YR4/4) 10%含む。
8. 10YR2/1 黒色土 粘性ややあり しまりあり 赤褐色焼土粒 (5YR4/6) 3%含む。
9. 10YR3/1 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 明赤褐色焼土粒 (5YR5/6) 10%、径10mmの炭化物粒微量含む。
10. 10YR2/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり
11. 10YR2/1 黒色土 粘性あり しまりあり 土器片多く含む。
12. 10YR2/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり 掘りすぎ?
13. 10YR2/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 赤褐色焼土 (5YR4/6 径2~3mm) 10%含む。
14. 5YR4/4 にぶい赤褐色焼土 粘性あり しまりあり

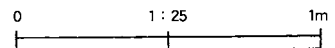


3号カマド

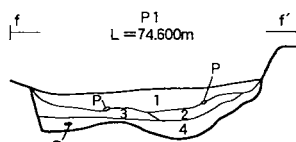
e-e'

1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし しまりあり
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり 褐色土 (10YR4/6) 微量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり 明赤褐色土 (10YR6/6) 微量含む。
4. 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色土粒 (10YR4/6) 微量含む。
5. 10YR2/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 赤褐色焼土 (5YR4/6 径2~3mm) 10%含む。

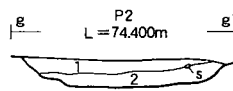
6. 5YR4/4 にぶい赤褐色焼土 粘性あり しまりあり
7. 10YR4/4 褐色土 50%、10YR3/3 暗褐色土 50%の混合土層 粘性なし しまりあり (袖土)
8. 10YR4/4 褐色土 50%、10YR3/3 暗褐色土 50%の混合土層 粘性なし しまりあり 明赤褐色焼土粒 (5YR5/6 径3mm) 微量含む。
9. 10YR3/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり 明赤褐色焼土粒 (5YR5/6 径3mm) 微量含む。
10. 10YR3/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり 明赤褐色焼土粒 (5YR5/6) 微量含む。
11. 10YR3/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり 明赤褐色焼土粒 (5YR5/6 径10mm) 微量、黒色土 (10YR3/1) 3%含む。
12. 10YR3/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 明赤褐色焼土 (5YR5/8 径3mm) 1~2%含む。
13. 5YR4/3 にぶい赤褐色焼土 粘性あり しまりあり



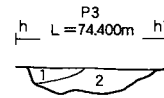
第54図 22号住居跡



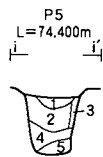
- P 1
f - f'
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし しまりあり
 - 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし しまりあり 赤褐色焼土粒 (5YR4/8 径 6~10mm) 微量含む。
 - 10YR4/2 灰黄褐色土 粘性なし しまりあり 赤褐色焼土 (2.5YR4/6) 5%含む (カマド崩落土)。
 - 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 1~2%含む。



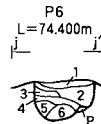
- P 2
g - g'
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし しまりあり 明赤褐色焼土粒 (5YR5/8 径 8~10mm) 2%、炭化物粒 (径 8mm) 微量含む。
 - 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 明赤褐色焼土粒 (5YR5/8 径 3~4mm) 微量含む。



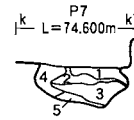
- P 3
h - h'
- 10YR2/1 黒色土 粘性なし しまりあり 明赤褐色焼土粒 (5YR5/6) 微量含む。
 - 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色土 (10YR4/4) 3%含む。



- P 5
i - i'
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし しまりあり
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり 1層が10%含まれる。
 - 10YR3/3 暗褐色土 粘性ややあり しまりあり
 - 10YR3/3 暗褐色土 粘性あり しまりあり
 - 10YR3/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり

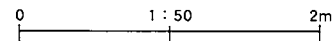


- P 6
j - j'
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし しまりあり 炭化物粒 (径 3mm) 微量含む。
 - 10YR3/3 暗褐色土 粘性なし しまりあり 暗褐色土 (10YR3/4) 20%含む。
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり
 - 10YR3/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 赤褐色焼土 (5YR4/6) 1%含む。
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 赤褐色焼土 (5YR4/6)、炭化物粒微量含む。
 - 10YR3/2 黒褐色砂質土 粘性ややあり しまりあり 炭化物粒 10%含む。



- P 7
k - k'
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 明黄褐色土粒 (10YR7/6 径 3~7mm) 3%含む。
 - 10YR2/1 黒色土 粘性あり しまりあり 暗褐色土 (10YR3/3) ブロックで少量含む。
 - 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり
 - 10YR2/1 黒色土 粘性なし しまりあり 暗褐色土 (10YR3/4) 1%含む。

第 55 図 22 号住居跡



23 号住居跡

遺構 (第 56・57 図、写真図版 46~48)

<位置・重複関係> VC-57 グリッドに位置し、表土下の第Ⅲ層で検出された。重複している遺構はないが、建て替えの形跡が窺える。

<規模・平面形・方向> 新住居の規模は 434×469 cm、総床面積は約 20.35 m²、主軸方向は E-22°-S、旧住居の規模は東西 371cm、南北は壁面が残っていないため正確な値は不明、主軸方向は S-26°-W である。平面形は、正方形を呈する。

<埋土> 自然堆積で上~中位は褐色土粒含む黒褐色土、下位は暗褐色土と黒褐色土の混合土が堆積する。

<壁> 壁はやや外反して立ち上がり、壁面残存値は北壁 7cm、南壁 12cm、東壁 11cm、西壁 10cm である。

<床面> 床面は平坦で全面に掘り方を持ち、特に南壁付近に深い掘り込みを持つ。掘り方には暗褐色砂質土を多く含む黒褐色土が貼られている。

<土坑> 2 基検出された。P 4 は 1 号・2 号カマド脇にあり、径 58×48cm、深さ 26cm、P 5 は径 60×40cm、深さ 22cm で、いずれも新住居に伴うものと考えられる。

<柱穴> P 1~P 3 の 3 基検出された。いずれも規模・床面のレベルが同じくらいで支柱穴と考えられる。いずれも位置的に新住居に伴うものである。

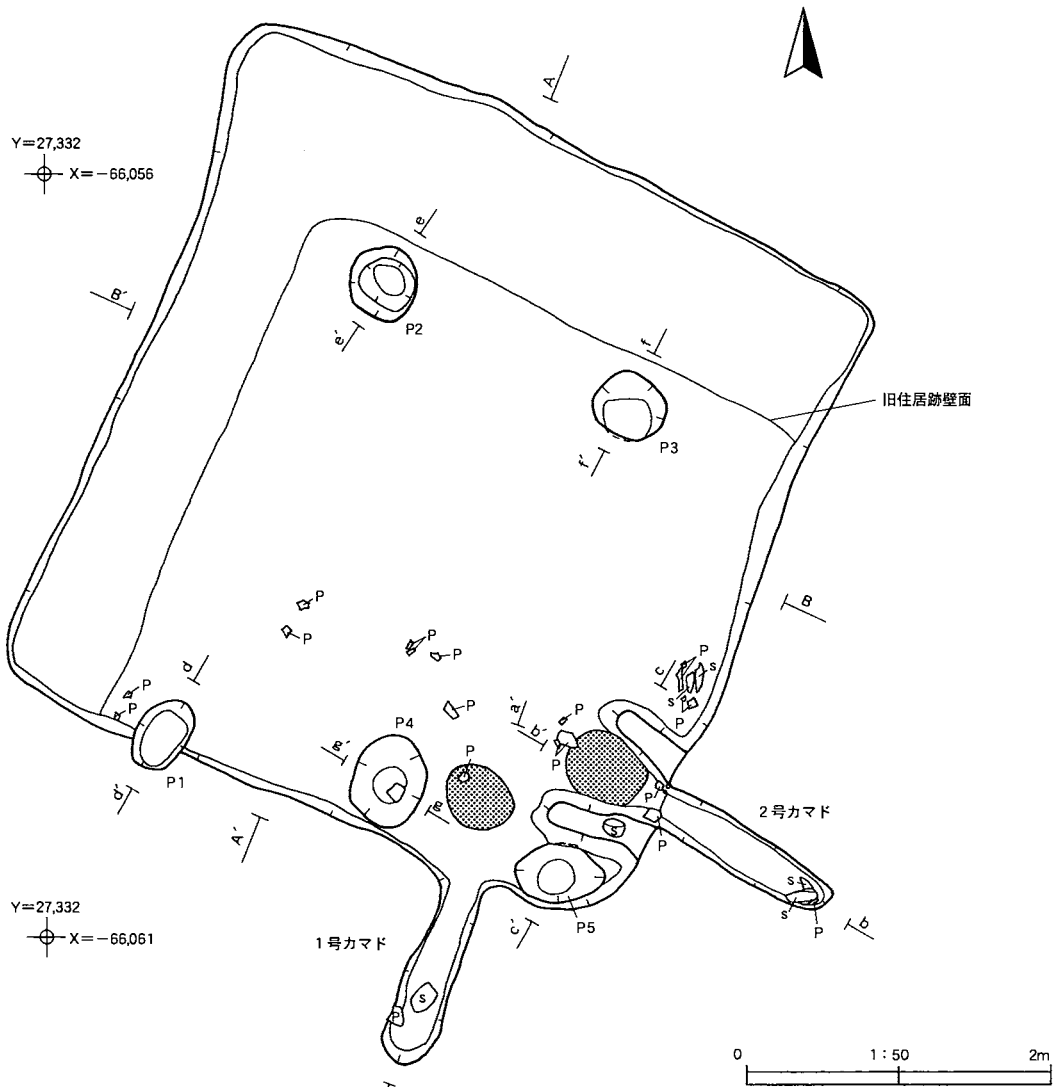
<カマド> 南壁に 1 基、東壁に 1 基検出された。削平の影響で残存状態は不良である。それぞれ住居の拡張前と拡張後に伴うと考えられ、拡張前に南側カマド、拡張後に東側カマドが設けられている。1 号カマド (南側) は明確に袖と確認できるものではなく、燃焼部には径 50×38cm の範囲に明赤褐色焼土が広がり、焼成は最大で 4cm を測る。煙道部は掘り込み式の構造で長さは 123cm、約 12° の傾斜で南側へ下る。煙出し部は深さ 45cm の土坑状を呈する。2 号カマドは東壁の南寄りに構築され、袖は明黄褐色土を少量

含む黒褐色土を持ち込んで作られ、燃焼部には径 54×42cm の範囲で赤褐色焼土が広がり、焼成は最大で 3 cm を測る。煙道部は掘り込み式の構造で長さは 120cm、煙道部底面は緩く波をうつが大きな高低差（傾斜）はなく、深さ 10～15cm 前後である。煙出し部は深さ 25cm と深くなり、底からは長さ 20cm の礫と土器片が出土している。

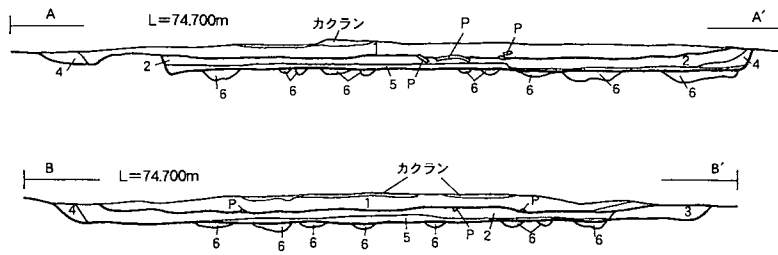
遺物（第 90 図・写真図版 76）

164～167 は酸化炎焼成の坏で 164・165 は P 4、166 は 1 号カマド燃焼部、167 は 2 号カマド（新住居に属する）から出土した。成形はロクロで器面調整は 164～166 は外面はロクロナデ、内面は黒色処理に伴う篋ミガキ、167 は両面ロクロナデのみ施されている。底部の切り離し技法は 164・167 は回転糸切り、165 は底部切り離し後に回転篋削り、166 は手持ち篋削り調整が施されているため不明である。また 166 の底面には篋による「×」の記号が記されている。168・169 は酸化炎焼成の甕で 168 は新住居床面中央付近から両面黒色処理が施された坏の破片と共に一括で、169 は 2 号カマドから出土した。成形は 168 はロクロ、169 は非ロクロによる。器面調整は 169 は口縁部ヨコナデ、胴部ナデ、168 は胴部ミガキ、底部外面篋ナデ、内部ミガキ、148 は口縁部～胴部上位で両面ミガキが施され、口縁部両面に黒色処理の痕が残る。他にロクロ成形による 3 段が明瞭に残る坏の破片が新住居床面から多量出土した。

時期 出土遺物の特徴から旧住居跡は 9 世紀中葉、新住居跡は 9 世紀後葉～末葉の遺構と考えられる。

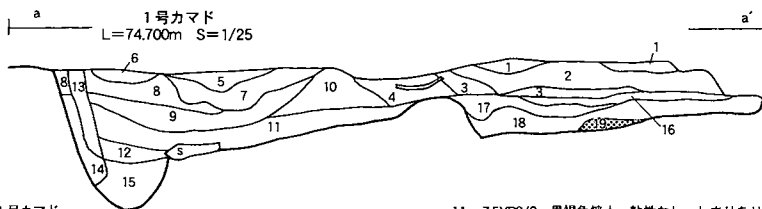


第 56 図 23 号住居跡



A-A', B-B'

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色土粒 (10YR4/4) 5%含む (新住居跡埋土)
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色土粒 (10YR4/4) 10%含む 1層~2層間 炭化物堆積 (旧住居跡埋土)
3. 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし しまりあり やや砂質 (新住居跡埋土)
4. 10YR3/2 黒褐色砂質土 粘性なし 固くしまる
5. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし 固くしまる 暗褐色砂質土 (10YR3/3) 40~50%含む混合土層 (旧住居跡埋土)
6. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし 固くしまる 暗褐色砂質土 (10YR3/3) 20%含む。

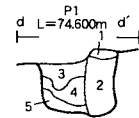


1号カマド

a-a'

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 明黄褐色土 (10YR6/6) ブロック状に3%含む
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 明黄褐色土 (10YR6/6) 霜降り状に3%含む
3. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 赤褐色焼土 (5YR4/8) 20%含む
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 明黄褐色土 (10YR6/6) 2%含む
5. 10YR2/1 黒色土 粘性なし しまりあり
6. 10YR2/2 黒褐色土 やや砂質 粘性なし しまりあり
7. 10YR4/1 褐灰色土 粘性なし しまりあり 明赤褐色焼土 (5YR5/6) ブロック状に10%含む
8. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり
9. 7.5YR2/2 黒褐色焼土 粘性なし しまりあり
10. 7.5YR3/2 黒褐色焼土 粘性なし しまりあり

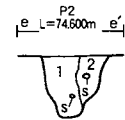
11. 7.5YR2/2 黒褐色焼土 粘性なし しまりあり 黒褐色土 (10YR3/1) 20%含む
12. 7.5YR2/2 黒褐色焼土 粘性なし しまりあり
13. 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし しまりあり 明赤褐色焼土 (5YR5/6 径3~5mm) 微量含む
14. 10YR2/1 黒色土 粘性なし しまりあり 褐色砂質土 (10YR4/4) 20%含む
15. 10YR2/1 黒色土 粘性なし しまりあり 明赤褐色焼土 (5YR5/6) 2%含む
16. 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし 固くしまる 黄褐色砂質土 (10YR5/6) 10%含む
17. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり
18. 10YR2/1 黒色土 粘性なし しまりあり にぶい赤褐色焼土 (5YR4/4) 20% 明黄褐色土 (10YR7/6) 1~2%含む
19. 5YR5/6 明赤褐色焼土 粘性ややあり しまりあり



P1

d-d'

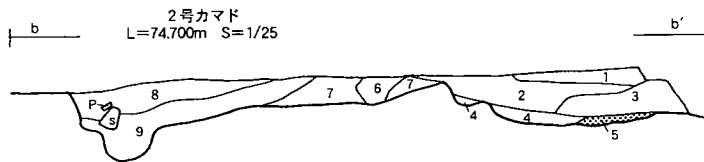
1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり にぶい黄褐色~黄褐色土 (10YR5/4~5/6) 5%含む
2. 10YR2/1 黒色土 粘性ややあり しまりあり 褐色土 (10YR4/4) 2%含む
3. 10YR3/2 黒褐色土 50%、10YR5/6 黄褐色砂質土 50%の混合土層 粘性ややあり しまりあり
4. 10YR3/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 黄褐色砂質土 (10YR5/6) 3%含む
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土 粘性あり しまりあり 黒褐色土 (10YR3/2) 10%、礫 (径10~20mm) 微量含む



P2

e-e'

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 明黄褐色土 (10YR6/8) 微量含む
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土 粘性ややあり しまりあり 明黄褐色土 (10YR6/8) 1%、礫 (2~5mm) 少量含む



2号カマド

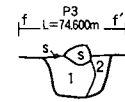
L=74.700m S=1/25

2号カマド

b-b'

1. 10YR2/1 黒褐色土 粘性なし しまりあり
2. 10YR2/1 黒色土 粘性なし しまりあり にぶい黄褐色土 (10YR5/4) ブロックで5%含む
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 明黄褐色土 (10YR7/6) 30%含む
4. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 赤褐色焼土 (5YR4/8) 20%、径10mmの炭化物片 微量含む
5. 5YR4/8 赤褐色焼土 粘性なし しまりあり

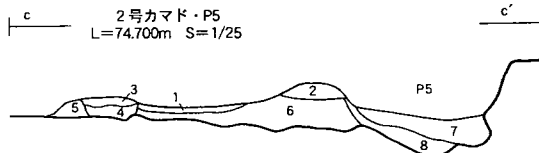
6. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 暗褐色焼土 (7.5YR3/3) 10%含む
7. 10YR3/1~2/1 黒褐~黒色土 粘性なし しまりあり
8. 10YR2/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 褐色焼土 (7.5YR4/4) 5%含む
9. 10YR2/1 黒色土 粘性なし しまりあり 褐色焼土 (7.5YR4/3) 3%、礫 (径10mm) 2点含む



P3

f-f'

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり 褐色砂質土 (10YR4/4) 10%含む
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土 粘性あり しまりあり 礫 (径10~20mm) 少量含む



2号カマド・P5

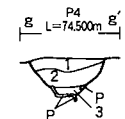
L=74.700m S=1/25

2号カマド~P5

c-c'

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 赤褐色焼土 (5YR4/8) 20%、径10mmの炭化物片 微量含む
2. 10YR3/3 暗褐色土 粘性なし しまりあり (粘土)
3. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 赤褐色焼土 (5YR4/6) 10%含む (粘土)
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 明黄褐色土 (10YR7/6) 10%含む (粘土)

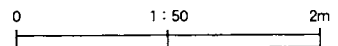
5. 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし しまりあり
6. 10YR2/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 2%含む (貼り床土)
7. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり
8. 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色砂質土 (10YR4/4) 3%含む



P4

g-g'

1. 10YR3/3 暗褐色土 粘性なし しまりあり にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 10%、褐色焼土 (7.5YR4/6) 2%含む
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり



第57図 23号住居跡

24 号住居跡

遺構 (第 58 図、写真図版 48)

<位置・重複関係> VC-67 グリッドに位置し、表土下の第Ⅲ層で検出された。遺構の大半が調査区外に延びるため、調査が可能であったのは北西壁部のみである。重複する遺構はない。

<規模・平面形・方向> いずれも遺構の全体を調査していないため不明である。

<埋土> 断面を測った箇所に限れば、自然堆積の様相を呈し、壁面に黒色土、他は全体的に黒褐色土を基調とする土層の堆積で、上位には微量の炭化物粒、中～下位には暗褐色土が微量含まれる。

<壁> 壁は外傾して立ち上がり、計測可能な壁面の残存値は北壁 18cm、西壁 17cm である。

<床面> 床面にしまりはなく、掘り方痕がある。掘り方にはにぶい黄褐色土を筋状に含む黒色土が貼られている。

<カマド> 部分調査のため有無は不明である。

遺物 埋土下～床面から酸化炎焼成による甕の破片数点が出土した。成形は非ロクロで器面胴部の調整はナデが施されている。

時期 出土遺物から平安時代の遺構と考えられる。

25 号住居跡

遺構 (第 58 図、写真図版 49)

<位置・重複関係> VF-66 グリッドに位置し、表土下の第Ⅲ層で検出された。遺構の北半は調査区外にあり、未調査である。重複する遺構はない。

<規模・平面形・方向> 全体の規模は不明。東西の長さは 443cm、平面形・方向は不明である。

<埋土> 全体が暗褐色土層の堆積で黄褐色焼土粒、炭化物粒などを微量含む。

<壁> 壁は緩く外傾して立ち上がり、計測可能な壁面の残存値は東壁 20cm、西壁 18cm である。

<床面> 床面には緩い凹凸があり、一部に掘り方を持つ。掘り方には黒褐色土と黒色土の混合土が貼られている。

<土坑> カマド脇に 1 基検出した。形状は不整な円形で径 84×76cm、深さ 11cm と浅く、このために底面～壁への立ち上がりは曖昧である。貯蔵穴の可能性が考えられる。

<カマド> 東壁の南よりに設けられ、左袖は調査区外のため精査不能、右袖は持ち込んだ黒褐色土で構築されたと考えられるが、削平により残存状態が不良のため曖昧である。また煙道～煙出し部は削平のため検出できなかった。燃焼部には暗赤褐色焼土が広がり、焼成は最大で 8cm を測る。

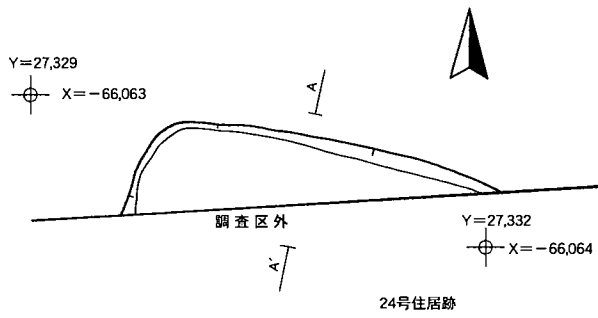
遺物 (第 91 図、写真図版 76)

カマド付近から出土した土器のうち 1 点を記載した。170 は酸化炎焼成の坏で成形はロクロ、器面調整は両面ロクロナデが施されている。底部の切り離し技法は回転糸切りによる。

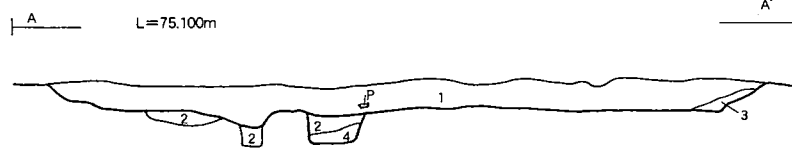
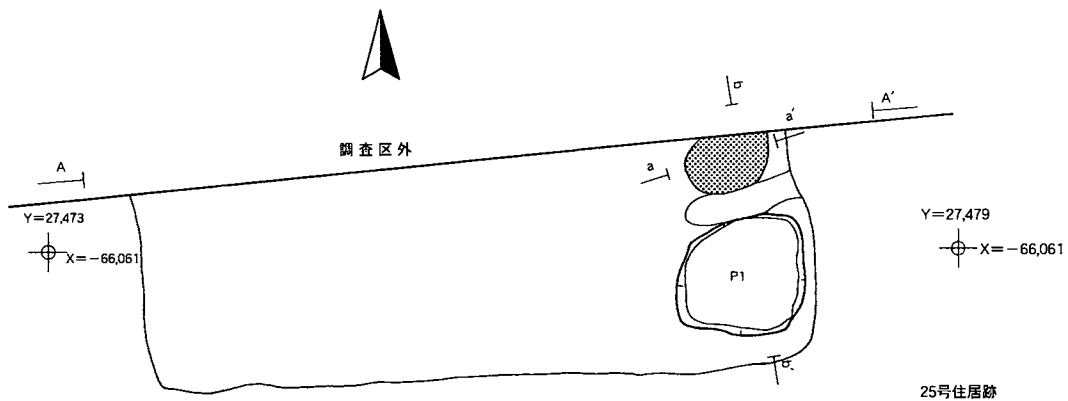
時期 出土遺物の特徴から 10 世紀初頭頃の遺構と考えられる。

土坑類計測表

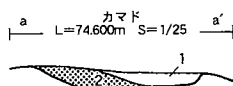
No.	P 1
直径 (cm)	56×50
深さ (cm)	29



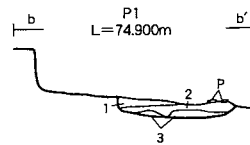
- 24号住居跡
A-A'
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 径1~2mmの炭化物粒微量含む。
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 暗褐色土(10YR3/3) 1~2%含む。
 - 10YR2/1 黒色土 粘性なし しまりあり
 - 10YR3/1 黒褐色土 粘性ややあり しまりややあり
 - 10YR2/1 黒色土 粘性あり しまりあり にぶい黄褐色土(10YR4/3) 筋状に20%含む。



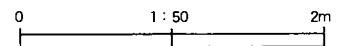
- 25号住居跡
A-A'
- 10YR3/3 暗褐色土 粘性なし しまりあり 黄褐色焼土粒(7.5YR7/8 径2~3mm)、径8~10mmの炭化物片ともに微量含む。
 - 10YR3/3 暗褐色土70%、10YR2/1 黒色土30%の混合土層 粘性なし しまりあり(貼り床土)
 - 10YR2/3 黒褐色土 粘性あり しまりあり
 - 7.5YR3/1 黒褐色土 粘性あり しまりあり にぶい赤褐色焼土(5YR4/4)20%、橙暗褐色焼土30%含む。



- カマド燃焼部
a-a'
- 10YR3/1 黒褐色土 粘性あり しまりあり
 - 5YR3/4 暗赤褐色焼土 粘性なし しまりあり(燃焼痕)



- P1
b-b'
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性あり しまりややあり 褐色焼土(7.5YR4/6) 1~2%含む。
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり 褐色焼土(7.5YR4/6) 1~2%含む。
 - 10YR3/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり 褐色土(10YR4/4) 1%含む。



第58図 24・25号住居跡

26号住居跡

遺構 (第59・60図、写真図版50・51)

〈位置・重複関係〉 ⅢA-100グリッド付近に位置し、表土下の第Ⅳ層で検出された。検出時のプランは北壁～東壁が明瞭であるのに対し、西壁南半～南壁は削平や重複によって曖昧であった。南壁が1号掘跡と重複し、これに切られる。

〈規模・平面形・方向〉 規模は切り合いや削平によって不明。形状は不整形な方形状を呈すると推測される。

〈埋土〉 壁際に黒色土、褐色土が見られるが、他はいずれも黒褐色土で区別つきにくい。

〈壁〉 外反ぎみに立ち上がり、壁面残存値は北壁21cm、東壁18cmである。

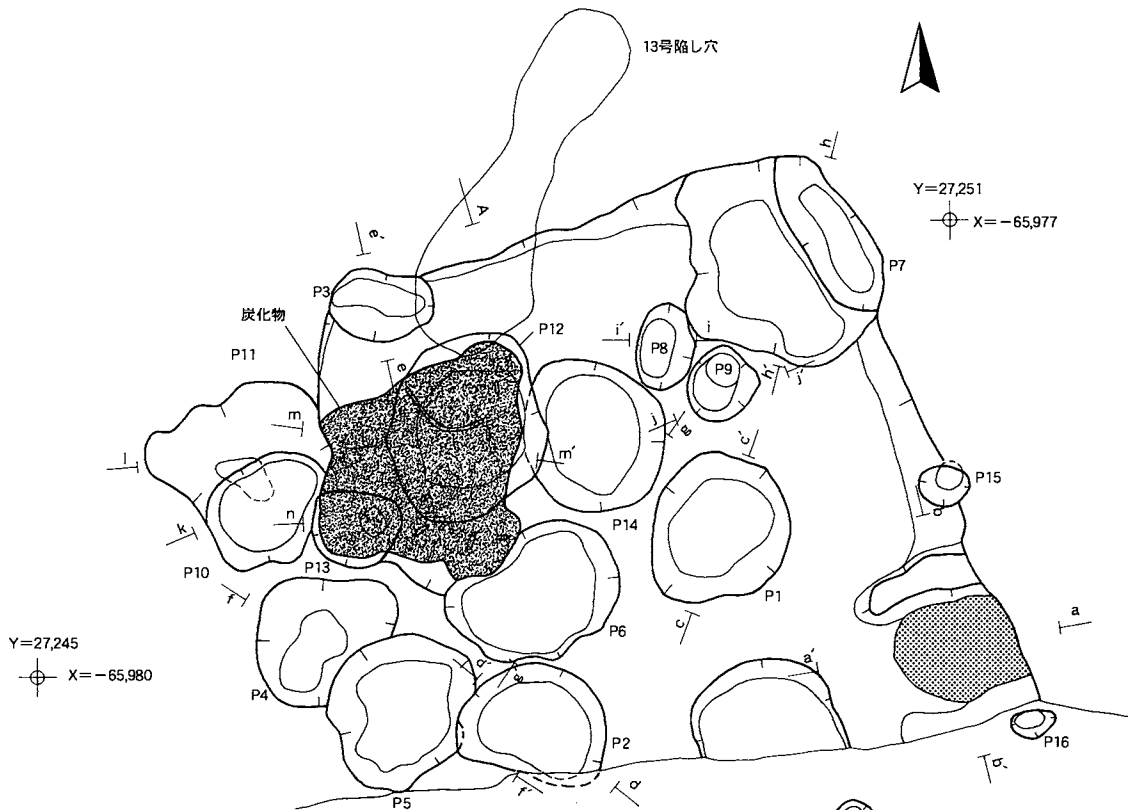
〈床面〉 床面はあまり固く締まらない。全域に土坑があり、平坦部は少ない。

〈土坑〉 13基検出された。遺構内からは土師器の小破片が多量出土しており、この住居跡に伴う遺物であるがP4、P5、P10、P11が住居の壁面を切ることから土坑自体は住居と異なる時期のものが多いと考えられる。また重複する土坑が多いことから土坑にも時期的な変移がある。

〈柱穴〉 3基検出された。P9、P15、P16が柱穴状を呈する。

〈カマド〉 東壁に1基設けられている。袖はにぶい黄褐色土と黒褐色土を持ち込んで固めたもので、煙道部、煙出し部は削平のため検出できなかった。燃烧部には赤褐色焼土が広がり、焼成は最大で7cmを測る。

〈その他〉 西壁中央部付近に約130～120cmの範囲で、炭化物が溶けた状態で堆積していた。

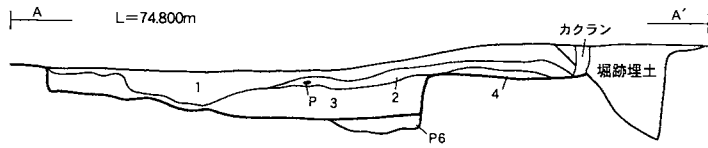


土坑類計測表

No.	P1	P2	P3	P4	P5
直径 (cm)	104×90	98×70	69×45	88×83	106×86
深さ (cm)	22	35	18	14	34

P6	P7	P8	P9	P10	P11	P12	P13	P14	P15	P16
110×74	142×128	57×37	49×46	122×124	107×94	130×105	60×51	108×94	35×26	30×18
38	42	14	32	33	40	21	49	20	37	39

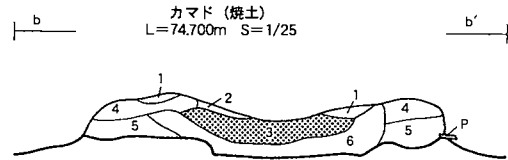
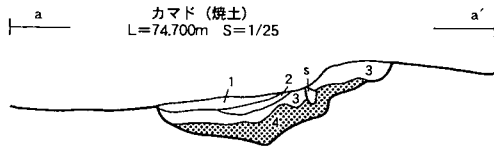
第59図 26号住居跡



26号住居跡-埋土断面

A-A'

- 10YR3/1 黒褐色土 粘性あり しまりあり 径2mmの炭化物粒微量含む。
- 10YR3/1 黒褐色土 70%、10YR5/6 黄褐色土 30%の混合土層。粘性あり しまりあり
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性あり しまりややあり 褐色土粒 (10YR4/4) 5%、暗褐色焼土 (7.5YR3/4) 1~2%含む。
- 10YR4/4 褐色土 粘性なし しまりあり 黒褐色土 (10YR3/1) 10%含む。

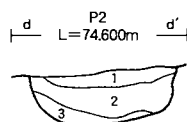
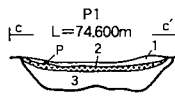


a-a'

- 5YR4/8 赤褐色焼土 30%、10YR3/2 黒褐色土 70%の混合土層。粘性なし しまりあり
- 炭化物層。
- 10YR3/3 暗褐色土 粘性あり しまりややあり
- 5YR4/6 赤褐色焼土層 粘性ややあり しまりあり

b-b'

- 5YR3/4 暗赤褐色焼土 粘性ややあり しまりあり 黒褐色土 (5YR3/1) 30%含む。
- 5YR4/6 赤褐色焼土 粘性なし 固くしまる
- 5YR4/6 赤褐色焼土層 粘性ややあり しまりあり
- 10YR4/3 にぶい黄褐色土 粘性あり しまりあり (袖土)
- 10YR3/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり にぶい赤褐色焼土粒 (5YR4/4) 微量含む (袖土)。
- 7.5YR3/3 暗褐色土 粘性あり しまりあり



P1

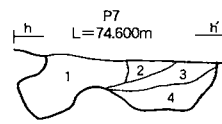
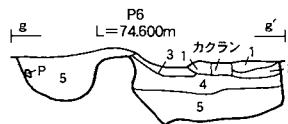
c-c'

- 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 明黄褐色土 (10YR7/6) 10%、炭化物片少量含む。
- 5YR5/6 明赤褐色焼土 粘性なし しまりあり
- 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし しまりあり 黄褐色土 (10YR5/6) 10%含む。

P2

d-d'

- 10YR3/1 黒褐色土 50%、10YR5/6 黄褐色土 50%の混合土層。粘性なし しまりあり 赤褐色焼土粒 (5YR4/6 径4~8mm) 少量含む。
- 10YR3/1 黒褐色土 70%、10YR4/4 褐色土 30%の混合土層 粘性なし しまりあり 赤褐色焼土粒 (5YR4/6 径10mm) 多量含む。
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり



P6

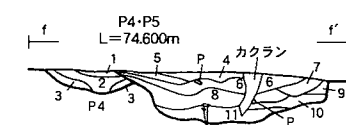
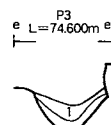
g-g'

- 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 明赤褐色焼土 (5YR5/6) 微量含む。
- 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし しまりあり にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 10%含む。
- 10YR4/4 褐色砂粒 粘性なし しまりあり
- 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 暗褐色土 (10YR3/3) 5%含む。
- 10YR3/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 20%、径10mmの炭化物片微量、赤褐色焼土粒 (5YR4/8 径8mm) 1~2%含む。

P7

h-h'

- 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 赤褐色焼土粒 (5YR4/6 径3~5mm) 微量含む。
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 赤褐色焼土粒 (5YR4/6 径3~5mm) 微量、明黄褐色土 (10YR6/6) 5%含む。
- 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色土 (10YR4/4) 20%、明赤褐色焼土 (5YR5/8) 2%含む。
- 10YR3/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり 褐色土 (10YR4/4) 10%含む。



P3

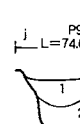
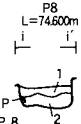
e-e'

- 10YR2/1 黒色土 粘性ややあり しまりなし
- 10YR3/2 黒褐色土 粘性あり しまりややあり

P4, P5

f-f'

- 10YR2/1 黒色土 粘性なし しまりあり にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 20%含む。
- 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし しまりあり
- 10YR3/1 黒褐色土 60%、10YR4/4 褐色土 40%の混合土層 粘性なし、しまりあり
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色焼土 (7.5YR4/4) 20%含む。
- 10YR3/3 暗褐色土 粘性なし しまりあり 赤褐色焼土 (5YR4/8) 1%含む。
- 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色土 (10YR4/4) 10%含む。
- 7.5YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 赤褐色土 (5YR4/8) 10%含む。
- 10YR3/1 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり
- 10YR3/1 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 褐色土 (10YR4/4) 10%含む。
- 7.5YR3/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり 明赤褐色焼土 (5YR5/8) 20%、炭化物片微量含む。



P8

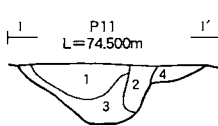
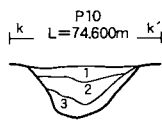
i-i'

- 7.5YR3/4 暗褐色焼土 粘性なし しまりあり 赤褐色焼土粒 (5YR4/6 径8~12mm) 微量含む。
- 5YR4/4 にぶい赤褐色焼土 粘性なし しまりあり 明赤褐色焼土粒 (5YR5/6 径6~8mm) 微量含む。

P9

j-j'

- 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり
- 10YR3/1 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 褐色土 (10YR4/4) 10%含む。



P10

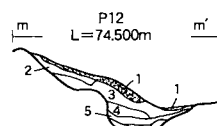
k-k'

- 10YR2/1 黒色土 粘性なし しまりあり
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 褐色砂粒 (10YR4/4) 5%含む。
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり 褐色砂粒 (10YR4/4) 10~20%含む。

P11

l-l'

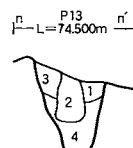
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり にぶい赤褐色焼土 (5YR4/4) 微量、炭化物粒微量含む。
- 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし しまりあり
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし しまりあり 暗褐色砂粒 (10YR3/4) 30%含む。
- 10YR4/1 褐灰色土 粘性なし しまりあり 褐色土 (10YR4/4) 30%含む。



P12

m-m'

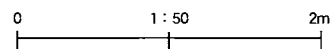
- 炭化物層
- 10YR3/3 暗褐色砂質土 粘性なし しまりあり
- 10YR3/3 暗褐色砂質土 粘性なし しまりあり
- 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりなし
- 炭化物層。
- 10YR3/4 暗褐色砂質土 粘性なし しまりなし
- 10YR3/2 黒褐色砂質土 粘性なし しまりなし



P13

n-n'

- 10YR3/3 暗褐色砂質土 粘性ややあり しまりあり
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり
- 10YR3/1 黒褐色土 粘性あり しまりややあり にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 30%含む。
- 10YR3/2 黒褐色土 粘性あり しまりなし



第60図 26号住居跡

遺物（第91図、写真図版76）

＜土器＞ 171は埋土から出土した酸化炎焼成の坏で成形はロクロ、器面調整は両面ロクロナデ、底部には回転糸切り痕が残るが、大半が欠損しているため、再調整の有無は不明である。172・173は酸化炎焼成の甕で172は埋土、173はカマド付近から出土した。いずれも口縁部～胴部の破片で器面調整は172は両面ロクロナデのみ、173は口縁部にヨコナデ、胴部にナデが施されている。

＜金属遺物＞ 174・175が埋土中から出土した。174は長さ4.9cm、幅0.8cm、厚さ0.5cm、175は長さ4.2cm、幅0.8cm、厚さ0.4cmでいずれも扁平な形状を呈し、両端が欠損し、器種は不明である。

時期 出土遺物から平安時代の遺構と考えられるが、住居跡と一部土坑とは時期的な変移があるものと考えられる。

3. 土坑

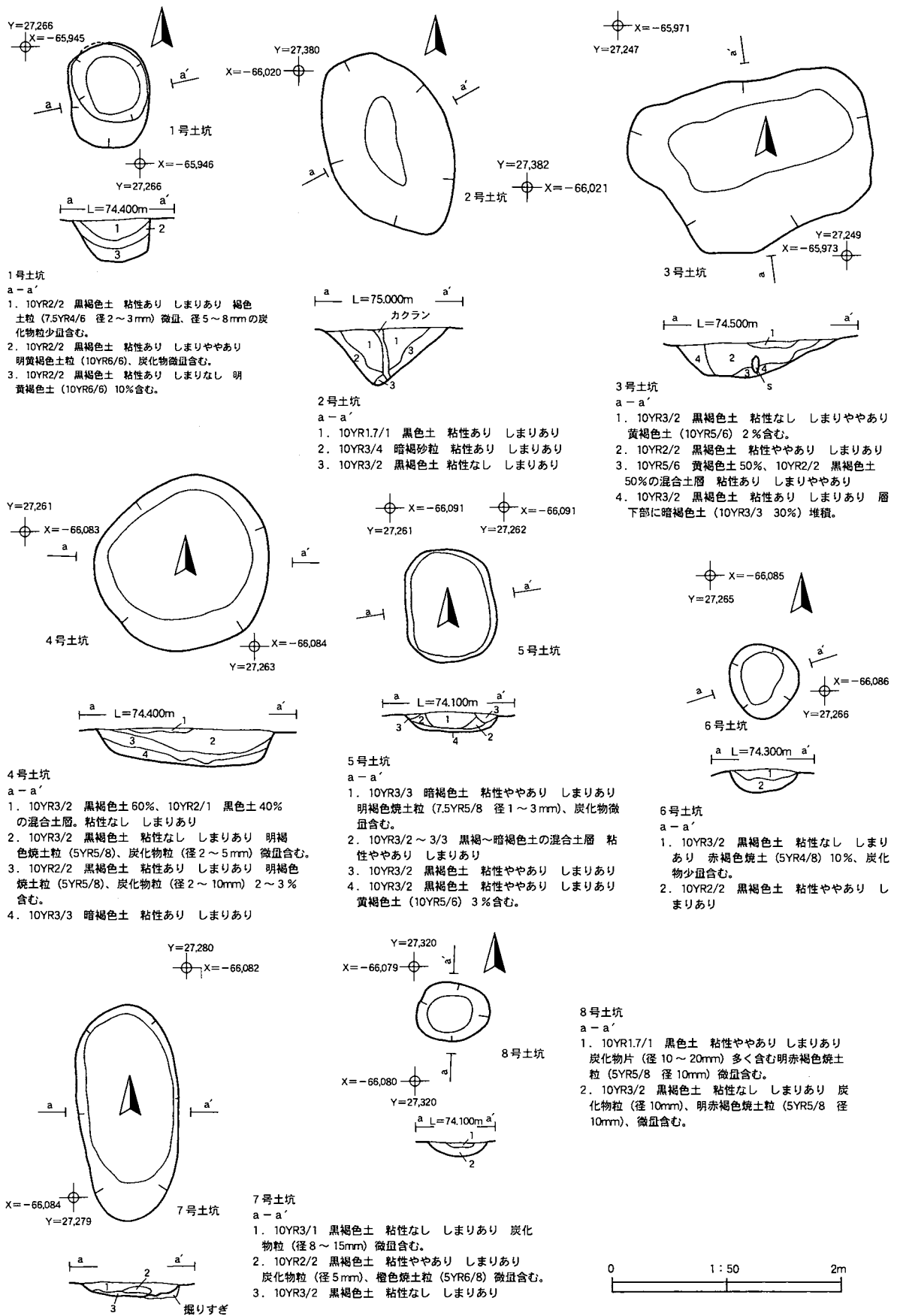
8基検出された。形状は円形、楕円形を呈し、住居跡のすぐ側ないし周辺から検出されている。規模が最大のもは3号土坑で開口部径193×140cm、深さ31cm、最小のもは6号土坑で開口部径62×61cm、深さ19cmである。遺構内から土器片が出土したものは1号・7号・8号土坑で他からの出土遺物はない。時期は検出面や出土遺物から平安時代のものであると考えられる。

遺構の詳細については観察表に記載した。

土坑観察表

遺構名	位置	平面形	開口部径	底部径	深さ	埋土	出土遺物	備考	図版	写図
1号土坑	Ⅲ B-34	楕円形	90×68	49×44	37	自然堆積で全体が黒褐色土主体中～下位は明黄褐色土粒少量含む。	176		61	52
2号土坑	Ⅳ D-86	楕円形	168×111	78×27	49	自然堆積で上～中位は黒色土、壁～下位は暗褐色土砂粒、黒褐色土が堆積。			61	52
3号土坑	Ⅲ A-90	不整形	193×140	144×61	31	自然堆積で全体が黒褐色土主体底面に黄褐色土と黒褐色土の混合土が堆積。			61	52
4号土坑	Ⅵ B-03	円形	153×145	122×107	32	自然堆積で上～中位は明褐色焼土粒含む黒褐色土、下位は暗褐色土が堆積。			61	52
5号土坑	Ⅵ B-23	楕円形	98×78	92×68	17	自然堆積で上～中位は黒褐色土混じりの暗褐色土、下位は暗褐色土が堆積。			61	53
6号土坑	Ⅵ B-14	円形	62×61	47×33	19	自然堆積で上～中位は赤褐色焼土混じりの黒褐色土、下位は黒褐色土が堆積。			61	53
7号土坑	Ⅵ B-06	長楕円形	188×88	147×75	11	自然堆積で全体に炭化物粒を含む黒褐色土が堆積している。下位に橙色焼土粒微量含む。	177		61	53
8号土坑	Ⅴ C-94	楕円形	64×52	39×31	12	自然堆積で上～中位は炭化物や明赤褐色焼土混じりの黒色土、下位は黒褐色土が堆積。			61	53

*単位はcmである。



第61図 1~8号土坑

4. 墓墳

1基検出された。水田造成時に地山面まで削平されていたため検出時には鉄製遺物が剥き出しの状態出土した。出土遺物は鉄鍋の一部と判断し、人骨の有無や遺物の残存状態に留意して調査を行った。

墓墳の南側には中世の豪族似内氏の居城（似内館）に伴う堀跡が見ついている。周辺にはこれ以外に中世の遺構は検出されていない。墓墳は館跡の外に位置するが、館跡が機能した時期や墓墳から出土した遺物から墓墳に埋葬された人物が似内氏と何らかの関わりがあった可能性は高い。

遺構（第62図、写真図版58）

〈位置・重複関係〉 BⅡ-68グリッドに位置し、重複する遺構はない。水田造成時に遺構の上部がかなり削平されている。

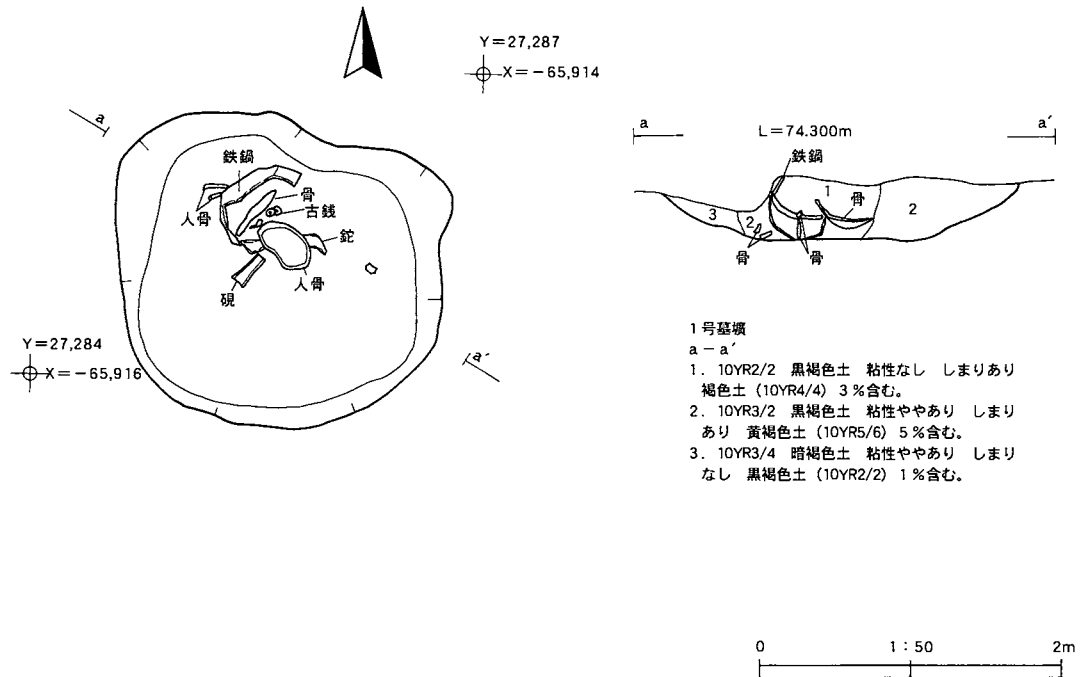
〈規模・平面形〉 開口部径は120×98cm、底部径は90×80cm、深さは20cmを測る。形状は円形状を呈するが北壁は歪んだ形状をしている。

〈埋土〉 埋土は人為堆積で、遺物が出土する中央部は黒褐色土中に褐色土が混じる。それ以外には黄褐色地山土を含む黒褐色、暗褐色土が堆積する。

遺物（第91～93図、写真図版77・78）

埋土中から中国産白磁片2点、底面から硯1点、古銭28点（永楽通寶26点、大観通寶1点、宣徳通寶1点）、鉈1点、鉄鍋の破片が副葬品として出土した。また頭部の人骨が出土した。

時期 出土遺物から中世の時代の遺構と考えられる。



第62図 1号墓墳

5. 溝跡

溝跡は5条検出された。5号溝以外は調査区外に延び規模は明らかではない。1号溝・2号溝は表土からの掘り込みでごく最近の遺構と考える。3号溝は検出面や埋土から古代（平安時代）の遺構と考えられる。6号住居跡のカマド燃焼部～煙道部と重複しているため、埋土からこの住居が包含していた土器が出土している。このため6号住居跡の出土遺物として扱い、掲載した。4号溝に関しては検出面が地山層であったことや、出土遺物がないことから時期は不明である。5号溝は検出面や埋土の状態から古代（平安時代）の遺構と思われるが、出土遺物はない。

1号溝

遺構（第63図、写真図版59）

＜位置・重複関係＞ IVAグリッドの北東部で検出され、重複する遺構はない。

＜規模・形態・方向＞ 規模は上端幅92～70cm、下端幅76～28cm、深さ36～21cm、両端の高低差は26cm、全長6mにわたって検出された。断面形はU字状を呈する。方向は北東－南西でいずれも両端は調査区外へと延びる。

＜埋土＞ 黒褐色土混じりの黒色土の単層である。

遺物 なし。

時期 検出面から現代の遺構である。

2号溝

遺構（第63図、写真図版59）

＜位置・重複関係＞ IVAグリッドの北東部で検出され、重複する遺構はない。

＜規模・形態・方向＞ 規模は上端幅88～64cm、下端幅76～28cm、深さ48～35cm、東西の高低差は14cm、全長6mにわたって検出された。底面に凸凹があるため断面形は不整な形状である。方向は北東－南西でいずれも両端は調査区外へと延びる。

＜埋土＞ 上～中位は褐色土粒を僅かに含む黒褐色土、下位は黒色土と暗褐色砂質土の混合土が堆積している。

遺物 なし。

時期 検出面から現代の遺構である。

3号溝

遺構（第64図、写真図版59・60）

＜位置・重複関係＞ VBグリッドの中央部よりやや北西部で検出された。6号住居跡と重複し、これを切る。

＜規模・形態・方向＞ 規模は上端幅72～28cm、下端幅32～8cm、深さ31～15cm、両端の高低差は6cm、全長5m60cmにわたって検出された。断面形は緩いU字状を呈する。方向は北西－南東で、遺構の両端は調査区外へと延びる。

＜埋土＞ 自然堆積で全体に黒褐色土主体の3層が堆積している。中位には明褐色焼土粒が含まれる。

遺物 埋土から土器片が出土しているが、重複する6号住居跡に伴うものである。（6号住居跡に掲載）

時期 検出面から平安時代の遺構である。

4号溝

遺構 (第64図、写真図版60)

〈位置・重複関係〉 IVDグリッドの北東部で検出された。重複する遺構はない。

〈規模・形態・方向〉 規模は上端幅57～48cm、下端幅43～22cm、深さ22cm、東西両端の高低差は5cm、全長3m24cmにわたって検出された。断面形はU字状を呈する。方向は西→東で両端は調査区外へと延びる。

〈埋土〉 壁～底面には暗褐色砂質土と黒褐色土の混合土、暗褐色砂質土を微量含む黒褐色土が堆積している。遺物 なし。

時期 不明である。

5号溝

遺構 (第64図、写真図版60)

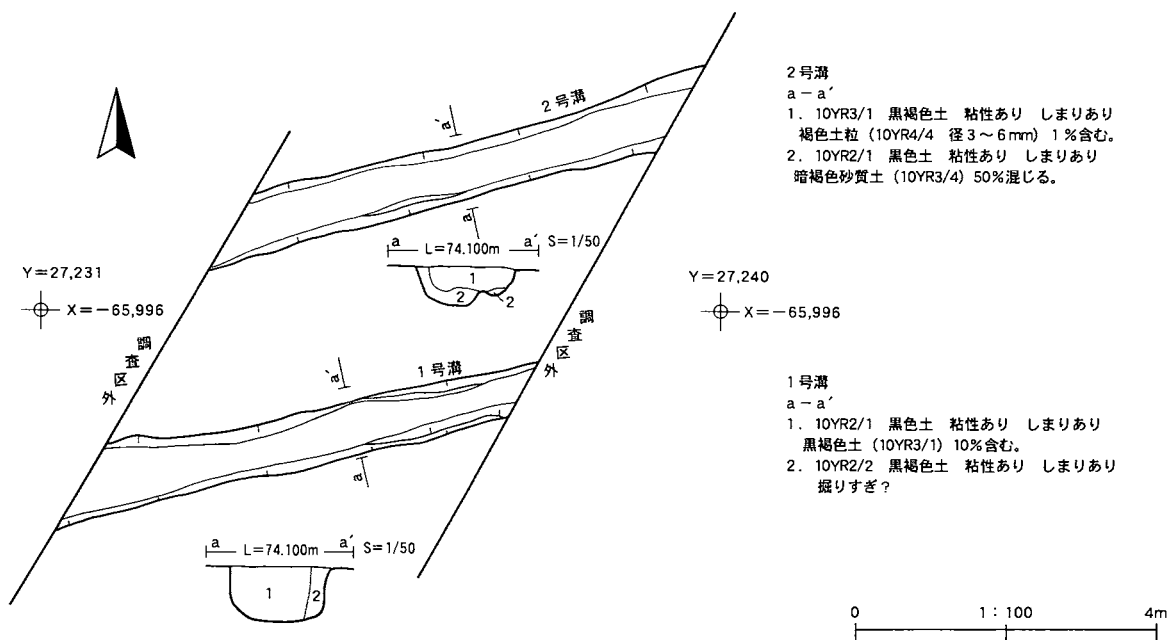
〈位置・重複関係〉 VIBグリッドの北部で検出された。20号住居跡と重複し、これに切られる。

〈規模・形態・方向〉 規模は上端幅40～28cm、下端幅30～20cm、深さは10～8cmと全体的に浅い。両端の高低差は18cm、全長約16mにわたり検出された。断面形は緩いU字状を呈し、方向は西→東で、いずれも両端は調査区外へと延びる。

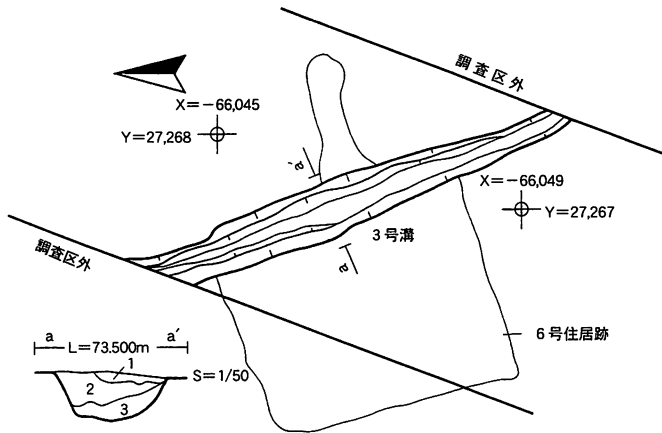
〈埋土〉 全体が黒褐色土を僅かに含む暗褐色土が堆積している。

遺物 なし。

時期 検出面から平安時代の遺構と考えられる。



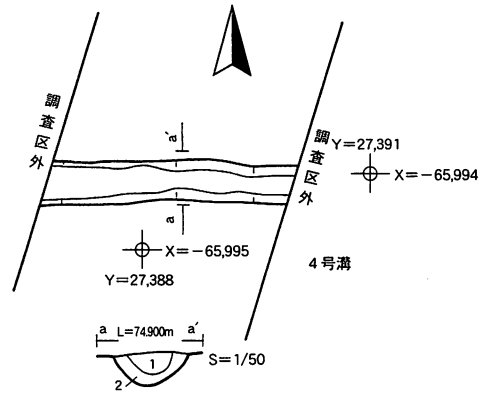
第63図 1・2号溝



3号溝

a-a'

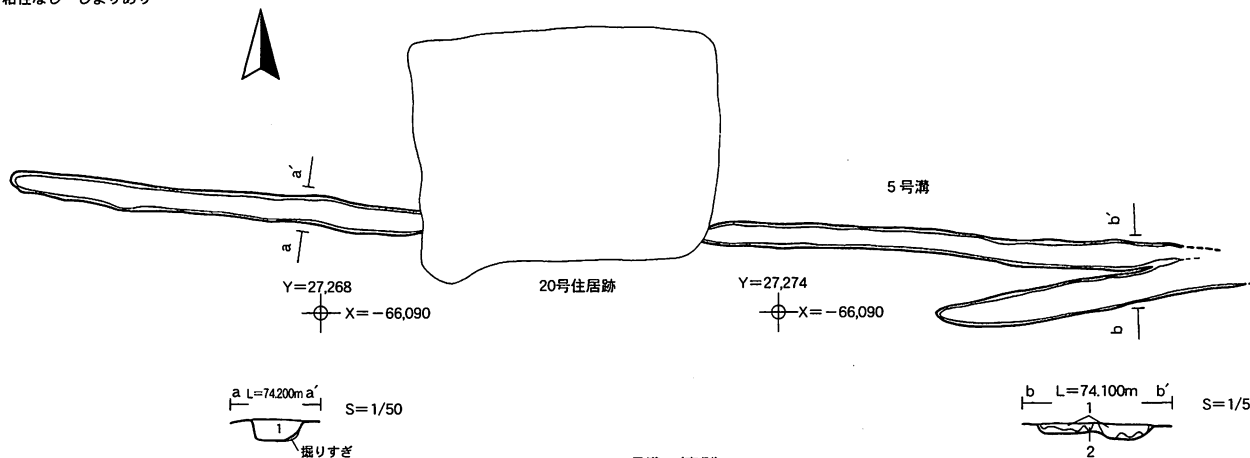
1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり
明褐色焼土粒 (7.5YR5/8 径1~2mm) 含む。
3. 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし しまりあり



4号溝

a-a'

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 1%含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 暗褐色砂質土 (10YR3/4 地山土) 40%含む。



5号溝 (西側)

a-a'

1. 10YR3/3 暗褐色土 粘性なし しまりあり 黒褐色土 (10YR3/2) 5%含む。

5号溝 (東側)

b-b'

1. 10YR3/3 暗褐色土 粘性なし しまりあり 黒褐色土 (10YR3/2) 5%含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 暗褐色土 (10YR3/3) 1~2%含む。

6. 堀跡

調査区中央部から東西方向に延びる堀（1号堀）が1条、南北方向に延びる堀（2号堀）を1条、調査区東端部で南北方向に延びる堀（3号堀）を1条検出した。伝承によると、この地は郡主・稗貫氏の分家である似内氏の本拠地で、その居城である似内館のあった場所と云われ、今回発掘された堀の一部は昭和30年代の水田造成時まで確認されたと云われている。調査時、調査区中央部から東西方向に延びる堀はA区、B区、C区を横切るように検出された。その後、A区－B区間を花巻市教育委員会が平行して調査を行い、この間の堀が同じものであることが確認できた。B－C区間は未調査のため、同じ遺構と断言できないが、図面合成による方向などを根拠とした。2号堀もやはり調査区内を横断する線路により、南北に分かれて検出されたが、図面合成により、同じ遺構であると断定した。3号堀の南側は調査区外に延びたが、範囲確認のため、調査区を延長して検出を行った。その結果、遺構南端は後世の畑地造成による削平で消失していた。

1号堀

遺構（第65・66図、写真図版54・55）

〈位置・重複関係〉 調査区A・B・C区に位置し、大グリッドIVC・IVB・ⅢDにわたる。表土下、第Ⅱ層で検出され、1号住居状遺構と重複し、これを切る。また、A～B区から検出した遺構の北側は後世に溝として利用されていたことが埋土断面から窺える。

〈規模・形態・方向〉 規模は上端幅10m20cm～7m16cm、下端幅4m～2m20cm、深さは250～150cmで、A区が幅・深さともに最大である。推定するA－C区間の長さは約157m（A－B間約53m、B－C間約104m）である。断面形はA区～B区は緩いU字状で浅鉢状、C区は外傾して立ち上がり、逆台形状を呈する。

〈埋土〉 A区は57層、B区は21層の堆積が認められた。このうち2/3は水田造成時に人為的に埋め戻したものである。C区では9層の自然堆積で上～中位は黒褐色（砂質）土、下位は黒色～黒褐色（砂質）土を主体とし、褐色土を多く含む土層が堆積している。

遺物 土師器の小破片が数点出土している。

時期 中世の遺構と考えられる。

2号堀

遺構（第67図、写真図版56）

〈位置・重複関係〉 調査区D区・E区に位置し、大グリッドVC・VD・VIC・VIDに跨っている。表土下、第Ⅱ層で検出された。重複する遺構はない。

〈規模・形態・方向〉 調査区内を横断する線路により、南北に分かれて検出されたが、削平の影響を受けた南側と比較し、北側は残存状態が良い。規模は北側が上端幅660～620cm、下端幅340cm、深さは100cmに対し、南側は上端幅328～260cm、下端幅260～232cm、深さは80cmである。検出された全長は北側4m、南側8m80cmで南北間の未調査分が約12mである。次に断面を観ると、北側の断面には検出面から深さ60cmの所に段差があるが、南側にはない。これは南北の検出面に約70cmの差があり、このため南側の上面がかなり削平されたためと考えられる。

〈埋土〉 自然堆積で北側は9層、南側は4層の堆積が認められる。上～中位は黒褐色土主体の土層、下位は北側が黒色土、南側が暗褐色土と黒褐色土の混合土層が堆積している。

遺物 なし。

時期 中世の遺構と考えられる。

3号堀

遺構（第68図、写真図版57）

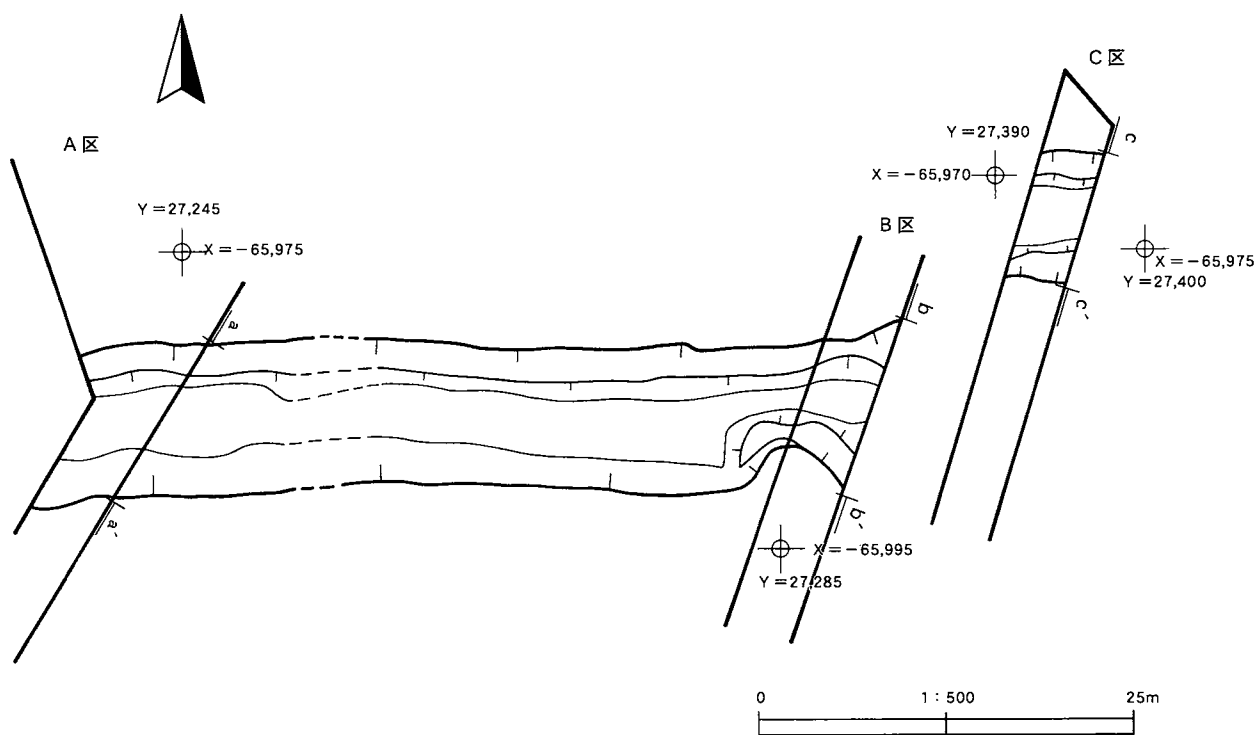
<位置・重複関係> 調査区E区東端、大グリッドVFで検出された。表土下、第Ⅱ層で検出され、24号陥し穴と重複し、これを切る。

<規模・方向> 規模は上端幅374～254cm、下端幅232～164cm、深さは最深で140cm、検出した長さは約15m54cmである。壁面は西側は緩くなだらかなのに対し、東側は42°の傾斜で立ち上がる。方向は北西-南東で、北端は調査区外へ延び、南端は削平により消失されている。

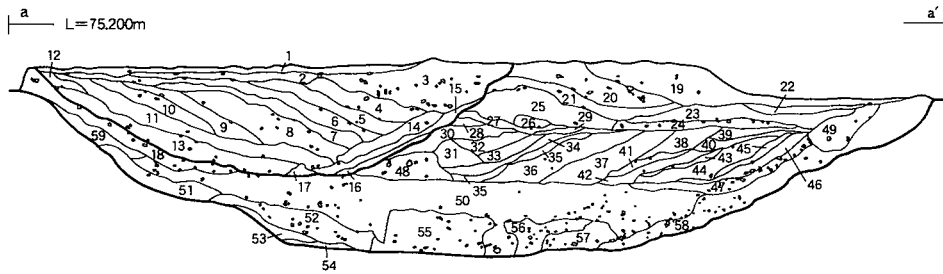
<埋土> 自然堆積で7層が確認され、上位は黒褐色土、中位は暗褐色土、下位はにぶい黄褐色土を微量含む黒褐色土、明黄褐色土を微量含む褐灰色土が堆積する。

遺物 土器の破片が少量出土している（小片のため不掲載）。

時期 中世の遺構と考えられる。



第65図 1号堀（平面）

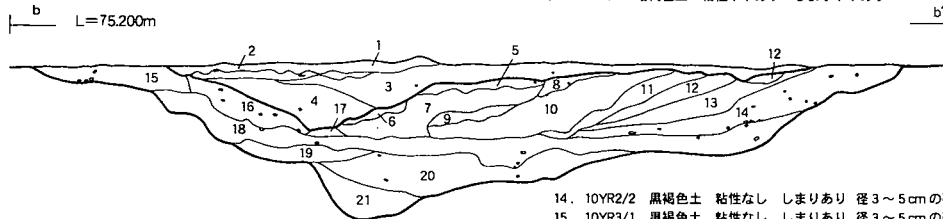


a-a'

1~17 攪乱

- 18. 10YR4/6 褐色砂質土 粘性ややあり しまりややあり 水酸化鉄粒多く含む。
- 19. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし 固くしまる にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ブロック状に含む。
- 20. 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし しまりあり にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 1%、礫 (径2~8cm) 多く含む。
- 21. 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色土 (10YR4/4) 3%含む。
- 22. 10YR2/3 黒褐色土 50%、10YR4/4 褐色土 50%の混合土層 粘性なし しまりあり
- 23. 10YR5/6 黄褐色砂質土 60%、10YR2/2 黒褐色土 40%の混合土層 粘性なし しまりあり
- 24. 10YR5/6 黄褐色砂質土 70%、10YR2/2 黒褐色土 30%の混合土層 粘性なし しまりあり 礫 (径1~5cm) 多く含む。
- 25. 10YR3/4 暗褐色砂質土 粘性なし しまりあり 黒褐色土 (10YR3/2) 20%含む。
- 26. 10YR4/4 褐色砂質土 粘性なし しまりあり 黒褐色土 (10YR3/2) 30%含む。
- 27. 10YR5/6 黄褐色砂質土 粘性なし しまりあり 黒褐色土 (10YR3/2) 1%含む。
- 28. 10YR5/6 黄褐色砂質土 粘性なし しまりあり 黒褐色土 (10YR3/2) 5%含む。
- 29. 10YR2/2 黒褐色土 80%、10YR4/4 褐色砂質土 10%の混合土層 粘性なし しまりあり
- 30. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質土 粘性なし しまりあり 黒褐色土 (10YR2/2) 10%含む。
- 31. 10YR4/4 褐色砂質土 60%、10YR2/3 黒褐色土 40%の混合土層。粘性なし しまりあり
- 32. 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし しまりあり にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 20%含む。
- 33. 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし しまりあり にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 15%含む。
- 34. 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色砂質土 (10YR4/4) 5%含む。
- 35. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色砂質土 (10YR4/4) 3%含む。
- 36. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 20%含む。
- 37. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 30%含む。
- 38. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 5%含む。
- 39. 10YR2/3 黒褐色土 80%、10YR5/6 黄褐色砂質土 20%の混合土層 粘性なし しまりあり

- 40. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色砂質土 (10YR4/4) 2%含む。
- 41. 10YR4/3 にぶい黄褐色土 粘性ややあり しまりあり 水酸化鉄粒、礫 (1~3cm) 多く含む。
- 42. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色砂質土 (10YR4/4) 2%含む。
- 43. 10YR3/4 暗褐色砂質土 70%、10YR3/2 黒褐色土 30%の混合土層 粘性なし しまりあり
- 44. 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし しまりあり 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 10%含む。
- 45. 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし しまりあり 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 2%含む。
- 46. 10YR2/3 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 水酸化鉄粒、礫 (3~5cm) 層下部に少量含む。
- 47. 10YR3/1 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 水酸化鉄粒、礫 (3~6cm) 多く含む。
- 48. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質土 粘性ややあり しまりややあり 水酸化鉄粒、礫 (径1~7cm) 多く含む。
- 49. 10YR3/3 暗褐色土 粘性なし しまりあり 礫 (3~5cm) 少量含む。
- 50. 10YR4/2 灰黄褐色土 粘性ややあり しまりあり 水酸化鉄粒、礫 (径1~4cm) 多く含む。
- 51. 10YR3/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり
- 52. 10YR3/3 暗褐色土 粘性ややあり しまりややあり 少量 (径2~7cm) 多く含む。
- 53. 10YR3/2 黒褐色土 90%、10YR4/4 褐色砂質土 10%の混合土層 粘性なし しまりあり
- 54. 10YR2/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり
- 55. 10YR2/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 層上位に水酸化鉄粒少量、礫 (径1~5cm) 多く含む。
- 56. 10YR2/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 層上位に水酸化鉄粒少量、礫 (径1~5cm) 多く含む。(54と類似)
- 57. 10YR3/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 水酸化鉄粒、礫 (1~5cm) 多く含む。
- 58. 10YR3/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 礫 (1~5cm) 多く含む。
- 59. 10YR3/3 暗褐色土 粘性ややあり しまりややあり



b-b'

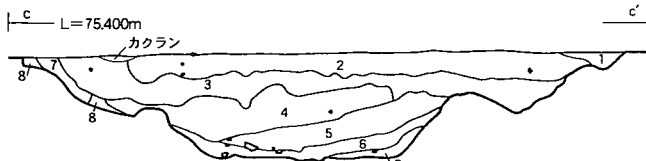
1~4 攪乱

- 5. 10YR3/4 暗褐色砂質土 50%、10YR3/1 黒褐色土 50%の混合土層 粘性なし しまりあり
- 6. 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし しまりあり
- 7. 10YR3/4 暗褐色砂質土 70%、10YR3/1 黒褐色土 30%の混合土層 粘性なし しまりあり
- 8. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 5~10%含む。
- 9. 10YR4/6 褐色砂質土 粘性なし しまりあり
- 10. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 20%含む。
- 11. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 5%含む。
- 12. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 20%含む。
- 13. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 10%含む、径3~8cmの礫少量含む。

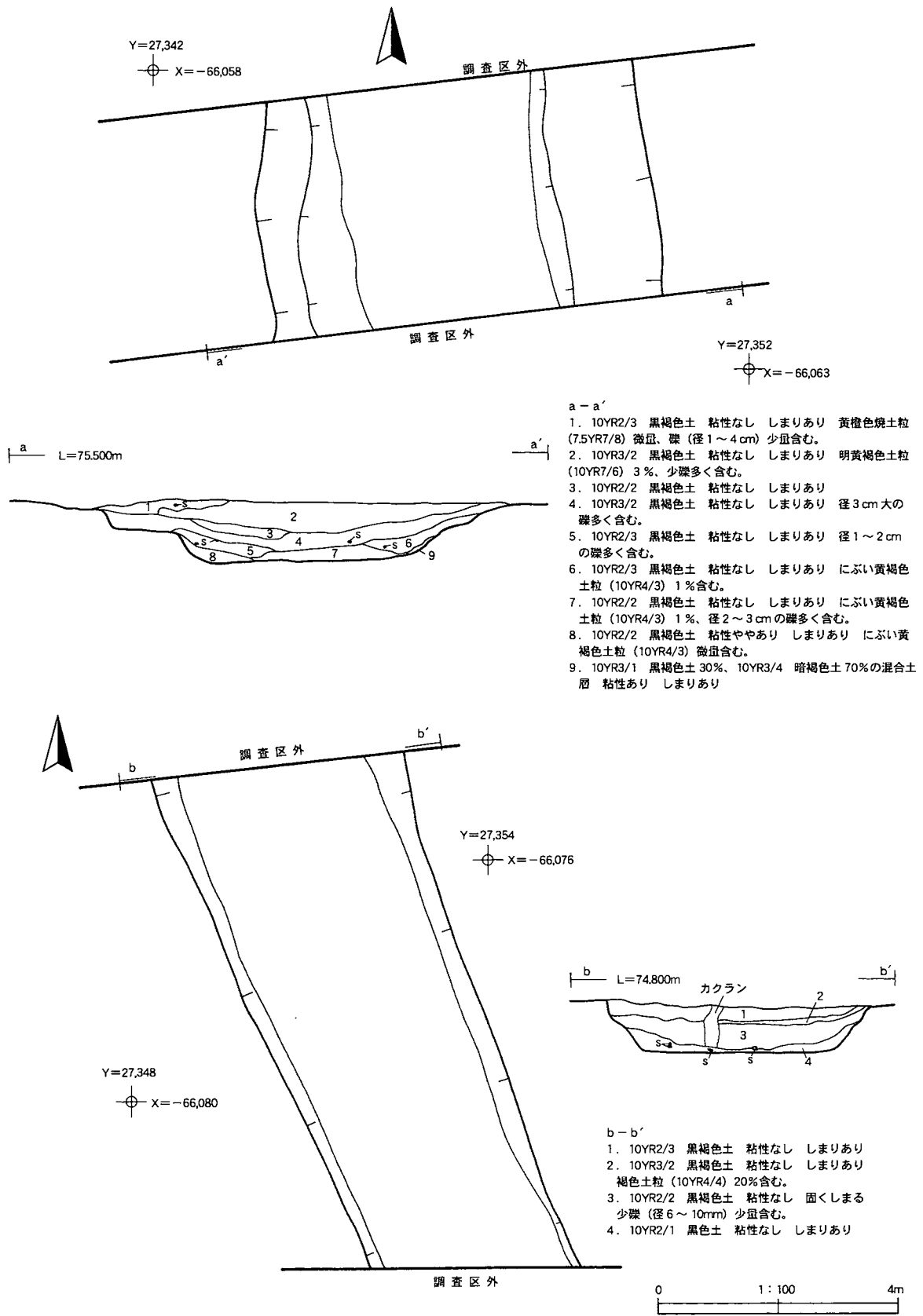
- 14. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 径3~5cmの礫少量含む。
- 15. 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし しまりあり 径3~5cmの礫少量含む。
- 16. 10YR2/1 黒色土 粘性なし しまりあり 径3~5cmの礫多く含む。
- 17. 2.5YR4/1 黄灰色土 粘性ややあり しまりあり 水酸化鉄粒多く含む。
- 18. 10YR3/1 黒褐粘土質土 粘性ややあり しまりあり 水酸化鉄粒多く含む。
- 19. 10YR3/2 黒褐粘土質土 粘性ややあり しまりあり 明黄褐色土 (10YR7/6) 微量含む。
- 20. 2.5YR3/1 黒褐粘土質土 粘性あり しまりあり 水酸化鉄粒多く含む。
- 21. 10YR2/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 褐色土粒 (10YR4/4) 10%含む。

c-c'

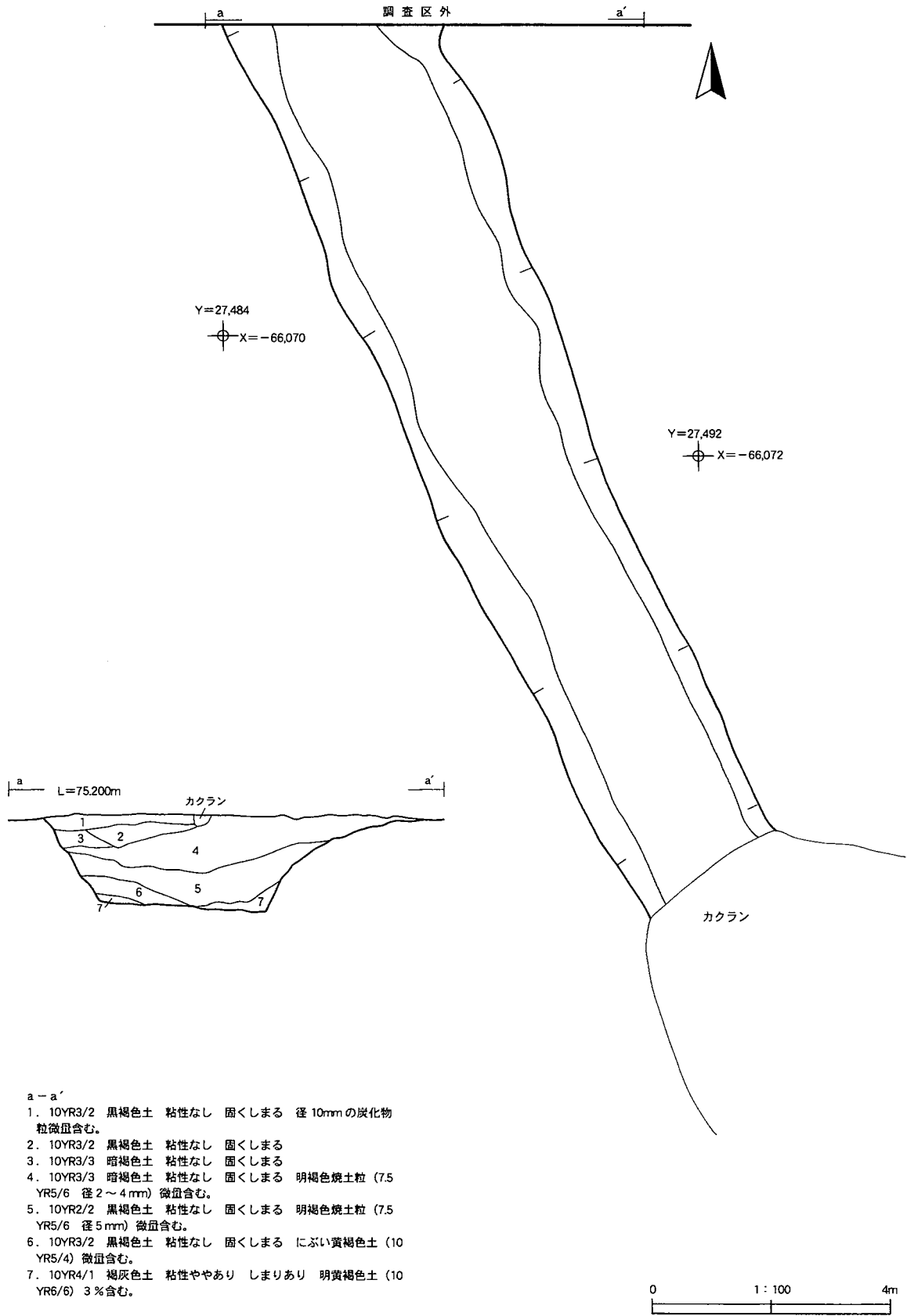
- 1. 10YR2/2 黒褐色土 50%、10YR2/1 黒色土 50%の混合土層。粘性あり しまりあり
- 2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色砂質土 (10YR4/4) 1%含む。
- 3. 10YR2/3 黒褐色砂質土 粘性なし しまりあり 褐色砂質土 (10YR4/4) 1%含む。
- 4. 10YR2/2 黒褐色砂質土 粘性なし しまりあり 褐色砂質土 (10YR4/4)、赤褐色粘土粒 (5YR4/8 径1~2mm) 微量含む。
- 5. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色砂粒 (10YR4/4) 微量含む。
- 6. 10YR2/1 黒色土 粘性なし しまりあり 褐色砂粒 (10YR4/4) 5%含む、礫少量含む。
- 7. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色砂粒 (10YR4/4) 30%含む。
- 8. 10YR3/1 黒褐色土 70%、10YR4/4 褐色砂粒 (地山) 30%の混合土層 粘性なし しまりあり
- 9. 10YR2/1 黒色土 粘性ややあり しまりあり



第66図 1号堀 (断面)



第 67 図 2 号堀



a-a'

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし 固くしまる 径10mmの炭化物粒微量含む。
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし 固くしまる
3. 10YR3/3 暗褐色土 粘性なし 固くしまる
4. 10YR3/3 暗褐色土 粘性なし 固くしまる 明褐色焼土粒 (7.5 YR5/6 径2~4mm) 微量含む。
5. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし 固くしまる 明褐色焼土粒 (7.5 YR5/6 径5mm) 微量含む。
6. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし 固くしまる にぶい黄褐色土 (10 YR5/4) 微量含む。
7. 10YR4/1 褐灰色土 粘性ややあり しまりあり 明黄褐色土 (10 YR6/6) 3%含む。

第68図 3号堀

7. 柱穴列

1号柱穴列 (第69図、写真図版58)

<位置> VDグリッド南東部で検出された。遺構は調査区境にあるため、全容は明らかでない。

<規模> 全長は11.34m、柱間寸法はP1～P6間は1.92～1.94m、P6～P7間は0.76mである。

[P1←1.94m→P2←1.92m→P3←1.92m→P4←1.92m→P5←1.94m→P6←0.76m→P7]

<柱穴> 各柱穴の規模は、観察表に記してある。埋土は一律に、黒褐色土に褐色土や黄褐色土が少量含まれる。

遺物 なし。

時期 不明である。

8. 柱穴状小土坑群

遺構 (第69図)

<位置・検出状況> 今回の調査では、E区西端～中央部(IVBグリッド北側)から柱穴状小土坑が81基検出された。検出面は第Ⅱ層である。

<埋土> 埋土はいずれも周辺の住居の埋土上位と同じ土色で、褐色土混じりの黒褐色土である。埋土断面から明確な柱痕が確認できるものはほとんどない。

<配列> これらの柱穴状小土坑群は調査区外へと広がることから、建物跡や柱穴列を推定することは難しく、検出された順に付番した。

遺物 なし。

時期 時期を知り得る遺物は出土しておらず、推定の域をでないが、検出面から平安時代の遺構である可能性が高い。

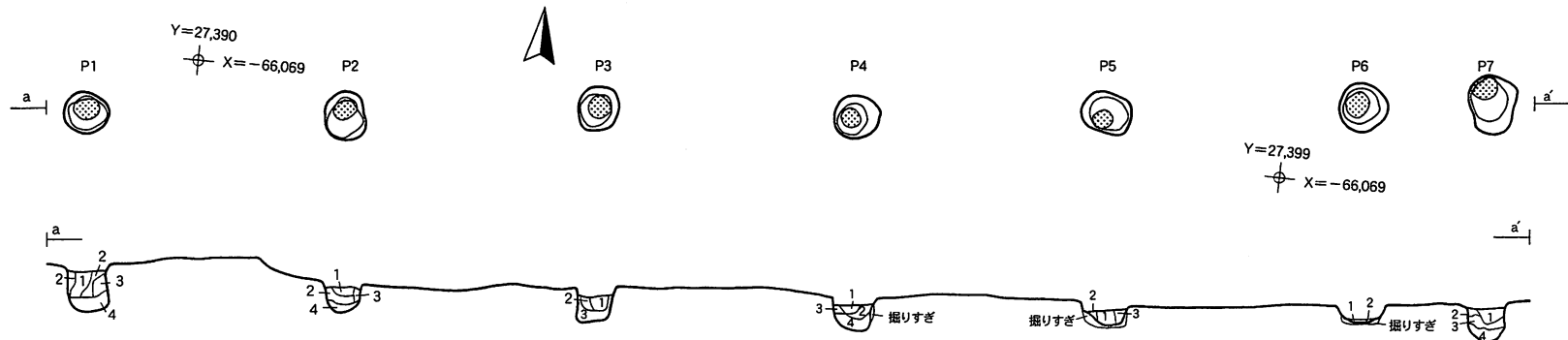
柱穴状小土坑観察表

P No.	開口径	深さ	備考
1	30×25	28	
2	30×27	23	
3	25×22	26	
4	25×25	33	
5	26×24	23	
6	38×36	45	
7	32×32	27	
8	23×22	36	
9	19×18	26	
10	32×30	51	
11	19×18	24	
12	29×25	34	
13	—	43	P14と重複
14	—	40	P13と重複
15	21×20	37	
16	30×26	32	
17	28×27	38	
18	23×20	31	
19	31×25	34	
20	40×27	33	
21	24×21	32	
22	24×21	29	
23	25×20	40	
24	24×22	13	
25	16×16	29	
26	21×20	32	
27	26×22	27	

P No.	開口径	深さ	備考
28	16×16	25	
29	26×23	28	
30	14×10	17	
31	24×18	27	
32	26×19	12	
33	17×16	24	
34	20×18	16	
35	20×18	28	
36	32×28	37	
37	22×20	20	
38	21×21	26	
39	33×28	30	
40	23×20	16	
41	20×20	24	
42	36×30	34	
43	21×17	24	
44	25×21	28	
45	33×30	29	
46	24×22	24	
47	27×25	26	
48	17×16	20	
49	14×12	22	
50	16×15	26	
51	20×18	32	
52	21×18	30	
53	27×25	22	
54	17×16	17	

P No.	開口径	深さ	備考
55	44×38	21	
56	26×22	18	
57	22×19	37	
58	18×16	24	
59	25×24	22	
60	16×16	24	
61	17×16	8	
62	18×17	11	
63	12×12	21	
64	18×15	33	
65	16×15	13	
66	14×12	22	
67	28×22	17	
68	16×15	7	
69	13×12	17	
70	22×20	15	
71	18×17	19	
72	16×15	15	
73	14×14	19	
74	19×17	13	
75	19×17	22	
76	17×15	16	
77	22×18	24	
78	37×17	20	
79	18×17	14	
80	23×21	18	
81	27×25	15	

*単位はcmである。



P 1
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり
明黄褐色土 (10YR7/6) 10%含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性ややあり し
まりあり 褐色土 (10YR4/6) 微量含む。
3. 10YR2/1 黒色土 粘性ややあり しまり
あり
4. 10YR3/2 黒褐色土 粘性あり しまりあ
り

P 2
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性あり しまり
ややあり
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性あり しまり
あり
3. 10YR2/1 黒色土 粘性なし しまりあ
り 明黄褐色土 (10YR6/6) 1%含む。
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性ややあり し
まりあり 褐色土 (10YR4/4) 50%含む。

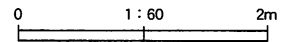
P 3
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし
しまりややあり
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし
しまりあり
3. 10YR2/1 黒色土 粘性あり
しまりあり

P 4
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし
しまりややあり
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし
しまりあり にぶい黄褐色土
(10YR4/3) 20%含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし
しまりあり にぶい黄褐色土
(10YR5/4) 3%含む。
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし
しまりあり にぶい黄褐色土
(10YR5/4) 30%含む。

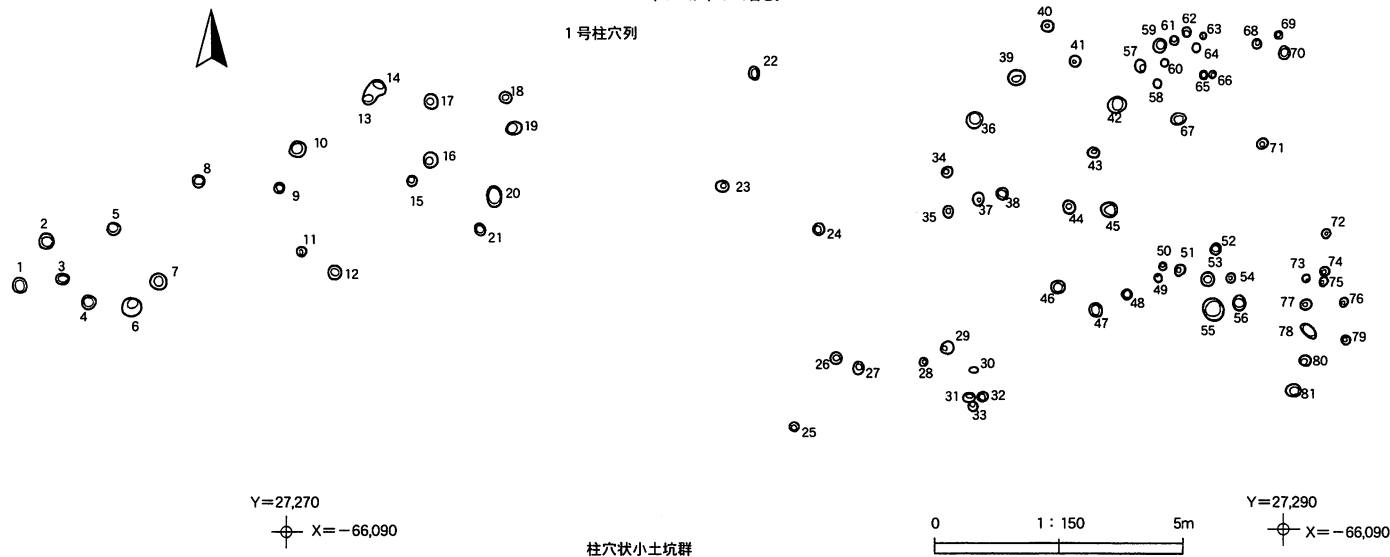
P 5
1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性あり しまりあり
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり
黄褐色土粒 (7.5YR7/8 径5mm) 微量含む。

P 6
1. 10YR2/1 黒色土 粘性あり しまりあり
2. 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし しまりあり
にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 20%含む。

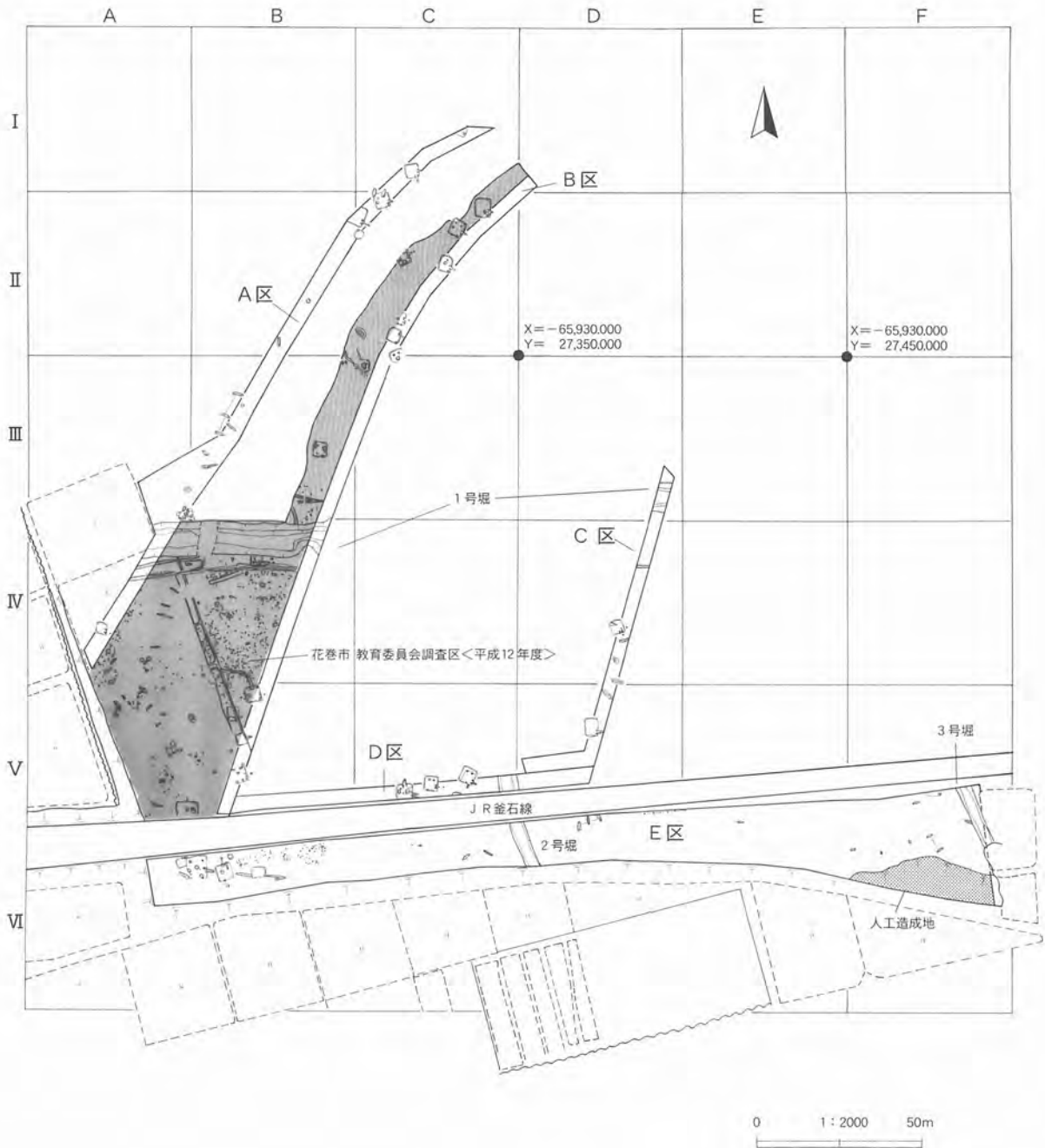
P 7
1. 10YR2/1 黒色土 粘性あり しまりあり
にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 1%含む。
2. 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし しまりあり
3. 10YR4/4 褐色土 粘性あり しまりあり
黒褐色土 (10YR3/1) 30%含む。
4. 10YR2/1 黒色土 粘性あり しまりあり



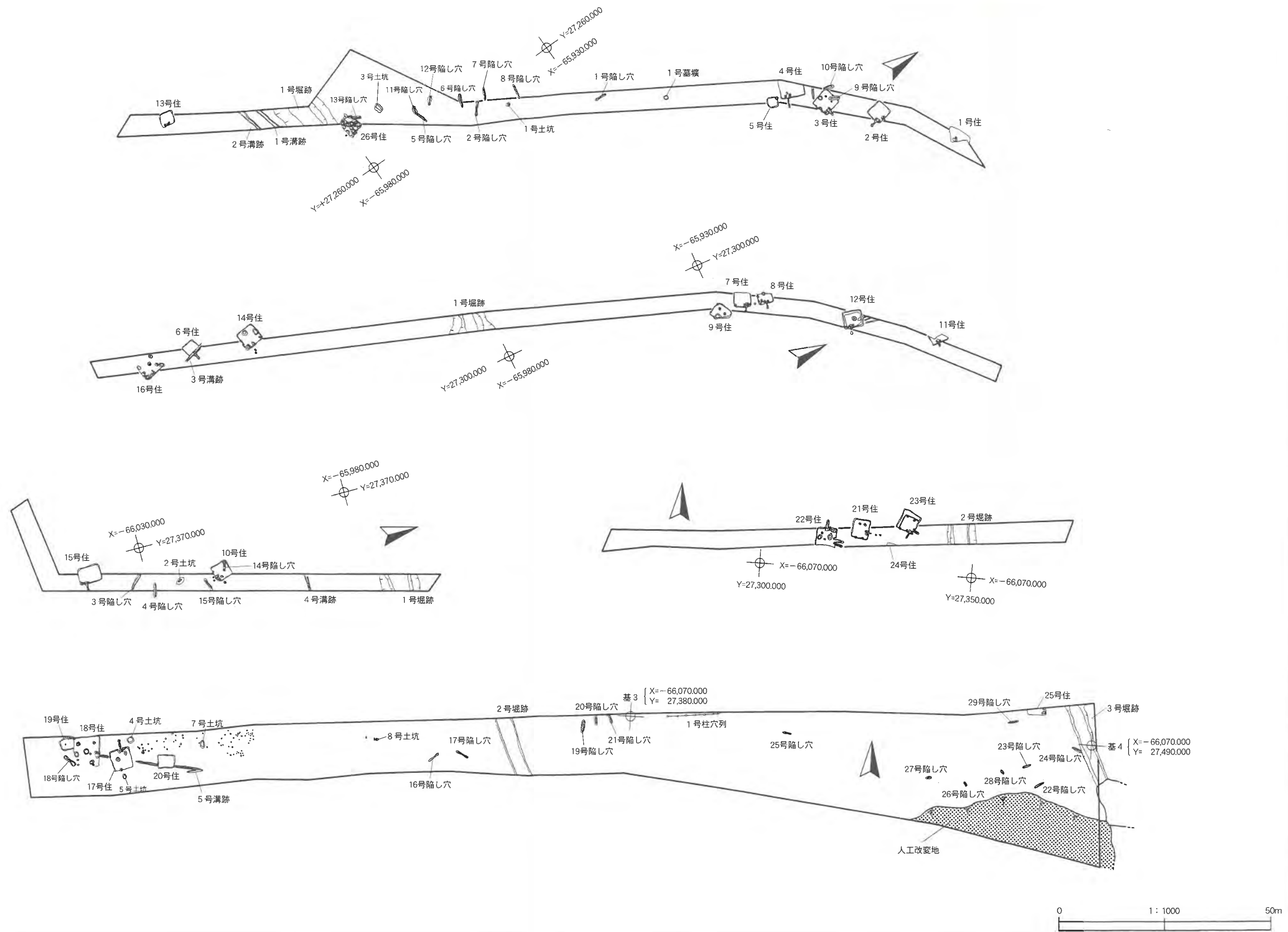
第69図 1号柱穴列・柱穴状小土坑群



柱穴状小土坑群



第70図 遺構配置図(1)



第71図 遺構配置図(2)

9. 遺構外出土遺物 (第94図、写真図版79)

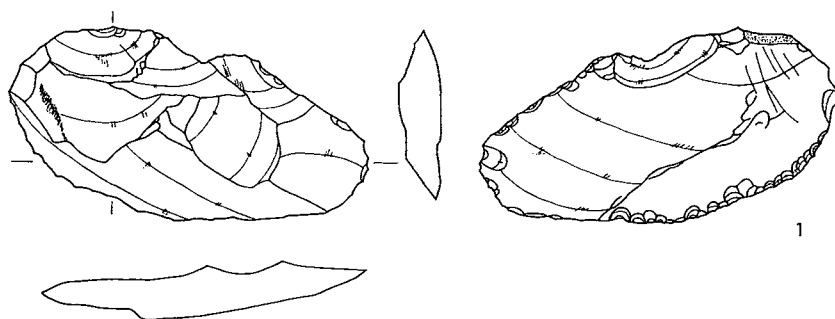
遺構外から出土した遺物は縄文土器、石器がある。いずれも量は少ないが、IV A-19、IV A-29 グリッド付近と限られた調査区から出土している。

土器

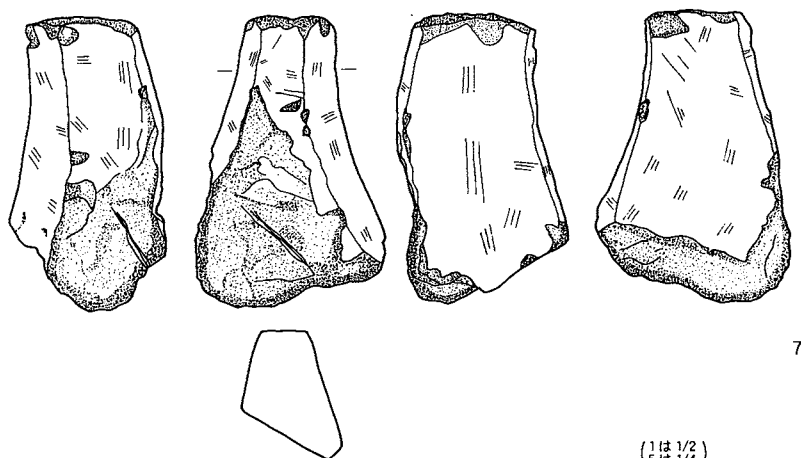
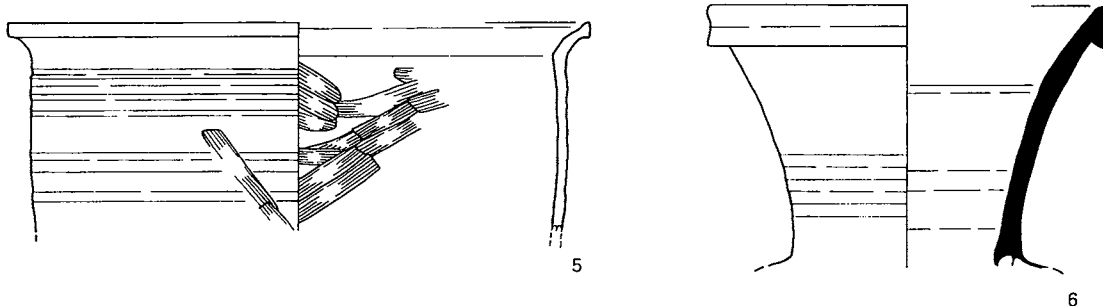
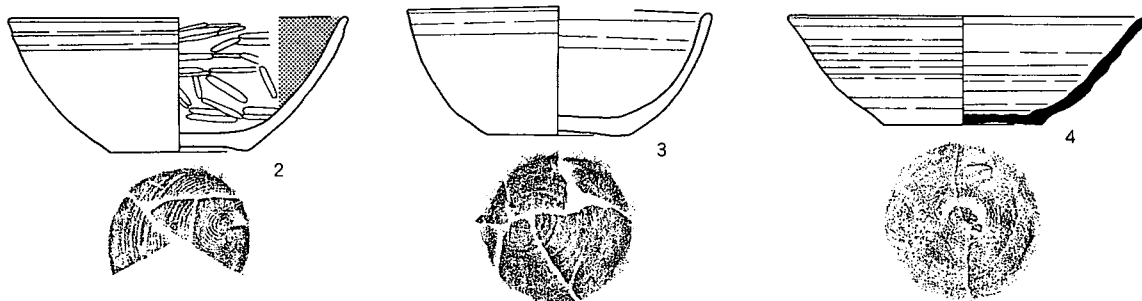
A区南端～E区西端にかけて遺構は検出されないものの第Ⅲ層下部から縄文土器が少量出土した。211～213はいずれも鉢の小破片で原体は視認できないほど摩滅している。時期は縄文時代前期と考えられる。

石器

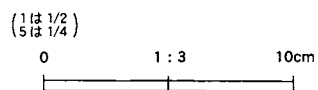
土器の出土した地点を中心に剥片石器が数点出土した。214は石核、215は縦型の石匙で両側に調整が施されている。216～219は片面調整の剥片石器である。



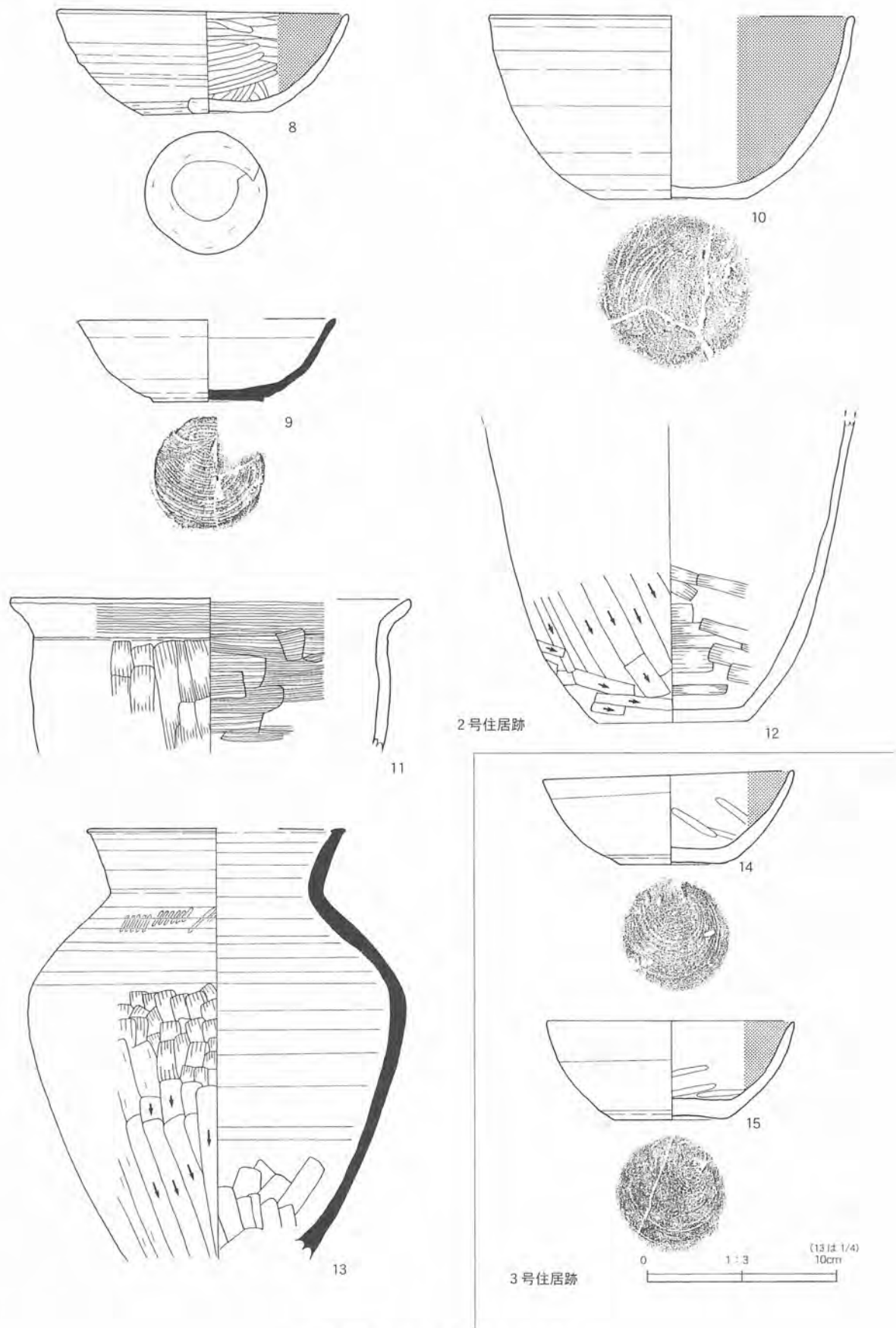
25号陥し穴



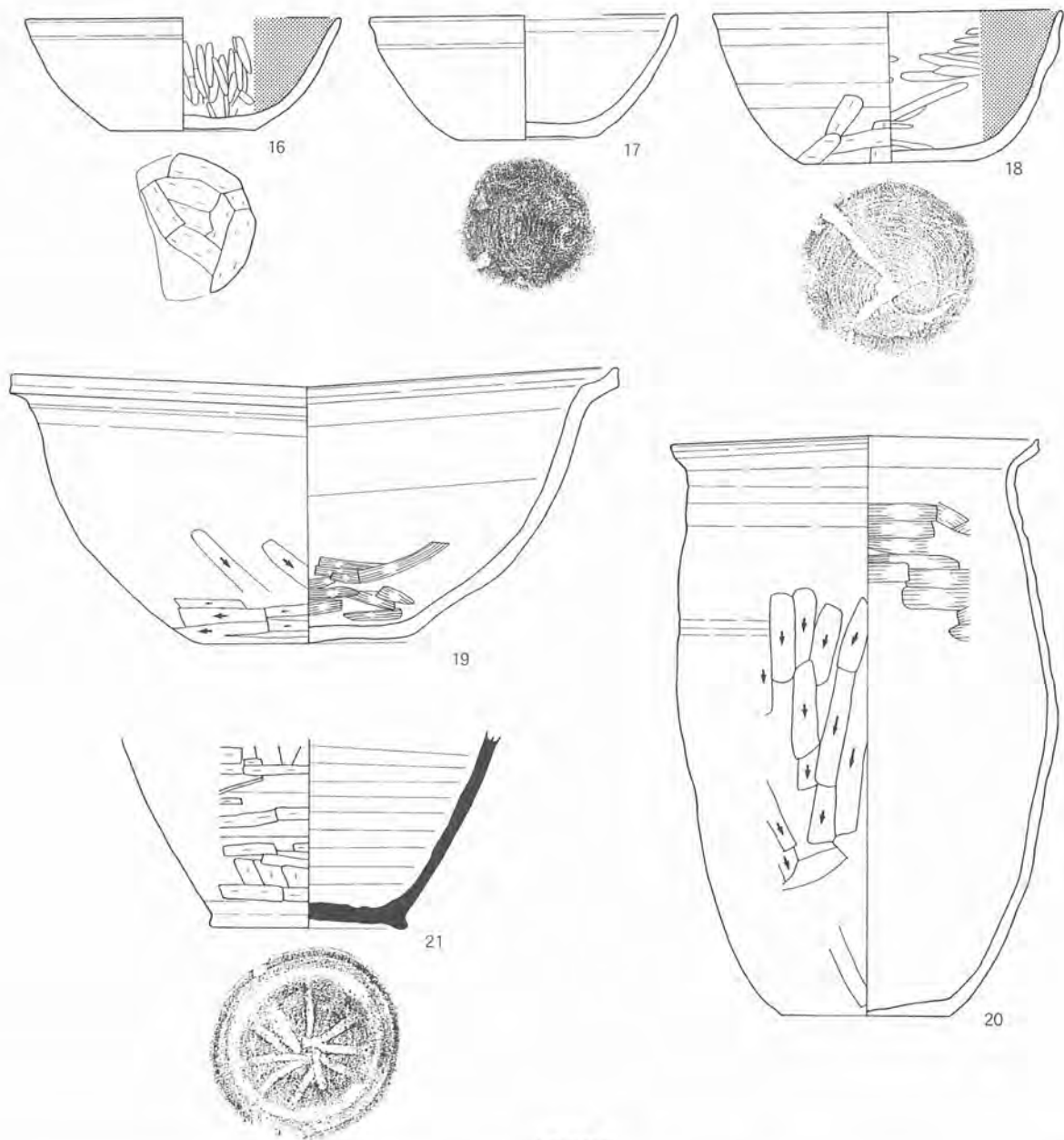
1号住居跡



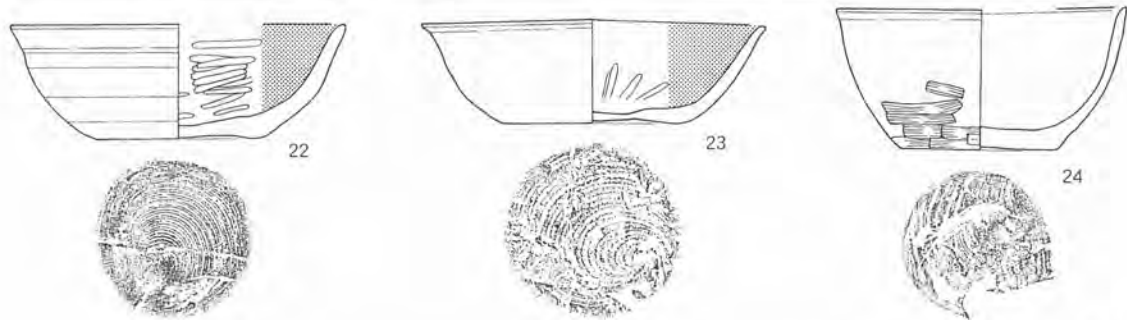
第72図 遺構内出土遺物(1)



第 73 図 遺構内出土遺物 (2)



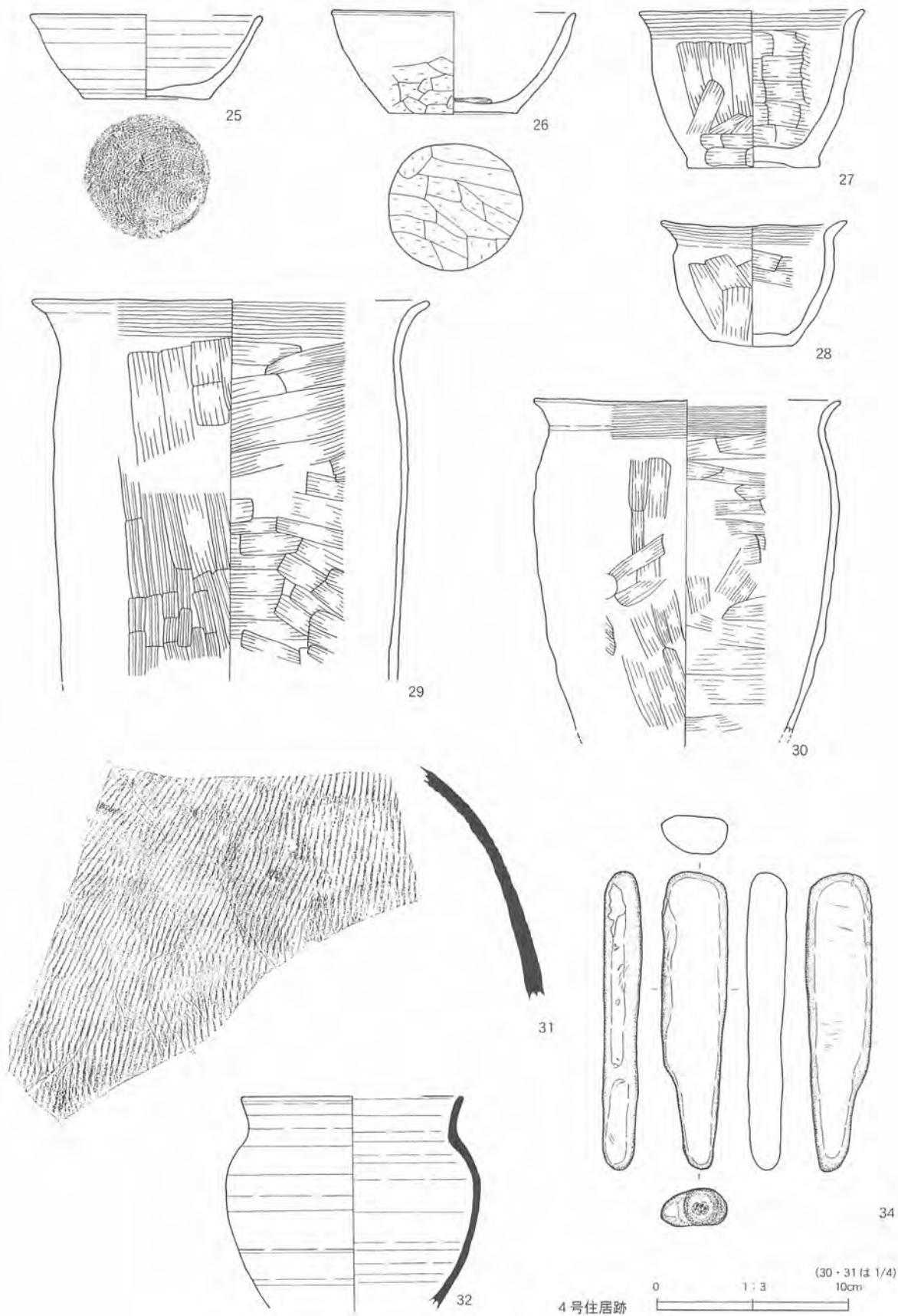
3号住居跡



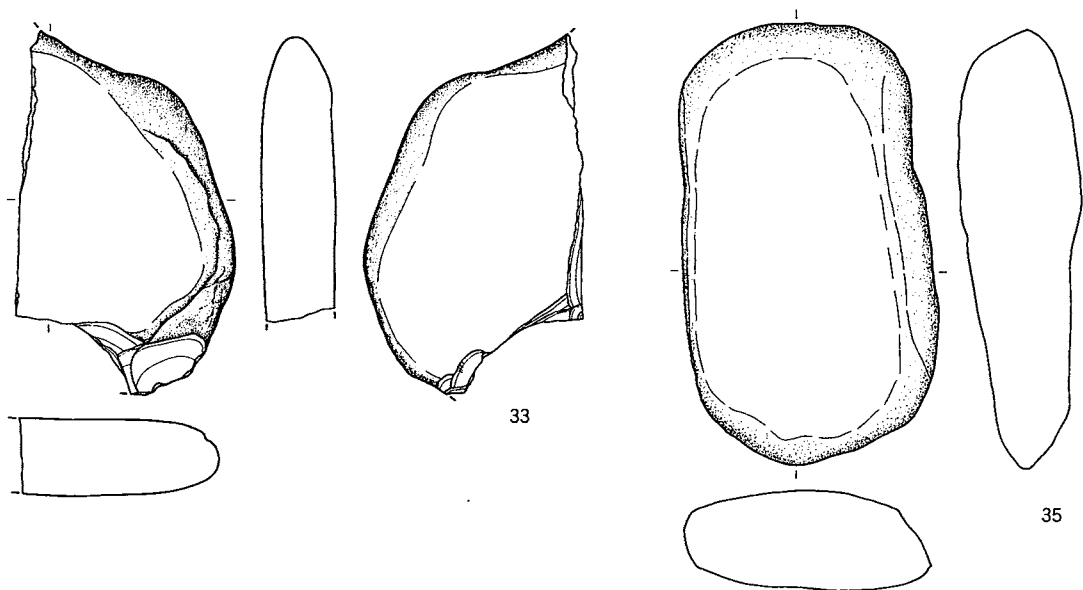
4号住居跡

0 1:3 (19・20は 1/4) 10cm

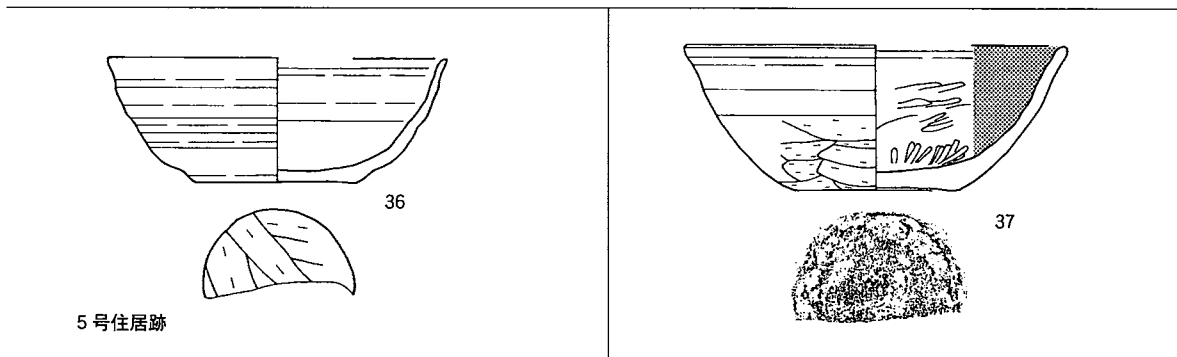
第74図 遺構内出土遺物(3)



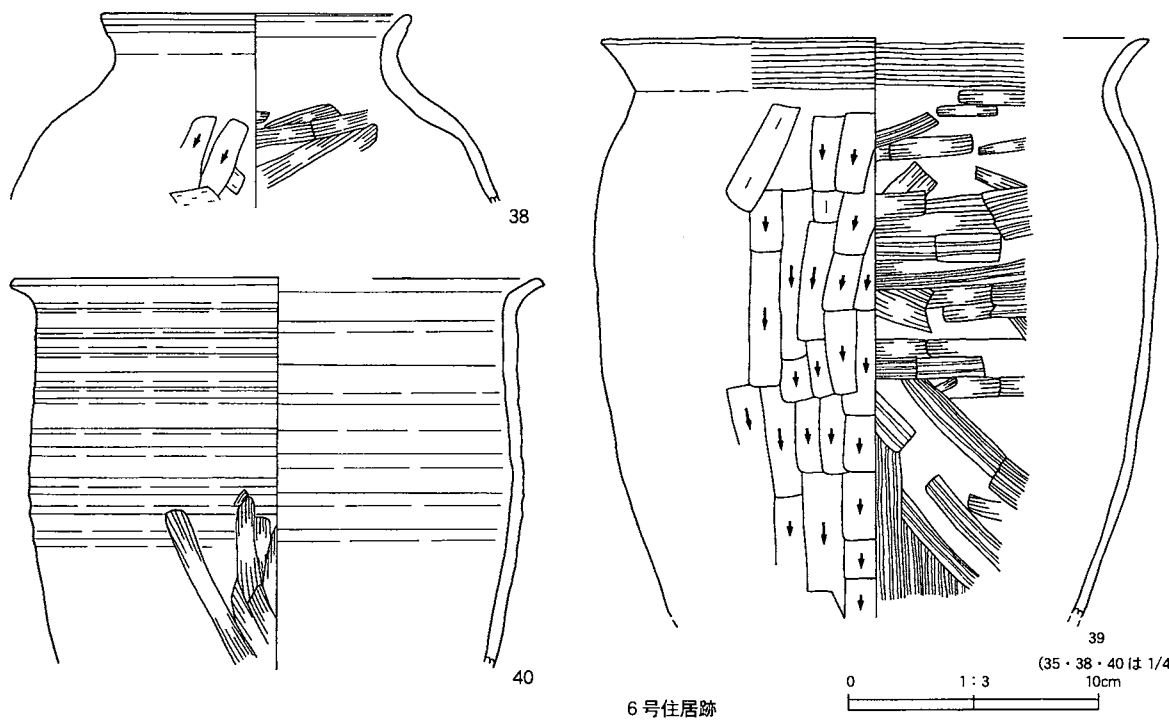
第75図 遺構内出土遺物(4)



4号住居跡



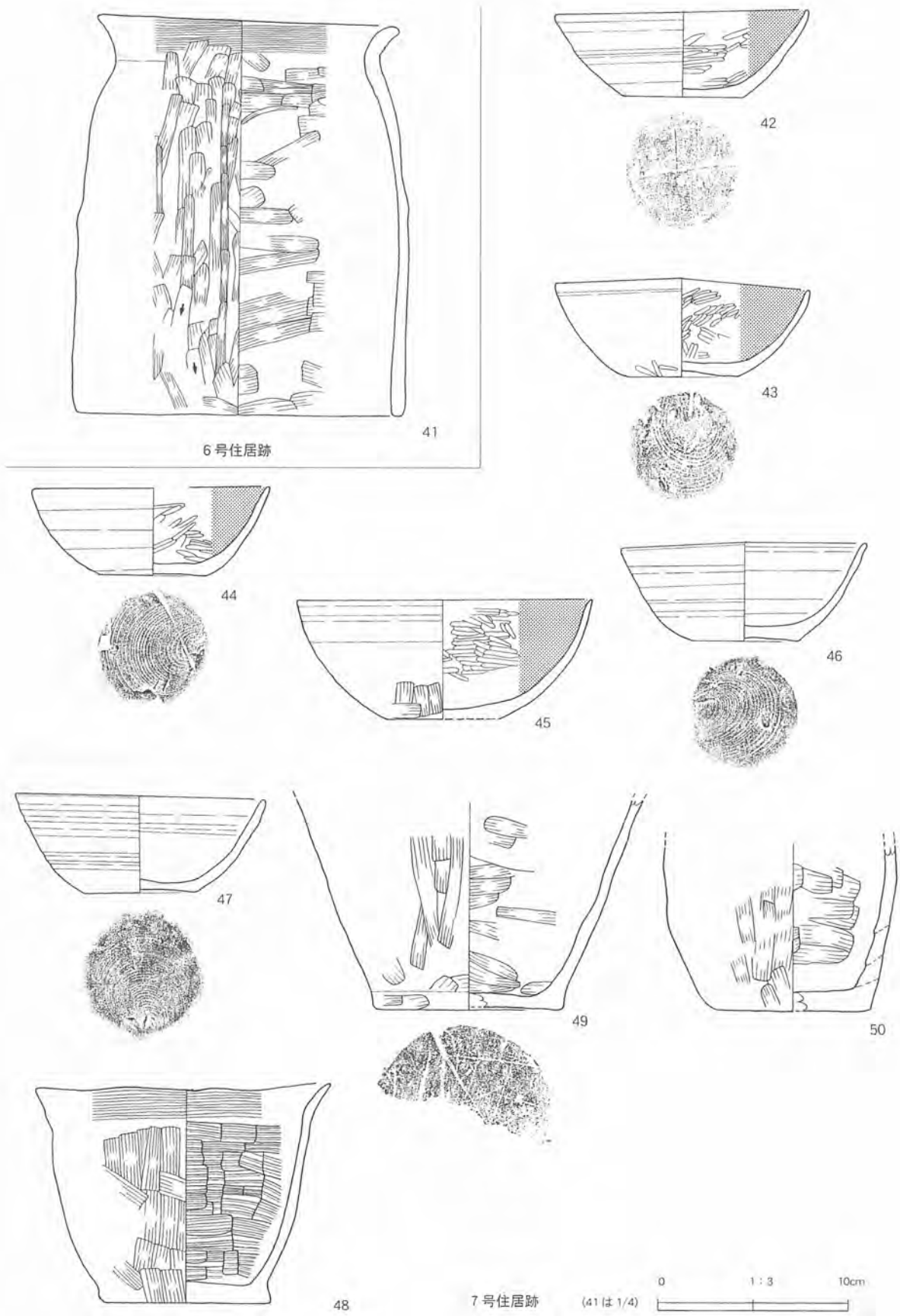
5号住居跡



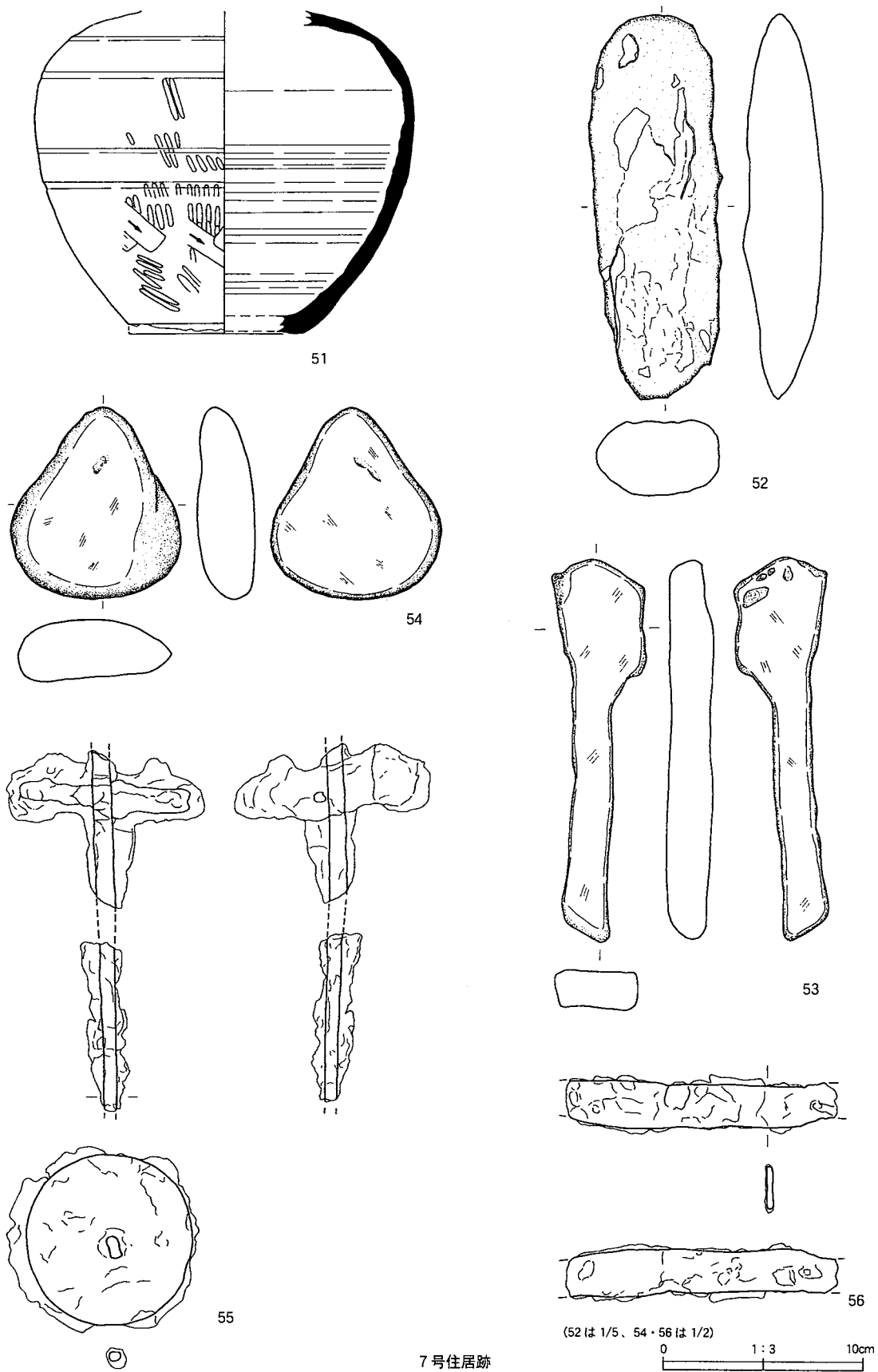
6号住居跡

(35・38・40は1/4)

第76図 遺構内出土遺物(5)



第 77 図 遺構内出土遺物 (6)



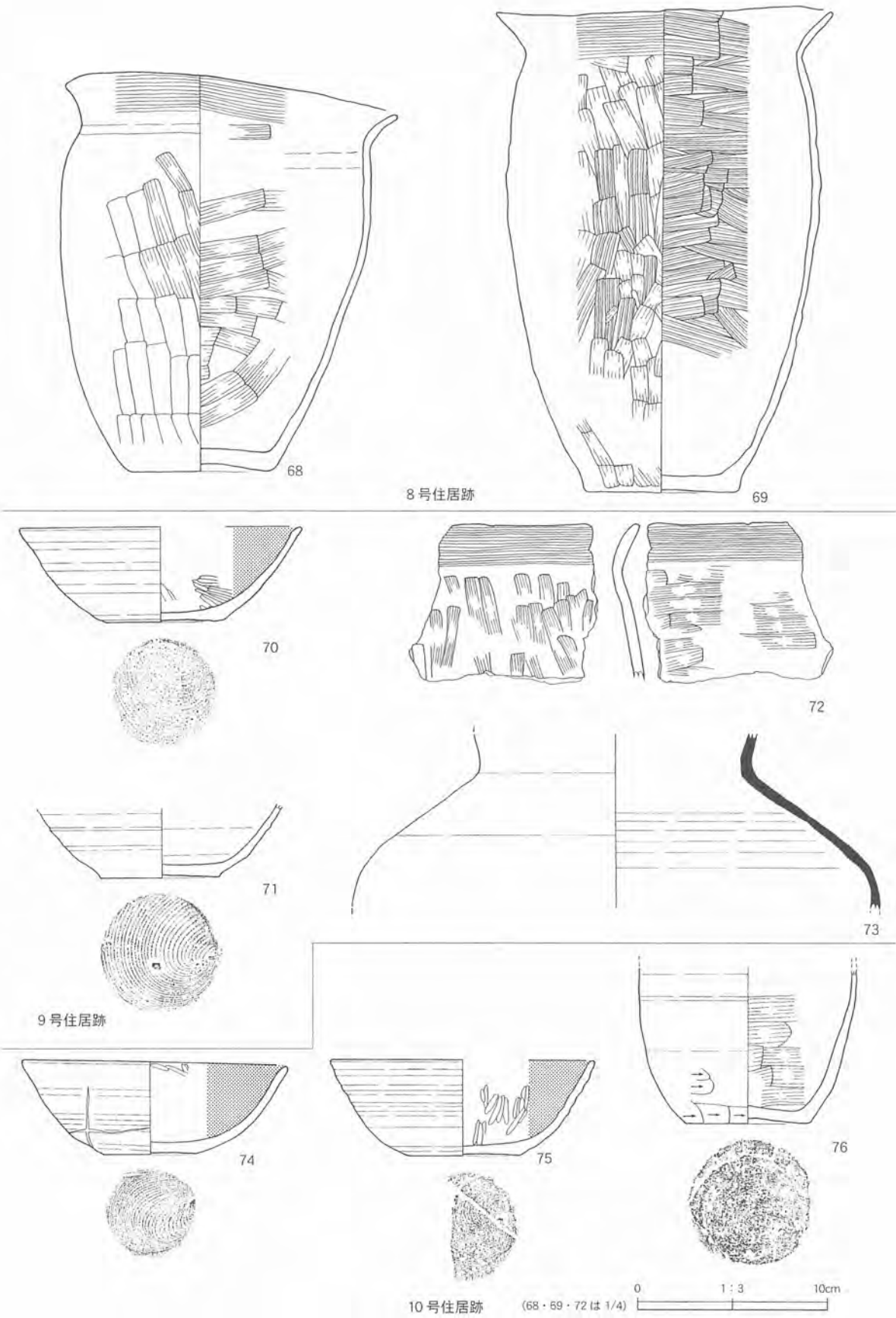
第 78 図 遺構内出土遺物 (7)



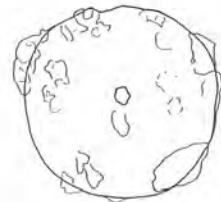
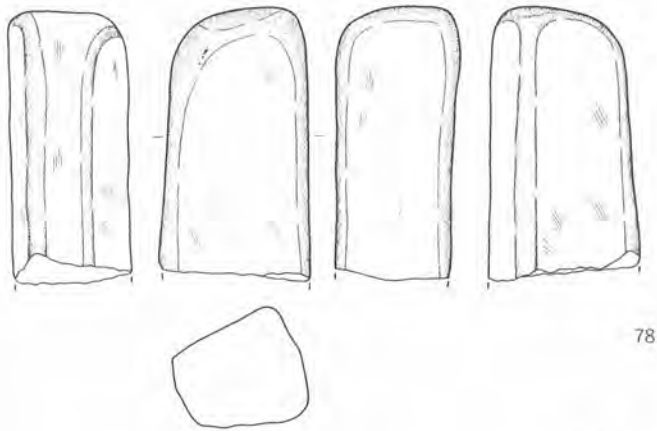
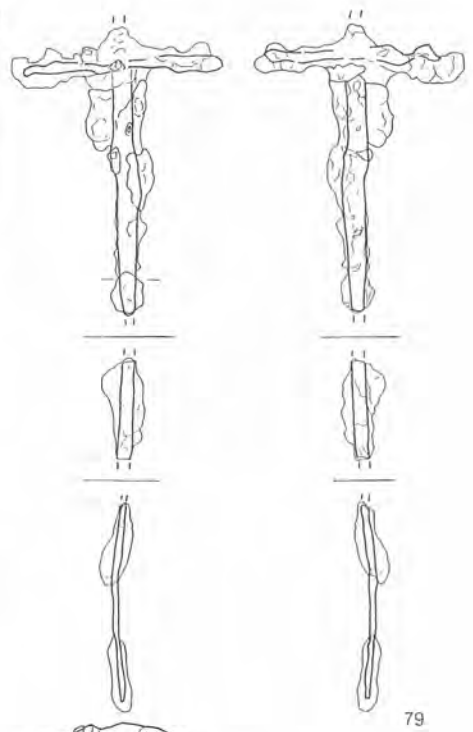
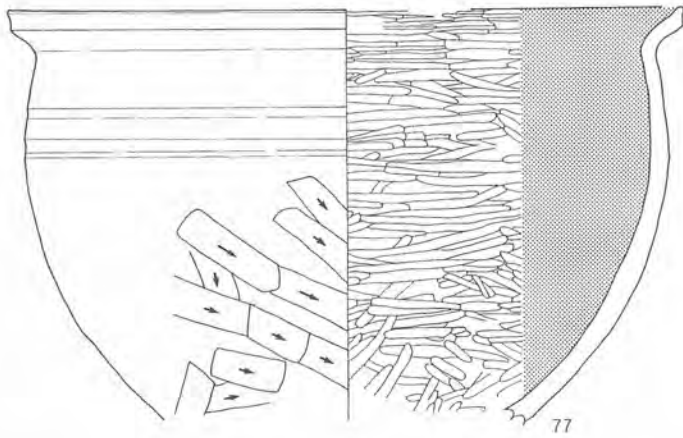
8号住居跡

0 1:3 10cm
(61は1/4)

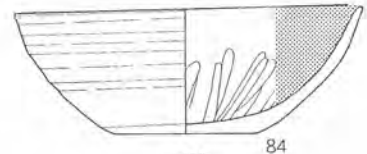
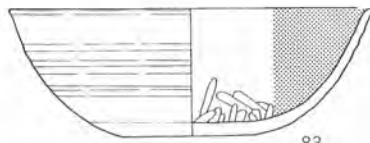
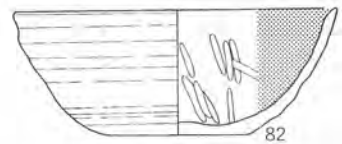
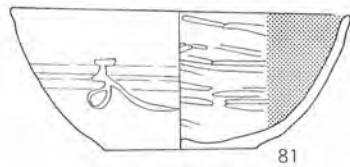
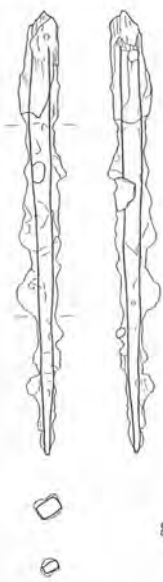
第79図 遺構内出土遺物(8)



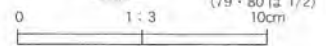
第80図 遺構内出土遺物(9)



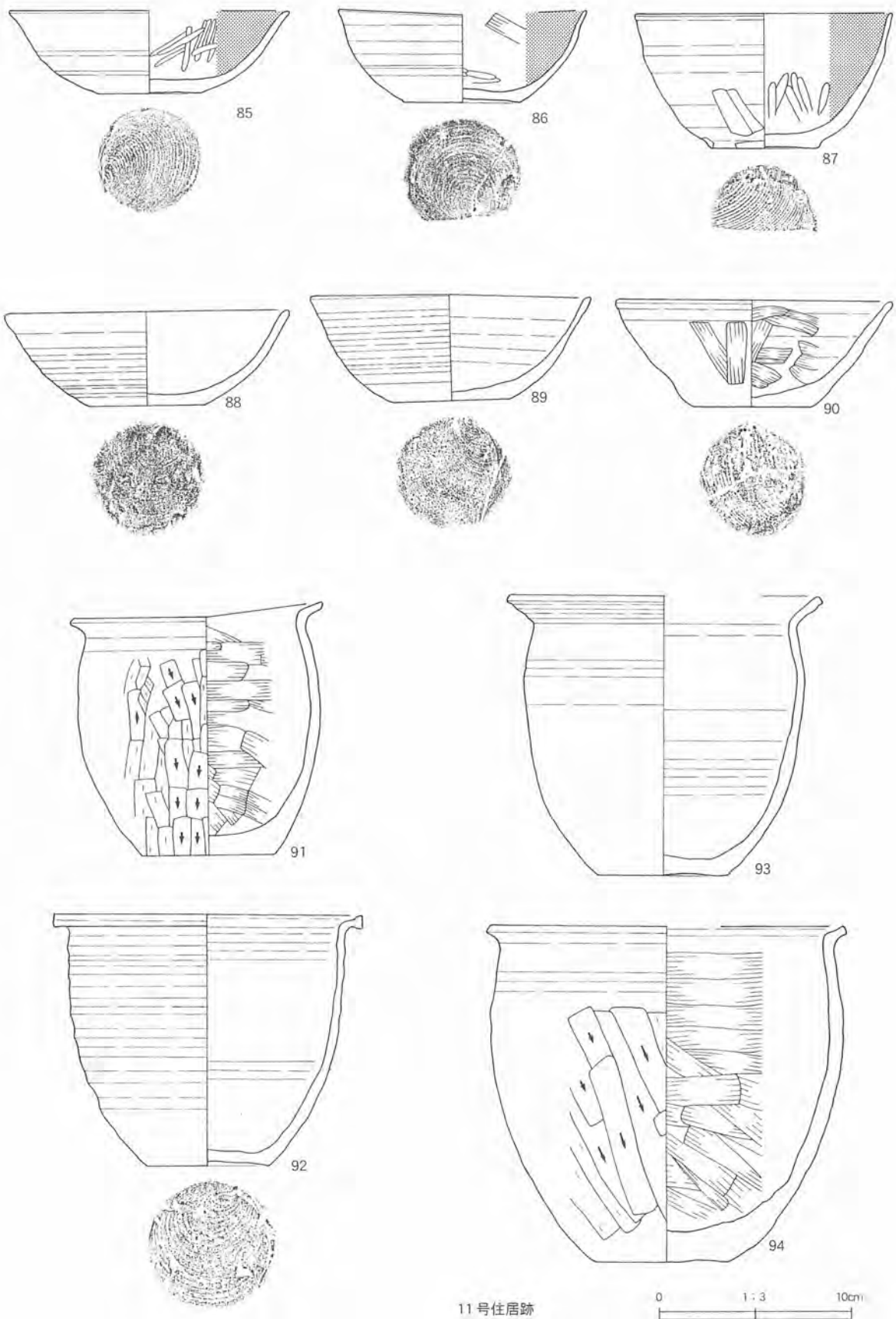
10号住居跡



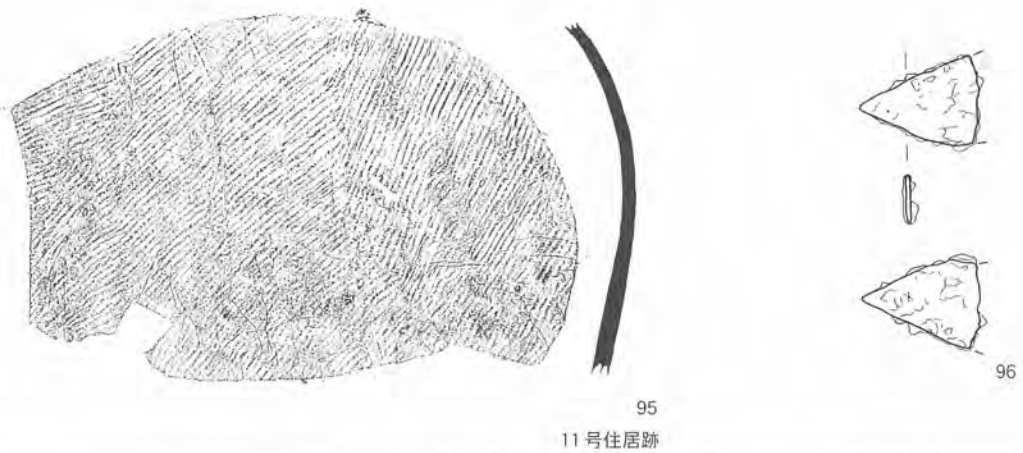
11号住居跡



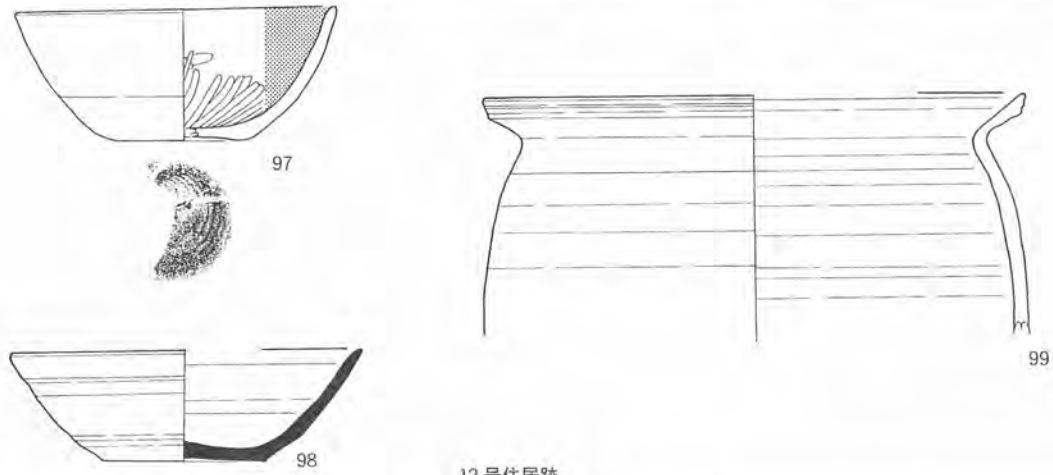
第81図 遺構内出土遺物(10)



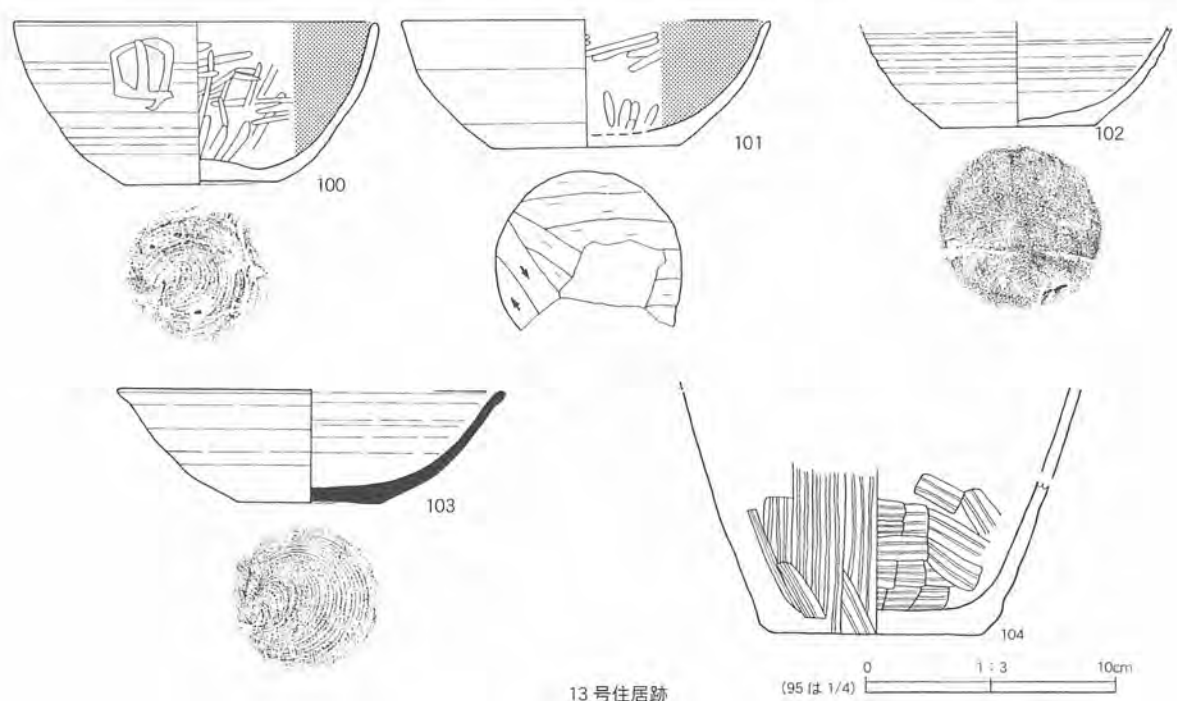
第82図 遺構内出土遺物(11)



11号住居跡

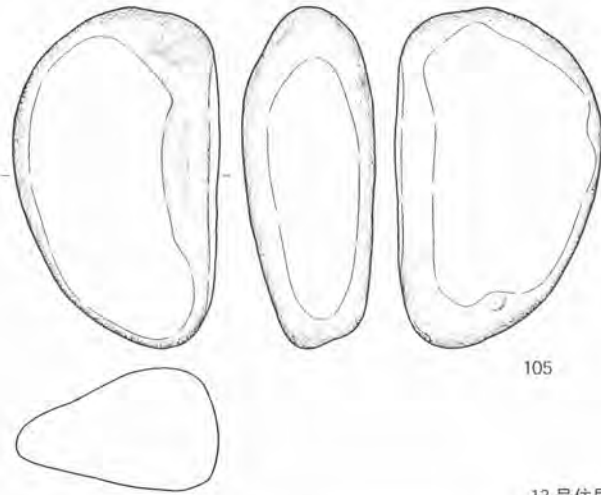


12号住居跡

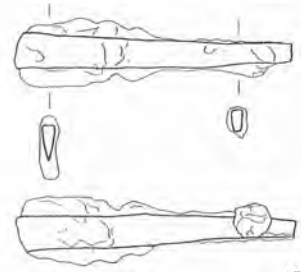


13号住居跡

第 83 図 遺構内出土遺物 (12)

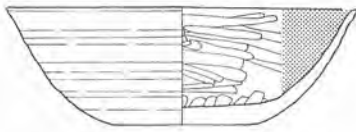


105

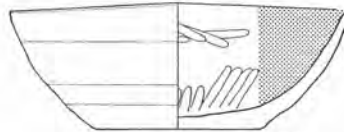


106

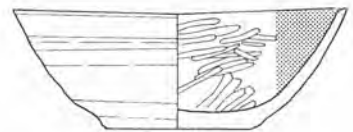
13号住居跡



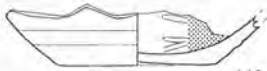
107



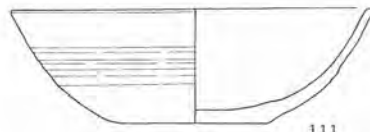
108



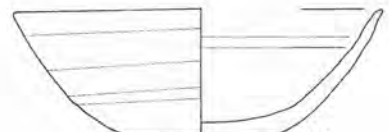
109



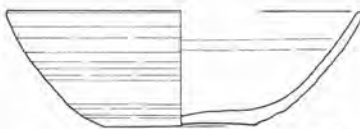
110



111



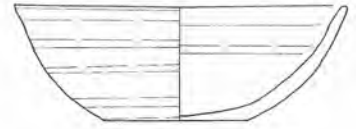
112



113



114



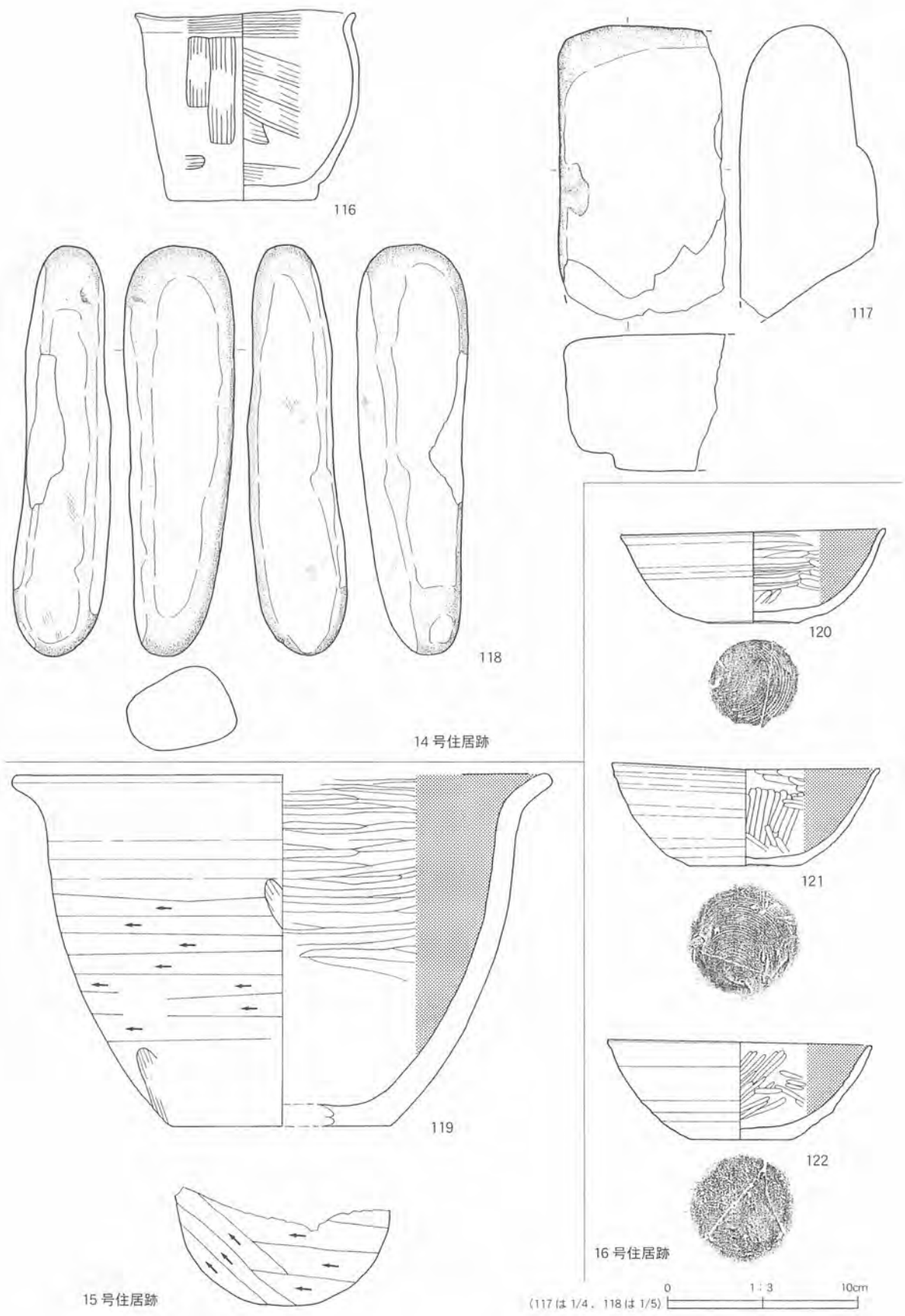
115



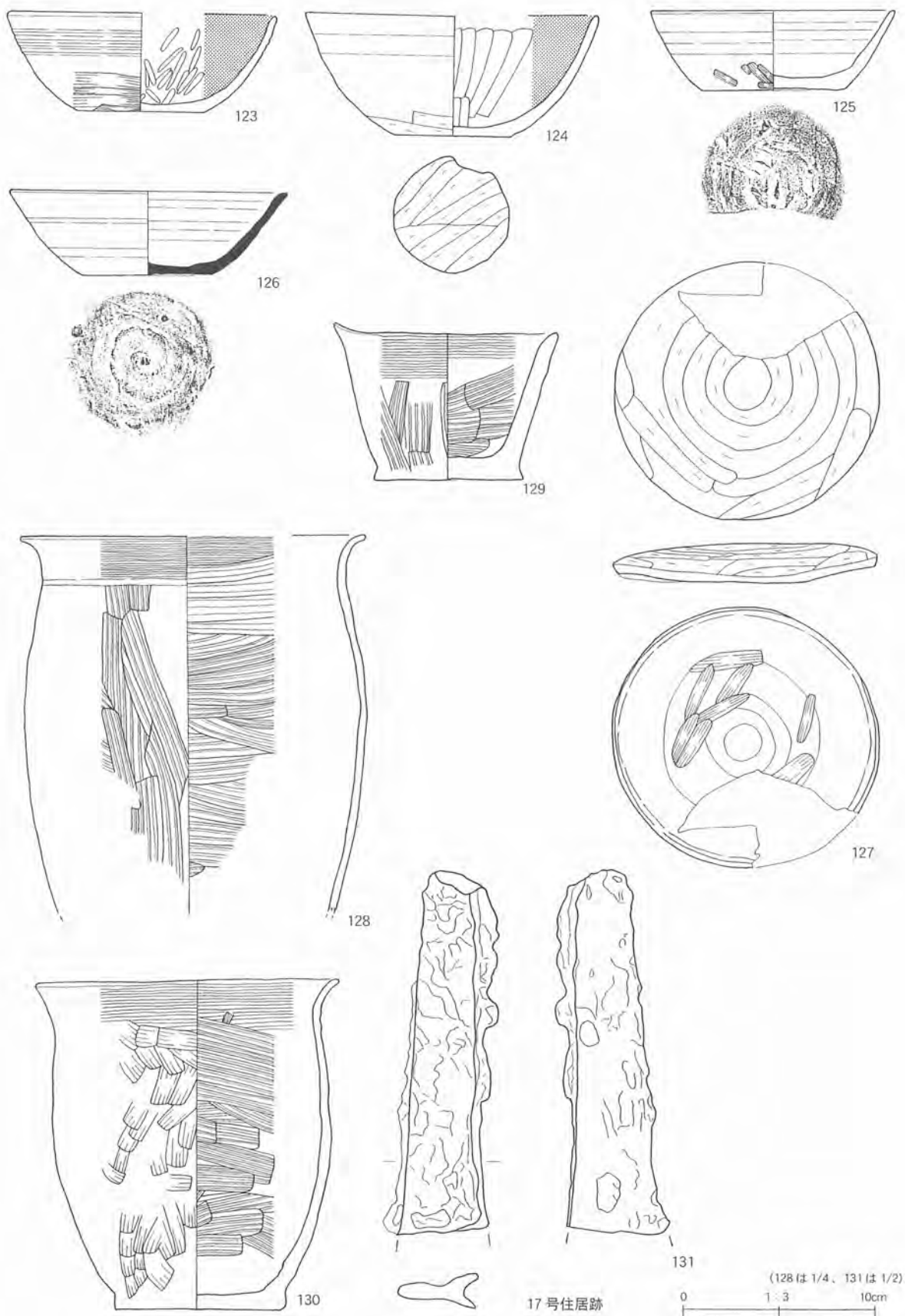
14号住居跡

(105は1/4、106は1/2) 0 1:3 10cm

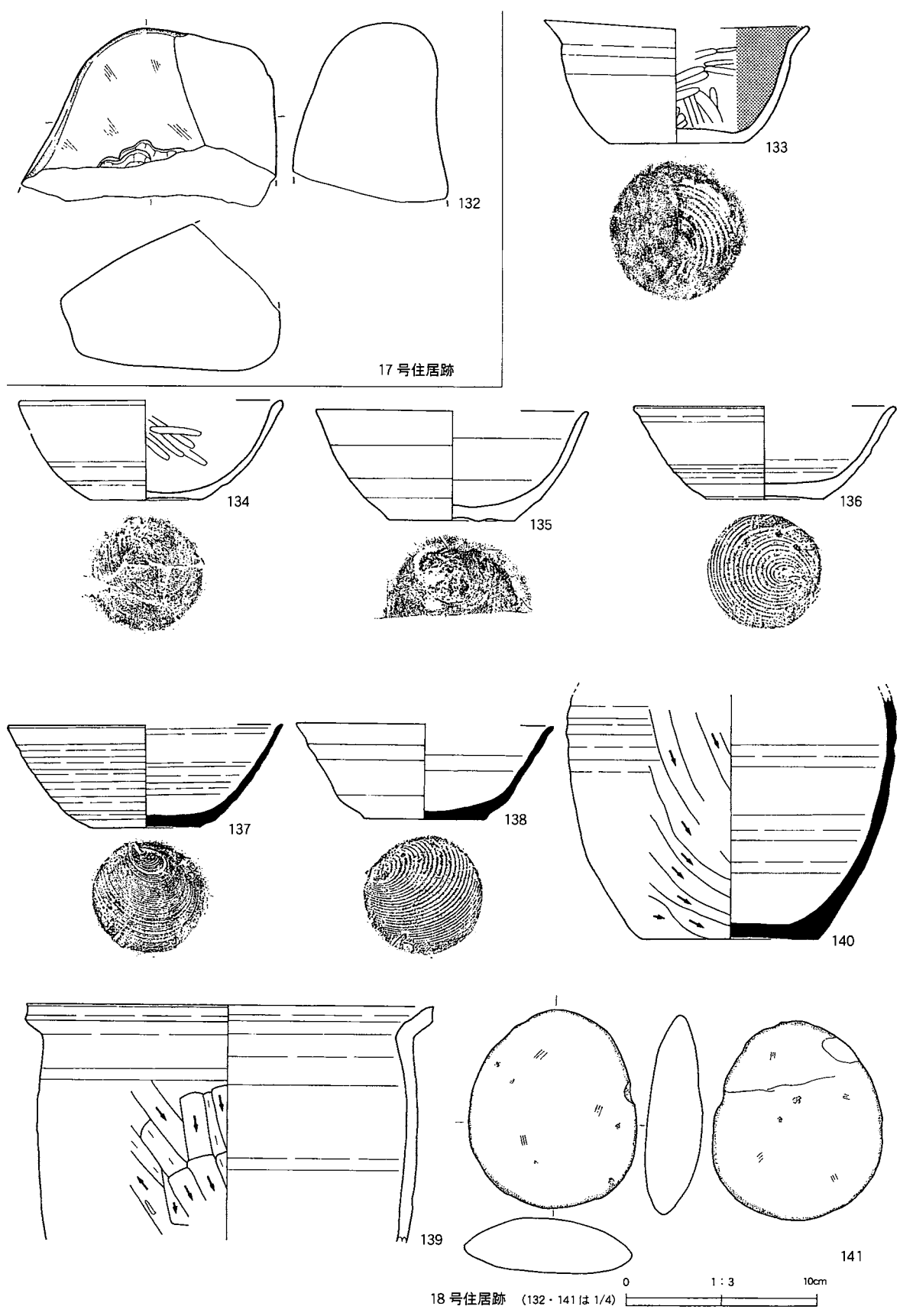
第84図 遺構内出土遺物(13)



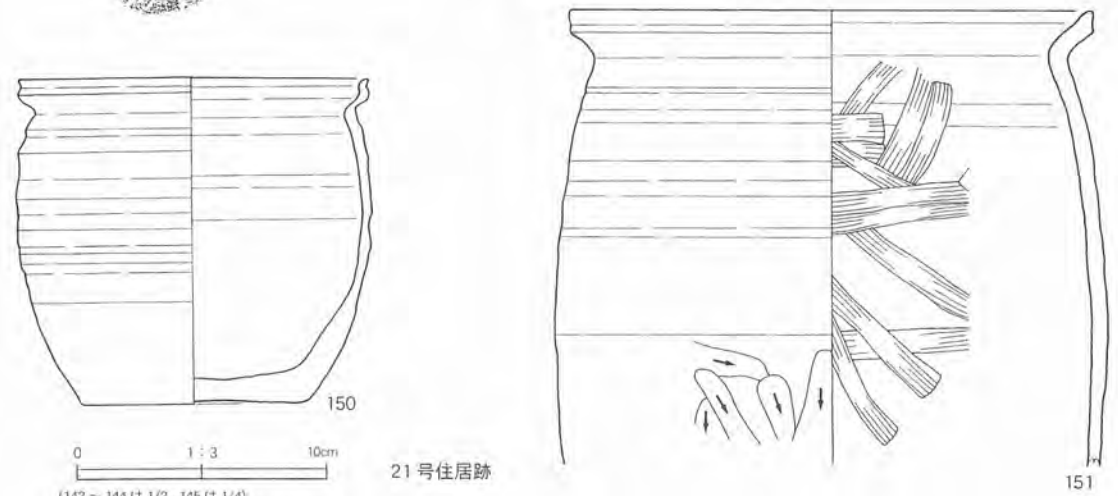
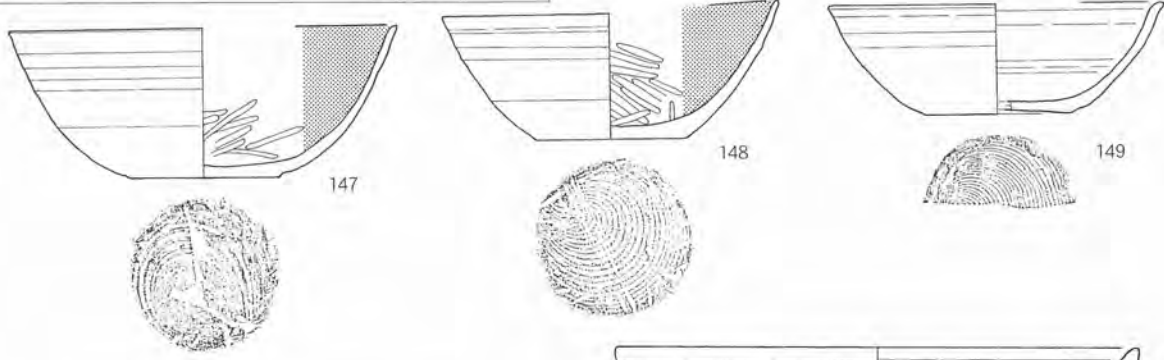
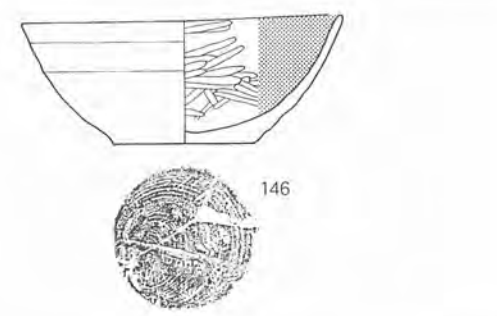
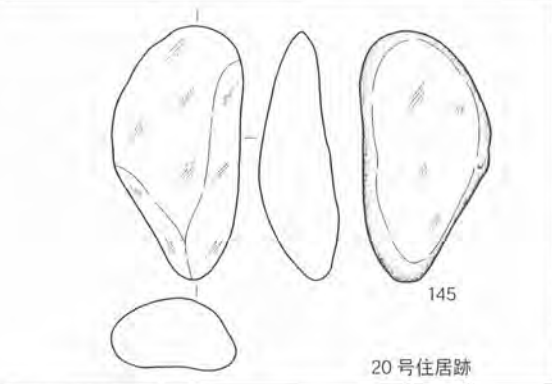
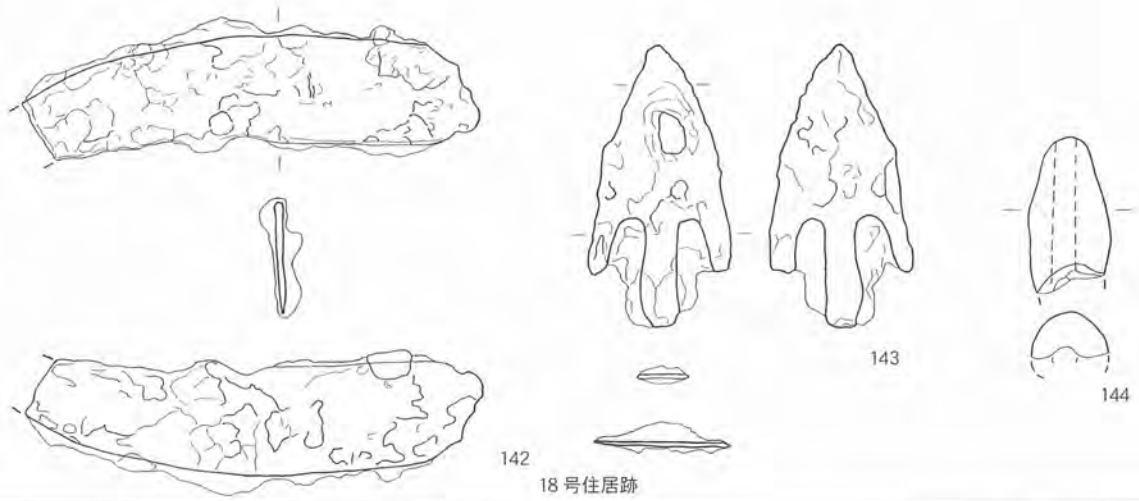
第 85 図 遺構内出土遺物 (14)



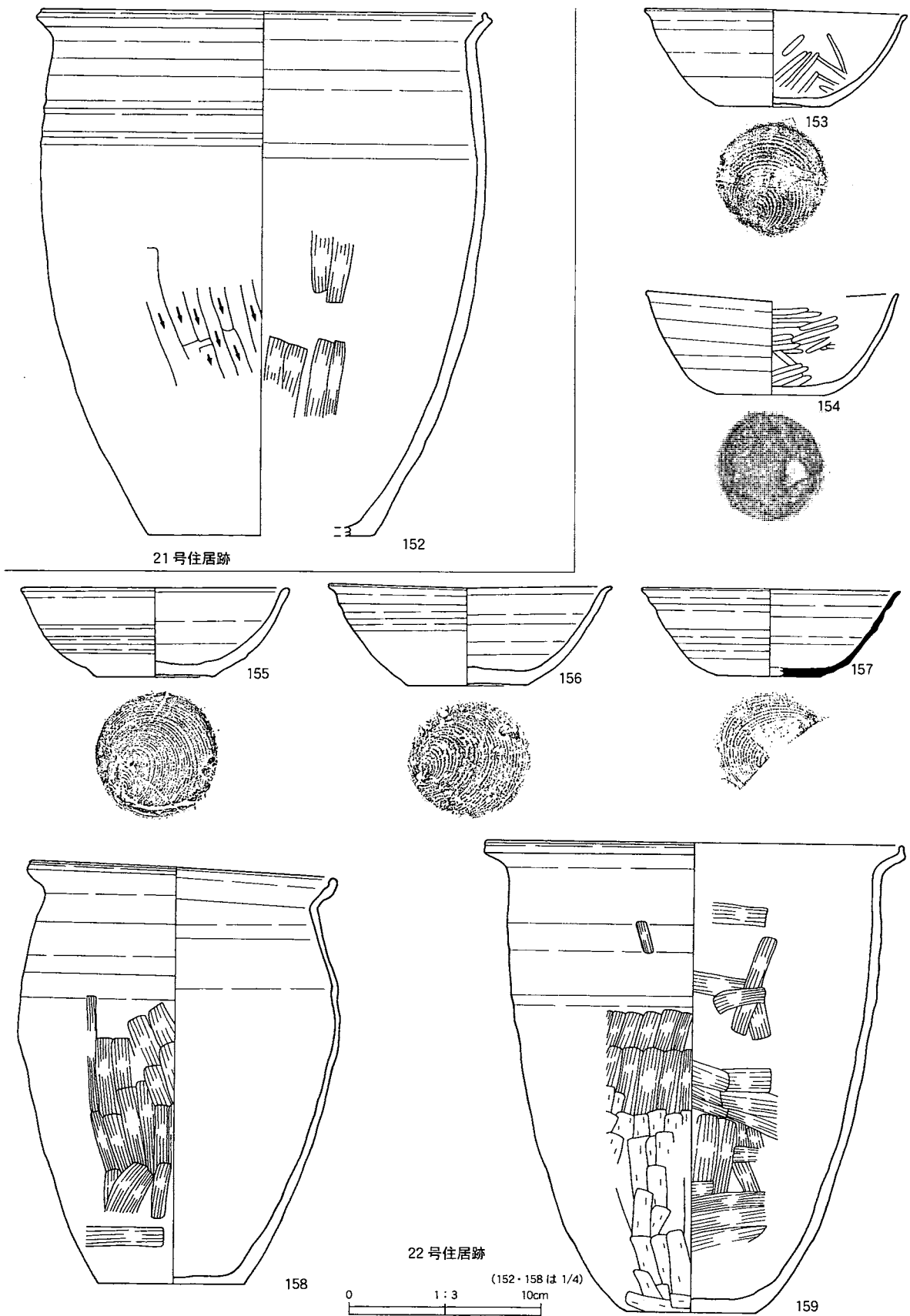
第 86 図 遺構内出土遺物 (15)



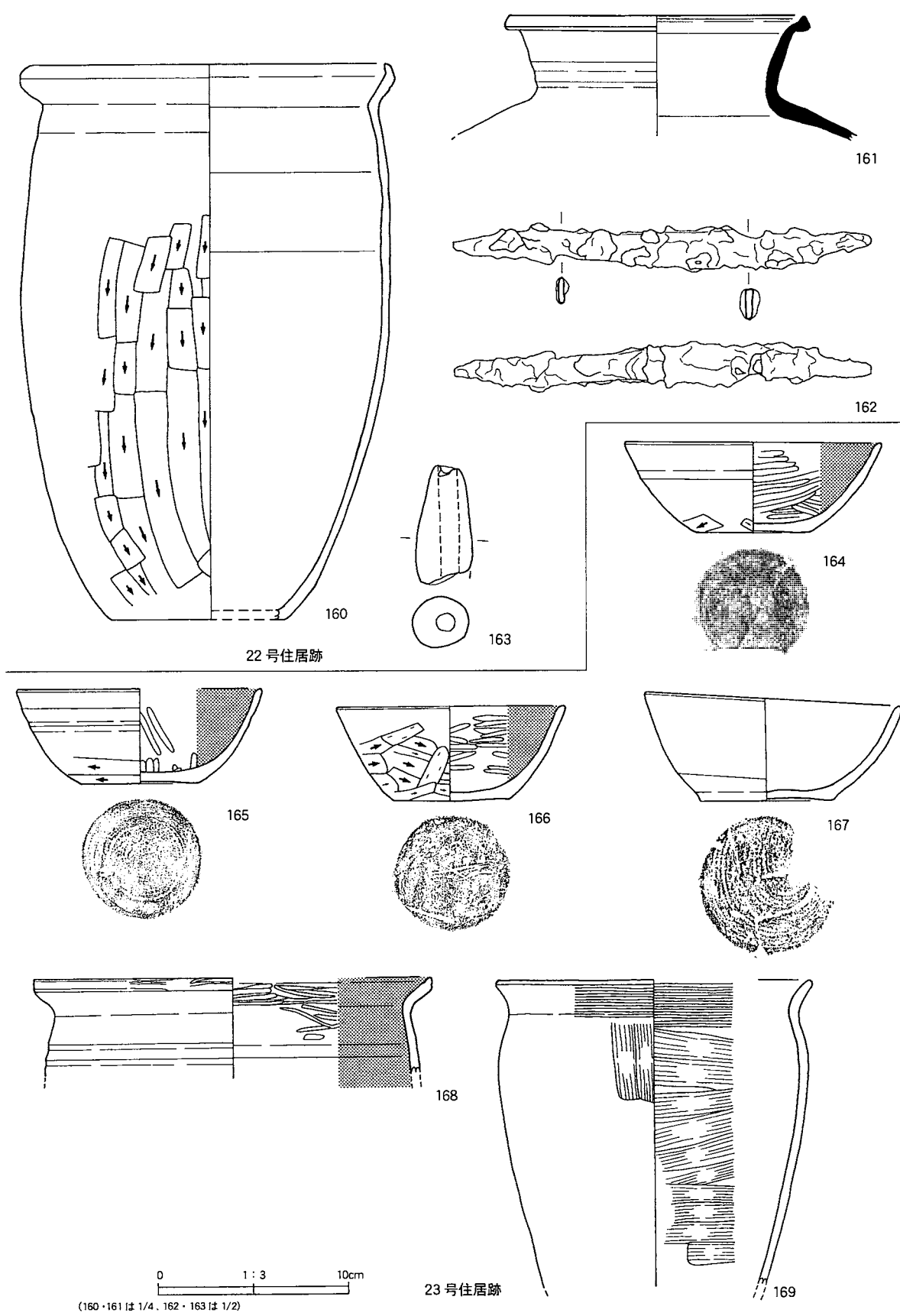
第87図 遺構内出土遺物(16)



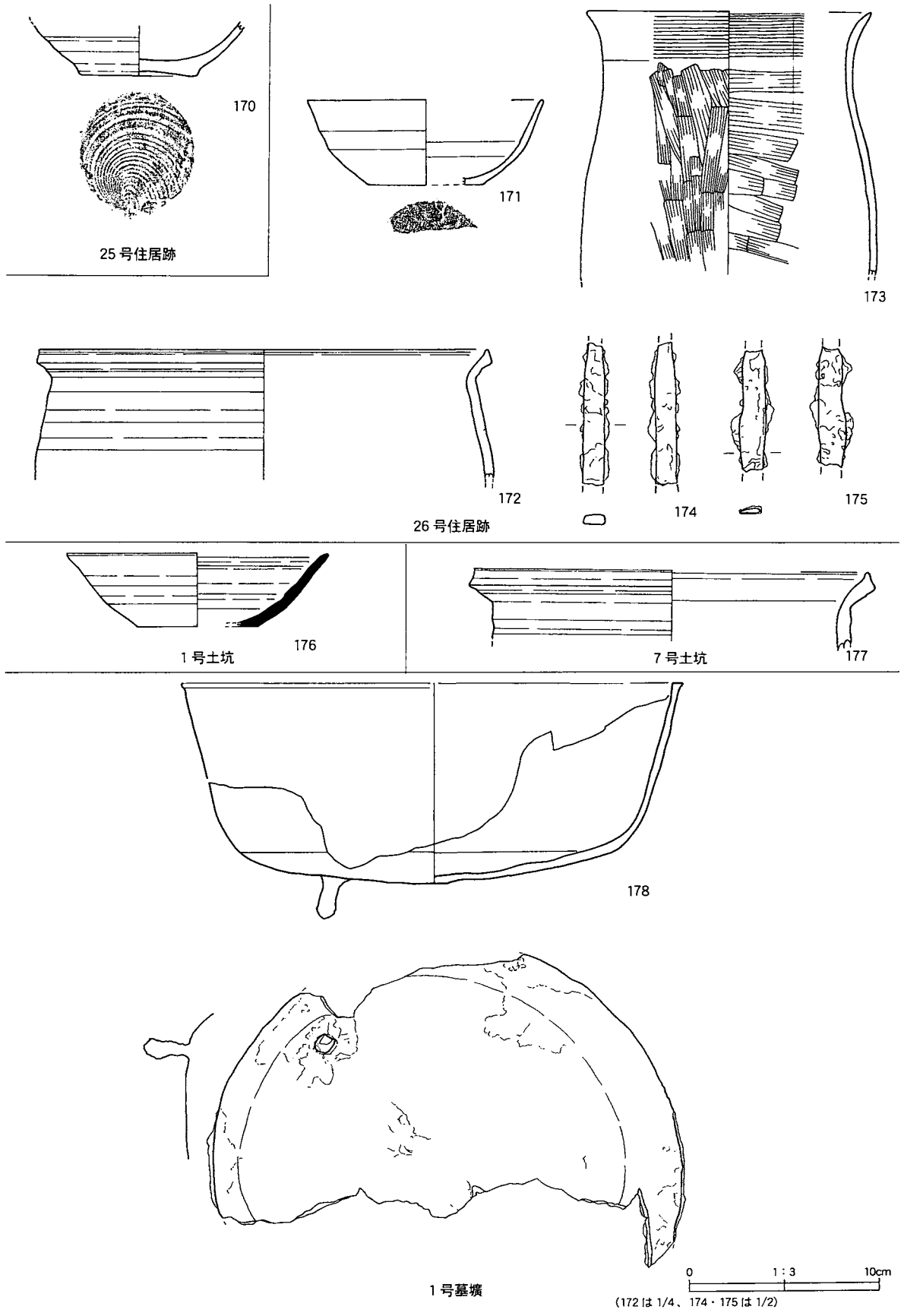
第 88 図 遺構内出土遺物 (17)



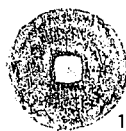
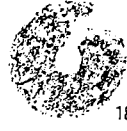
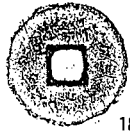
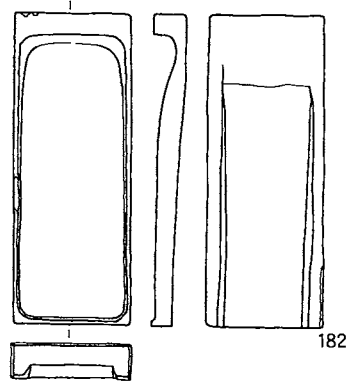
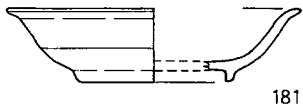
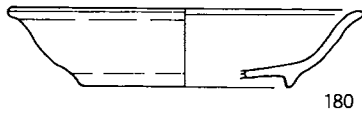
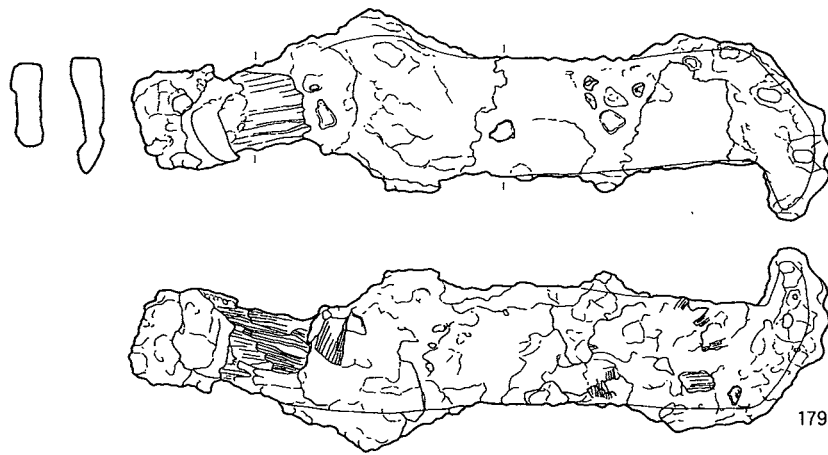
第 89 図 遺構内出土遺物 (18)



第90図 遺構内出土遺物(19)



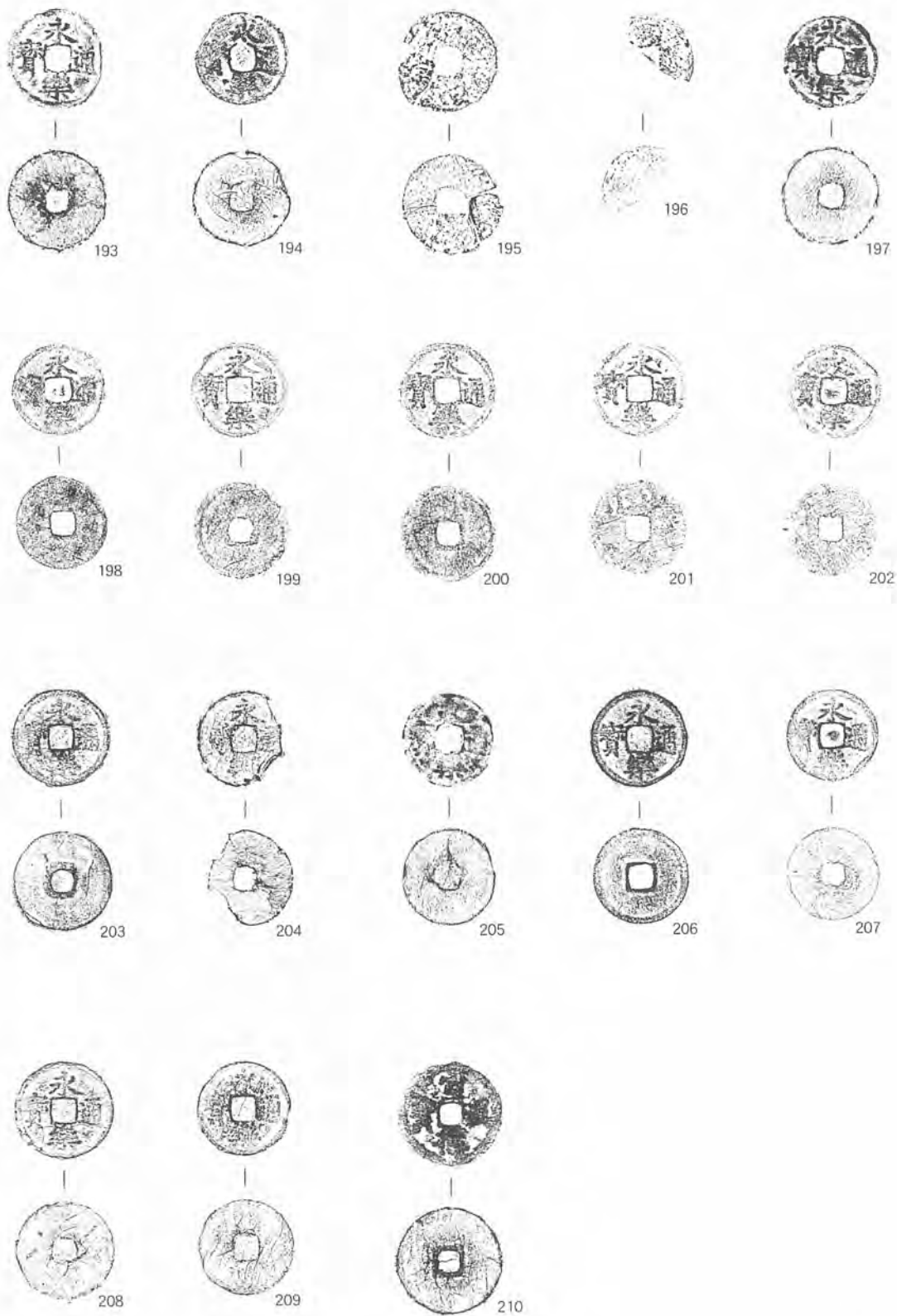
第91図 遺構内出土遺物(20)



0 1:3 10cm
(183 ~ 192 は 2/3)

1号墓墳

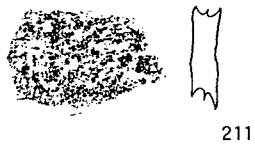
第92図 遺構内出土遺物(21)



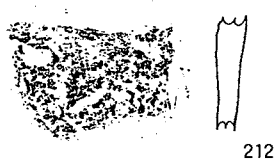
1号墓塚

0 2-3 5cm

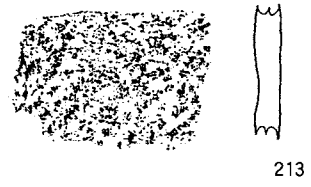
第93图 遺構内出土遺物(22)



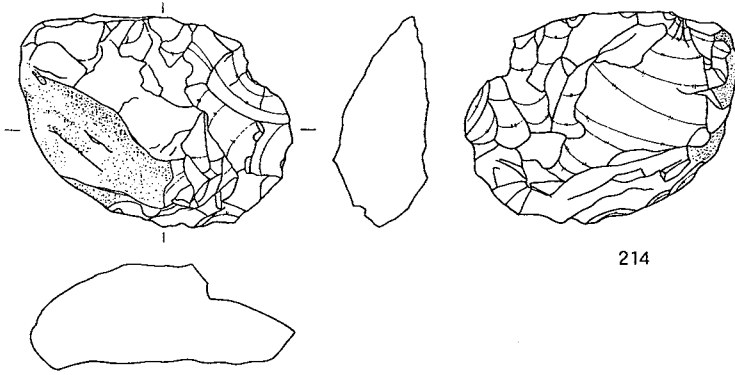
211



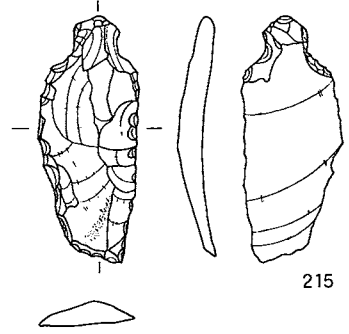
212



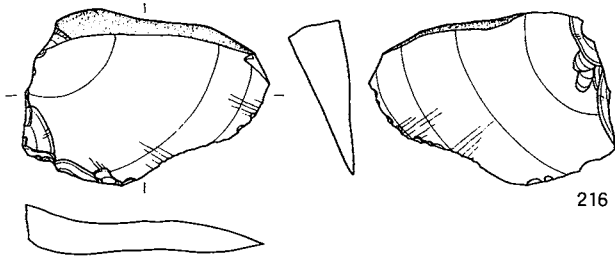
213



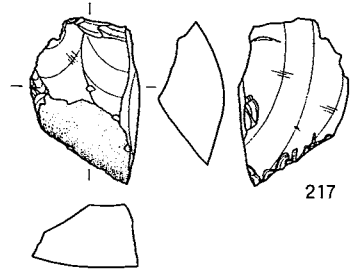
214



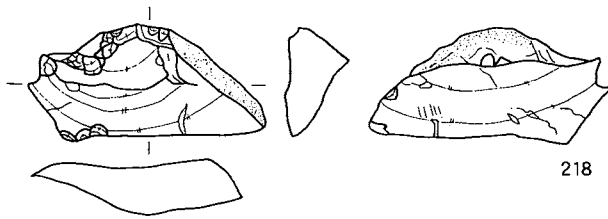
215



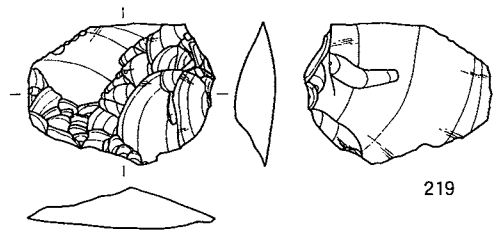
216



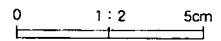
217



218



219



第 94 図 遺構外出土遺物

土器遺跡出土遺物観察表

NO	出土地点	器種	口縁部(内/外)	胴部(内/外)	底部(内/外)	口径	底径	器高	分類	備考	図版	写真
2	1号住カマド崩落土	土・坏	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/Kイトキリ	(13.6)	5.6	5.6	A I	内黒	72	61
3	1号住カマド崩落土	土・坏	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/Kイトキリ	12.4	5.6	5.1	A II a		72	61
4	1号住カマド	須・坏	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/Kヘラキリ→ナデ	14.4	6.2	4.4	Bd		72	61
5	1号住カマド燃焼部	土・甕	ロクロナデ/ロクロナデ	ロナデ、ナデ/ロナデ、ナデ		(31.1)			A II b		72	61
6	1号住埋土1層	須・壺	ロクロナデ/ロクロナデ			(16.0)			B		72	61
8	2号住埋土2層	土・坏	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/ロクロナデ→下半ヘラケズリ	ミガキ/Kヘラキリ→Kヘラケズリ	15.4	6.4	5.6	A I d	内黒	73	61
9	2号住-2号カマド燃焼部	須・坏	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/Kイトキリ	13.7	5.8	4.2	Ba	焼成不良	73	61
10	2号住埋土1層	土・大形坏	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/Kイトキリ	19.2	7.8	9.7	A I a	内面摩滅激しい	73	61
11	2号住埋土1~2層	土・甕	ヨコナデ/ヨコナデ	ハケメ/ナデ		(21.0)			A I		73	61
12	2号住-2号カマド燃焼部	土・甕		ロクロナデ/ナデ、下半ケズリ	ロクロナデ/ナデ		8.0		A II b		73	61
13	2号住-埋土2層	須・甕	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロナデ、下半ケズリ		(18.3)			B II a		73	62
14	3号住-検出面	土・坏	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/Kイトキリ	13.2	5.8	4.8	A I a	内黒	73	62
15	3号住-P1付近	土・坏	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/Kイトキリ	13.0	5.8	5.2	A I a	内黒	73	62
16	3号住-カマド支脚	土・坏	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/Kイトキリ→ケズリ	(13.8)	6.3	5.0	A I b	内黒	74	62
17	3号住-カマド支脚	土・坏	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/Kイトキリ	(13.6)	5.4	5.5	A II a		74	62
18	3号住-カマド燃焼部	土・大形坏	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/Kイトキリ	15.4	7.4	6.7	A I a	内黒	74	62
19	3号住-カマド支脚	土・埴	ロクロナデ/ロクロナデ	ロナデ/ロナデ、下半ケズリ	ナデ/ナデ	35.4	12.5	15.1	A II b		74	62
20	3号住-カマド燃焼部	土・甕	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロナデ、下半ケズリ	ナデ/ナデ	21.6	10.0	34.2	A II b		74	62
21	3号住-P5埋土	須・甕		ロクロナデ/ロナデ、下半ケズリ	ロクロナデ/		8.6		B II		74	62
22	4号住-カマド袖部	土・坏	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/Kイトキリ	(13.4)	6.6	4.6	A I a	内黒	74	63
23	4号住-貼り床土	土・坏	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/Kイトキリ	13.7	7.0	4.2	A I a	内黒	74	63
24	4号住-床直	土・坏	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロナデ、下半ケズリ	ロクロナデ/不明→ケズリ	11.6	6.0	5.6	A II z	ヘラ記号	74	63
25	4号住-埋土中位	土・坏	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/Kイトキリ	(12.2)	6.6	4.3	A II a		75	63
26	4号住-埋土中	土・坏	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロナデ、下半ケズリ	ロナデ、ケズリ/不明→ケズリ				A II z		75	63
27	4号住-カマド	土・甕	ヨコナデ/ヨコナデ	ナデ/ナデ	ナデ/ナデ	(11.8)	6.8	8.1	A I		75	63
28	4号住-埋土下部	土・甕	ヨコナデ/ヨコナデ	ナデ/ナデ	ナデ/ナデ	9.7	4.3	6.2	A I		75	63
29	4号住-カマド崩落土	土・甕	ヨコナデ/ヨコナデ	ナデ/ナデ		(20.8)			A I		75	63
30	4号住-カマド崩落土	土・甕	ヨコナデ/ヨコナデ	ナデ/ナデ		(21.0)			A I		75	63
31	4号住-床直	須・甕		アテグ/タタキメ					B I		75	63
32	4号住-カマド内	須・甕	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロクロナデ		(11.6)			B II b		75	63
36	5号住-埋土2層	土・坏	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/不明→ケズリ	(13.6)	6.2	5.0	A II z		76	64
37	6号住-P1埋土	土・坏	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/Kヘラキリ	(15.3)	6.4	5.8	A I c	内黒	76	64
38	6号住-カマド付近	土・甕	ロクロナデ/ロクロナデ	ナデ/(タタキ)→ロナデ→ケズリ		(16.4)			A I		76	64
39	6号住-カマド煙道部	土・甕	ヨコナデ/ヨコナデ	ハケメ/ケズリ		(22.0)			A I		76	64
40	6号住-上~中位	土・甕	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロクロナデ		(27.9)			A II b		76	64
41	6号住-カマド煙道部	土・筒状	ロクロナデ/ロクロナデ	ナデ/タタキ→ロナデ→ケズリ、ナデ		21.2	22.8	27.6	A II ?	煙道の補強材に使用	77	65
42	7号住-埋土下~床直	土・坏	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/Kイトキリ	13.4	6.2	4.7	A I a	内黒	77	65
43	7号住-カマド崩落土	土・坏	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/Kイトキリ	13.4	5.8	5.1	A I a	内黒	77	65
44	7号住-P2埋土	土・坏	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/Kイトキリ	12.5	5.6	4.6	A I a	内黒	77	65
45	7号住-床直	土・坏	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/不明→ケズリ	15.6	6.0	6.2	A I z	内黒、煤付着	77	65
46	7号住-カマド右袖脇	土・坏	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/Kイトキリ	12.9	5.6	5.2	A II a		77	65
47	7号住-カマド右袖脇	土・坏	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/Kイトキリ	13.2	5.8	4.9	A II a		77	65
48	7号住-床直	土・鉢	ヨコナデ/ヨコナデ	ハケメ/ナデ	ナデ/ナデ	15.6	8.8	11.2	A I		77	65
49	7号住-カマド燃焼部	土・甕	ヨコナデ/ヨコナデ	ナデ/ナデ	ナデ/木葉痕?		(9.6)		A I		77	65
50	7号住-埋土下部	土・甕		ナデ/ナデ	ナデ/ナデ		(8.1)		A I	底面剥落	77	65
51	7号住-埋土下~床直	須・壺		ロクロナデ/タタキ→ロナデ→ケズリ	ロクロナデ/不明				B II a		78	66

NO	出土地点	器種	口縁部(内/外)	胴部(内/外)	底部(内/外)	口径	底径	器高	分類	備考	図版	写真
57	8号住-床直、7号住	土・坏	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/Kイトキリ→ケズリ	14.0	7.4	6.1	A I b	内黒	79	67
58	8号住-床直	土・坏	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/ロナデ→ナデ、ケズリ	ミガキ/不明→ケズリ	12.0	7.2	5.1	A I z	両面黒色	79	67
59	8号住-埋土上位	土・坏	ミガキ/ミガキ	ミガキ/ミガキ→ケズリ	ミガキ/不明→ケズリ、ミガキ	11.0	6.5	4.4		両面黒色処理	79	67
60	8号住-床直	土・坏	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/ロナデ→ケズリ	ミガキ/不明→ケズリ	12.0	6.0	5.0	A I z	内黒剥落	79	67
61	8号住-カマド燃焼部	土・坏	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/不明→ケズリ	11.3	6.2	5.1	A I z	内黒	79	67
62	8号住-床直	土・坏	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロナデ、下半ケズリ	ロクロナデ/Kヘラキリ?	11.2	6.2	4.8	A II c		79	67
63	8号住-P1底面、貼り床土	須・坏	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/Kイトキリ	15.3	5.5	4.8	Ba		79	67
64	8号住-貼り床土	土・甕	ヨコナデ/ヨコナデ	ハケメ/ナデ	ナデ/木葉痕	11.6	7.4	8.0	A I		79	67
65	8号住-P1埋土	土・甕	ヨコナデ/ヨコナデ	ハケメ/ナデ	ナデ/ナデ	12.3	7.7	9.1	A I		79	67
66	8号住-カマド崩落土	土・甕	ヨコナデ/ヨコナデ	ハケメ/ナデ		(12.8)	8.6	13.5	A I		79	67
67	8号住-埋土	土・甕	ヨコナデ/ヨコナデ	ナデ/ナデ	ナデ/ナデ	(21.0)	9.5	25.9	A I		79	67
68	8号住-床直	土・甕	ヨコナデ/ヨコナデ	ナデ/ナデ、下半ケズリ	ナデ/ナデ	23.6	10.0	27.5	A I		80	67
69	8号住-P2埋設	土・甕	ヨコナデ/ヨコナデ	ハケメ/ナデ、ハケメ	ナデ/ナデ	24.0	10.3	33.3	A I		80	67
70	9号住-床直	土・坏	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/Kイトキリ	(15.0)	5.6	4.9	A I a	内黒	80	68
71	9号住-P1底面	土・坏		ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/Kイトキリ		6.2		A II a		80	68
72	9号住-埋土	土・甕	ヨコナデ/ヨコナデ	ナデ/ナデ					A I		80	68
73	9号住-埋土	須・甕	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロクロナデ					B II		80	68
74	10号住-床直	土・坏	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/Kイトキリ	14.0	4.6	5.0	A I a	内黒	80	68
75	10号住-埋土下~床直	土・坏	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/Kイトキリ	14.0	5.6	5.0	A I a	内黒	80	68
76	10号住-床直	土・甕		ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/Kイトキリ		6.4		A II b		80	68
77	10号住-床直	土・甕	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/ロクロナデ→下半ケズリ		(27.2)			A II a	内黒	81	68
81	11号住-P1埋土	土・坏	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/Kイトキリ	13.7	5.9	5.7	A I a	内黒、墨書文字	81	69
82	11号住-埋土2層	土・坏	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/Kイトキリ	13.0	5.4	5.1	A I a	内黒	81	69
83	11号住-埋土2層	土・坏	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/Kイトキリ	14.6	5.3	5.1	A I a	内黒	81	69
84	11号住-カマド右袖土	土・坏	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/Kイトキリ	13.9	5.3	5.1	A I a	内黒	81	69
85	11号住-埋土上~中位	土・坏	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/Kイトキリ	(14.7)	5.3	4.3	A I a	内黒	82	69
86	11号住-床直	土・坏	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/Kイトキリ	(13.0)	6.0	4.5	A I a	内黒	82	69
87	11号住-埋土上位	土・坏	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/ロクロナデ、ナデ	ミガキ/Kイトキリ	(13.4)	5.6	7.0	A I a	内黒剥がれ?	82	69
88	11号住-床直	土・坏	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/Kイトキリ	14.9	5.9	4.8	A II a		82	69
89	11号住-床直	土・坏	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/Kイトキリ	14.6	6.0	5.5	A II a		82	69
90	11号住-床直、カマド	土・坏	ロクロナデ/ロクロナデ	ロナデ、ナデ/ロナデ、ナデ	ロクロナデ/Kイトキリ	14.4	6.0	5.5	A II b		82	69
91	11号住-埋土2層	土・甕	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロクロナデ→ケズリ	ロクロナデ/Kイトキリ	13.3	7.0	12.3	A II b		82	69
92	11号住-カマド崩落土	土・甕	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/Kイトキリ	16.1	6.3	13.1	A II c		82	69
93	11号住-P1、カマド	土・甕	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/Kイトキリ	(16.2)	6.7	14.5	A II		82	69
94	11号住-埋土2層	土・甕	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロクロナデ→ケズリ	ロクロナデ/不明	(18.4)	6.8	17.5	A II b	底面に砂付着	82	69
95	11号住-床直	土・甕		アテグ/タタキメ					B I		83	69
97	12号住-床直	土・坏	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/Kイトキリ	12.8	5.0	5.3	A I a	内黒	83	70
98	12号住-床直	須・坏	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/Kイトキリ	14.1	6.5	4.7	Ba		83	70
99	12号住-1号カマド	土・甕	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロクロナデ		(21.8)			A II		83	70
100	13号住-P1埋土下部	土・坏	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/Kイトキリ	14.6	6.0	6.6	A I a	内黒、墨書文字	83	70
101	13号住-カマド付近	土・坏	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/不明→ケズリ	(14.8)	7.4	5.1	A I z	内黒	83	70
102	13号住-床直、カマド袖部	土・坏	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/Kイトキリ→ケズリ		6.1		A II b		83	70
103	13号住-カマド袖部	須・坏	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/Kイトキリ	(15.5)	5.8	4.5	Ba		83	70
104	13号住-カマド袖部	土・甕		ハケメ/ハケメ	ナデ/ナデ		8.4		B I		83	70
107	14号住-P1埋土付近	土・坏	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/Kイトキリ	14.0	5.8	4.7	A I a	内黒	84	70
108	14号住-P4埋土上位	土・坏	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/Kイトキリ	13.7	6.6	5.1	A I a	内黒	84	70
109	14号住-床直	土・坏	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/Kイトキリ	13.4	6.0	4.9	A I a	内黒	84	70
110	14号住-P3埋土上位	土・坏		ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/Kイトキリ		6.1		A I a	内黒	84	70

NO	出土地点	器種	口縁部(内/外)	胴部(内/外)	底部(内/外)	口径	底径	器高	分類	備考	図版	写真
111	14号住-カマド燃焼部	土・坏	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/Kイトキリ	14.5	(5.7)	4.6	AⅡa		84	70
112	14号住-床直	土・坏	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/Kイトキリ	15.0	6.4	5.1	AⅡa		84	70
113	14号住-床直	土・坏	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/Kイトキリ	14.2	5.9	4.6	AⅡa		84	71
114	14号住-カマド燃焼部	土・坏	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/不明→ヘラナデ	14.4	5.6	4.9	AⅡz		84	71
115	14号住-P1、底面	土・坏	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/Kイトキリ	13.3	5.9	4.6	AⅡa		84	71
116	14号住-床直	土・甕	ヨコナデ/ヨコナデ	ナデ/ナデ	ナデ/ナデ	11.8	7.6	9.8	AⅠ		85	71
119	15号住-床直	土・鉢	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/ロクロナデ、ロクロナズリ	ミガキ/不明→ケズリ	(28.3)	(11.3)	18.4	AⅡa	内黒	85	71
120	16号住-P1埋土	土・坏	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/Kイトキリ	13.9	4.6	4.9	AⅠa	内黒	85	71
121	16号住-P1埋土	土・坏	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/Kイトキリ	14.0	5.7	5.0	AⅠa	内黒	85	71
122	16号住-P1埋土	土・坏	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/Kイトキリ	14.0	5.4	5.1	AⅠa	内黒	85	71
123	17号住-埋土	土・坏	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/ロクロナデ、ヘラケズリ	ミガキ/Kイトキリ→ヘラナデ	14.0	6.4	5.1	AⅠb	内黒	86	72
124	17号住-埋土	土・坏	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/ロクロナデ、下ケズリ	ミガキ/不明→ケズリ	15.3	6.0	6.2	AⅠz	内黒	86	72
125	17号住-埋土	土・坏	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/Kヘラキリ	12.8	7.6	4.7	AⅡc		86	72
126	17号住-埋土	須・坏	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/Kヘラキリ	14.5	6.5	4.5	Bc		86	72
127	17号住-床直	須・蓋	ロクロナデ/ロクロナデ	ロナデ/ロクロナデ、ロクロナズリ	ロクロナデ/ロクロナズリ	13.9		1.6	B		86	72
128	17号住-カマド崩落土	土・甕	ヨコナデ/ヨコナデ	ハケメ/ハケメ		(23.2)			AⅠ		86	72
129	17号住-カマド崩落土	土・鉢	ヨコナデ/ヨコナデ	ハケメ/ハケメ	ナデ/ナデ	11.7	7.7	8.2	AⅠ		86	72
130	17号住-カマド崩落土	土・甕	ヨコナデ/ヨコナデ	ハケメ/ナデ	ナデ/ナデ	15.7	8.6	17.1	AⅠ		86	72
133	18号住-埋土	土・坏	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/Kイトキリ	13.9	7.0	5.9	AⅠa	内黒	87	73
134	18号住-埋土	土・坏	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/Kイトキリ	(13.9)	5.8	5.1	AⅠa	内黒	87	73
135	18号住-P5床面	土・坏	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/Kイトキリ	(14.4)	6.5	5.6	AⅡa		87	73
136	18号住-P9床面	土・坏	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/Kイトキリ	(13.8)	6.0	4.8	AⅡa		87	73
137	18号住-P1床面	須・坏	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/Kイトキリ	(14.4)	5.5	5.3	Ba		87	73
138	18号住-埋土	須・坏	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/Kイトキリ	(13.4)	6.2	4.9	Ba		87	73
139	18号住-カマド崩落土	土・甕	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロクロナデ、ケズリ		(21.0)			AⅡb		87	73
140	18号住-埋土下部	須・甕		ロクロナデ/ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ/不明→ケズリ		9.1		BⅡa		87	73
146	21号住-P1埋土下部	土・坏	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/Kイトキリ	12.9	5.6	4.9	AⅠa	内黒	88	74
147	21号住-P1埋土下部	土・坏	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/Kイトキリ	(15.5)	6.0	6.0	AⅠa	内黒	88	74
148	21号住-P1埋土下部	土・坏	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/Kイトキリ	(13.5)	6.0	5.1	AⅠa	内黒	88	74
149	21号住-P1埋土下部	土・坏	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/Kイトキリ	(13.5)	(5.8)	4.3	AⅡa		88	74
150	21号住-P1埋土下部	土・甕	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/Kイトキリ	13.9	8.9	13.0	AⅡc		88	74
151	21号住-P1埋土下部	土・甕	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロナデ、下半ケズリ		20.8			AⅡb		88	74
152	21号住-カマド崩落土	土・甕	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロナデ、下半ケズリ	ロクロナデ/ケズリ	31.6	15.4	31.1	AⅡb		89	74
153	22号住-P1埋土3層	土・坏	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/Kイトキリ	13.7	5.7	5.0	AⅠa	内黒	89	74
154	22号住-P6底面	土・坏	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/ロクロナデ、ナデ	ミガキ/Kイトキリ→ケズリ	(13.2)	5.6	4.9	AⅠb	内黒	89	74
155	22号住-1号カマド	土・坏	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/Kイトキリ	14.0	6.2	4.6	AⅡa		89	74
156	22号住-1号カマド	土・坏	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/Kイトキリ	14.9	6.2	5.0	AⅡa		89	75
157	22号住-3号カマド燃焼部	須・坏	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/Kイトキリ	13.6	5.4	4.5	Ba		89	75
158	22号住-1号カマド	土・甕	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロナデ、下半ヘラナデ	剥落/ナデ	21.3	10.2	29.0	AⅡb		89	75
159	22号住-1号・3号カマド	土・甕	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロナデ、下半ケズリ	ナデ/ナデ	(29.1)	9.0	32.5	AⅡb		89	75
160	22号住-1号カマド	土・甕	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロナデ、下半ケズリ	ナデ/ナデ	24.5	(12.2)	38.4	AⅡb		90	75
161	22号住-埋土	須・甕	ロクロナデ/ロクロナデ	アテダ/タタキメ					BⅠ		87	75
164	23号住-P4埋土	土・坏	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/ロクロナデ、下ケズリ	ミガキ/Kイトキリ	13.5	5.7	4.7	AⅠa	内黒	90	76
165	23号住-P4底面	土・坏	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/ロクロナデ、下ケズリ	ミガキ/不明→Kヘラケズリ	(12.9)	6.0	5.0	AⅠz	内黒	90	76
166	23号住-1号カマド	土・坏	ミガキ/ロクロナデ	ミガキ/ロクロナデ、ケズリ	ミガキ/不明→ケズリ	12.1	6.0	5.0	AⅠz	内黒?、籠記号	90	76
167	23号住-2号カマド	土・坏	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/Kイトキリ	13.4	6.8	5.5	AⅡa		90	76
168	23号住-新住居床面	土・甕	ミガキ/ミガキ	ミガキ/ミガキ		(20.9)			AⅡa	両面黒色処理	90	76
169	23号住-2号カマド	土・甕	ヨコナデ/ヨコナデ	ナデ/ナデ		(16.6)			AⅠ	胎土粗い	90	76

NO	出土地点	器種	口縁部(内/外)	胴部(内/外)	底部(内/外)	口径	底径	器高	分類	備考	図版	写真
170	25号住-検出面	土・坏	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/Kイトキリ		6.2		A II a		91	76
171	26号住-埋土	土・坏	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/Kイトキリ	(12.6)	(6.0)	4.5	A II a		91	76
172	26号住-埋土	土・甕	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロクロナデ		(31.8)			A II	胎土粗い	91	76
173	26号住-カマド付近	土・甕	ヨコナデ/ヨコナデ	ナデ/ナデ		(15.0)			A I		91	76
176	1号土坑-埋土	須・坏	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロクロナデ		(13.8)	(6.3)	3.8	B		91	76
177	7号土坑-埋土下部	土・甕	ロクロナデ/ロクロナデ	ロクロナデ/ロクロナデ		20.8			A II		91	76
211	IV A - 29	縄・鉢		ナデ/							94	79
212	IV A - 29	縄・鉢		ナデ/							94	79
213	IV A - 29	縄・鉢		ナデ/							94	79

鉄製遺物観察表

NO	出土地点	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	備考	図版	写真
55	7号住居跡-P1	紡錘車	(4.1、5.5)	5.5	0.6	3点(2点接合可)	78	66
56	7号住居跡-埋土下~床面	刀子?	(9.0)	1.6	0.3	3点(3点接合可)	78	66
79	10号住居跡-埋土II~III層	"				4点(2点接合可)	81	68
80	10号住居跡-床直	釘状	(11.7)		0.5	3点(3点接合可)	81	68
96	11号住居跡-カマド燃焼部	不明	(3.2)	2.2	0.4		83	69
106	13号住居跡-床面	刀子	(7.5)	1.85	0.5	3点(3点接合可)	84	70
131	17号住居跡-貼り床土	鋤	(12.5)	4.1	0.5		86	72
142	18号住居跡-カマド崩落土	鎌	(12)	3.8	1.2	4点(4点接合可)	88	73
143	18号住居跡-床直	鉄鎌	7.5	4.4	0.8		88	73
162	22号住居跡-床直	刀子	(14.6)	1.8	1.0	4点(4点接合可)	90	75
174	1号住居状-埋土		(4.9)	0.8	0.5		91	76
175	1号住居状-埋土	不明	(4.2)	0.8	0.4		91	76
178	1号墓壇	鉄鍋	口径 一	器高 10.3			91	77
179	1号墓壇	鉈	28.1	7.2	1.0		92	77

古銭観察表

NO	出土地点	銭名	素材	銭径(A)/(B)		内径(C)/(D)		銭厚	量目(g)	備考	図版	写真
183	1号墓壇	大観通寶	銅	24.87	24.92	22.57	22.03	1.21~1.49	3.1		92	78
184	1号墓壇	永楽通寶	銅	23.98	23.70	20.20	20.35	0.81~1.23	2.1		92	78
185	1号墓壇	永楽通寶	銅					0.84~1.34	1.3		92	78
186	1号墓壇	永楽通寶	銅	22.45		20.12		0.67~0.85	1.1		92	78
187	1号墓壇	永楽通寶	銅	24.43	25.11	20.75	20.52	1.30~1.61	3.3		92	78
188	1号墓壇	永楽通寶	銅	23.11	22.59	19.54	19.70	0.76~1.95	1.4		92	78
189	1号墓壇	永楽通寶	銅	23.93	24.32	20.51	20.23	1.33~1.67	2.6		92	78
190	1号墓壇	永楽通寶	銅		23.45		20.77	0.90~1.36	1.6		92	78
191	1号墓壇	永楽通寶	銅	22.70		20.35		0.73~1.04	1.1		92	78
192	1号墓壇	永楽通寶	銅	24.57	24.37	20.00	20.48	1.41~1.78	3.9		92	78
193	1号墓壇	永楽通寶	銅	24.32	23.80	20.65	20.19	0.80~1.21	1.6		93	78
194	1号墓壇	永楽通寶	銅	22.29	23.18	19.83	20.08	0.48~0.89	1.2		93	78
195	1号墓壇	永楽通寶	銅					1.07~1.27	1.2		93	78
196	1号墓壇	永楽通寶	銅					0.60~0.79	0.3		93	78
197	1号墓壇	永楽通寶	銅	22.36	22.98	20.50	20.27	0.58~0.94	1.4		93	78
198	1号墓壇	永楽通寶	銅	22.55	22.69	19.27	19.41	0.98~1.17	2.5		93	78
199	1号墓壇	永楽通寶	銅	23.48	23.67	20.63	20.39	0.64~0.86	1.7		93	78
200	1号墓壇	永楽通寶	銅	23.68	23.47	20.58	20.07	0.78~1.19	2.5		93	78
201	1号墓壇	永楽通寶	銅	23.08	23.22	19.95	19.94	0.57~0.71	1.5		93	78

NO	出土地点	銭名	素材	銭径 (A) / (B)	内径 (C) / (D)	銭厚	量目 (g)	備考	図版	写真
202	1号墓壙	永楽通寶	銅	22.98 / 23.03	19.88 / 19.98	0.43 ~ 0.80	1.3		93	78
203	1号墓壙	永楽通寶	銅	23.31 / 23.56	19.28 / 19.82	0.76 ~ 0.92	2.1		93	78
204	1号墓壙	永楽通寶	銅	22.81	19.96	0.51 ~ 0.81	0.8		93	78
205	1号墓壙	永楽通寶	銅	22.82 / 22.42	20.25 / 21.09	0.42 ~ 1.22	1.3		93	78
206	1号墓壙	永楽通寶	銅	23.50 / 23.33	20.38 / 20.10	0.87 ~ 1.07	1.8		93	78
207	1号墓壙	永楽通寶	銅	22.27 / 22.38	19.25 / 19.42	0.49 ~ 0.68	1.3		93	78
208	1号墓壙	永楽通寶	銅	23.97 / 23.84	20.50 / 20.35	0.50 ~ 0.93	1.9		93	78
209	1号墓壙	永楽通寶	銅	23.14 / 23.14	20.25 / 19.85	0.49 ~ 0.87	1.3		93	78
210	1号墓壙	宣徳通寶	銅	25.81 / 25.68	20.66 / 20.39	1.02 ~ 1.26	2.7		93	78

※単位は mm。(A)、(C) は上下、(B)、(D) は左右。

土製品観察表

NO	出土地点	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)	色調	備考	図版	写真
144	18号住-床直	土錘				7.5YR7 / 6 橙色		88	73
163	22号住-埋土2層	土錘	4.17	1.88		7.5YR8 / 6 浅黄橙色		90	75

石器観察表

NO	出土地点	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石質・産地	備考	図版	写真
1	25号陥し穴	剥片	5.2	9.5	1.5	20	頁岩・北上山地	片面調整あり	72	61
7	1号住居跡	砥石	11.7	7.8	6.2	490	デイサイト・産地不明		72	61
33	4号住居跡	磨石	(14.4)	(8.9)	3.0	550	閃緑岩・北上山地		75	63
34	4号住居跡	磨石	15.4	3.4	2.0	170	頁岩・北上山地	叩き痕あり	76	63
35	4号住居跡	磨石	23.2	13.3	6.4	3300	珪質頁岩・北上山地		76	63
52	7号住居跡	磨石	31.8	10.2	6.0	3200	ホルンフェルス・北上山地		78	66
53	7号住居跡	砥石?	18.9	4.4	1.9	200	デイサイト・産地不明		78	66
54	7号住居跡	磨石	12.6	11.2	3.8	785	閃緑岩・北上山地		78	66
78	10号住居跡	砥石	(10.5)	5.7	4.7	1530	デイサイト・産地不明		81	68
105	13号住居跡	磨石	17.8	11.0	6.4	4000	ひん岩・北上山地		84	70
117	14号住居跡	磨石	20.3	11.4	9.6	3900	細粒花崗岩?・北上山地		85	71
118	14号住居跡	磨石	35.5	9.6	7.0	3000	細粒花崗岩?・北上山地		85	71
132	17号住居跡	磨石	11.6	17.6	11.0	770	ひん岩・北上山地		87	72
141	18号住-P2	磨石	13.9	11.7	4.0	435	ひん岩・北上山地		87	73
145	20号住居跡	磨石	13.4	6.8	3.9	435	ひん岩・北上山地		88	73
214	IV A - 19	石核	5.6	7.2	2.7	115	頁岩・北上山地		94	79
215	22号住-床下	石匙	6.6	2.7	0.6		凝灰岩・奥羽山地		94	79
216	13号住-南側	剥片	4.6	6.4	1.3		頁岩・北上山地		94	79
217	13号住-南側	剥片	4.1	2.9	1.7		頁岩・北上山地		94	79
218	IV A - 29	削器?	6.5	3.0	1.3	20	頁岩・北上山地		94	79
219	IV A - 29	剥片	3.7	4.9	1.3		頁岩・北上山地		94	79

磁器

NO	出土地点	器種	胎土	産地	年代	備考	図版	写真
180	1号墓壙	白磁皿	灰白色	中国	15-16C		92	77
181	1号墓壙	白磁皿	灰白色	中国	15-16C		92	77

その他

NO	出土地点	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)	備考	図版	写真
182	1号墓壙	硯	12.4	4.7	1.4		92	77

V. まとめ

1. 遺構

竪穴住居跡

今回の調査で検出された住居跡（住居状含む）は26棟で時期は平安時代である。

〈占地〉調査区内における住居の立地はほぼ全域に広がる。調査区ごとに見るとA区、B区は北と南、C区は中央～南側、D区は中央部、E区は東端と西端に集中する。これは住居跡が見つからない場所が後世に攪乱を受けていることや旧沢跡があったことに起因する。

〈規模〉各住居跡の床面積を図1にグラフで示した。最大で21.94㎡、最小で9.29㎡、平均で15.23㎡である。規格には大きく分けて3段階あり、小規模な住居の床面積は10㎡前後、中規模な住居の床面積は14～15㎡、大きめな住居の床面積は20㎡前後である。カマドの設置個所による総床面積の違いは一様でない。時期に関係なく、大小の住居が建てられた。

〈建て替え（拡張）〉今回検出した住居跡で複数のカマドを有するものが2・10・12・22・23号住居跡の5棟ある。このうち10・12・23号住居跡は床面の旧カマド燃焼部の位置や住居床面の段差から住居を拡張したと考えられる。また4号住居跡はカマド燃焼部手前に燃焼痕と思われる焼土遺構が存在することや、煙道部に複数の煙出し部の跡が確認できることから、やはり住居を拡張したものと推測する。

〈軸方向〉カマドをもつ壁に直交する線と座標軸との角度を軸方向とした（図2）。この図から大きく北方向（N群）、東方向（E群）、南方向（S群）の3つのまとまりに分けることができ、N群には17・19・22号住居跡、E群には3・4・6・7・8・11・12・14・15・16・18・21・23号住居跡、S群は2・10号住居跡が属する。次に軸方向の幅方向に対する比率（軸方向÷幅方向）を図3のようなグラフにすると、各群によって傾向が異なることが判る。すなわちN群、S群住居跡が軸方向は幅方向より長いのに対し、E群は軸と幅が同じないし、幅方向の値が大きく、軸比率平均値は0.92である。このことから住居はカマドが設けられている場所を問わず、東西に対し、南北方向が長い傾向にあることが窺える。

〈カマド〉カマドを有する住居跡は22基検出された。カマドが設置された場所は北壁、東壁、南壁で北壁にカマドが設けられる住居跡は2棟あり、壁面のほぼ中央に設置される。東壁に設けられる住居跡は最も多く18棟で壁面中央よりやや南寄りに設置されるが、北側や中央に設けられるものも極少数であるが存在する。南壁に設置される住居跡は2棟で壁面の東側に設けられる。

またカマドを複数有する住居跡は5棟ある。このうちカマド2基有するものが4棟、3基有するものが1棟である。このうち12号住居跡は北→東、2号住居跡・10号住居跡は東→南、23号住居跡は南→東へカマドの移築が行われた形跡が認められるが北→南への移行は見られないことから、北→東→南→東という変遷が大筋で認められる。ただし、22号住居跡のように、北壁に設けられたカマドと同時期かそれより古い東壁に設置されたカマド（2号、3号）が存在するようにその過度期においては北→東という新旧関係は必ずしも成立していない場合もある。4号住居跡のように住居の拡張に伴ってカマドをそのまま同じ壁面に移設し、旧煙道部に継ぎ足して使用しているものもある。なお西壁にカマドが設けられている住居跡はない。

〈柱穴〉3・11・14・16・18・21・23号住居跡は3～5基の支柱穴が検出された。いずれもカマドは東壁に設けられ、カマド脇に貯蔵穴をもつ。また、削平によってプランが明確でない16・18号住居跡を除き、いずれも南寄りに長方形に配列して建てられ、南側の柱穴2基は南壁を切って建てられている。柱穴間の距離は南北2.5～3.5m、東西間1.0～2.0mで比率は3：1～3：2、柱間内にできる空間の面積は住居

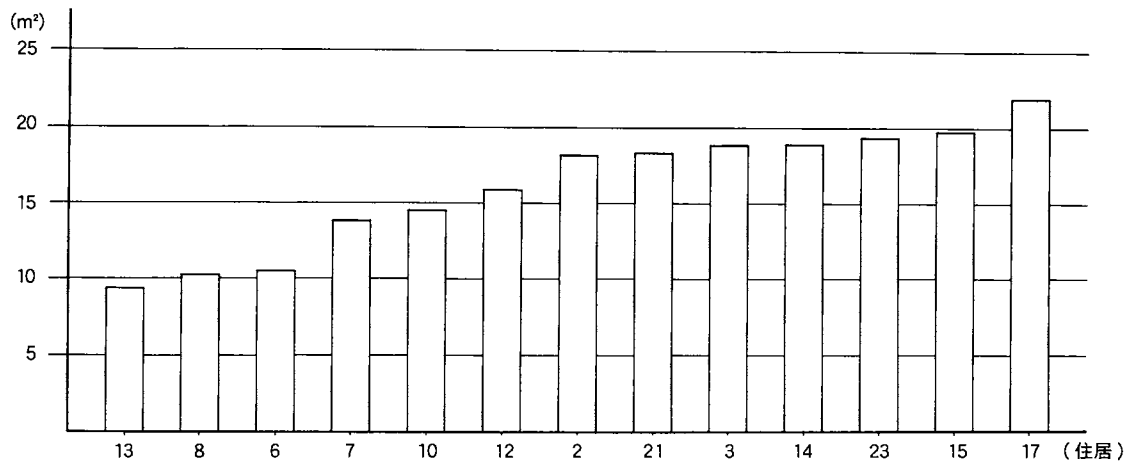


图1 住居跡床面積分布图

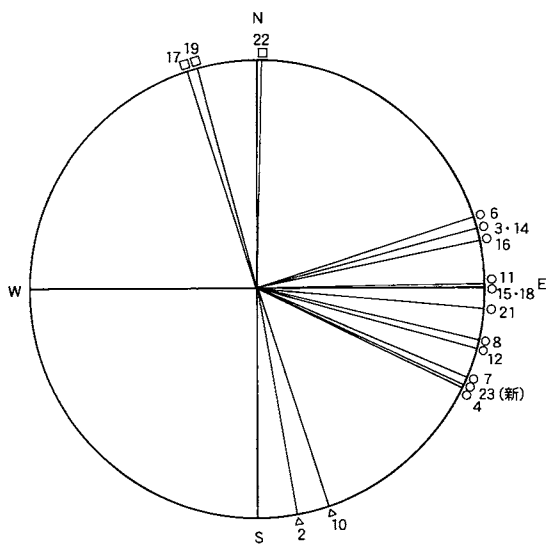


图2 住居跡主軸分布图

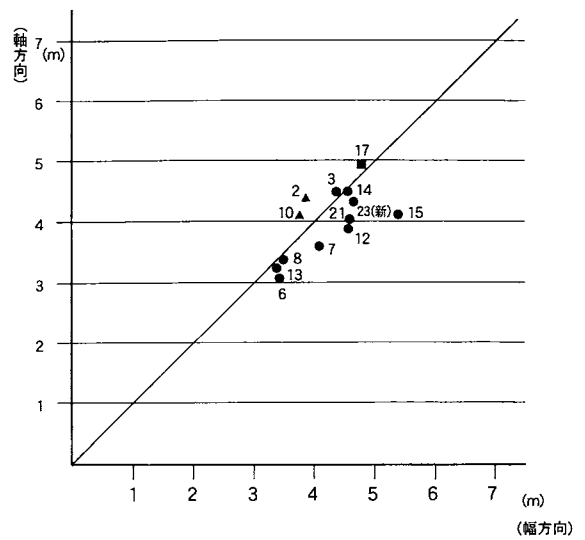


图3 住居跡軸比率分布图

の規模に比例して大きくなる。また、空間により区画される東壁と西壁との隔間は対称を成す。同様の形態をした住居跡は北に約2 kmの庫理遺跡で4棟、西に隣接する似内遺跡（平成4年度 花巻市教育委員会調査）で1棟検出されている。

またこれらの住居跡から出土した遺物には以下の特徴が認められる。①内面に黒色処理が施された坏が出土した坏の70～80%を占める。②底部の切り離しはいずれも回転糸切りによる。③酸化炎焼成の甕は口ク口成形のものが大半で非ク口成形のものはほとんど出土しない。その計測値も近い範疇にあることから遺構もほぼ同じ時期に存在したものと考えられる。

これらのタイプの住居跡の時期については庫理遺跡『花巻市埋蔵文化財調査報告書第24集』（2000：花巻市教育委員会）で検出された6号住居跡の埋土に灰白色火山灰（十和田a?）を含むことから9世紀後半～末葉に比定されるものと考ええる。また南壁にカマドが設けられている庫理遺跡7-2号住居跡の埋土からも十和田a降下火山灰と見られるものが検出していることから、南壁にカマドを設けた住居跡と近い時期に存在していたと考えられる。

陥し穴状遺構

29基が検出された。調査区による遺構数の違いや密集は多少あるもののほぼ全域から検出されている。同じ軸線を持つものを結んでいくと3・4号陥し穴、9・10号陥し穴、22・23号陥し穴、19～21号陥し穴、2・6・7・12号陥し穴が南北方向や東西方向に2～4基並んでいることがわかる。複数並ぶものはほぼ一定の間隔に並ぶ。また、26～28号陥し穴は他と比較して小型で、割と近い位置で検出されていることから同時期の遺構である可能性が高い。

また数基の陥し穴は住居跡と重複関係にある。9・10号陥し穴は3号住居跡、13号陥し穴は26号住居跡、14号陥し穴は10号住居跡のそれぞれ床面から検出されている。

遺構内や検出面から縄文土器や石器が出土していることや、検出状況からすべて縄文時代の遺構と考えられる。

また周辺では本遺跡から北西約1.5 kmにある石持I遺跡の平成10・11年度の調査で陥し穴状遺構が約303基、似内遺跡で29基検出されている。北上川右岸に隣接するこの地域一帯が縄文時代の一定期間に断続的に狩猟場として利用されていたものと思われる。

土坑

8基検出された。形状は円形、楕円形を呈し、住居跡のすぐ側ないし周辺から検出されている。遺構内から土器片が出土したものは1号・7号・8号土坑で他からの出土遺物はない。時期は検出面や出土遺物から平安時代のものであると考えられる。

溝跡

5条検出された。5号溝以外は調査区外に延び規模は明らかではない。1号溝・2号溝は表土からの掘り込みで現代の遺構と考えられる。3号溝は検出面や埋土から古代（平安時代）の遺構と考えられ、6号住居跡のカマド燃焼部～煙道部と重複し、これを切るため、埋土からこの住居跡が包含していた土器片が多く出土している。4号溝に関しては検出面が地山層であったことや、出土遺物がないことから時期は不明である。5号溝は検出面や埋土の状態から古代（平安時代）の遺構と思われるが、出土遺物はない。

堀跡

3条検出された。調査前からこの地は郡主・稗貫氏の分家である似内氏の本拠地で、その居城である似内館のあった場所と云われ、今回発掘された堀の一部は昭和30年代の水田造成時までは確認できたと云われている。堀は調査区中央部から東西方向に延びるもの（1号堀）が1条、南北方向に延びるもの（2号堀）が1条、調査区東端部で南北方向に延びる堀（3号堀）が1条で、このうち1号堀と3号堀は館の周囲を巡る外堀、2号堀は郭を区画するものであると考えられる。今回検出した堀から推測する館跡全体の規模は東西約250m、南北約115mである。

墓壇

円形の墓壇1基が検出された。削平による影響で遺構の大半が消失したものとされ、検出時に鉄鍋や人骨片が剥き出しの状態出土した。鉄鍋は頭部に被せていたと思われるものが横に傾き、倒れた状態で出土した。出土遺物は鉄鍋、人骨の他、古銭29枚（永楽通寶27枚、大観通寶1枚、宣徳通寶1枚）、硯1点、中国産白磁片2点、鉦1点が出土している。鉄鍋の底面には足が1つ付いているがほかは欠損して残らない。口径は残存部からの推定値で約25cm前後ある。鉦は長さ28.1cm、幅7.2cm、厚さ1.0cmを測り、切っ先には突起があり、同様のものが金ヶ崎町松本館跡、遠野市篠館跡などで出土している。遺構の時期は出土遺物から15世紀後半～16世紀後半頃と考えられる。

墓壇の南側では中世の豪族似内氏の居城（似内館）に伴う堀跡が見ついている。周辺でこれ以外に中世の遺構は検出されていない。墓壇は館跡の外に位置するが、館跡は豊臣秀吉によって郡主稗貫氏が領地を召上げられる16世紀末まで機能していることから、墓壇に埋葬された人物が似内氏と何らかの関わりがあった可能性は高い。

その他の遺構

上記以外の遺構では柱穴列1基、柱穴状小土坑81基が検出されている。柱穴列は本文中で述べたように調査区域外と隣接し、遺構の全容が明らかでない。また柱穴状小土坑についても同様で、後世の畑地造成時の削平により中世～近世の検出面がなく、古代の面で検出されたため、遺構はいずれも浅めである。

2. 遺物

今回の調査で大コンテナ約 13 箱分の遺物が出土した。ほとんどが遺構内からの出土で土師器、須恵器、石器、鉄器、土製品などが出土している。

土器

土器の分類に当たっては、器種と焼成方法、調整技法によって細分した。

器種には坏、大形坏、蓋、埴、鉢、甕、壺などがある。これらを坏類・甕類の 2 つに大きく分け、焼成状態、底部切り離し技法の違いによって A I、A II、B 群に分類し、さらに坏類は底部の切り離し技法、甕類は器面調整の方法の違いで細分した。

・坏類（坏、大形坏、蓋）

A 群：ロクロにより成形され、酸化炎焼成の土器群。

I 類：内面ヘラミガキ調整と黒色処理が施されたもの。

II 類：ロクロ以外の調整が施されないもの。

B 群：ロクロにより成形され、還元炎焼成の土器群。

底部再調整の割合

	A I	A II	B 群
N 群	3/5 (60.0)	0/4 (0)	0/3 (0)
E 群	9/38 (23.7)	6/21 (28.6)	0/3 (0)
S 群	4/7 (25.0)	0/1 (0)	0/1 (0)

〈底部切り離し技法〉

a 種：回転系切りで、再調整が施されないもの。

b 種：回転系切りで、再調整が施されるもの。

c 種：回転ヘラ切りで、再調整が施されないもの。

d 種：回転ヘラ切りで、再調整が施されるもの。

z 種：再調整による摩滅のため不明なもの。

〈坏形土器〉

今回の調査で住居内から出土し、図化・掲載した坏形土器は 86 点である。このうち A I の酸化炎焼成の内黒坏は 49 点 (57.0%)、A II の酸化炎焼成の内黒坏 30 点 (34.9%)、B 群の還元炎焼成坏 7 点 (8.1%) で出土量の比率は約 A I が半分以上を占める。

底部の切り離し技法は回転系切りが多く、篋切りは極僅かである。底部の切り離し後の再調整の割合は A I は 27.6%、A II は 23.1%、B 群は 0% である。

また住居跡のカマド構築場所の違いによって坏を分類した。これによると住居 N 群→E 群になると A I の割合が増加し、B 群の割合が減少しているのが判る。S 群については出土量が少ないため比較は難しい。底部の切り離し技法は回転系切りが圧倒的に多く、篋切りは少ない。底部の切り離し後の再調整は A I は住居 N 群、A II は住居 E 群で再調整が施される割合が多い。

坏形土器分類表

	遺構名	坏形土器				A I					A II					B群					
		A I	A II	B	小計	a	b	c	d	z	a	b	c	d	z	a	b	c	d	z	
N群	北	17号住	2	1	1	4		1			1							1			
	北東	12号住	1		1	2	1									1					
		22号住	2	2	1	5	1	1				2				1					
		小計	5	3	3	11	2	2			1	2		1		2		1			
			(45.4)	(27.3)	(27.3)																
E群	(古)	4号住	2	3		5	2					1				2					
		6号住	1			1			1												
		7号住	4	2		6	3				1	2									
		8号住	4	1	1	6		1			3						1				
		11号住	7	3		10	7					2	1	1							
		13号住	2	1	1	4	1				1		1						1		
	(新)	3号住	3	1		4	2	1				1									
		14号住	4	5		9	4					4				1					
		16号住	3			3	3														
		18号住	2	2	2	6	2					2					2				
		21号住	3	1		4	3					1									
23号住	3	1		4	1					2	1										
		小計	38	20	4	62	28	2	1		7	14	2	1		3	4				
			(61.3)	(32.3)	(6.4)																
S群	南	2号住	1		1	3				1								1			
		10号住	2			2	2														
		小計	3		1	4	2			1								1			

〈大形坏〉

2点出土した。7は2号住居跡の埋土、17は3号住居跡のカマドから出土した。成形はロクロでいずれも酸化炎焼成による。器面の調整は7は内面が黒色処理され、ミガキが施される。底部の切り離しは回転系切りによる。17はロクロナデのみで、底部の切り離しは回転系切り無調整である。

〈蓋〉

17号住居跡の床面から1点出土した。ロクロ成形の還元炎焼成坏で天井部につまみの部分はない。

〈埴〉

3号住居跡のカマド燃焼部から1点出土し、口径35.4cm、底径12.5cm、器高15.1cmを測る。底部は平底で体部外面下半はヘラケズリ調整される。

・甕類（甕、鉢、壺）

A群：酸化炎焼成の土器

I類：非ロクロ成形の土器群。器面の調整は口縁部はヨコナデ、胴部は外面はナデ、内面はハケメによる調整が主に施される。

II類：ロクロ成形された土器群。

a種：内面ヘラミガキ調整と黒色処理が施されたもの。

b種：器面の調整にロクロナデ成形後に体部下半にナデ、ケズリによる再調整が施されるもの。

c種：器面の調整にロクロ以外の調整が施されない土器群。

B群：還元炎焼成の土器。

I類：口縁部のみロクロ成形で胴部は内面アテグ、外面叩き目痕が残るもの。

II類：器面の調整にロクロナデを施すもの。

a種：ロクロ成形後に体部外面中～下半にナデ、ケズリによる調整が施されるもの。

b種：器面の調整にロクロ以外の調整が施されない土器群。

今回の調査で住居跡から出土し、図化・掲載した甕類は59点である。このうちA Iの酸化炎焼成の非ロクロ成形の甕類は28点(47.5%)、A IIのロクロ成形の酸化炎焼成の甕類は22点(37.3%)、B Iの還元炎焼成の甕類は2点(3.4%)、B IIは7点で(11.9%)でA群が出土量の8割以上を占める。

住居跡ごとの構成は以下のとおりである。

甕形土器構成表 (住居内出土)

遺構名	甕形土器								
	A群					B群			
	I	II				I	II		
	a	b	c	不明		a	b	不明	
1号住居跡			1						1
2号住居跡	1		1				1		
3号住居跡			2						1
4号住居跡	5							1	
5号住居跡									
6号住居跡	3		1						
7号住居跡	3						1		
8号住居跡	6								
9号住居跡	1								1
10号住居跡		1	1						
11号住居跡			2	1	1				
12号住居跡	1				1				
13号住居跡						1			
14号住居跡									
15号住居跡	1								
16号住居跡									
17号住居跡	4								
18号住居跡			1				1		
19号住居跡									
20号住居跡									
21号住居跡			2	1					
22号住居跡			3			1			
23号住居跡	1	2							
24号住居跡									
25号住居跡									
26号住居跡	2				1				
合計	28	3	14	2	3	2	3	1	3

上の表からA群ではI類とII類に偏って出土する傾向が窺える。すなわち4・6・7・8・17号住居跡からII群が出土するのは6号住居跡の1点のみで、反対に3・10・11・21・22・23号住居跡からはI類は出土していない。

土製品

土錘が2点出土した。17号住居跡、22号住居跡から1点ずつ出土し、いずれも欠損品である。

3. 宮野目地区の平安時代の集落の変遷

宮野目地区には古代の政庁跡として知られる宮野目方八丁遺跡がある。昭和31年の発掘調査では竪穴住居跡2棟が確認され、土師器・須恵器、鉄片、砥石などが出土している。これらの遺物が志波城や胆沢城から出土したものと類似することや「方八丁」の地名から蝦夷開拓期の遺跡と考えられている。この地域で調査が行われた古代の遺跡は庫理遺跡、似内遺跡、石持Ⅰ遺跡、上似内遺跡、下似内遺跡などで、いずれも方八丁遺跡以降に築かれた集落跡である。これらの遺跡は見つかった遺構・遺物から9世紀前半～10世紀前半に位置付けられる。ここでは時期ごとに第Ⅰ期～第Ⅳ期に分類し、これをさらに出土遺物の傾向や特徴・住居の構造・カマドの位置の変遷からで古期と新期に細分した。なお各時期の設定にあたっては周辺地域における既存の編年区分を加味しつつ、可能な限り細分することを試みた（ただし、各期の年代の比定については明確に特定できるものでないため推測の域を出ず、時期が前後するものも含む可能性もある）。

遺物の分類（AⅠ、AⅡ、B群）（AⅠ、AⅡ、B群）については本文中（P128～130）と同様である。

第Ⅰ期・・・9世紀前葉～中葉に比定され、カマドは住居の北壁面に構築される。北壁にカマドが構築されるもの（古期）、カマドが北壁から東壁に移行するもの（新期）に細分した。

・ 坏類はAⅠ（酸化炎焼成で内面が黒色処理されミガキが施されたもの）が多く、次いでB群（還元炎焼成のもの）→AⅡ（酸化炎焼成で非内面処理のもの）の順である。

<古期> 9世紀前半に比定される。

- ・ 住居跡・・・カマドは住居の北壁面のほぼ中央に構築される。
- ・ 坏類・・・出土する坏は内面が黒色処理されミガキが施された土器（AⅠ）が半分を占め、他は酸化炎焼成で内面無処理の土器（AⅡ）と須恵器坏（B群）が同じ割合で出土。底部の切り離し技法はA群は約9割、B群は約7割が回転糸切りによる。切り離した後、底部に再調整が施されるものはAⅠ、B群に多い。B群の坏に底径が広く、体部が直線的に立ち上がるものが出土。
- ・ 甕類・・・酸化炎焼成の甕類は非ロクロ成形のもの（AⅠ）が9割を占める。ロクロ成形のもの（AⅡ）と共伴はしない。小型の甕（鉢）はすべて非ロクロ成形である。

<新期> 9世紀前～中葉頃に比定され、第Ⅱ群との過渡期ないし平行期にあたる。

- ・ 住居跡・・・カマドは住居の北壁から東壁面に移設される。
- ・ 坏類・・・出土する坏はAⅠが約半分を占め、他はB群が多く、AⅡとの割合は2：1で出土。須恵器はこの時期までが盛期。AⅠは口径が狭く、器高の高いものが増える。また体部は直線的に立ち上がり、底面～体部に再調整が施されるものが多く出土する。坏の2割は底部の切り離し技法が回転ヘラキリによるもので、特にB群に多い。
- ・ 甕類・・・酸化炎焼成の甕類はロクロ成形のもの（AⅡ）の出土量が増える。

第Ⅱ期・・・9世紀中葉～後葉に比定される。カマドは住居の東壁・南壁面に構築される。

- ・ 住居跡・・・カマドは住居の東壁面に構築される。カマドは壁の中央～やや南寄りに構築されるものが多い。

- ・ 坏類・・・A I は出土割合は減少傾向である。A I、A II は口径が狭く、底面全体～体部上位まで手持ちヘラケズリが施されたものが多く出土する。
- ・ 甕類・・・酸化炭焼成の甕類はA Iのみ出土の住居とA IIが出土する住居がある。出土量は約2：1の比率でA Iが多い。A IIは小型の甕が出土する。

第Ⅲ期・・・9世紀後葉～末葉に比定される。出土遺物の特徴から新旧2期に分かれる。

- ・ 住居跡・・・カマドは住居の東壁に設けられるのが大半であるが南壁・北壁面に設置されるものもある。9世紀末葉を中心に東壁にカマドが設けられる住居の中に柱穴が方形状に4基規則的な配列をし、さらに南側の2基が南壁を切るのを特徴とするものがあり（庫理遺跡第5・6・10・13号住、似内遺跡1号竪穴住<花巻市教委H4年度調査>、上似内3・14・16・18・21号住）、庫理遺跡6号住居跡の埋土から十和田a降下火山灰が検出されている。
- ・ 坏類・・・A Iの最盛期で出土する坏の約7割を占め、他はA IIが2割、B群は1割である。
 - <古期> A Iは体部が内湾して立ち上がり、口径値・器高は大きい。A IIは口径値に対する底径値が低くなる。底部切り離し後、再調整が施されるものが減少する。
 - <新期> A Iは体部が内湾気味に立ち上がり、ロクロ成形による段が残るもの、口唇部が外反する坏が出土する。器高は古期と比較して低くなる傾向にある。
- ・ 甕類・・・酸化炭焼成の甕類はA IIが9割以上をしめる。A IIの甕は頸部から「く」の字状に外反し、口唇部に段を有するものが多く出土する。口唇部は上方につまみ上げるものが多く、新期は口頸部の外反がより鋭角的である。

第Ⅳ期・・・10世紀初頭～前半頃に比定される。

- ・ 住居跡・・・カマドは南壁・東壁面に設置される。カマドが東壁に設けられた住居は小規模のものが多く。
- ・ 坏類
 - <古期> A Iが激減し、代わってA IIが出土量でA Iと同量になる。底部の切り離し技法は回転糸切りで再調整が施されるものは少ない。須恵器（B群）の出土量はあまり変わらないが、全体に占める割合はやや増える。A I、A IIの体部はロクロ成形による段がより明瞭になる。また底部に台状の段が付き、小型のものが多くなる。
 - <新期> A Iが減少し、代わってA IIが出土量でA Iを上回り、全体では5割を越える。B群の出土量はあまり変わらないが、全体に占める割合はやや増える。底部切り離しは回転糸切りのみである。A群は底部から内湾して立ち上がり、底部の段が消える。また器高は低く、さらにより皿に近い形状になる。台付きの坏が増加する。
- ・ 甕類・・・酸化炭焼成の甕類はA IとA IIが半々で、A Iの胴部上位に最大径がある甕は口縁部が極端に短い。また口頸部が鋭角的に外反するものがある。A IIは口唇部が肥厚し、段を有するものが多い。

カマドの使用時期（宮野目地区周辺）

	第Ⅰ期（9 C前半）	第Ⅱ期（9 C中葉）	第Ⅲ期（9 C後～末葉）	第Ⅳ期（10 C初頭～前半）
北	-----		-----	
東		-----		-----
西				
南		-----	-----	-----

<補足>

庫理遺跡2号住居跡（北カマド）は当初Ⅰ期に属するものとしたが、検討を重ねるうちに時期が異なると判断した。その根拠として①第Ⅰ期の住居跡はカマドを北壁のほぼ中央に構築しているのに対し、同住居跡は北壁面の東寄りにカマドが設けられている。②出土する坏はAⅠが8割を占め、B群が出土しない。また出土した坏類に口唇部が外反する形態のものがある。③甕類がロクロ使用で口頸部～口唇部が内湾して「ノ」字状の丸みを帯びた形状を呈するものでなく、口縁部が「く」の字状に外反し、口唇部に段を有するものであること。などいずれも第Ⅰ期の特徴からはずれている。

花巻市において住居の北壁にカマドを有し、壁面中央部から東西に寄せて構築されるものは検出されていない。花巻市周辺では石鳥谷町大地渡遺跡C f - 65住、白幡林遺跡A - 7住、B - 5住や北上市柳上遺跡I 18住などで北壁東寄りにカマドが設置された住居が検出されている。このうち大地渡遺跡のC f - 65、白幡林遺跡B - 5住は出土遺物の特徴から9世紀末葉、白幡林遺跡A - 7住、柳上遺跡I 18住は埋土から十和田a降下火山灰が検出され、その状況から10世紀初頭頃に比定される。庫理遺跡2号住も出土遺物の特徴から9世紀末葉頃に属すると思われる、第Ⅲ期後半頃に比定されると考える。

<周辺の遺跡>

矢沢地区・・・宮野目地区とは北上川を挟む東側の対岸に位置し、同時期に該当する住居跡は下幅遺跡・矢沢八幡遺跡で検出されている。

・矢沢八幡遺跡・・・CG 09

規模は2.8×3.2 mで形状は長方形を呈する。カマドは北壁から東壁へ移築している。出土遺物は坏は内黒（AⅠ）6点、非内黒（AⅡ）2点、甕は非ロクロ1点、ロクロ使用4点を記載している。坏類AⅠは体部が内湾し、底部が小型のもの、口径・底部が広く、器高が低いものが出土する。時期はⅣ期に比定される。

・下幅遺跡・・・1号住居跡（報告書に名が付していないため仮称）

カマドは東壁面に設けられ、支柱穴が4本規則的に配列している。攪乱のため壁がないためが位置的に南側2本は壁面をきる可能性が高い。出土遺物は坏はAⅠ、AⅡで体部が内湾して立ち上がる。甕はロクロ成形のものが顕著で、口縁部が外反し、口唇部を上方につまみ上げるものが出土する。時期はⅢ期の9世紀後半頃に属する。

出土分類表（宮野目地区周辺）

	遺構名	壊				A I				A II				B群						
		A I	A II	B	小計	a	b	c	不明	a	b	c	不明	a	b	c	不明			
第 I 期	N 群	7号住 (似内)	7	6	6	19	2			5	6				5 (1)			1		
		15号住 (似内)	2		2	4	2								2					
		24号住 (似内)	2	2	4	8			1 (1)	1	2				4					
		SI01 (似内)	4	3	1	8	4 (1)				3						1			
		17号住 (上似内)	2	1	1	4	1 (1)			1		1					1			
第 I 期	N ↓ E	14号住 (似内)	11	2	9	22	8 (3)	2 (2)		1	1	1			5	3 (1)		1		
		12号住 (上似内)	1		1	2	1								1					
		小計 (43.3)	29 (20.9)	14 (35.8)	24	67	18 (5)	2 (2)	1 (1)	8	12	2			17 (1)	5 (1)		2		
第 II 期	E 群	㊸号住 (下似内)	2	2	2	5	5								4	1				
		㊹号住 (下似内)	2	2	2	6	2 (1)					2				2				
		4号住 (似内)	2	2		4	1 (1)													
		5号住 (似内)	1		3	4				1						1	2			
		12号住 (似内)	6	1	1	8	3 (1)	2 (2)		1	1					1				
		20号住 (似内)	2	3	2	7	1				2					2				
		4号住 (上似内)	2	3		5	2				1									
		8号住 (上似内)	4	1	1	6	1 (1)			3		1			2					
		旧 23号住 (上似内)	3			3	1				2					1				
				小計 (45.8)	22 (25.0)	14 (29.2)	48	11 (4)	2 (2)		8	4	3		4	9	5			
第 III 期	S 群	2号住 (上似内)	2		1	3		1 (1)							1					
		2号住 (似内)		2	1	3					2					1				
		8号住 (似内)	1		1	1	1										1			
		16号住 (似内)	2	1	2	5	2					1				1				
		SI02 (似内)		5	1	6						5				1				
		第 III 期	E 群	13号住 (上似内)	2	1	1	4	1			1	1 (1)				1			
				1号住 (庫理)	37	18	3	58	31 (5)			1	18 (1)				3			
				1号住 (似内)	1	2		3	1				1 (1)							
				3号住 (似内)	5	1	2	8	4			1	1				2			
				6号住 (似内)	1	2		3	1				1				1			
	19号住 (似内)			1	4		5	1				3 (1)		1						
	22号住 (似内)			3			3	1	1 (1)											
	27号住 (似内)				1		1													
	6号住 (上似内)			1			1		1											
	7号住 (上似内)			4	2		6	3			1	2								
	5号住 (庫理)			8		1	9	5 (3)									1			
	6号住 (庫理)			8	6		14	6 (1)			1	4					1			
	10号住 (庫理)			23	1	1	25	21 (8)				1	1				1			
	11号住 (庫理)			3	1	1	5	3 (1)				1	1				1			
	13号住 (庫理)			4	1		5	4 (1)				1	1				2		1	
	1号住 (似内)	23	2	5	30	17			6	2					2					
	3号住 (上似内)	3	1		4	3 (1)				1	1									
	14号住 (上似内)	4	5		9	4				4				1						
	16号住 (上似内)	3			3	3														
	18号住 (上似内)	2	2	2	6	2				2					2					
21号住 (上似内)	3	1		4	3				1											
9号住 (似内)	2			2	2															
17号住 (似内)	15			15	15															
11号住 (上似内)	7	3		10	7				2				1							
22号住 (上似内)	2	2	1	6	2 (1)				2					1						
2号住 (庫理)	16	4		20	14 (2)		1	1	4 (1)											
		小計 (63.0)	68 (29.0)	22 (8.0)	276	157 (23)	2 (1)	2 (1)	12	61 (5)	1	1	2	18	1	1				
第 IV 期	S 群	新 23号住 (上似内)		1		1					1									
		10号住 (上似内)	2			2	2													
		1号住 (庫理)	4	2	1	7	4				2				1					
		3-2号住 (庫理)	2	3		5	2				2									
		7-2号住 (庫理)	8	7	2	17	3				5				2					
		12号住 (庫理)	2	3		5	2 (2)				2 (1)									
		1号住 (石持 I)	2	2	2	4					2				2					
		25号住 (石持 I)	4	5		9	4 (1)				4									
		26号住 (石持 I)	8		2	10	7 (3)									1				
		27号住 (石持 I)	1		1	2	1									1				
	29号住 (石持 I)	1	2		3	1				2										
			小計 (49.2)	25 (38.5)	8 (12.3)	65	27 (6)				27 (1)				9	1				
	第 IV 期	E 群	10号住 (似内)		2	1	3					2				1				
			2号住 (石持 I)	2			2	2 (1)												
			3号住 (石持 I)	4	3		7	3				2								
6号住 (石持 I)			3	3	1	7	3				3				1					
7号住 (石持 I)			2	9	2	13	2 (2)				9				2					
8号住 (石持 I)				4	1	5					4				1					
17号住 (石持 I)			1	4		5					1				3					
18号住 (石持 I)				3	1	4					3									
20号住 (石持 I)			3		2	5	3 (2)								2					
21号住 (石持 I)			1	8	2	11	1				8 (4)				2					
22号住 (石持 I)		2		2					2											
24号住 (石持 I)	5	5	5	15	5 (2)				5				4							
		小計 (27.6)	43 (54.0)	15 (18.4)	79	19 (7)				39 (4)				16						

a・・Kイトキリ b・・Kヘラキリ c・・Sイトキリ 不明・・再調整のため () 内は再調整あり *表中の数値は各報告書に掲載されている遺物に限るため遺跡から出土した実数とは異なる

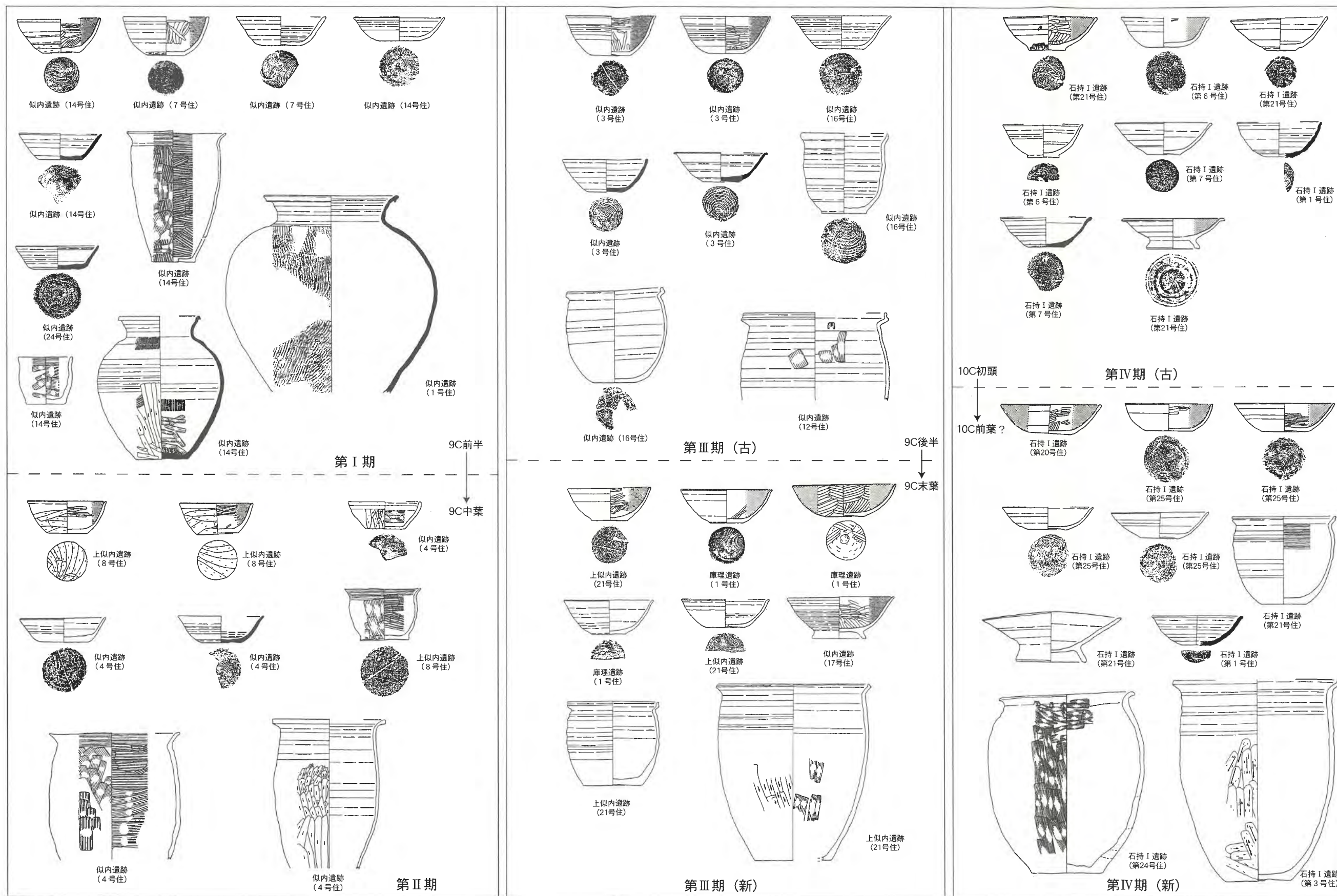


图4 宮野目地区出土土器

S = 1/100

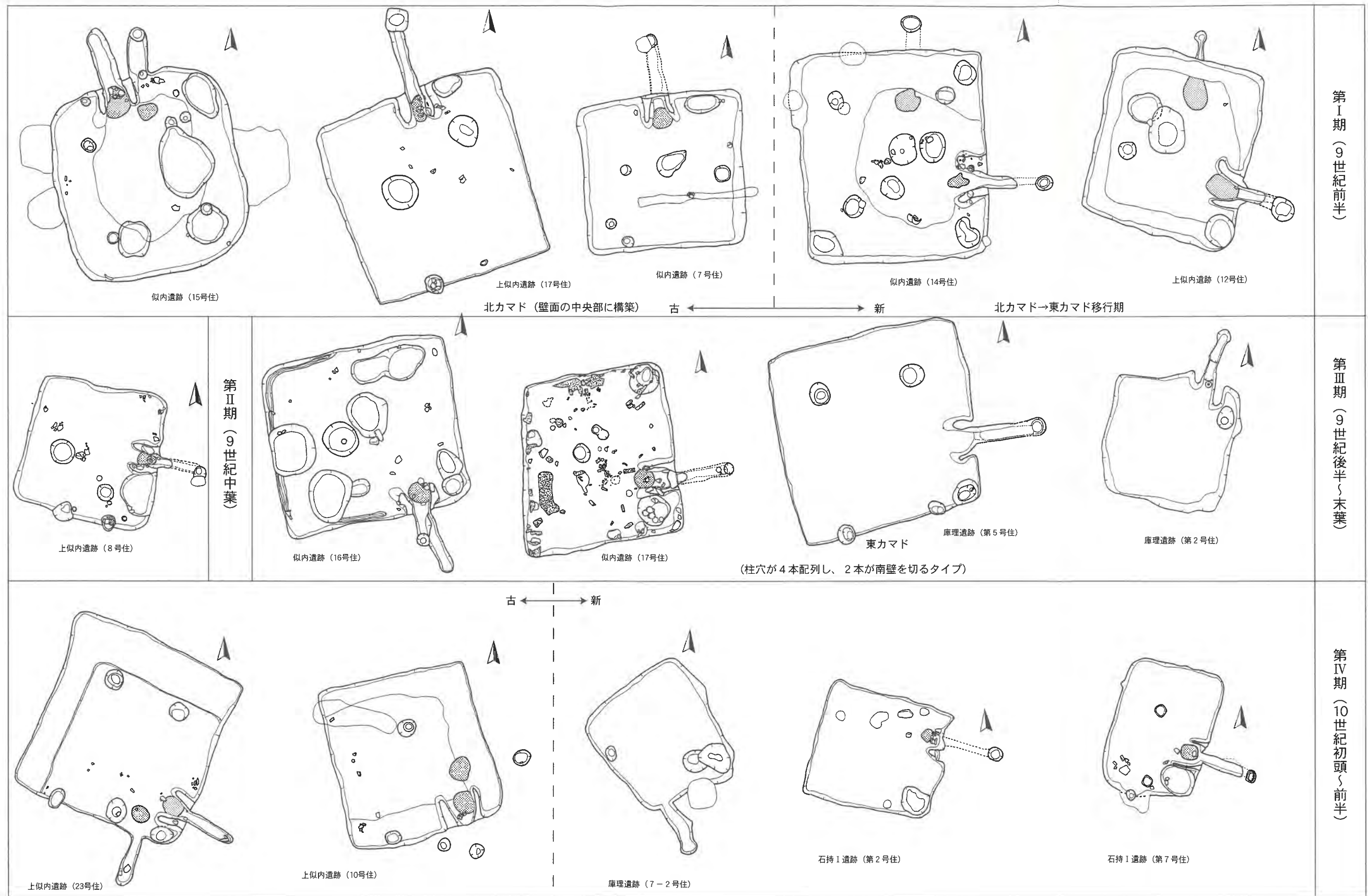


図5 宮野日地区周辺遺跡の住居跡変遷

花巻市内遺跡・・・花巻市万丁目遺跡・古館Ⅱ遺跡

・万丁目遺跡

豊沢川流域から北に0.9 kmの位置にある。検出された遺構は奈良時代～中世のもので平安時代の住居跡は2棟で、このうちカマドを有するのはⅡE 01と命名された住居跡1棟である。ⅡE 01は350×370cmでカマドは最初北壁中央部に設けられ、のち住居の拡張(400×442cm)とともに東壁面のやや南寄りに移設されたものである。出土した掲載遺物は坏類がAⅠ5点、AⅡ3点、B群2点でAⅠは体部が内湾して立ち上がり、器高は高い。また底面～底部の再調整が施されるものが半分ほどある。甕類は酸化炎焼成によるものが大半でAⅠは4点、AⅡは7点が掲載されている。AⅡは口頸から外反し、口唇部に段を有するタイプと口唇部に口頸部から内湾し、明瞭な段をもたないタイプが出土している。これらの住居の形態や出土した遺物の特徴から時期は第Ⅲ期前半の9世紀後半に比定される。

・古館Ⅱ遺跡

豊沢川流域から北に0.5 kmの位置にある。検出された遺構は奈良時代～中世のもので平安時代の住居跡が8棟検出され、このうちカマドを有するのは5棟で東壁に設けられるものはB 13住、E 16-2住、E 21住、F 15-2住の4棟でB 13住とF 15の埋土から十和田a降下火山灰が検出されている。E 21は検討できる遺物が少ないため時期は不明でB 13、E 16-2、F 15-2は出土した遺物の特徴から第Ⅳ期、10世紀初頭頃の遺構と思われる。南壁に設けられるものはF 16の1棟である。F 16は規模は3.2×3.2 m、遺構周辺部および埋土からは十和田a降下火山灰が検出される。掲載遺物は坏類AⅠは20点、AⅡは20点、B群はない。甕類はAⅠ、AⅡが半々で出土し、AⅡは口頸で外反し、口唇に段を有するものである。これらの住居の形態や検出状況、出土遺物の特徴から時期は第Ⅳ期、10世紀初頭に比定される。

以上、花巻市内で調査された遺跡の結果からカマドの設置場所における出土遺物の特徴に大きな地域差は認められなかった。なお、遺跡の調査例は他にもあるが、比較検討可能なものについては同じ傾向であった。

また同じ北上川西岸にある北上市や盛岡市周辺の遺跡と比較すると時期によって地域差は明瞭になる。すなわち、9世紀前半(～中葉)において花巻市周辺では北カマド→東カマドの変遷が確認できるのに対し、北の盛岡市や南の北上市では西カマド・南カマド使用の住居が存在し、中でも盛岡市周辺では西カマド、北上市では南カマドが多い(ただし、この時期に南カマド使用の住居が見つかっているのは岩崎台地遺跡群のみ)。9世紀後葉以降は北の盛岡市周辺の遺跡では花巻市周辺で見られない西カマド使用の住居跡が10世紀以降も検出される一方で、北上市の北上川流域にある遺跡から見つかる住居跡にはカマドの向きや移設場所・柱穴の配列などで共通する点が多く見られるようになる。カマドの向きを変える理由については不明であるが、9世紀末～10世紀初頭における花巻市～北上市周辺には共通の文化圏が存在していたと推察される。

4. おわりに

今回の調査で検出された遺構や遺物から上似内遺跡は、縄文時代の一時期には狩猟場として、平安時代には集落跡として、中世には館跡として利用されていたことが明らかになった。

縄文時代の陥し穴は隣接する似内遺跡や石持Ⅰ遺跡の調査でも多数検出されており、このあたり一帯が狩猟生活を営む人々にとって重要な土地であったことが窺える。平安時代になると北上川西岸一帯には本遺跡の他に似内遺跡、庫理遺跡、下似内遺跡、石持Ⅰ遺跡など多くの遺跡で住居跡が見つかっている。いずれも

平安時代以前の住居跡が見つかっていないことから、9世紀初頭に律令国家権力がこの地に及び、その支配下のもとで新たに集落が形成されたと考えられる。中世の館跡は室町～戦国時代この地を支配していた似内氏の居城であり、北上川を挟んで隣接する矢沢館とともに郡主稗貫氏の東の要として重要な役割を担っていたものと思われる。今回の調査で見つかった堀跡はこの館に伴う遺構と考えられ、その規模や構造を知る上での一助となった。今後、継続して行われる花巻市教育委員会の調査の成果を期待したい。

<引用・参考文献>

- ・花巻市教育委員会 1998『花巻市内遺跡発掘調査報告書』(久保田Ⅱ遺跡・本館Ⅱ遺跡・似内遺跡)
(花巻市埋蔵文化財調査報告 第22集)
- ・花巻市教育委員会 1995『花巻市内遺跡発掘調査報告書』(中野C遺跡・久保田Ⅱ遺跡・桜町遺跡)
(花巻市埋蔵文化財調査報告 第13集)
- ・花巻市教育委員会 1993『花巻市遺跡群』-平成4年度発掘調査概報-(似内遺跡・根子館・法領遺跡
・下幅遺跡)
- ・北上市教育委員会 1998『成沢Ⅱ遺跡発掘調査報告書』(北上市埋蔵文化財調査報告 第32集)
- ・石鳥谷町教育委員会 1996『白幡林遺跡発掘調査報告書』
- ・岩手県教育委員会・日本国有鉄道盛岡工事事務局 1979『八幡遺跡』(現在は「矢沢八幡遺跡」に名称変更)『東
北新幹線関係埋蔵文化財調査報告書-Ⅱ-』(岩手県文化財調査報告書 第34集)
- ・岩手県教育委員会・日本道路公団 1981『大地渡』『東北縦貫自動車道線関係埋蔵文化財調査報告書
-Ⅶ-(石鳥谷・花巻地区)』(岩手県文化財調査報告書 第56集)
- ・岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1986『万丁目遺跡発掘調査報告書』
(岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第102集)
- ・岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1986『古館Ⅱ遺跡発掘調査報告書』
(岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第103集)
- ・岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2001『石持Ⅰ遺跡発掘調査報告書』
(岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第341集)
- ・岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2000『似内遺跡発掘調査報告書』
(岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第344集)
- ・岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1999『庫理遺跡発掘調査報告書』
(岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第302集)
- ・岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1992『上鬼柳Ⅱ・Ⅲ遺跡発掘調査報告書』
(岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第161集)
- ・岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1992『岩崎台地遺跡群発掘調査報告書』
(岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第176集)
- ・岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1999『上尾田の館跡発掘調査報告書』
(岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第300集)

写真図版



遺跡遠景（南から撮影）



調査区全景

写真図版1 空中写真①



調査区全景 (A~D区)



調査区全景 (E区)

写真図版 2 空中写真②



調査区近景（北側・E→）



調査区近景（南側・E→）

写真図版3 調査区風景

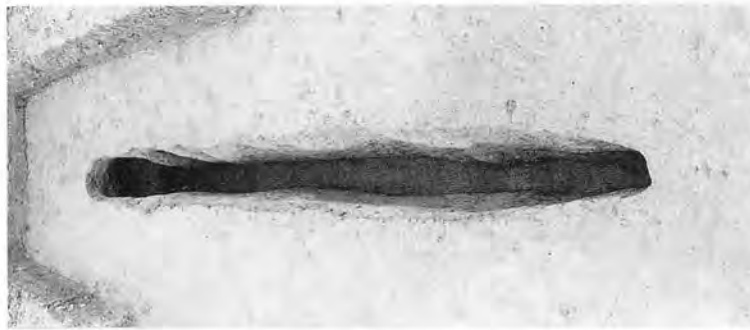


調査区近景（東南端・W→）

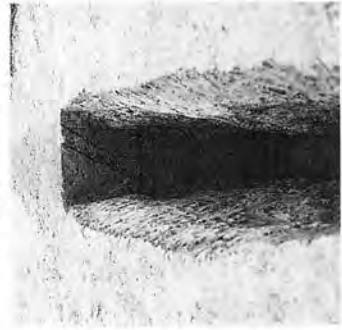


基本土層

写真図版4 調査区・基本土層



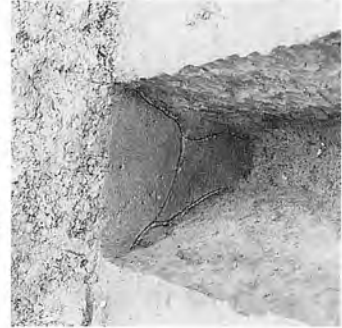
5号陥し穴 (平面)



断面



4号陥し穴 (平面)



断面



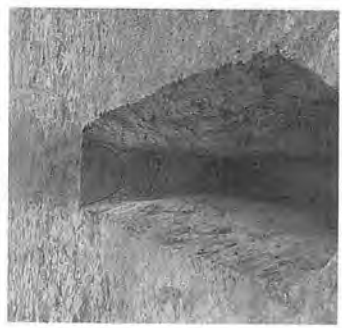
3号陥し穴 (平面)



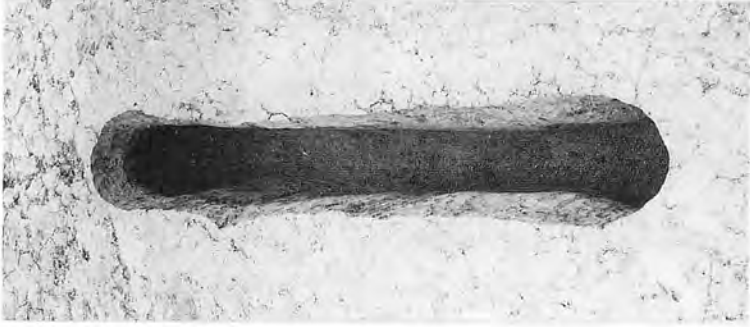
断面



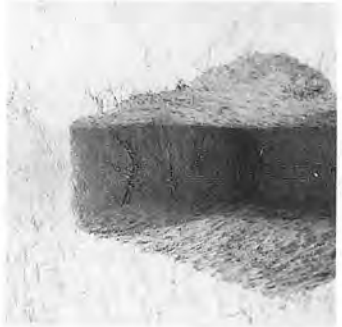
2号陥し穴 (平面)



断面



1号陥し穴 (平面)



断面

写真図版5 1～5号陥し穴



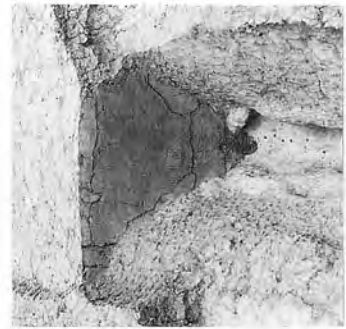
10号陥し穴 (平面)



断面



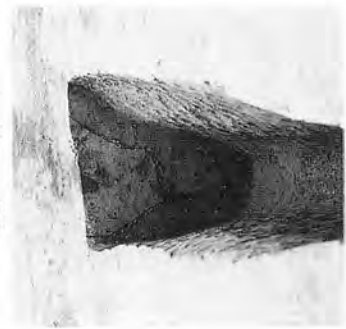
9号陥し穴 (平面)



断面



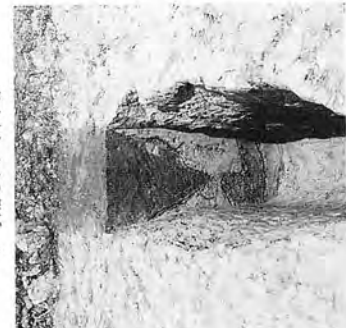
8号陥し穴 (平面)



断面



7号陥し穴 (平面)



断面



6号陥し穴 (平面)



断面

写真図版6 6～10号陥し穴



15号陥し穴 (平面)



断面



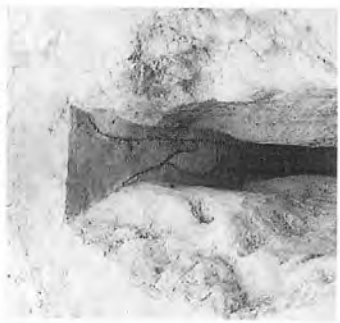
14号陥し穴 (平面)



断面



13号陥し穴 (平面)



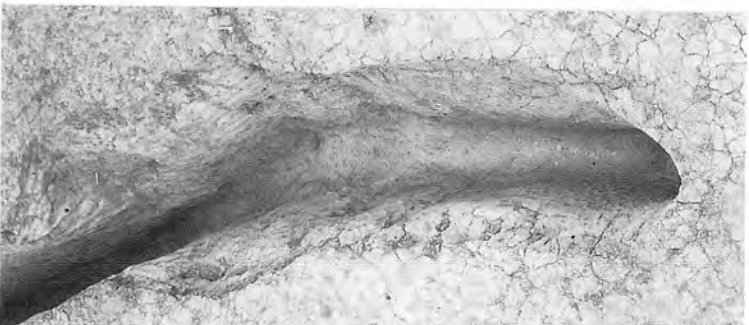
断面



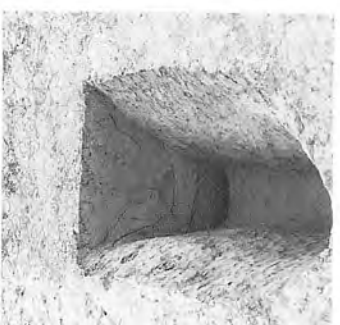
12号陥し穴 (平面)



断面

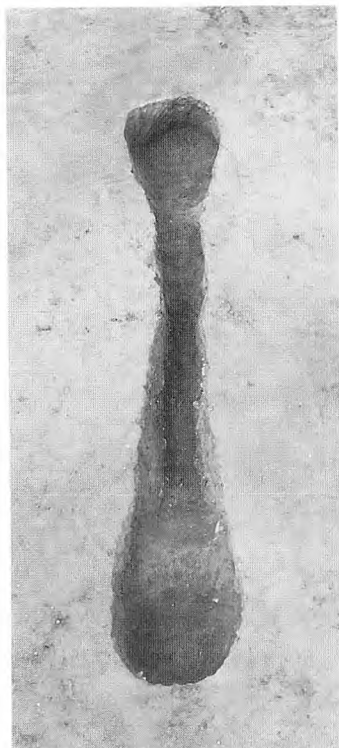


11号陥し穴 (平面)

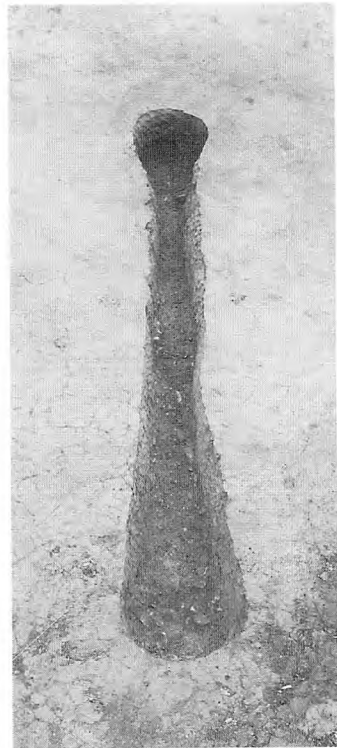


断面

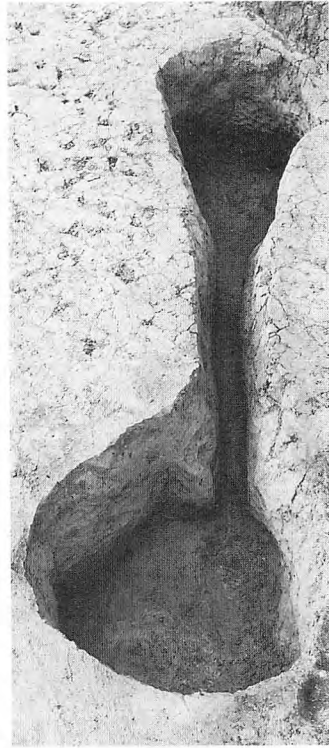
写真図版7 11～15号陥し穴



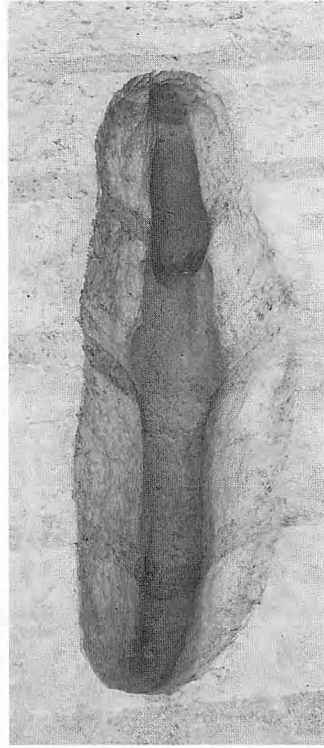
16号陥し穴 (平面)



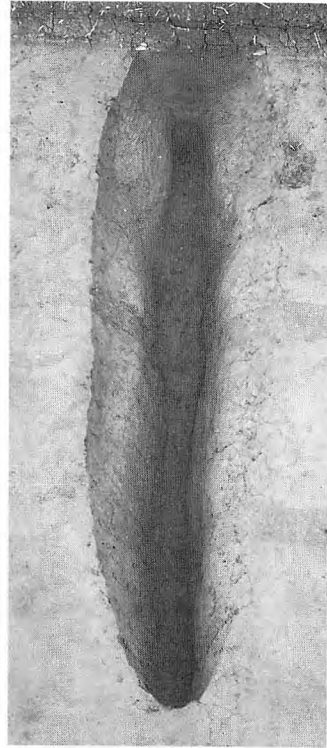
17号陥し穴 (平面)



18号陥し穴 (平面)



19号陥し穴 (平面)



20号陥し穴 (平面)



断面



断面



断面



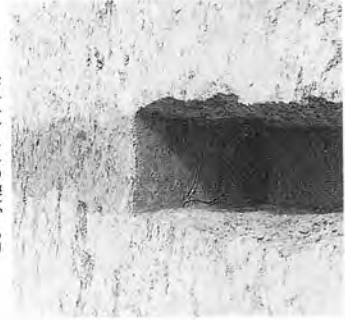
断面



断面



25号陥し穴 (平面)



断面



24号陥し穴 (平面)



断面



23号陥し穴 (平面)



断面



22号陥し穴 (平面)



断面

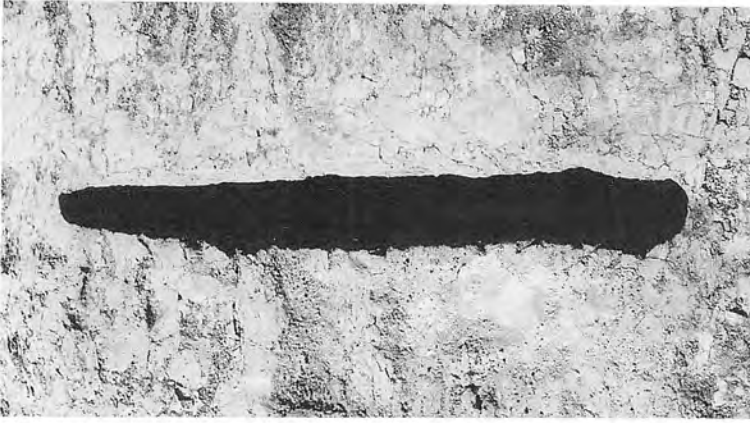


21号陥し穴 (平面)



断面

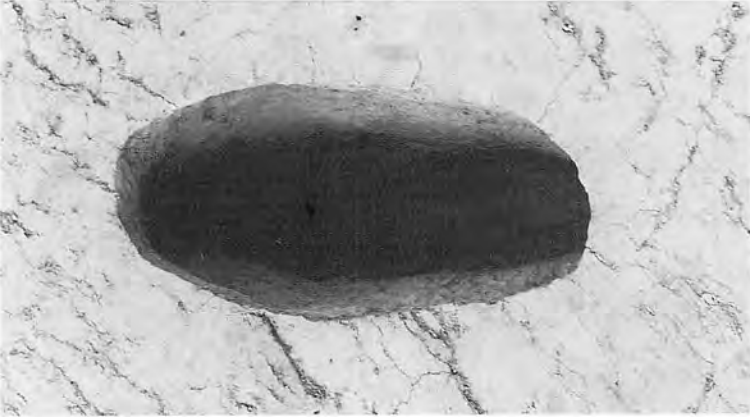
写真図版9 21～25号陥し穴



29号陥し穴 (平面)



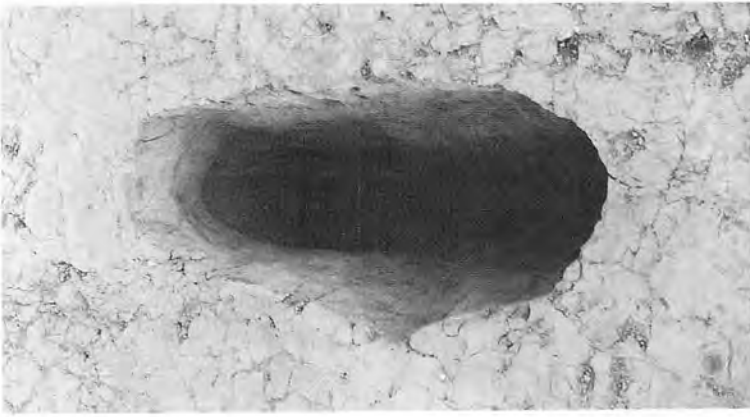
断面



28号陥し穴 (平面)



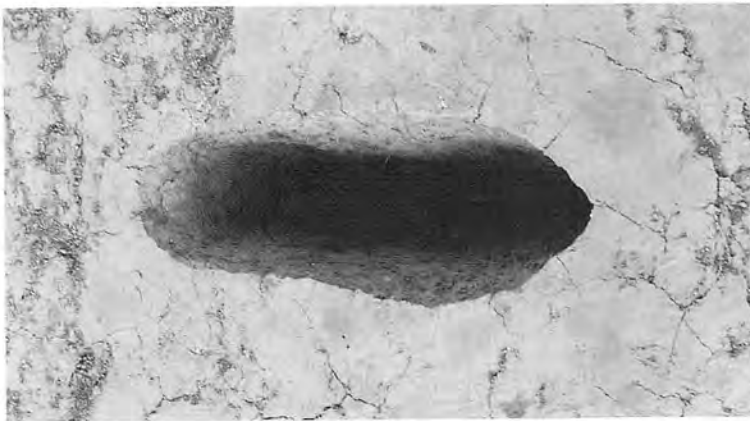
断面



27号陥し穴 (平面)



断面



26号陥し穴 (平面)



断面



1号住居跡 (平面・S→)



埋土断面 (S-Nベルト)



カマド袖部・燃烧部 (覆土断面)



カマド燃烧部 (覆土断面)



カマド袖部・燃烧部 (断面)



カマド燃烧部 (断面)

写真図版 11 1号住居跡



2号住居跡 (平面・N→)



埋土断面 (N-Sベルト)



埋土断面 (E-Wベルト)



1号カマド (平面)



2号カマド (平面)



1号カマド袖部・燃烧部 (覆土断面)



1号カマド煙道部・燃烧部 (覆土断面)



1号カマド煙道部 (断面)



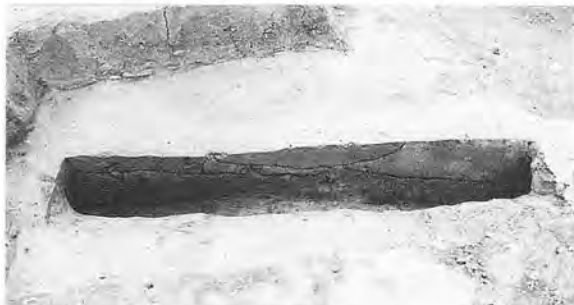
1号カマド袖部・燃烧部 (断面)



2号カマド袖部・燃烧部 (覆土断面)



2号カマド燃烧部 (覆土断面)



2号カマド煙道部 (断面)



2号カマド袖部・燃烧部 (断面)



P 1 (断面)



P 2 (断面)

写真図版 13 2号住居跡



3号住居跡 (平面・W→)



埋土断面 (N-Sベルト)



埋土断面 (W-Eベルト)



カマド袖部・燃烧部 (覆土断面)



カマド燃烧部 (覆土断面)

写真図版 14 3号住居跡



カマド袖部・燃焼部（断面）



カマド燃焼部（断面）



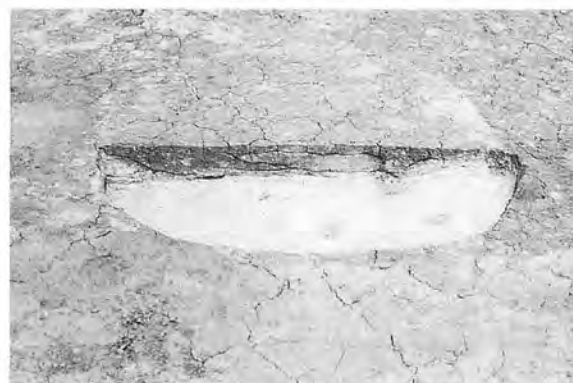
カマド煙道部（断面）



カマド（平面）



P 1（断面）



P 2（断面）



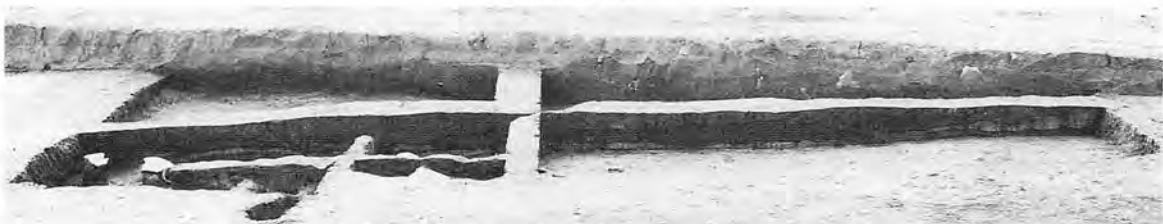
P 3（断面）



土器出土状況



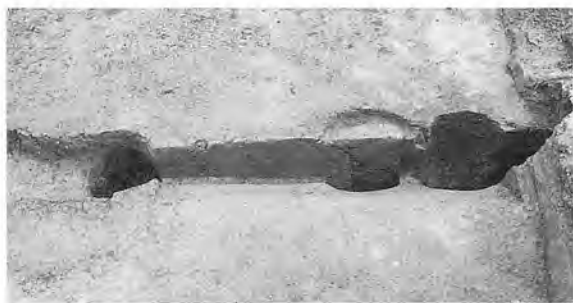
4号住居跡（平面・W→）



埋土断面（S-Nベルト）



カマド袖部・燃烧部（覆土断面）



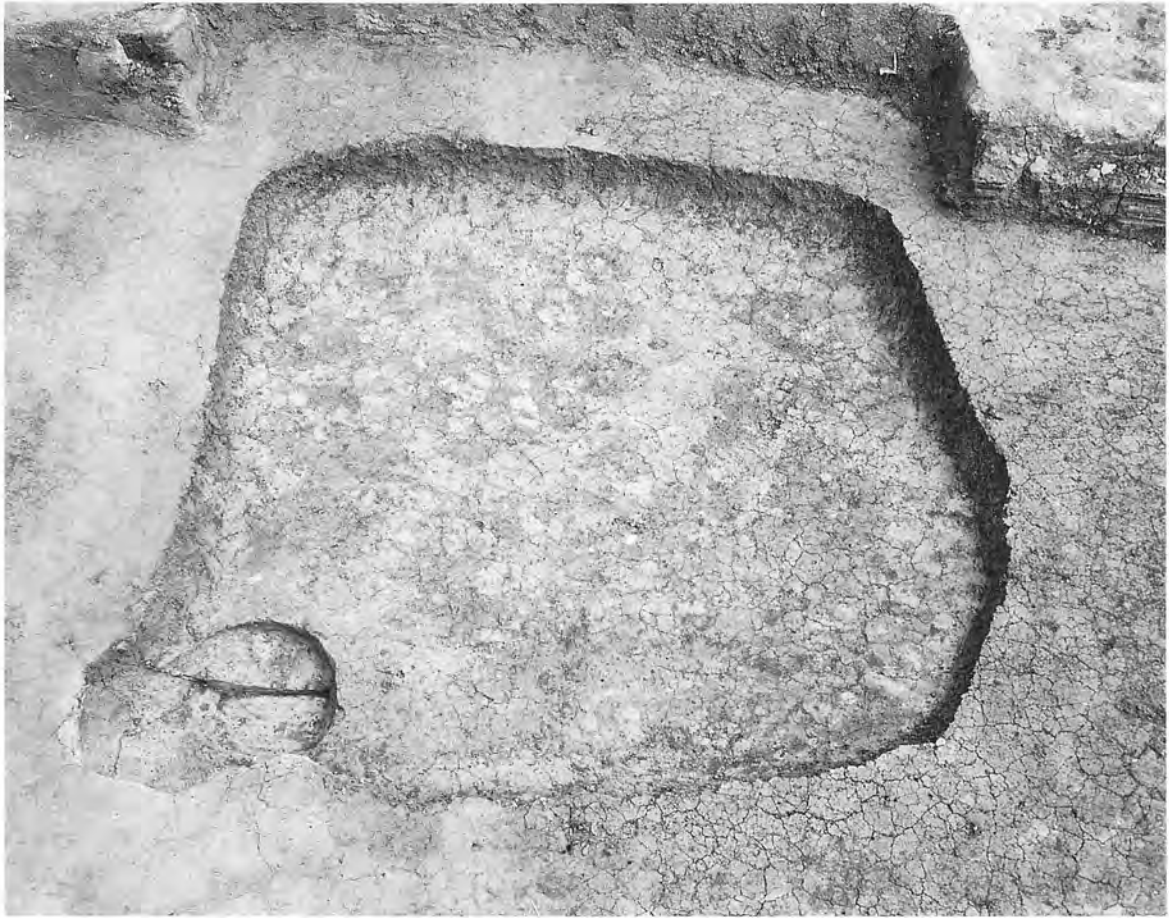
カマド煙道部（断面）



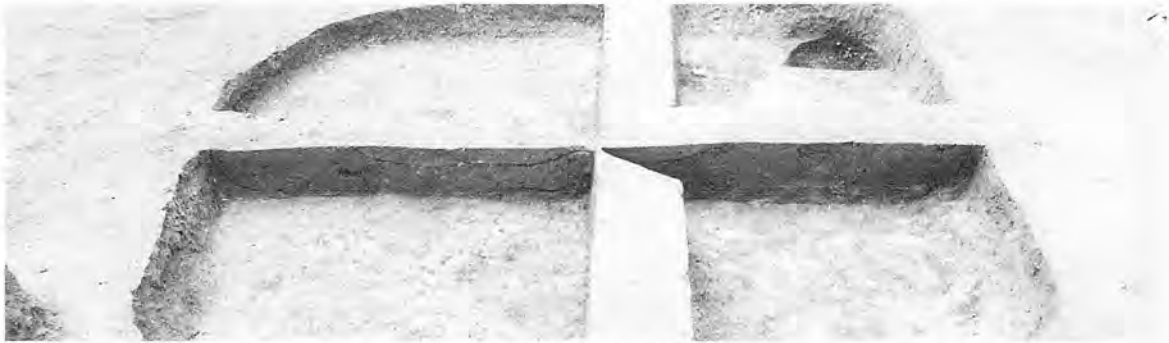
カマド袖部・燃烧部（断面）



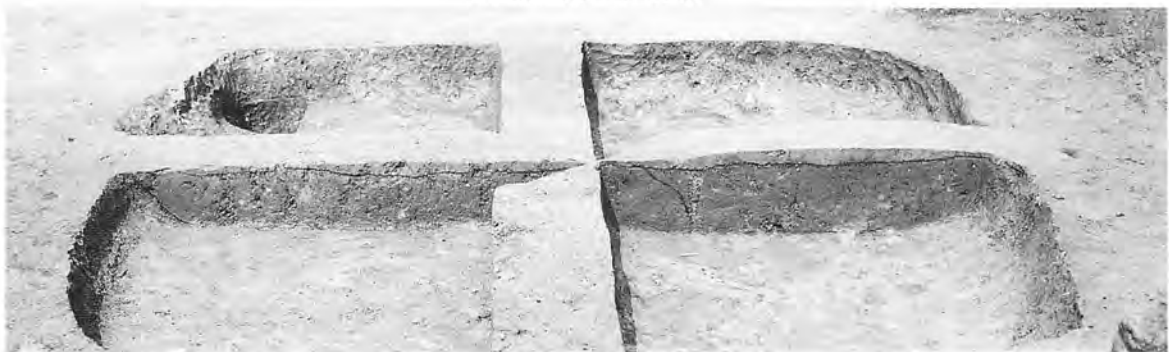
カマド（平面）



5号住居跡（平面・W→）



埋土断面（S-Nベルト）



埋土断面（W-Eベルト）

写真図版 17 5号住居跡



6号住居跡 (平面・W→)



埋土断面 (N-Sベルト)



カマド (平面)



カマド燃焼部 (断面)



カマド煙道部 (断面)



P1 (断面)

写真図版 18 6号住居跡



7号住居跡 (平面・W→)



埋土断面 (S-Nベルト)



埋土断面 (W-Eベルト)



カマド (平面)



カマド煙道部・燃烧部 (断面)

写真図版 19 7号住居跡



カマド袖部・燃焼部（覆土断面）



カマド燃焼部（覆土断面）



カマド袖部・燃焼部（断面）



カマド燃焼部（断面）



P 1（断面）



P 2（断面）



P 3（断面）



完 掘



8号住居跡 (平面・W→)



埋土断面 (S-Nベルト)



カマド (平面)



カマド煙道部 (断面)



カマド袖部・燃烧部 (覆土断面)



カマド袖部・燃烧部 (断面)



P 2 (平面)



P 2 (断面)



P 1 (断面)



P 3 (断面)



P 4 (断面)



P 5 (断面)



土器出土状況① < No.68 >



土器出土状況② < No.60 >



土器出土状況③ < No.62 >



土器出土状況④ < No.59 >



9号住居跡 (平面・S→)



埋土断面 (W-Eベルト)



埋土断面 (N-Sベルト)

写真図版 23 9号住居跡



10号住居跡（平面・N→）



埋土断面（S-Nベルト）



埋土断面（W-Eベルト）



1号カマド煙出し部（断面）



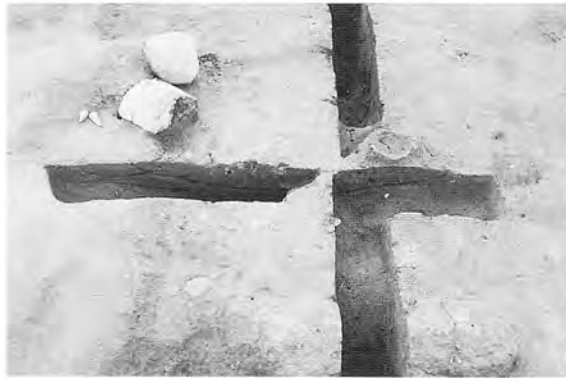
1号カマド燃烧部（断面）



2号カマド煙出し部・燃烧部（覆土断面）



2号カマド袖部・燃烧部（覆土断面）



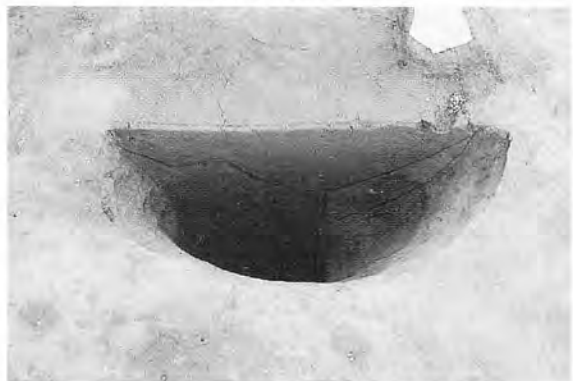
2号カマド燃烧部（断面）



2号カマド（平面）



P 1（断面）



P 2（断面）



土器出土状況 <No.74>



完掘（N→）



11号住居跡（平面・W→）



埋土断面（W-Eベルト）



住居跡平面（W→）



カマド煙道部（断面）



カマド燃烧部（覆土断面）



カマド袖部・燃烧部（覆土断面）



カマド燃烧部（断面）



カマド袖部・燃烧部（断面）



土器出土状況①



土器出土状況②



土器出土状況③



土器出土状況④



12号住居跡（平面・W→）



埋土断面（W-Eベルト）



埋土断面（N-Sベルト）



1号カマド煙道部・燃烧部（覆土断面）



1号カマド袖部・燃烧部（覆土断面）



12号住居跡 (平面・W→)



埋土断面 (W-Eベルト)



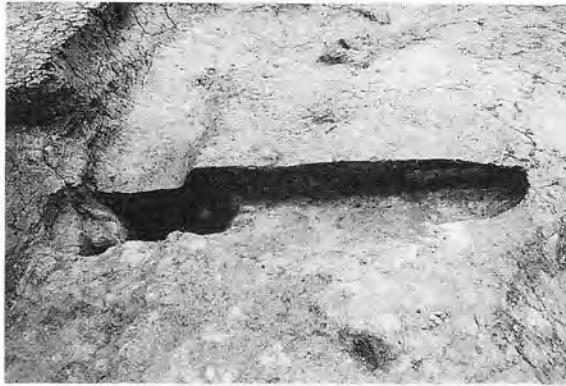
埋土断面 (N-Sベルト)



1号カマド煙道部・燃烧部 (覆土断面)



1号カマド袖部・燃烧部 (覆土断面)



1号カマド燃烧部 (断面)



2号カマド (平面)



2号カマド燃烧部 (覆土断面)



2号カマド袖部・燃烧部 (覆土断面)



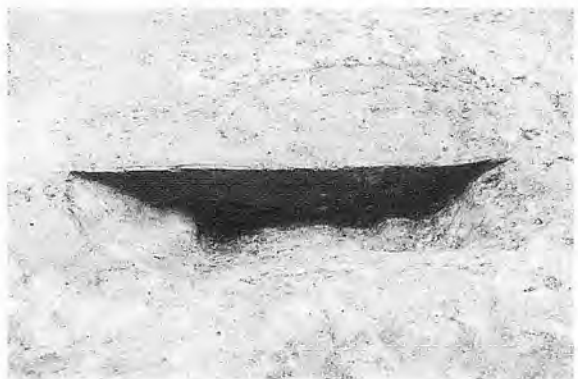
2号カマド袖部・燃烧部 (断面)



2号カマド燃烧部 (断面)



P 1 (断面)



P 2 (断面)



13号住居跡 (平面・S→)



埋土断面 (S-Nベルト)



埋土断面 (E-Wベルト)



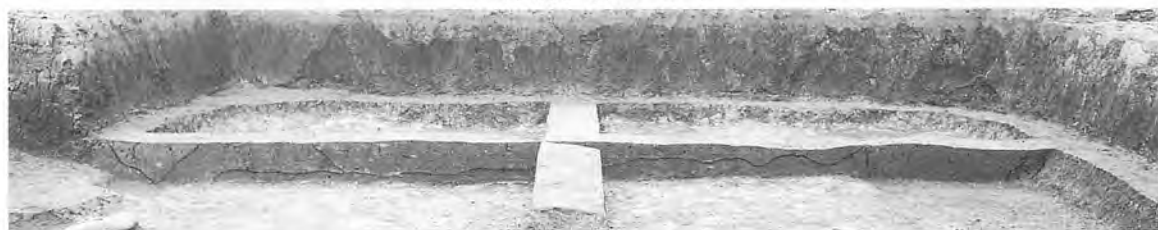
カマド袖部・燃烧部 (断面)



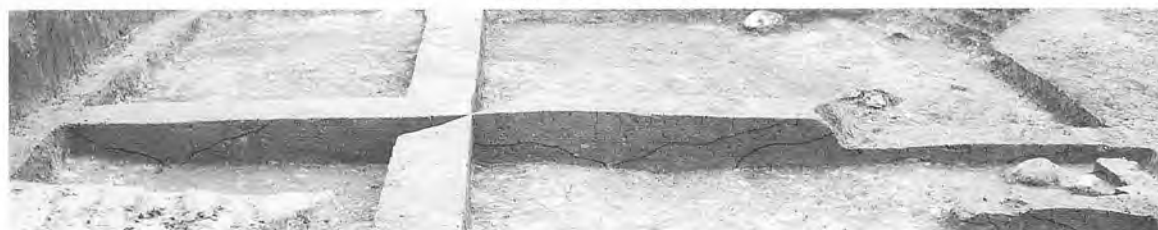
カマド燃烧部 (断面)



14号住居跡（平面・E→）



埋土断面（S-Nベルト）



埋土断面（W-Eベルト）



カマド袖部・燃烧部（覆土断面）



カマド燃烧部（覆土断面）



カマド袖部・燃烧部（断面）



カマド燃烧部（断面）



カマド（平面・W→）



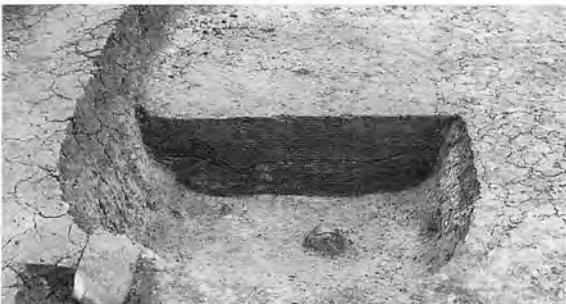
完掘



P 1（断面）



P 2（断面）



P 3（断面）



P 4（断面）



P 5（断面）



P 7（断面）



15号住居跡 (平面・W→)



埋土断面 (W-Eベルト)



カマド (平面)



カマド煙道部 (断面)



カマド袖部・燃焼部 (断面)



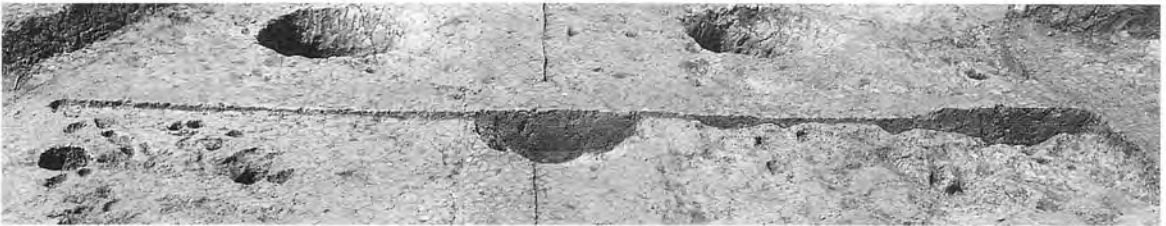
P1 (断面)



16号住居跡 (平面・W→)



埋土断面 (N-Sベルト)



埋土断面 (W-Eベルト)



カマド袖部・燃烧部 (断面)

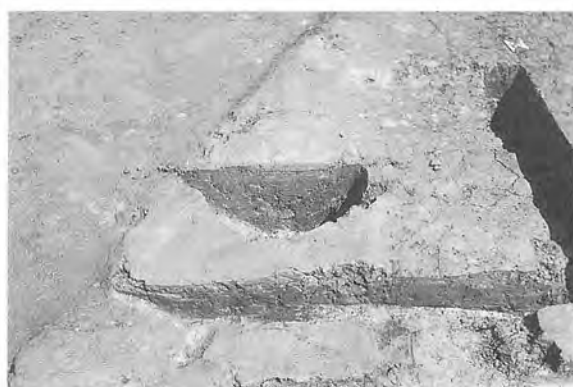


カマド燃烧部 (断面)

写真図版 34 16号住居跡



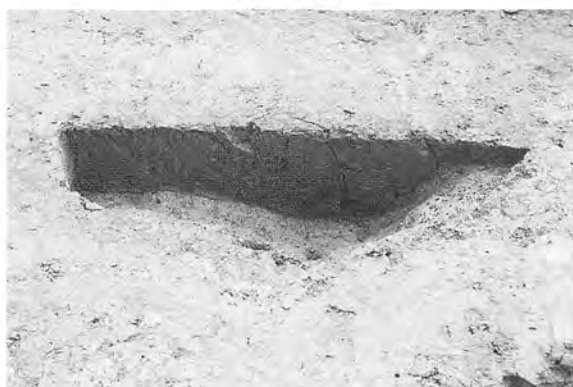
烧土 (平面)



烧土 (断面)



P 1 (断面)



P 2 (断面)



P 3 (断面)



P 4 (断面)



P 5 (断面)



P 6 (断面)



17号住居跡（平面・S→）



埋土断面（N-Sベルト）



埋土断面（W-Eベルト）



カマド燃烧部（覆土断面）



カマド袖部・燃烧部（覆土断面）



カマド燃烧部 (断面)



カマド袖部・燃烧部 (断面)



カマド煙道部 (断面)



カマド (平面)



P 1 (断面)



P 2 (断面)



P 3 (断面)



P 3 (平面)



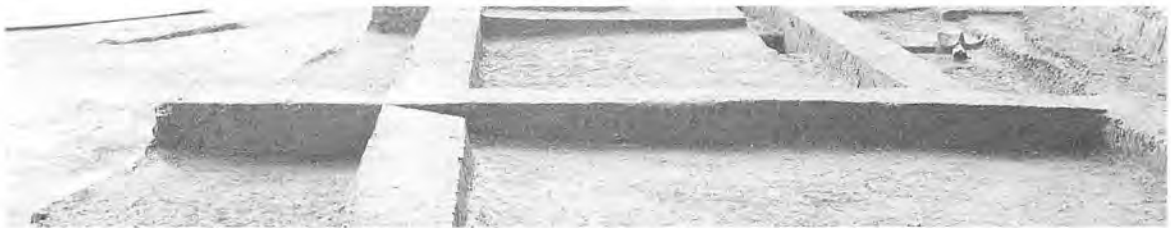
P 4 (断面)



鉄製遺物出土状況 < No.131 >



18号住居跡 (平面・W→)



埋土断面 (S-Nベルト)



埋土断面 (W-Eベルト)



カマド (平面)



カマド燃焼部 (覆土断面)

写真図版 38 18号住居跡



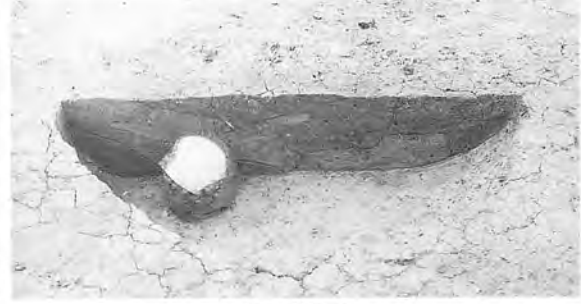
カマド袖部・燃烧部（断面）



カマド燃烧部（断面）



カマド煙道部（断面）



P 1（断面）



P 2（平面）



P 2（断面）



P 3（平面）



P 3（断面）



P 7（断面）



P 8（断面）



19号住居跡（平面・S→）



埋土断面（N-Sベルト）



カマド燃烧部（断面）



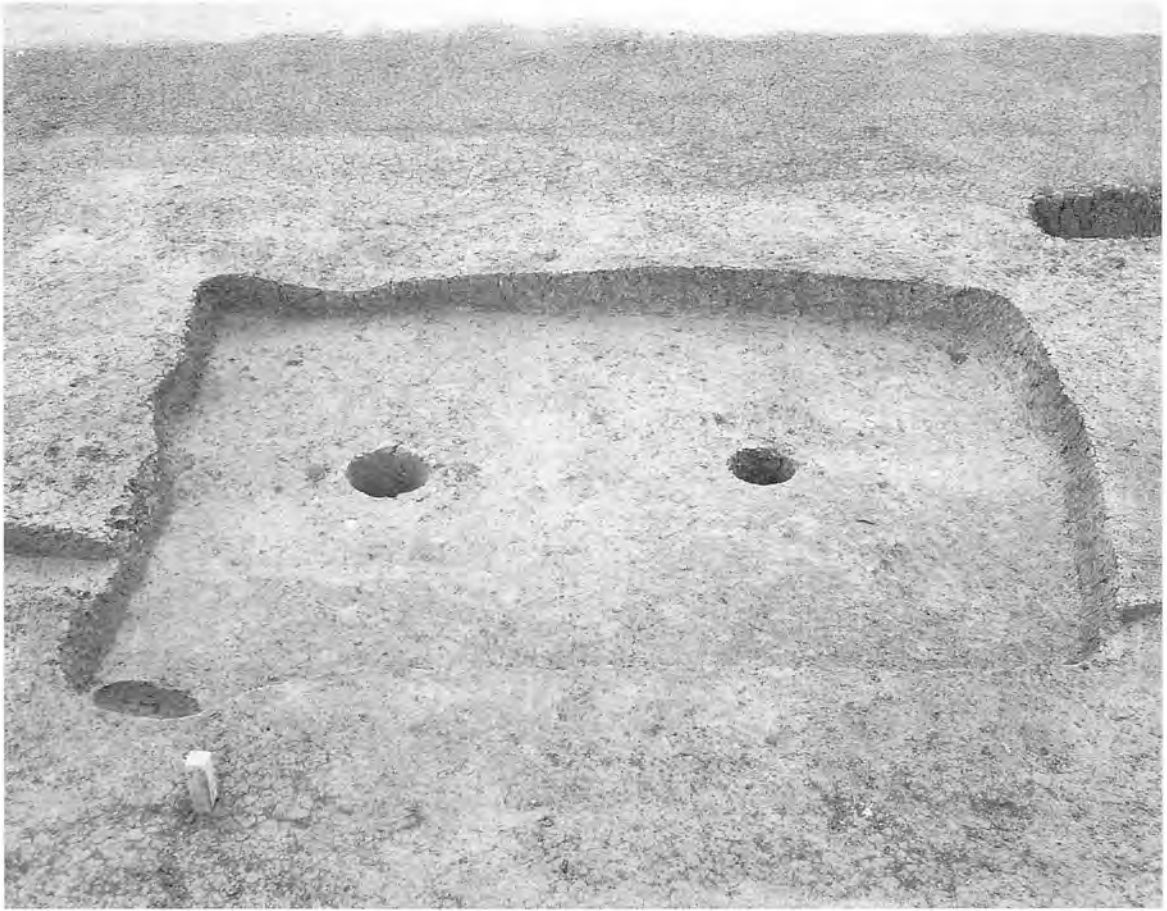
カマド袖部・燃烧部（覆土断面）



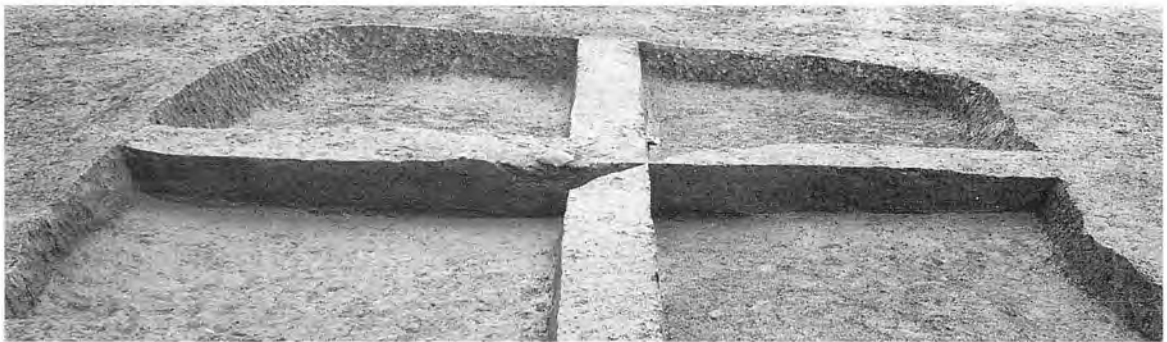
P1（断面）



完掘（平面）



20号住居跡 (平面・S→)

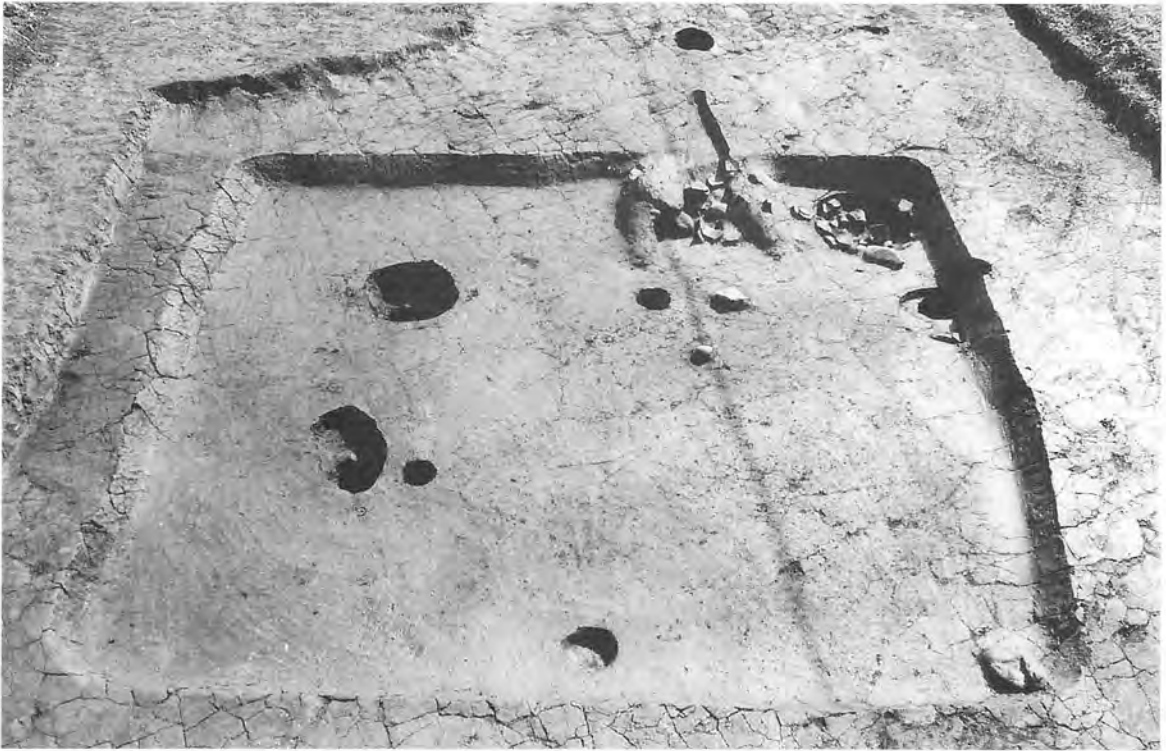


埋土断面 (N-Sベルト)

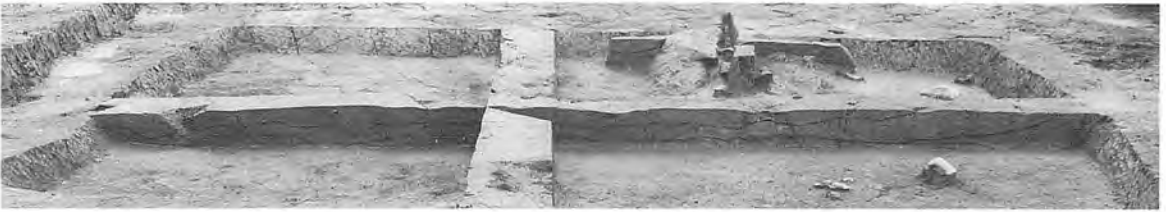


埋土断面 (W-Eベルト)

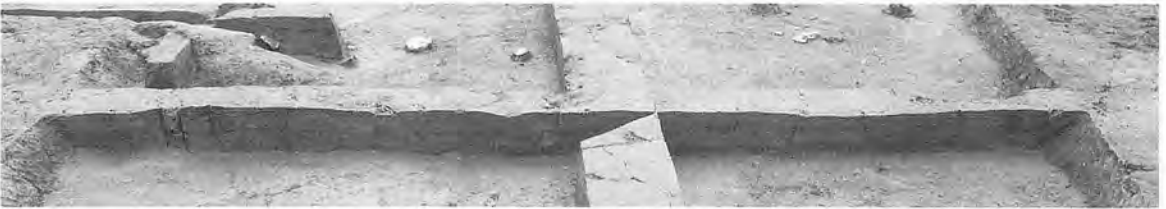
写真図版 41 20号住居跡



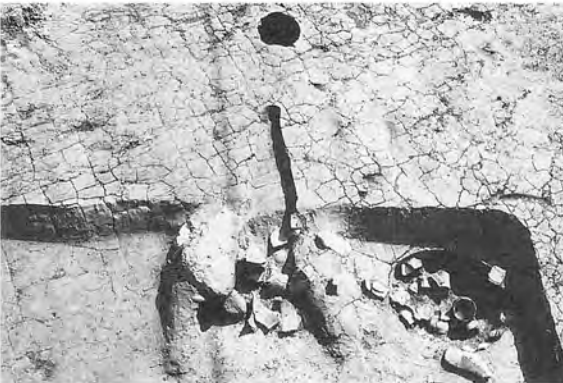
21号住居跡（平面・W→）



埋土断面（N-Sベルト）



埋土断面（E-Wベルト）



カマド（平面）



カマド袖部・燃烧部（覆土断面）



カマド燃烧部 (覆土断面)



カマド (完掘)



カマド袖部・燃烧部 (断面)



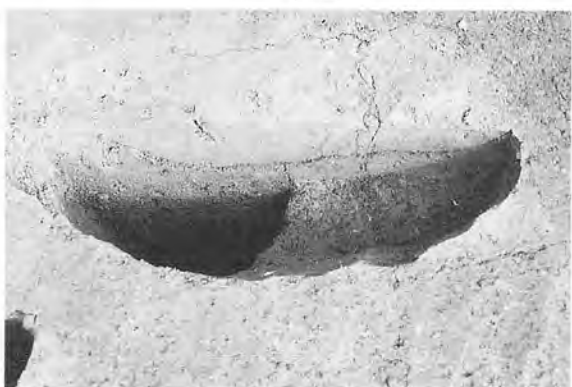
P 1 (平面)



P 1 (断面)



P 3 (断面)



P 4 (断面)



P 7 (断面)



22号住居跡（平面・W→）



埋土断面（N-Sベルト）



埋土断面（E-Wベルト）



1号カマド（平面）



1号カマド煙道部（断面）

写真図版 44 22号住居跡



1号カマド袖部・燃烧部 (覆土断面)



1号カマド燃烧部 (断面)



1号カマド袖部・燃烧部 (断面)



2・3号カマド煙道部 (断面)



3号カマド袖部・燃烧部 (断面)



3号カマド燃烧部 (断面)



2・3号カマド燃烧部 (断面)



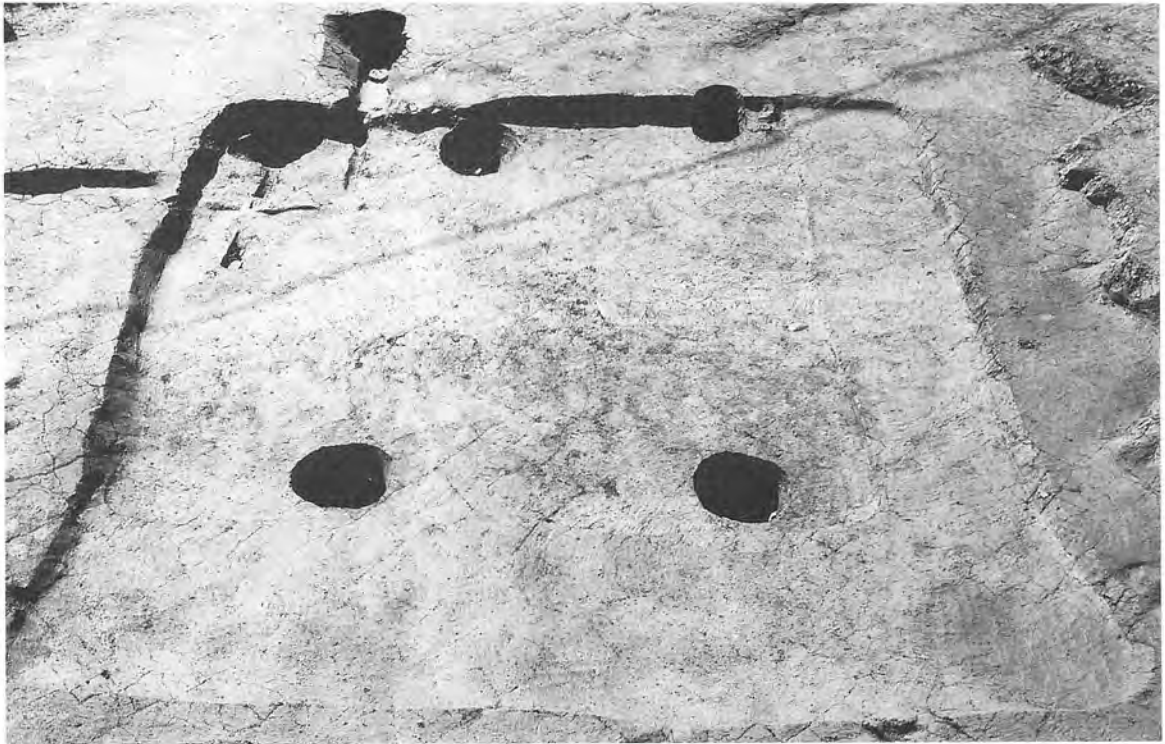
P1 (断面)



P2 (断面)



P3 (断面)



23号住居跡（平面・W→）



埋土断面（N-Sベルト）



2号カマド（平面）



2号カマド煙道部（断面）



2号カマド袖部・燃烧部（覆土断面）



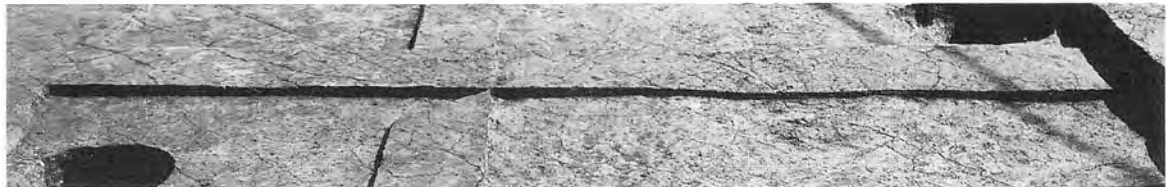
2号カマド燃烧部（覆土断面）



旧 23 号住居跡 (平面・W→)



埋土断面 (W-Eベルト)



埋土断面 (N-Sベルト)



1号カマド (平面)



1号カマド煙道部 (断面)

写真図版 47 23 号住居跡



2号カマド燃烧部（断面）



2号カマド袖部・燃烧部（断面）



P 2（断面）



P 3（断面）



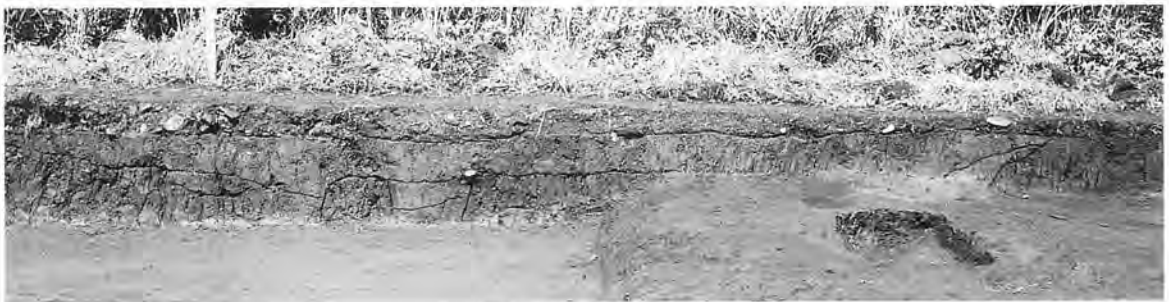
24号住居跡（平面・N→）



埋土断面（N-Sベルト）



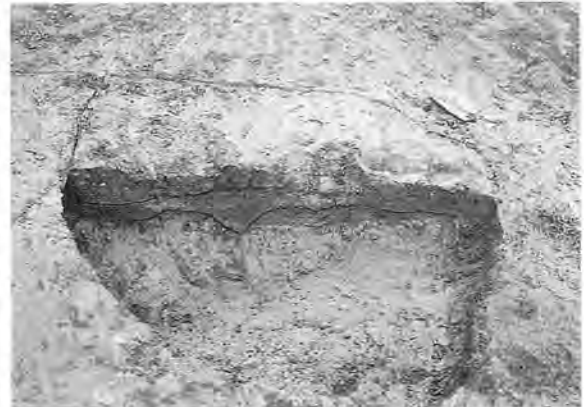
25号住居跡（平面・W→）



埋土断面（W-Eベルト）



カマド燃焼部（断面）



P1（断面）



26号住居跡 (平面・W→)



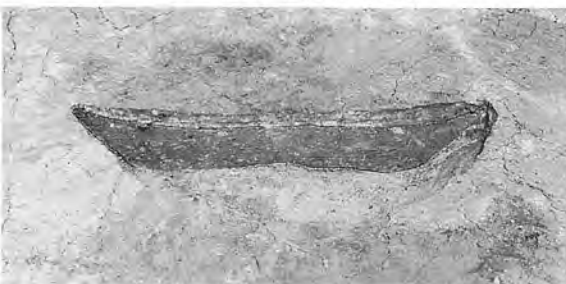
埋土断面 (N-Sベルト)



カマド袖部・燃烧部 (断面)



カマド燃烧部 (断面)



P 1 (断面)



P 2 (断面)

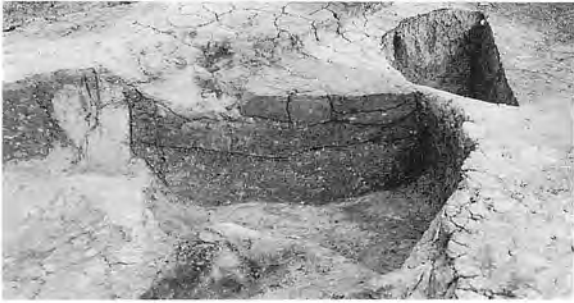
写真図版 50 26号住居跡



P 3 (断面)



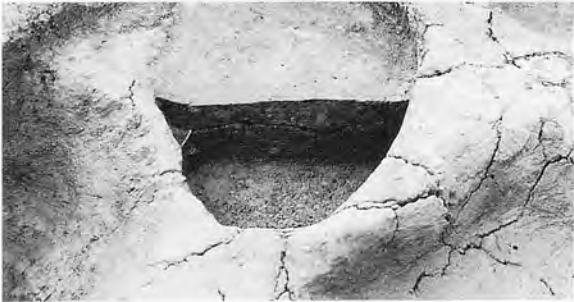
P 4・P 5 (断面)



P 6 (断面)



P 7 (断面)



P 8 (断面)



P 9 (断面)



P 10 (断面)



P 11 (断面)



P 12 (断面)



P 13 (断面)



1号土坑 (平面)



断面



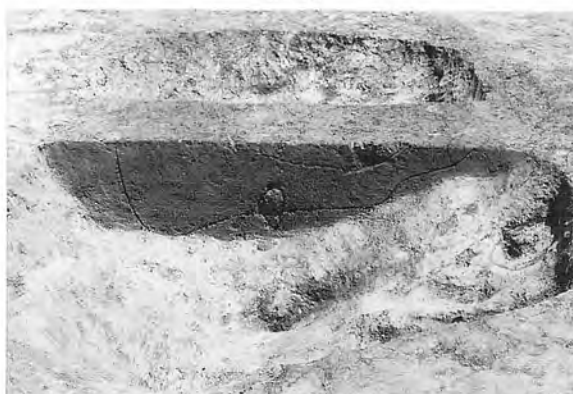
2号土坑 (平面)



断面



3号土坑 (平面)



断面



4号土坑 (平面)



断面

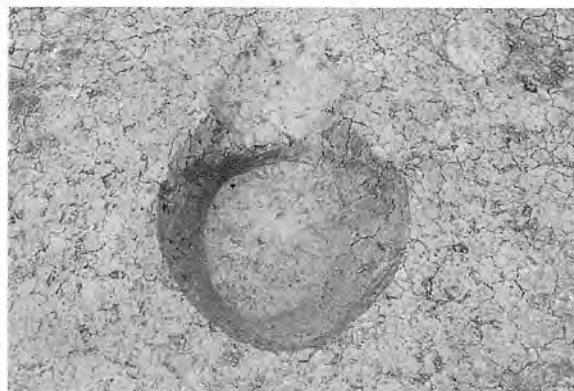
写真图版 52 1~4号土坑



5号土坑 (平面)



断面



6号土坑 (平面)



断面



7号土坑 (平面)



断面



8号土坑 (平面)



断面

写真图版 53 5~8号土坑



写真図版 54 1号堀（上が西）



1号堀 (A区 断面・N-Sベルト)



1号堀 (B区 断面・N-Sベルト)



1号堀 (C区 断面・N-Sベルト)

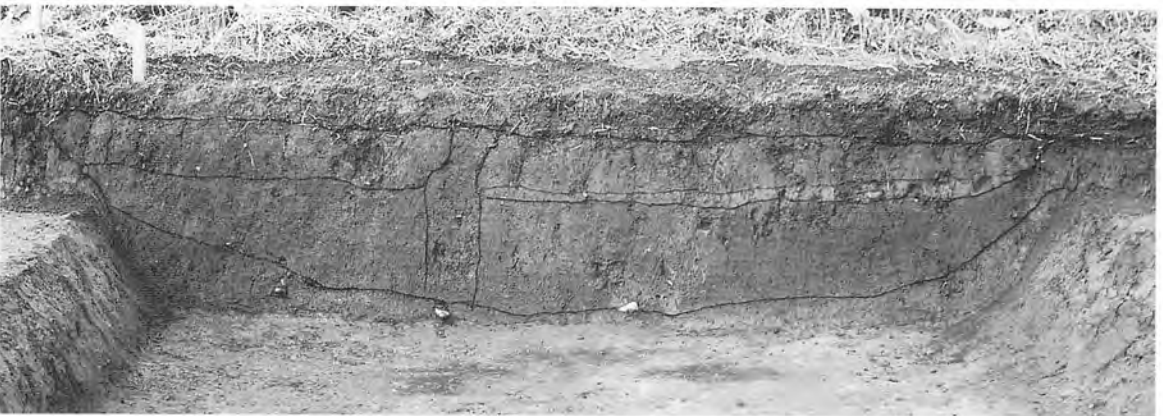
写真図版 55 1号堀



2号堀 (平面・S→)



断面① (W-Eベルト)



断面② (E-Wベルト)

写真図版 56 2号堀



3号堀（平面・南から撮影）



断面（W-Eベルト）

写真図版 57 3号堀



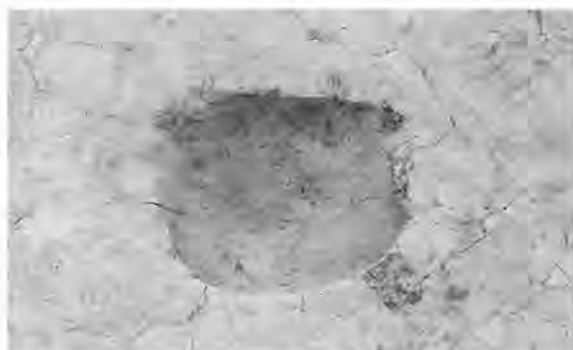
1号墓墳（平面）



断面



遺物出土状況



1号墓墳（完掘）



1号柱穴列（東から撮影）



1号沟 (平面)



2号沟 (平面)



3号沟 (平面)



1号沟 (断面)

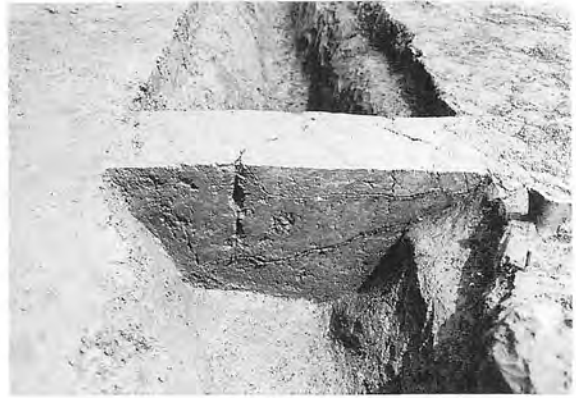


2号沟 (断面)

写真図版 59 1～3号溝



4号溝 (平面)



3号溝 (断面)



4号溝 (断面)



5号溝 (平面)



5号溝① (断面)



5号溝② (断面)



17号陥し穴



2



3



4



5



6



7

1号住居跡



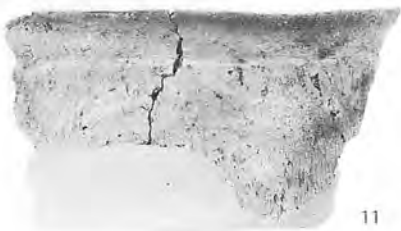
8



10



9



11



12

2号住居跡

写真図版 61 遺構内出土遺物 (1)



2号住居跡



3号住居跡



写真図版 62 遺構内出土遺物 (2)



22



23



24



25



26



27



28



29



30



31



32



33



4号住居跡

写真図版 63 遺構内出土遺物 (3)



34



35

4号住居跡



36

5号住居跡



38



37



40



39

6号住居跡

写真図版 64 遺構内出土遺物(4)



6号住居跡



42



43



44



45



46



47



48



49



50

7号住居跡

写真図版 65 遺構内出土遺物 (5)



51



52



53



54



55



56

7号住居跡

写真図版 66 遺構内出土遺物 (6)



8号住居跡

写真図版 67 遺構内出土遺物 (7)



70



71



73

9号住居跡



72



74



75



76



77



78



79



79



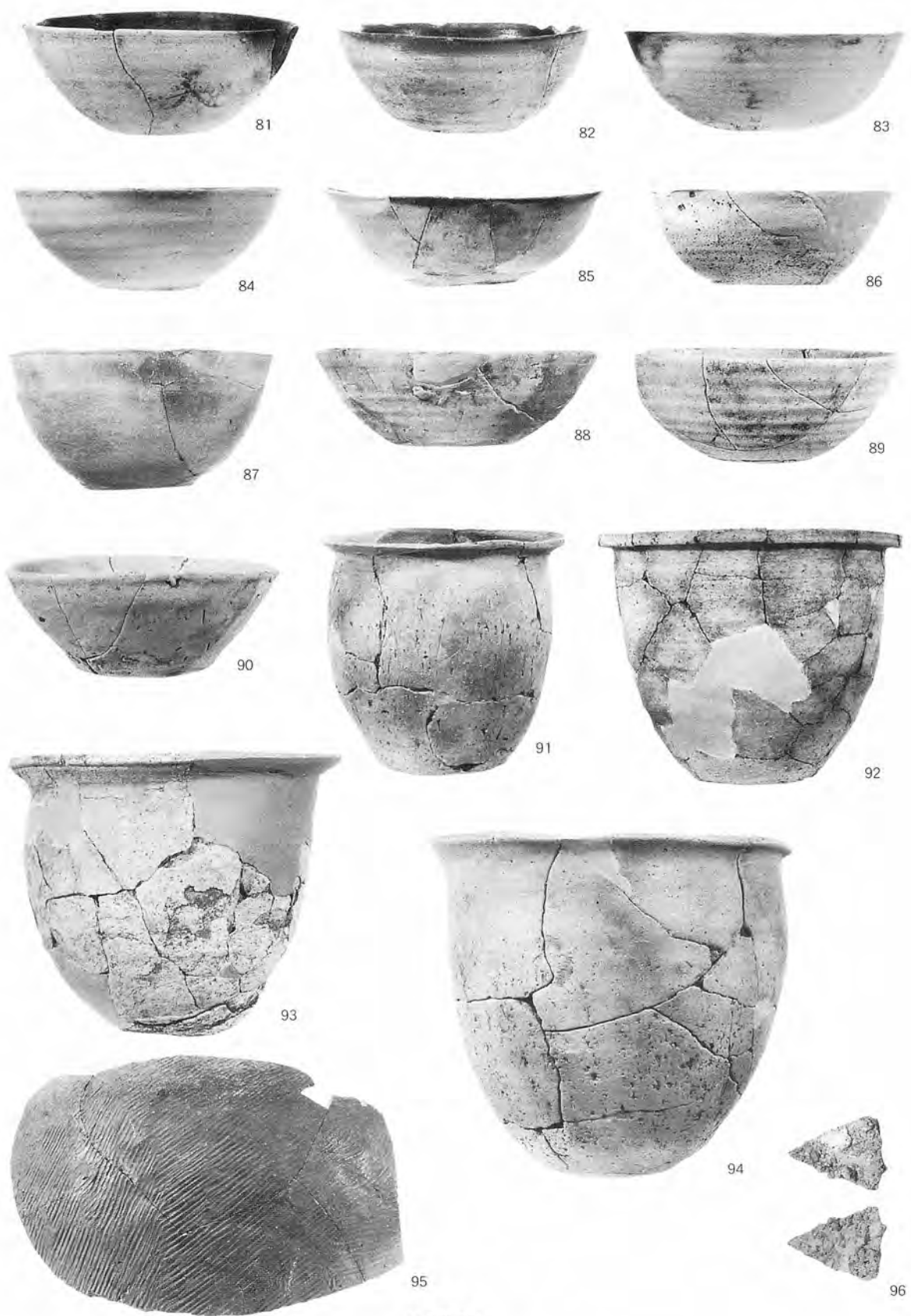
79



80

10号住居跡

写真図版 68 遺構内出土遺物 (8)

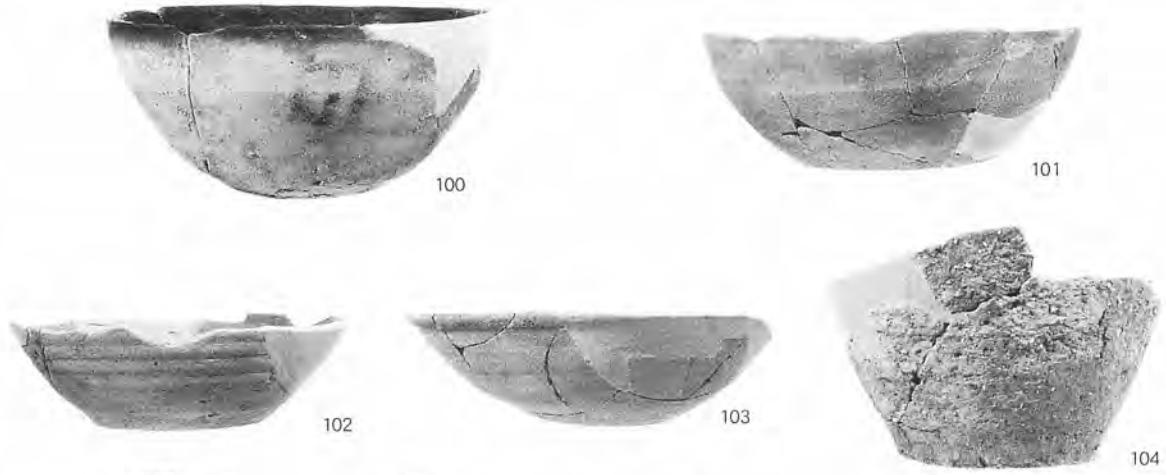


11号住居跡

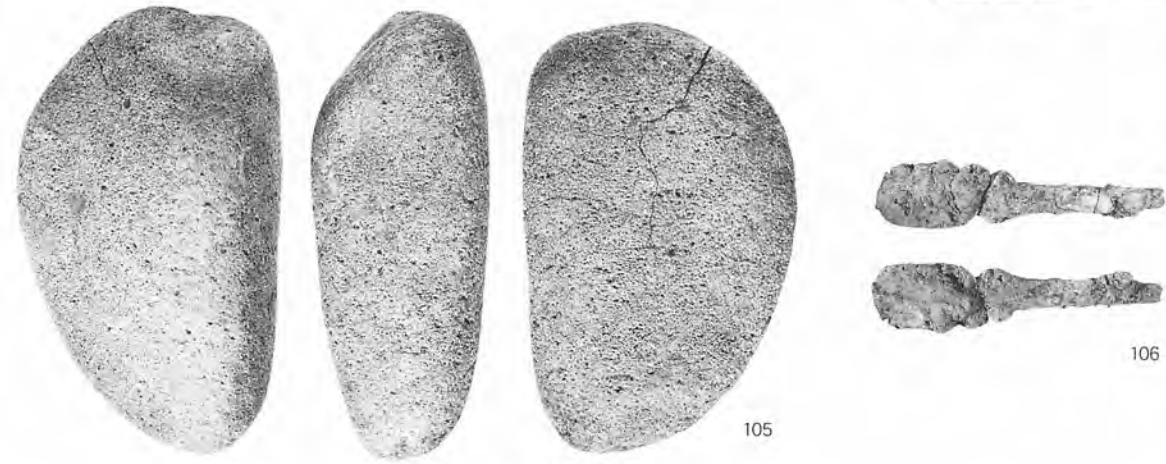
写真図版 69 遺構内出土遺物 (9)



12号住居跡



13号住居跡



14号住居跡

写真図版 70 遺構内出土遺物 (10)



113



114



115



116



117



118

14号住居跡



119

15号住居跡



120



121



122

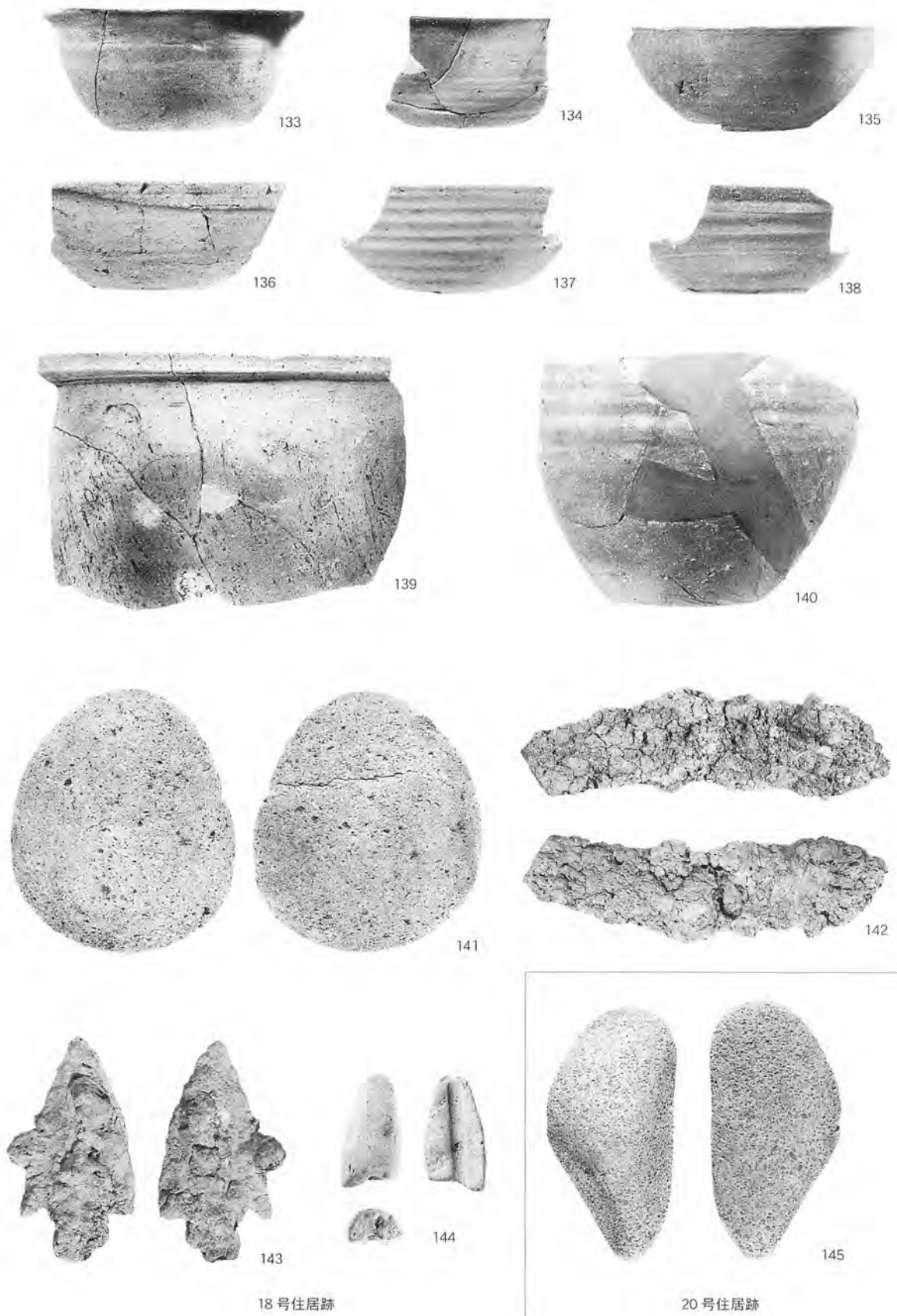
16号住居跡

写真図版 71 遺構内出土遺物 (11)



17号住居跡

写真図版 72 遺構内出土遺物 (12)



写真図版 73 遺構内出土遺物 (13)



146



147



148



149



150



151



152

21号住居跡



153



154



155

22号住居跡

写真図版 74 遺構内出土遺物 (14)



156



157



158



159



160



161



162



163

22号住居跡

写真図版 75 遺構内出土遺物 (15)



164



165



166



167



168



169

23号住居跡

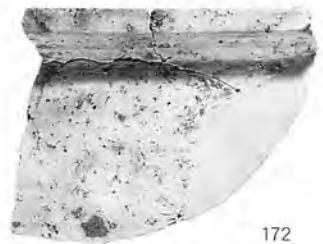


170

25号住居跡



171



172



173



174



175

26号住居跡



176

1号土坑



177

7号土坑

写真図版 76 遺構内出土遺物 (16)



178



179



180



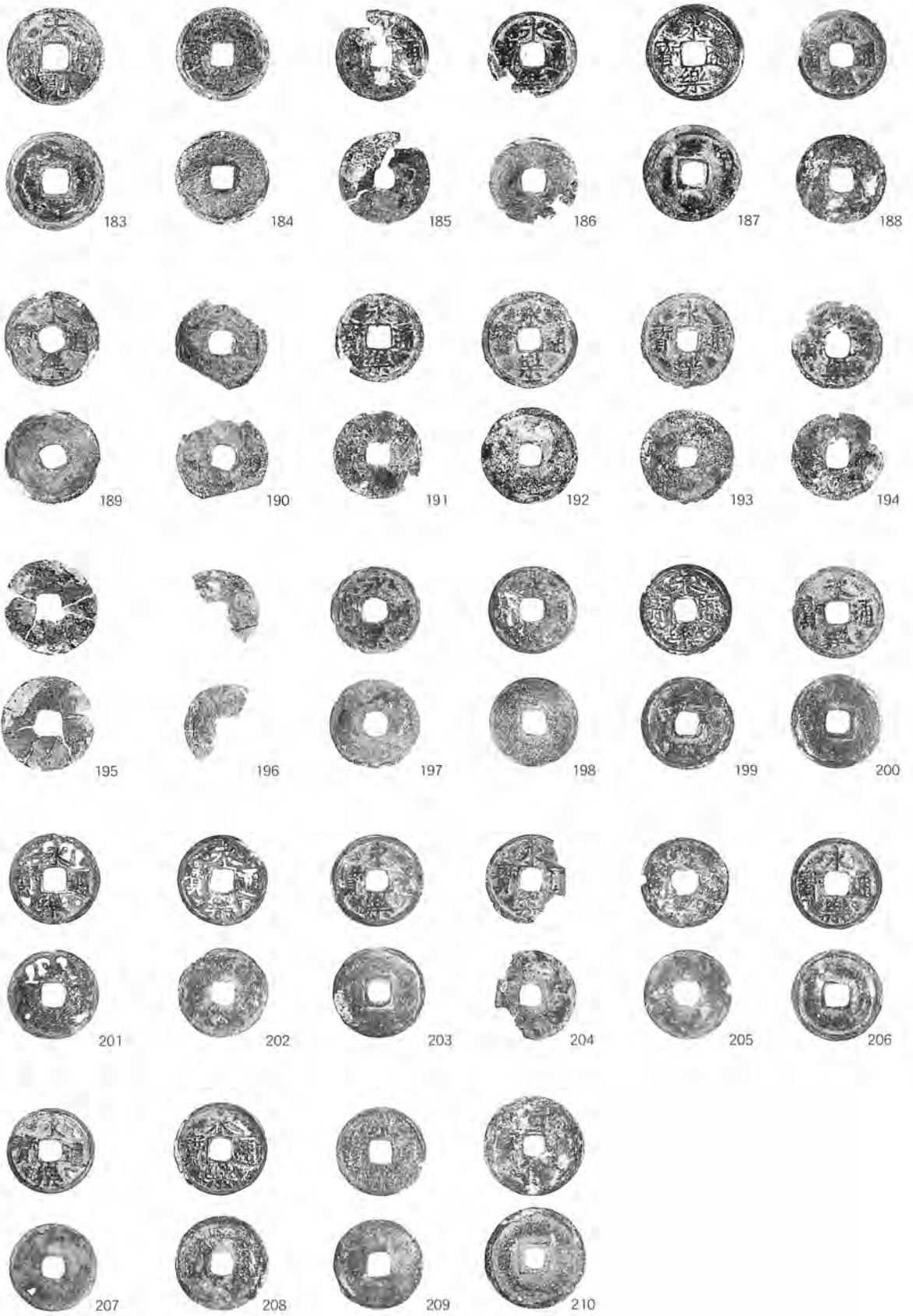
181



182

1号墓塚

写真図版 77 遺構内出土遺物 (17)



1号墓城

写真図版 78 遺構内出土遺物 (18)



211



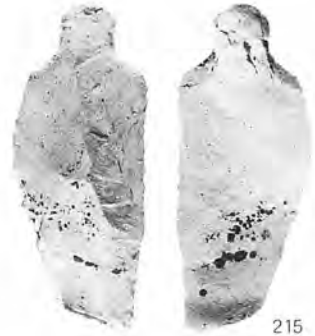
212



213



214



215



216



217



218



219

写真図版 79 遺構外出土遺物

報告書抄録

ふりがな	かみにたないいせきはつつちょうさほうこくしょ							
書名	上似内遺跡発掘調査報告書							
副書名	ほ場整備事業関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財報告書							
シリーズ番号	第379集							
編著者名	溜浩二郎・吉田真由美							
編集機関	財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11-185 TEL(019)-638-9001							
発行年月日	西暦2002年2月28日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東緯	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	。' "	。' "			
かみにたないいせき 上似内遺跡	いわてけんはなまきし 岩手県花巻市 かみにたないだいじゅうにじ 上似内第12地 わりさんぼんち 割3番地ほか	03205	ME16-0302	39度 24分 20秒	141度 09分 03秒	2000.4.14 ～10.20	8,300 m ²	「ほ場整備事業」に伴う緊急発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺物		主な遺物		特記事項	
上似内遺跡	狩猟場	縄文時代	陥し穴状遺構	29基	土師器(坏、甕)		・平安時代9世紀代の集落跡 ・中世の似内館に伴う堀跡を検出	
	集落跡	平安時代	土坑	8基	須恵器(坏、甕)			
		"	竪穴住居跡	26棟	鉄製品(鎌、鏃、刀子、紡錘車)			
	館跡	中世	墓墳	1基				
		"	堀	3条	石器(砥石、磨石等)			
		時期不明	溝状遺構	5条	土製品(土錘3点)			
		"	柱穴列	1基	その他(硯、白磁片、銅銭28枚、鉄鍋、鉈)			
		"	柱穴	81基				

平成13年度 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員名簿

所 長	伊 藤 民 也	副 所 長	高 橋 正 儀
[管理課]			
課 長	韭 沢 正 吾	嘱 託	高 橋 照 雄
課長補佐	山 崎 善 光	”	佐々木 光 重
”	山 岸 直 美	”	加 藤 美 代 子
主 査	立 花 多 加 志	”	湯 沢 邦 子
[調査第一課]		[調査第二課]	
課 長	佐々木 勝	課 長	高橋 與右衛門
課長補佐	佐々木 清 文	課長補佐	中 川 重 紀
”	高 橋 義 介		
文化財専門員	小山内 透	文化財専門員	金 子 佐 知 子
文化財調査員	中 田 迪	文化財調査員	阿 部 眞 澄
”	飯 森 秀 文	”	飯 坂 一 重
”	赤 石 登	”	阿 部 徹
”	吉 田 充	”	濱 田 宏
”	亀 大 二 郎	”	安 藤 由 紀 夫
”	小 原 眞 一	”	高 木 晃
”	佐々木 信 一	”	佐 藤 淳 一
”	小笠原 健 一 郎	”	星 雅 一 之
”	金 野 進	”	菅 原 靖 男
”	小 松 則 也	”	半 澤 武 彦
”	岩 淵 計 人	”	杉 沢 昭 太 郎
”	鳥 居 達 人	”	溜 浩 二 郎
”	金 子 昭 彦	”	中 村 直 美
”	羽 柴 直 人	”	西 澤 正 晴
”	千 葉 正 彦	”	八 木 勝 枝
”	長 村 克 稔	”	(阿 部 勝 則)
”	星 幸 文		
”	佐 藤 あ き 子		
”	菊 池 貴 広		
”	村 上 拓 郎		
”	本 多 準 一 郎		
”	村 木 敬 昭		
”	北 村 忠 昭		
”	高 瀬 克 範		
”	丸 山 浩 治		
”	島 原 弘 征		
”	中 村 絵 美		
期限付調査員	小 林 弘 卓	期限付調査員	吉 川 徹
”	江 藤 賢 敦	”	北 田 勲
”	菊 池 賢 和	”	吉 田 里 和
”	井 上 信 介	”	原 美 津 子
”	川 又 晋	”	齋 藤 麻 紀 子
”	吉 田 真 由 美	”	駒 木 野 智 寛
”	坂 部 恵 造		
”	木 村 ひ かり		

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 379 集

上似内遺跡発掘調査報告書

ほ場整備関連遺跡発掘調査

印刷 平成 14 年 2 月 20 日

発行 平成 14 年 2 月 28 日

発行 (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒 020-0853 盛岡市下飯岡 11-185

TEL (019) 638-9001

印刷 トーバン印刷株式会社

〒 020-0823 岩手県盛岡市門二丁目 2-3

TEL (019) 653-6333 (代)

(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2001

